
加 須 市

宮西Ⅰ / 宮東Ⅰ

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告
(第1分冊)

2021

国土交通省 関東地方整備局
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

序

埼玉県北部の県境を流れ下る利根川は、日本の河川の長男として「坂東太郎」の異名を持つ大河です。流域に生まれた肥沃で広大な大地には、1,280万人にもおよぶ人々が生活を営んでいます。

利根川は万葉集の東歌に「刀祢河泊」と詠まれるなど、いにしえから畏怖と親愛の想いが籠められてきました。その滔々たる流れは交通路として、また農業・生活・工業用水の源として、限りない恩恵をもたらしています。その一方で、過去にはたびたび恐ろしい水害も引き起こしてきました。国土交通省ではこうした災害を未然に防ぐため、様々な対策を講じています。首都圏の安全性を確保するために実施される、氾濫区域の堤防強化対策事業もその一環です。

この事業地に含まれる加須・羽生・久喜地区には、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しています。今回、発掘調査を行った加須市の宮西遺跡と宮東遺跡もその一つです。発掘調査は堤防強化対策事業に伴う事前調査で、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、当事業団が実施しました。発掘調査の結果、古墳時代から近世までの長期間におよぶ人々の生活の痕跡が折り重なるように発見されましたが、本書では古墳時代から古代までを中心に報告します。

古代の生活面では、床面から砂が噴き出した状態の堅穴住居跡も発見されました。これは弘仁9年の大地震による液状化現象の痕跡であり、平安時代の住居跡について、文字資料を用いずに「年」を特定できた稀な検出例です。今回の発見は、当地域の歴史を知る上だけでなく、地震などの自然災害と関わった人々の暮らしが明らかになった点で、とても重要な発見となりました。

本書は、これらの発掘調査結果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護及び普及啓発の資料として、また学術研究の基礎資料として、多くの方々に御活用いただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力を賜りました埼玉県教育局市町村支援部文化資源課をはじめ、国土交通省関東地方整備局、加須市教育委員会、地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 藤田 栄二

例 言

- 1 本書は加須市大越地内に所在する宮西遺跡第1～4次調査、加須市大越地内に所在する宮東遺跡第1～6次調査の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。
宮西遺跡 (No.69-040)
第1次調査
加須市大越2057-1他
平成23年11月7日付け教生文第2-55号
第2次調査
加須市大越2057-1
平成24年4月20日付け教生文第2-7号
第3次調査
加須市大越2066-1他
平成25年10月3日付け教生文第2-40号
第4次調査
加須市大越下寺町2059他
平成26年9月12日付け教生文第2-38号
宮東遺跡 (No.69-042)
第1次調査
加須市大越畑ヶ田2555-1他
平成24年4月20日付け教生文第2-8号
第2次調査
加須市大越2555-1他
平成25年5月24日付け教生文第2-9号
第3次調査
加須市大越2539-1
平成26年2月5日付け教生文第2-61号
第4次調査
加須市大越畠田2538-1
平成26年5月15日付け教生文第2-6号
第5次調査
加須市大越川込2686-4
平成27年6月1日付け教生文第2-16号
第6次調査
加須市大越川込2686-4他
平成28年5月19日付け教生文第2-5号
- 3 発掘調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。埼玉県教育局市町村支援部文化資源課（発掘調査時は生涯学習文化財課）が調整し、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団（宮西遺跡第1次調査時は財団法人）が実施した。
- 4 各事業の委託事業名は下記のとおりである。
発掘調査事業（平成23年度）
「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・羽生地区）における埋蔵文化財発掘調査」
発掘調査事業（平成24年度）
「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・羽生・久喜地区）における平成24年度埋蔵文化財発掘調査」
発掘調査事業（平成25年度）
「利根川上流河川改修事業における平成25年度埋蔵文化財発掘調査」
「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成25年度埋蔵文化財発掘調査」
発掘調査事業（平成26年度）
「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・久喜地区）における平成26年度埋蔵文化財発掘調査」
発掘調査事業（平成27年度）
「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・久喜地区）における平成27年度埋蔵文化財発掘調査」
発掘調査事業（平成28年度）
「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成28年度埋蔵文化財発掘調査」
報告書作成事業（平成30年度）
「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成30年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」
報告書作成事業（平成31年度）

「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成31年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」

報告書作成事業（令和2年度）

「首都圏氾濫区域堤防強化対策における令和2年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」

- 5 発掘調査・整理報告書作成事業は1～3に示した組織により実施した。各遺跡の発掘調査期間と担当者は以下のとおりである。

発掘調査

宮西遺跡

第1次調査

平成23年11月1日～平成24年3月31日

担当：吉田稔・橋本脩平

第2次調査

平成24年4月6日～平成24年5月31日

担当：山本靖・高屋敷飛鳥

第3次調査

平成25年10月1日～平成26年2月28日

担当：田中広明・渡邊理伊知

第4次調査

平成26年10月1日～平成26年12月31日

担当：渡邊理伊知・宮村誠二

宮東遺跡

第1次調査

平成24年4月6日～平成25年3月31日

担当：田中広明・中泉雄太

第2次調査

平成25年4月1日～平成25年9月30日

担当：田中広明・渡邊理伊知

第3次調査

平成26年2月3日～平成26年3月31日

担当：田中広明・渡邊理伊知

第4次調査

平成26年4月1日～平成27年3月31日

担当：田中広明・堀内紀明・滝澤誠

高田賢治

第5次調査

平成27年4月1日～平成28年3月31日

担当：堀内紀明・水村雄功

第6次調査

平成28年4月1日～平成28年7月31日

担当：堀内紀明・水村雄功

整理報告書作成事業

平成30年度

平成30年10月1日～平成31年3月31日

担当：吉田稔（10月1日～10月31日）

滝澤誠（11月1日～3月31日）

令和元年度

平成31年4月1日～令和2年3月31日

担当：滝澤誠（4月1日～3月31日）

村山卓（1月1日～3月31日）

令和2年度

令和2年4月1日～令和3年3月31日

担当：滝澤誠

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第467集として印刷・刊行した。

- 6 発掘調査における基準点測量は、宮西遺跡が株式会社サクラプランニング（第1次・第2次）、中央航業株式会社（第3次）、株式会社本州（第4次）に、宮東遺跡が株式会社ウッド（第1次）、有限会社ジオプランニング（第2次）、中央航業株式会社（第3次・第4次）、株式会社東京航業研究所（第5次）に委託した。
- 7 空中写真撮影は宮西遺跡が中央航業株式会社（第1次・第2次・第4次）、株式会社新日本エグザ（第3次）に、宮東遺跡が中央航業株式会社（第1次・第2次・第3次・第4次）、株式会社東京航業研究所（第5次）、株式会社GIS関東（第6次）に委託した。
- 8 炭化物の放射性炭素年代測定、出土した木製品の樹種同定、出土した骨の同定、堆積物中のテフラ分析・花粉分析、珪藻化石群集分析は、株式会社パレオ・ラボに委託した。
- 9 発掘調査における写真撮影は各担当が行い、

- 出土遺物の写真撮影は滝澤が行った。
- 10 出土品の整理・図版作成は、吉田・村山・滝澤が行い、鉄製品は瀧瀬芳之、木製品は矢部隆、石製品は水村、鉄滓・羽口は赤熊浩一、埴輪は大谷徹の協力を得た。
 - 11 本書の執筆は、1-1を埼玉县教育局市町村支援部文化資源課、その他を滝澤が行った。
 - 12 本書の編集は滝澤が行った。
 - 13 本書にかかる諸資料は、令和3年4月以降埼玉県教育委員会が管理・保管する。
 - 14 発掘調査、報告書刊行にあたり、加須市教育委員会をはじめ関係機関及び下記の皆様からご教示・ご協力を賜った。記して感謝致します。
(敬称略)

赤井博之 岩田薫 尾野善裕 城ヶ谷和広
永井宏幸

凡 例

- 1 本書におけるX・Yの数値は、世界測地系国土標準平面直角座標第IX系（原点北緯36°00′00″、東経139°50′00″）に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位はすべて座標北を示している。
- 2 調査で使用したグリッドは、国土標準平面直角座標に基づく10×10mの範囲を基本（1グリッド）とし、各遺跡に調査区全体をカバーする方眼を組んだ。
- 3 グリッド名称は、北西隅を基点とし、北から南方向にアルファベット（A・B・C…）、西から東方向に数字（1・2・3…）を付し、アルファベットと数字を組み合わせて、例えばD-5グリッド等と呼称した。
- 4 本書における本文・挿図・表に示す遺構の略号は、以下のとおりである。
S J…住居跡 SB…掘立柱建物
SE…井戸跡 SD…溝跡 SL…畠跡
SK…土壌 P…ピット・柱穴
- 5 本書に掲載した遺構番号は、発掘調査時に付した番号を一部振り替え、新旧対照は各遺構の一覧表に記した。
- 6 本書における挿図の縮尺は、以下のとおりである。但し、一部例外もあり、それについては図中に縮尺とスケールを示した。
調査区全体図 1:200 1:1,200 1:1,600
住居跡・井戸跡・土壌 1:60
溝跡 1:60 1:100 1:120
畠跡 1:60 1:120 1:200
土器集中 1:60 基本層序 1:60
土師器・須恵器・石材・土製品・石製品・木製品 1:4
土鍾・土玉 1:2 鉄製品・鉄滓 1:3
- 7 遺物実測図の表記方法は以下のとおりである。
須恵器は断面黒塗り、灰軸陶器は断面・軸範囲10%、赤彩範囲10%、黒色処理30%、油煙付着範囲は50%のトーンで示し、砥具の砥面は—で範囲を示した。
- 8 遺構図中の網掛けは各遺構図に内容を示した。
- 9 遺構断面図に表記した水準数値は、全て海拔標高（単位m）を表す。
- 10 遺構一覧表の表記は以下のとおりである。
・長さ・幅・深さ・短径・長径はm単位である。
- 11 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。
・大きさはcm・重さはg単位である。
・（ ）内は推定値、[]は残存値を示す。
・胎土は土器中に含まれる鉱物等のうち、特徴的なものを記号で示した。
A:雲母 B:片岩 C:角閃石 D:長石
E:石英 F:軽石 G:砂粒子 H:赤色粒子
I:白色粒子 J:白色針状物質
K:黒色粒子 L:その他
・残存率は、図示した器形に対する大まかな遺存程度を%で示した。
・焼成は、良好・普通・不良の3段階に分けて示した。
・色調は『新版標準土色帖』に従った。
・備考には、注記No・煤の付着・生産地・年代等を示した。
・土器・陶磁器の生産地については、胎土によって判断した。
- 12 観察表中の遺構名は、遺物の対照を可能にするため、旧番号を使用した。
- 13 本書に使用した地形図は、国土地理院発行1/50,000地形図を編集の上で使用した。

旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新
SD20(4次)	SD88	SD73(4次)	SL15066	SD126(4次)	SD194	SD179(4次)	SD247	SD232(4次)	SD300
SD21(4次)	SD89	SD74(4次)	SD142	SD127(4次)	SD123	SD180(4次)	SD248	SD233(4次)	SD301
SD22(4次)	SD90	SD75(4次)	SD143	SD128(4次)	SD196	SD181(4次)	SL5061	SD234(4次)	SD325
SD23(4次)	SD91	SD76(4次)	SL150613	SD129(4次)	SL140611	SD182(4次)	SL5068	SD235(4次)	SD303
SD24(4次)	SD92	SD77(4次)	SD145	SD130(4次)	SD198 欠番	SD183(4次)	SL50610	SD236(4次)	SL120614
SD25(4次)	SD93 欠番	SD78(4次)	SL150617	SD131(4次)	SD199	SD184(4次)	SL5064	SD237(4次)	SD305
SD26(4次)	SD94	SD79(4次)	SD147	SD132(4次)	SD200	SD185(4次)	SL5066	SD238(4次)	SD306
SD27(4次)	SD82	SD80(4次)	SD148	SD133(4次)	SL50613	SD186(4次)	SD254	SD239(4次)	SD307
SD28(4次)	SD96	SD81(4次)	SD149	SD134(4次)	SD202	SD187(4次)	SD255	SD240(4次)	SD322
SD29(4次)	SD97	SD82(4次)	SD150	SD135(4次)	SL140615	SD188(4次)	SD256	SD241(4次)	SD309
SD30(4次)	SD98	SD83(4次)	SD151	SD136(4次)	SD204	SD189(4次)	SL50611	SD242(4次)	SD310
SD31(4次)	SD99	SD84(4次)	SD152	SD137(4次)	SL4064	SD190(4次)	SL50612	SD243(4次)	SD311
SD32(4次)	SL150615	SD85(4次)	SD153	SD138(4次)	SL4063	SD191(4次)	SD229	SD244(4次)	SD312
SD33(4次)	SL150613	SD86(4次)	SD154	SD139(4次)	SD207	SD192(4次)	SD260	SD245(4次)	SD313
SD34(4次)	SL150612	SD87(4次)	SD155	SD140(4次)	SL4065	SD193(4次)	SD261	SD246(4次)	SD314
SD35(4次)	SL150611	SD88(4次)	SL50616	SD141(4次)	SL4061	SD194(4次)	SL120613	SD247(4次)	SD315
SD36(4次)	SL150610	SD89(4次)	SD157	SD142(4次)	SL4062	SD195(4次)	SL120612	SD248(4次)	SD316
SD37(4次)	SL150612	SD90(4次)	SD158	SD143(4次)	SD211	SD196(4次)	SL120611	SD249(4次)	SD317
SD38(4次)	SD106	SD91(4次)	SD159	SD144(4次)	SD212	SD197(4次)	SL120610	SD250(4次)	SD318
SD39(4次)	SL150610	SD92(4次)	SD160	SD145(4次)	SD213	SD198(4次)	SL12069	SD251(4次)	SD319
SD40(4次)	SD108	SD93(4次)	SD161	SD146(4次)	SD214	SD199(4次)	SL12067	SD252(4次)	SD320
SD41(4次)	SL15069	SD94(4次)	SD162	SD147(4次)	SD215	SD200(4次)	SL12066	SD253(4次)	SD321
SD42(4次)	SD106	SD95(4次)	SD163	SD148(4次)	SD216	SD201(4次)	SD269	SD254(4次)	SD322
SD43(4次)	SD111	SD96(4次)	SL140614	SD149(4次)	SD217	SD202(4次)	SD270	SD255(4次)	SD323
SD44(4次)	SL15068	SD97(4次)	SD165	SD150(4次)	SD218	SD203(4次)	SD271	SD256(4次)	SD324
SD45(4次)	SL15067	SD98(4次)	SD166	SD151(4次)	SD219	SD204(4次)	SL12068	SD257(4次)	SD325
SD46(4次)	SD114	SD99(4次)	SL140617	SD152(4次)	SD220	SD205(4次)	SL11062	SD258(4次)	SD326
SD47(4次)	SL15066	SD100(4次)	SL140616	SD153(4次)	SD221	SD206(4次)	SL12065	SD259(4次)	SD361
SD48(4次)	SL15065	SD101(4次)	SD169	SD154(4次)	SD222	SD207(4次)	SL11063	SD260(4次)	SD328
SD49(4次)	SL15063	SD102(4次)	SD170	SD155(4次)	SD223	SD208(4次)	SL12064	SD261(4次)	SD329
SD50(4次)	SL15062	SD103(4次)	SD171	SD156(4次)	SD224	SD209(4次)	SL11064	SD262(4次)	SD330
SD51(4次)	SD119	SD104(4次)	SD172	SD157(4次)	SD225	SD210(4次)	SL12063	SD263(4次)	SD331
SD52(4次)	SL15061	SD105(4次)	SD173	SD158(4次)	SD225	SD211(4次)	SD279	SD264(4次)	SD332
SD53(4次)	SD121	SD106(4次)	SD174	SD159(4次)	SD227	SD212(4次)	SL12061	SD265(4次)	SD333
SD54(4次)	SD122	SD107(4次)	SL140613	SD160(4次)	SD228	SD213(4次)	SL11065	SD266(4次)	SD334
SD55(4次)	SD123	SD108(4次)	SL140612	SD161(4次)	SD229	SD214(4次)	SL12062	SD267(4次)	SD335
SD56(4次)	SL15064	SD109(4次)	SL140610	SD162(4次)	SD230	SD215(4次)	SL10067	SD268(4次)	SD336
SD57(4次)	SD125	SD110(4次)	SL14069	SD163(4次)	SD231	SD216(4次)	SL10066	SD269(4次)	SD322
SD58(4次)	SD151	SD111(4次)	SL14069	SD164(4次)	SD232	SD217(4次)	SL11061	SD270(4次)	SD338
SD59(4次)	SD127	SD112(4次)	SL14068	SD165(4次)	SD233	SD218(4次)	SD286	SD271(4次)	SD339
SD60(4次)	SL150616	SD113(4次)	SD181	SD166(4次)	SD234	SD219(4次)	SL10065	SD272(4次)	SD340
SD61(4次)	SL150615	SD114(4次)	SL14067	SD167(4次)	SD235	SD220(4次)	SL10064	SD273(4次)	SD341
SD62(4次)	SL150614	SD115(4次)	SL14065	SD168(4次)	SD236	SD221(4次)	SL10063	SD274(4次)	SD342 欠番
SD63(4次)	SD131	SD116(4次)	SL14066	SD169(4次)	SD237	SD222(4次)	SL13066	SD275(4次)	SD343 欠番
SD64(4次)	SD132	SD117(4次)	SL14066	SD170(4次)	SL5069	SD223(4次)	SL13065	SD276(4次)	SD344 欠番
SD65(4次)	SD133	SD118(4次)	SL14064	SD171(4次)	SL50614	SD224(4次)	SL13063	SD277(4次)	SD345 欠番
SD66(4次)	SD134	SD119(4次)	SD187	SD172(4次)	SL50613	SD225(4次)	SL13064	SD278(4次)	SD346
SD67(4次)	SD135	SD120(4次)	SL14063	SD173(4次)	SL50615	SD226(4次)	SL13062	SD279(4次)	SD347
SD68(4次)	SD111	SD121(4次)	SD189	SD174(4次)	SD242 欠番	SD227(4次)	SL10062	SD280(4次)	SD348
SD69(4次)	SD137	SD122(4次)	SD189	SD175(4次)	SL5067	SD228(4次)	SD296	SD281(4次)	SD349
SD70(4次)	SD122	SD123(4次)	SL14062	SD176(4次)	SL5065	SD229(4次)	SD297	SD282(4次)	SD350
SD71(4次)	SL150610	SD124(4次)	SL14061	SD177(4次)	SL5063	SD230(4次)	SD298	SD283(4次)	SL8067
SD72(4次)	SD114	SD125(4次)	SD193	SD178(4次)	SL5062	SD231(4次)	SL10061	SD284(4次)	SL8066

旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新
SD285(4次)	SL8.6級5	SD335(5次)	SD406	SD388(5次)	SL1.6級3	SD441(6次)	SD512	SD494(6次)	SD565
SD286(4次)	SD354	SD336(5次)	SD407	SD389(5次)	SL1.6級4	SD442(6次)	SD513	SD495(6次)	SL1.6級1
SD287(4次)	SL8.6級4	SD337(5次)	SD408	SD390(5次)	SL1.6級5	SD443(6次)	SD514	SD496(6次)	SD567
SD288(4次)	SL8.6級3	SD338(5次)	SD409	SD391(5次)	SL1.6級6	SD444(6次)	SD515	SD497(6次)	SD568
SD289(4次)	SL8.6級2	SD339(5次)	SD410	SD392(5次)	SL1.6級7	SD445(6次)	SD516	SD498(6次)	SD569
SD290(4次)	SL8.6級1	SD340(5次)	SD411	SD393(5次)	SL1.6級8	SD446(6次)	SD517	SD499(6次)	SD571
SD291(4次)	SD98	SD341(5次)	SD412	SD394(5次)	SL1.6級9	SD447(6次)	SD516	SD500(6次)	SD571
SD292(4次)	SD360 欠番	SD342(5次)	SD413	SD395(5次)	SL1.6級10	SD448(6次)	SD519	SD501(6次)	SD572
SD293(4次)	SD361	SD343(5次)	SD414	SD396(5次)	SL1.6級11	SD449(6次)	SD520	SD502(6次)	SD573
SD294(4次)	SD362	SD344(5次)	SD415	SD397(5次)	SL1.6級12	SD450(6次)	SD521	SD503(6次)	SD574
SD295(4次)	SD363	SD345(5次)	SD416	SD398(5次)	SD469	SD451(6次)	SD521	SD504(6次)	SD575
SD296(4次)	SD364	SD346(5次)	SD417	SD399(5次)	SD470	SD452(6次)	SD523	SD505(6次)	SD574
SD297(4次)	SD365	SD347(5次)	SD418	SD400(5次)	SD471 欠番	SD453(6次)	SD523	SD506(6次)	SD577
SD298(4次)	SD366	SD348(5次)	SL2.6級4	SD401(5次)	SD472 欠番	SD454(6次)	SD525	SD507(6次)	SD578
SD299(4次)	SD367	SD349(5次)	SL2.6級3	SD402(6次)	SD473	SD455(6次)	SD526	SD508(6次)	SD579
SD300(4次)	SD368	SD350(5次)	SL2.6級2	SD403(6次)	SL6.6級14	SD456(6次)	SD527	SD509(6次)	SD574
SD301(4次)	SD369	SD351(5次)	SL2.6級1	SD404(6次)	SL6.6級13	SD457(6次)	SD528	SD510(6次)	SD581
SD302(4次)	SD370	SD352(5次)	SL1.6級21	SD405(6次)	SL6.6級12	SD458(6次)	SD529	SK62・72(1次)	欠番
SD303(4次)	SD371	SD353(5次)	SL1.6級20	SD406(6次)	SL6.6級11	SD459(6次)	SD530	SK16(1次)	SE81
SD304(4次)	SD372	SD354(5次)	SL1.6級19	SD407(6次)	SL6.6級10	SD460(6次)	SD531	SK19(1次)	SE8
SD305(4次)	SD373	SD355(5次)	SL1.6級18	SD408(6次)	SL6.6級9	SD461(6次)	SD532	SK123(1次)	SE107
SD306(4次)	SD374	SD356(5次)	SL1.6級17	SD409(6次)	SL6.6級8	SD462(6次)	SD533	SK162(1次)	SK158
SD307(4次)	SD375	SD357(5次)	SL1.6級16	SD410(6次)	SL6.6級3	SD463(6次)	SD534	SK163(1次)	SK159
SD308(4次)	SD376	SD358(5次)	SL1.6級15	SD411(6次)	SL6.6級1	SD464(6次)	SD535	SK164(1次)	SK160
SD309(4次)	SD377	SD359(5次)	SL1.6級14	SD412(6次)	SD483	SD465(5次)	SD536	SK165(1次)	SK161
SD310(4次)	SD378	SD360(5次)	SL1.6級13	SD413(6次)	SL7.6級9	SD466(6次)	SL1.6級9	SK166(1次)	SK162
SD311(4次)	SD379	SD361(5次)	SD432	SD414(6次)	SL7.6級8	SD467(6次)	SL1.6級10	SK1(2次)	SK163
SD312(4次)	SD380	SD362(5次)	SL1.6級22	SD415(6次)	SD486	SD468(6次)	SL1.6級11	SK2(2次)	SK164
SD313(4次)	SD381	SD363(5次)	SL1.6級23	SD416(6次)	SD487	SD469(6次)	SL6.6級	SK3(2次)	SK165
SD314(4次)	SD382	SD364(5次)	SL1.6級24	SD417(6次)	SD488	SD470(6次)	SD541	SK4(2次)	SK146
SD315(4次)	SD383	SD365(5次)	SL1.6級25	SD418(6次)	SL7.6級7	SD471(6次)	SL1.6級8	SK5(2次)	SK167
SD316(4次)	SD384	SD366(5次)	SL1.6級26	SD419(6次)	SL7.6級6	SD472(6次)	SD543	SK6(2次)	SK168
SD317(4次)	SD385 欠番	SD367(5次)	SL1.6級27	SD420(6次)	SL7.6級5	SD473(6次)	SL1.6級6	SK7(2次)	SK169
SD318(4次)	SD386 欠番	SD368(5次)	SL1.6級28	SD421(6次)	SL7.6級4	SD474(6次)	SL1.6級5	SK8(2次)	SK170 欠番
SD319(4次)	SL13.6級1	SD369(5次)	SL1.6級29	SD422(6次)	SL7.6級3	SD475(6次)	SL1.6級4	SK9(2次)	SK171
SD320(5次)	SD388	SD370(5次)	SL1.6級30	SD423(6次)	SL7.6級2	SD476(6次)	SL1.6級3	SK10(2次)	SE112
SD321(5次)	SD389	SD371(5次)	SL1.6級31	SD424(6次)	SL7.6級1	SD477(6次)	SD548	SK11(2次)	SE113
SD322(5次)	SL9.6級5	SD372(5次)	SL1.6級32	SD425(6次)	SL7.6級11	SD478(6次)	SD549	SK12(2次)	SK174
SD323(5次)	SL9.6級4	SD373(5次)	SL1.6級33	SD426(6次)	SL7.6級10	SD479(6次)	SD527	SK13(2次)	SE114
SD324(5次)	SL9.6級3	SD374(5次)	SL1.6級34	SD427(6次)	SL7.6級9	SD480(6次)	SD551	SK14(2次)	SK176
SD325(5次)	SL9.6級2	SD375(5次)	SL1.6級35	SD428(6次)	SD499	SD481(6次)	SL1.6級8	SK15(2次)	SK177
SD326(5次)	SL9.6級1	SD376(5次)	SL1.6級36	SD429(6次)	SD500	SD482(6次)	SD553	SK16(2次)	SK178
SD327(5次)	SD395	SD377(5次)	SL1.6級37	SD430(6次)	SL6.6級4	SD483(6次)	SL1.6級6	SK17(2次)	SK179
SD328(5次)	SD396	SD378(5次)	SL1.6級38	SD431(6次)	SL6.6級5	SD484(6次)	SD555	SK18(2次)	SK180
SD329(5次)	SD397	SD379(5次)	SL1.6級39	SD432(6次)	SL6.6級7	SD485(6次)	SD556	SK19(2次)	SE89
SD330(5次)	SD398	SD380(5次)	SL1.6級40	SD433(6次)	SL6.6級8	SD486(6次)	SD557	SK20(2次)	SK182
SD331(5次)	SD399	SD381(5次)	SL1.6級41	SD434(6次)	SL6.6級2	SD487(6次)	SD558	SK21(2次)	SK183
SD332(5次)	SD400	SD382(5次)	SL1.6級42	SD435(6次)	SD506	SD488(6次)	SL1.6級3	SK22(2次)	SK184
SD333(5次)	SD401	SD383(5次)	SL1.6級43	SD436(6次)	SD507	SD489(6次)	SD560	SK23(2次)	SK185
SD334(5次)	SD402	SD384(5次)	SL1.6級44	SD437(6次)	SD508	SD490(6次)	SL1.6級2	SK24(2次)	SK186
SD335(5次)	SD403	SD385(5次)	SL1.6級45	SD438(6次)	U-40QP22	SD491(6次)	SD562	SK25(2次)	SK187
SD336(5次)	SD404	SD386(5次)	SL1.6級1	SD439(6次)	SD510	SD492(6次)	SD563	SK158(2次)	SK188
SD337(5次)	SD405	SD387(5次)	SL1.6級2	SD440(6次)	SD511	SD493(6次)	SD565		

旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新
SK159(2次)	SK189	SK50(4次)	SK241	SK102(4次)	SK293 欠番	SK152(5次)	SJ98SK1	SK203(5次)	SK396
SK160(2次)	SK190	SK51(4次)	SK242	SK103(4次)	SK294 欠番	SK153(5次)	SK346	SK204(5次)	SK397
SK161(2次)	SK191	SK52(4次)	SK243	SK104(4次)	SK295 欠番	SK154(5次)	SK347	SK205(5次)	SK398
SK1(4次)	SK192	SK53(4次)	SK244	SK105(4次)	SK296 欠番	SK155(5次)	SK348	SK206(5次)	SK399
SK2(4次)	SK193	SK54(4次)	SK245	SK106(4次)	SK297	SK156(5次)	SK349	SK207(5次)	SK400
SK3(4次)	SK194	SK55(4次)	SK246	SK107(4次)	SK298	SK157(5次)	SK350	SK208(5次)	SK401
SK4(4次)	SK195	SK56(4次)	SK247	SK108(4次)	SK299	SK158(5次)	SK351	SK209(5次)	SK402
SK5(4次)	SK196	SK57(4次)	SK248	SK109(4次)	SK300	SK159(5次)	SK352	SK210(5次)	SK403
SK6(4次)	SK197 欠番	SK58(4次)	SK249	SK110(4次)	SK301	SK160(5次)	SK353	SK211(5次)	SK404
SK7(4次)	SK198 欠番	SK59(4次)	SK250	SK111(4次)	SK302	SK161(5次)	SK354	SK212(5次)	SK405
SK8(4次)	SK199 欠番	SK60(4次)	SK251	SK112(4次)	SK303	SK162(5次)	SK355	SK213(5次)	SK406
SK9(4次)	SK200	SK61(4次)	SK252	SK113(4次)	SK304	SK163(5次)	SK356	SK214(5次)	SK407
SK10(4次)	SK201	SK62(4次)	SK253	SK114(4次)	SK305	SK164(5次)	SK357	SK215(5次)	SK408
SK11(4次)	SK202	SK63(4次)	SK254	SK115(4次)	SK306	SK165(5次)	SK358	SK216(5次)	SK409
SK12(4次)	SK203	SK64(4次)	SK255	SK116(4次)	SK307	SK166(5次)	SK359	SK217(5次)	SK410
SK13(4次)	SK204	SK65(4次)	SK256	SK117(4次)	SK308	SK167(5次)	SK360	SK218(5次)	SK411
SK14(4次)	SK205	SK66(4次)	SK257	SK118(4次)	SK309	SK168(5次)	SK361	SK219(5次)	SK412
SK15(4次)	SK206	SK67(4次)	SK258	SK119(4次)	SK310	SK169(5次)	SK362	SK220(5次)	SK413
SK16(4次)	SK207	SK68(4次)	SK259	SK120(4次)	SK311	SK170(5次)	SK363	SK221(5次)	SK414
SK17(4次)	SK208	SK69(4次)	SK260	SK121(4次)	SK312	SK171(5次)	SK364	SK222(5次)	SK415
SK18(4次)	SK209	SK70(4次)	SK261	SK122(4次)	SK313 欠番	SK172(5次)	SK365	SK223(5次)	SK416
SK19(4次)	SK210 欠番	SK71(4次)	SK262	SK123(4次)	SK314	SK173(5次)	SK366	SK224(5次)	SK417
SK20(4次)	SK211	SK72(4次)	SK263	SK124(4次)	SK315 欠番	SK174(5次)	SK367	SK225(5次)	SK418
SK21(4次)	SK212	SK73(4次)	SK264	SK252(4次)	SK316	SK175(5次)	SK368	SK226(5次)	SK419
SK22(4次)	SK213	SK74(4次)	SK265	SK253(4次)	SK317	SK176(5次)	SK369	SK227(5次)	SK420
SK23(4次)	SK214	SK75(4次)	SK266	SK125(5次)	SK318	SK177(5次)	SK370	SK228(5次)	SK421
SK24(4次)	SK215	SK76(4次)	SK267	SK126(5次)	SK319	SK178(5次)	SK371	SK229(5次)	SK422
SK25(4次)	SK216	SK77(4次)	SK268	SK127(5次)	SK320	SK179(5次)	SK372	SK230(5次)	SK423
SK26(4次)	SK217	SK78(4次)	SK269 欠番	SK128(5次)	SK321	SK180(5次)	SK373	SK231(5次)	SK424
SK27(4次)	SK218	SK79(4次)	SK270	SK129(5次)	SK322	SK181(5次)	SK374	SK232(5次)	SK425
SK28(4次)	SK219	SK80(4次)	SK271	SK130(5次)	SK323	SK182(5次)	SK375	SK233(5次)	SK426
SK29(4次)	SK220	SK81(4次)	SK272	SK131(5次)	SK324	SK183(5次)	SK376	SK234(5次)	SK427
SK30(4次)	SK221	SK82(4次)	SK273	SK132(5次)	SK325	SK184(5次)	SK377	SK235(5次)	SK428
SK31(4次)	SK222	SK83(4次)	SK274	SK133(5次)	SK326	SK185(5次)	SK378	SK236(5次)	SK429
SK32(4次)	SK223	SK84(4次)	SK275	SK134(5次)	SK327	SK186(5次)	SK379	SK237(5次)	SK430
SK33(4次)	SK224	SK85(4次)	SK276	SK135(5次)	SK328	SK187(5次)	SK380	SK238(5次)	SK431
SK34(4次)	SK225	SK86(4次)	SK277	SK136(5次)	SK329	SK188(5次)	SK381	SK239(5次)	SK432
SK35(4次)	SK226	SK87(4次)	SK278	SK137(5次)	SK330	SK189(5次)	SK382	SK240(5次)	SK433
SK36(4次)	SK227	SK88(4次)	SK279	SK138(5次)	SK331	SK190(5次)	SK383	SK241(5次)	SK434
SK37(4次)	SK228	SK89(4次)	SK280	SK139(5次)	SK332	SK191(5次)	SK384	SK242(5次)	SK435
SK38(4次)	SK229	SK90(4次)	SK281 欠番	SK140(5次)	SK333 欠番	SK192(5次)	SK385	SK243(5次)	SK436
SK39(4次)	SK230	SK91(4次)	SK282	SK141(5次)	SK334	SK193(5次)	SK386	SK244(5次)	SK437
SK40(4次)	SK231 欠番	SK92(4次)	SK283	SK142(5次)	SK335	SK194(5次)	SK387	SK245(5次)	SK438
SK41(4次)	SK232	SK93(4次)	SK284	SK143(5次)	SK336	SK195(5次)	SK388	SK246(5次)	SK439
SK42(4次)	SK233	SK94(4次)	SK285	SK144(5次)	SK337	SK196(5次)	SK389	SK247(5次)	SK440
SK43(4次)	SK234	SK95(4次)	SK286	SK145(5次)	SK338	SK197(5次)	SK390	SK248(5次)	SK441
SK44(4次)	SK235	SK96(4次)	SK287	SK146(5次)	SK339	SK198(5次)	SK391	SK249(5次)	SK442
SK45(4次)	SK236	SK97(4次)	SK288	SK147(5次)	SK340	SK199(5次)	SK392	SK250(5次)	SK443
SK46(4次)	SK237	SK98(4次)	SK289	SK148(5次)	SK341	SK200(5次)	SK393	SK251(5次)	SK444
SK47(4次)	SK238	SK99(4次)	SK290	SK149(5次)	SK342	SK201(5次)	SK394	SK252(5次)	SK445
SK48(4次)	SJ77SK1	SK100(4次)	SK291 欠番	SK150(5次)	SK343	SK202(5次)	SK395	SK253(5次)	SK446
SK49(4次)	SK240	SK101(4次)	SK292 欠番	SK151(5次)	SK344				

目次

(第1分冊)

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1
1 発掘調査に至る経過	1
2 発掘調査・報告書作成の経過	2
3 発掘調査・報告書作成の組織	4
II 遺跡の立地と環境	6
1 地理的環境	6
2 歴史的環境	7
III 遺跡の概要	10
1 宮西・宮東遺跡の概要	10
IV 宮西遺跡の調査	12
1 調査の概要	12
2 古代の遺構と遺物	13
(1) 住居跡	15
(2) 畠跡	31
(3) 土壌	32
(4) 遺構外出土遺物	42
V 宮東遺跡の調査	45
1 調査の概要	45
2 古墳時代の遺構と遺物	69
(1) 住居跡	69
(2) 井戸跡	189
(3) 溝跡	192
(4) 畠跡	217
(5) 土壌	225
(6) 遺物集中地点	241

(7) 河川跡	242
(8) 遺構外出土遺物	269

(第2分冊)

3 古代の遺構と遺物	271
(1) 住居跡	271
(2) 掘立柱建物跡	400
(3) 井戸跡	407
(4) 溝跡	414
(5) 畠跡	439
(6) 土壌	447
(7) 遺物集中地点	480
(8) 遺構外出土遺物	495
VI 自然科学分析	496
1 宮東遺跡(第1次調査)出土骨の自然科学分析	496
2 宮東遺跡(第2次調査)のテフラ分析、珪藻・花粉分析	500
3 宮東遺跡(第4次調査)の放射性炭素年代測定・樹種同定	523
4 宮東遺跡(第5次調査)の珪藻・花粉分析	529
5 宮東遺跡(第6次調査)の花粉分析	538
VII 調査のまとめ	542

写真図版

挿図目次

第1分冊

第1図	埼玉県の地形	6
第2図	周辺の遺跡	9
第3図	遺跡位置図	11

宮西遺跡

第4図	基本土層	12
第5図	全体図(1)	13
第6図	全体図(2)	14
第7図	第1号住居跡	15
第8図	第1号住居跡遺物出土状況	16
第9図	第1号住居跡出土遺物(1)	17
第10図	第1号住居跡出土遺物(2)	18
第11図	第2号住居跡・出土遺物	20
第12図	第3号住居跡・出土遺物	21
第13図	第4号住居跡	22
第14図	第4号住居跡遺物出土状況	22
第15図	第4号住居跡出土遺物	23
第16図	第5号住居跡	25
第17図	第5号住居跡遺物出土状況	26
第18図	第5号住居跡出土遺物	26
第19図	第6号住居跡	27
第20図	第6号住居跡遺物出土状況	27
第21図	第6号住居跡出土遺物	28
第22図	第7号住居跡	29
第23図	第7号住居跡遺物出土状況	30
第24図	第7号住居跡出土遺物	31
第25図	第3号畝跡	32
第26図	土壌(1)	34
第27図	土壌(2)	35
第28図	土壌出土遺物(1)	36
第29図	土壌出土遺物(2)	37
第30図	土壌出土遺物(3)	38
第31図	遺構外出土遺物	43

宮東遺跡

第32図	基本土層	45
------	------	----

第33図	全体図(1)	46
第34図	全体図(2)	47
第35図	古墳時代分割図(1)	48
第36図	古墳時代分割図(2)	49
第37図	古墳時代分割図(3)	50
第38図	古墳時代分割図(4)	51
第39図	古墳時代分割図(5)	52
第40図	古墳時代分割図(6)	53
第41図	古墳時代分割図(7)	54
第42図	古墳時代分割図(8)	55
第43図	古墳時代分割図(9)	56
第44図	古墳時代分割図(10)	57
第45図	古墳時代分割図(11)	58
第46図	古代分割図(1)	59
第47図	古代分割図(2)	60
第48図	古代分割図(3)	61
第49図	古代分割図(4)	62
第50図	古代分割図(5)	63
第51図	古代分割図(6)	64
第52図	古代分割図(7)	65
第53図	古代分割図(8)	66
第54図	古代分割図(9)	67
第55図	古代分割図(10)	68
第56図	第4号住居跡・出土遺物	70
第57図	第5号住居跡	71
第58図	第5号住居跡出土遺物	71
第59図	第6号住居跡	72
第60図	第6号住居跡遺物出土状況	73
第61図	第6号住居跡出土遺物(1)	74
第62図	第6号住居跡出土遺物(2)	75
第63図	第9号住居跡・遺物出土状況	77
第64図	第9号住居跡出土遺物	77
第65図	第10号住居跡(1)	78
第66図	第10号住居跡(2)	79
第67図	第10号住居跡遺物出土状況(1)	80

第68図	第10号住居跡遺物出土状況(2)……	81	第105図	第42号住居跡出土遺物(2)……	120
第69図	第10号住居跡出土遺物(1)……	82	第106図	第45号住居跡・出土遺物……	122
第70図	第10号住居跡出土遺物(2)……	83	第107図	第46号住居跡・遺物出土状況……	123
第71図	第10号住居跡出土遺物(3)……	84	第108図	第46号住居跡出土遺物……	123
第72図	第10号住居跡出土遺物(4)……	85	第109図	第47号住居跡・出土遺物……	124
第73図	第10号住居跡出土遺物(5)……	86	第110図	第48号住居跡……	125
第74図	第10号住居跡出土遺物(6)……	87	第111図	第48号住居跡出土遺物……	126
第75図	第11号住居跡……	92	第112図	第49号住居跡……	127
第76図	第11号住居跡出土遺物……	92	第113図	第49号住居跡遺物出土状況……	128
第77図	第14号住居跡……	93	第114図	第49号住居跡出土遺物……	129
第78図	第14号住居跡遺物出土状況……	94	第115図	第50号住居跡・出土遺物……	130
第79図	第14号住居跡出土遺物(1)……	95	第116図	第51号住居跡・遺物出土状況……	131
第80図	第14号住居跡出土遺物(2)……	96	第117図	第51号住居跡出土遺物……	132
第81図	第15号住居跡・遺物出土状況……	97	第118図	第52号住居跡……	133
第82図	第15号住居跡出土遺物……	98	第119図	第52号住居跡遺物出土状況……	133
第83図	第16号住居跡・遺物出土状況……	99	第120図	第52号住居跡出土遺物……	134
第84図	第16号住居跡出土遺物……	100	第121図	第54号住居跡……	135
第85図	第17号住居跡……	102	第122図	第55号住居跡……	136
第86図	第17号住居跡遺物出土状況……	103	第123図	第55号住居跡遺物出土状況……	137
第87図	第17号住居跡出土遺物(1)……	104	第124図	第55号住居跡出土遺物……	138
第88図	第17号住居跡出土遺物(2)……	105	第125図	第60号住居跡……	139
第89図	第18号住居跡・出土遺物……	106	第126図	第61号住居跡・出土遺物……	139
第90図	第21号住居跡・遺物出土状況……	107	第127図	第62号住居跡・出土遺物……	140
第91図	第21号住居跡出土遺物……	108	第128図	第64号住居跡……	141
第92図	第23号住居跡……	109	第129図	第64号住居跡遺物出土状況……	142
第93図	第23号住居跡出土遺物……	109	第130図	第64号住居跡出土遺物(1)……	143
第94図	第24号住居跡・出土遺物……	110	第131図	第64号住居跡出土遺物(2)……	144
第95図	第25号住居跡……	111	第132図	第64号住居跡出土遺物(3)……	145
第96図	第25号住居跡出土遺物……	112	第133図	第65号住居跡・出土遺物……	147
第97図	第26号住居跡……	113	第134図	第68号住居跡……	148
第98図	第26号住居跡遺物出土状況……	114	第135図	第68号住居跡・出土遺物……	148
第99図	第26号住居跡出土遺物……	115	第136図	第69号住居跡……	149
第100図	第29号住居跡・遺物出土状況……	116	第137図	第70号住居跡・遺物出土状況……	150
第101図	第29号住居跡出土遺物……	116	第138図	第70号住居跡出土遺物……	150
第102図	第42号住居跡……	117	第139図	第72号住居跡……	151
第103図	第42号住居跡遺物出土状況……	118	第140図	第90号住居跡……	152
第104図	第42号住居跡出土遺物(1)……	119	第141図	第90号住居跡遺物出土状況……	153

第142図	第90号住居跡出土遺物	154	第177図	溝跡(2)	194
第143図	第92号住居跡	155	第178図	溝跡(3)	195
第144図	第92号住居跡遺物出土状況	156	第179図	溝跡(4)	196
第145図	第92号住居跡出土遺物	157	第180図	溝跡(5)	197
第146図	第93号住居跡	158	第181図	溝跡(6)	198
第147図	第94号住居跡	159	第182図	溝跡(7)	199
第148図	第94号住居跡遺物出土状況	160	第183図	溝跡(8)	200
第149図	第94号住居跡出土遺物	161	第184図	溝跡(9)	201
第150図	第95号住居跡・遺物出土状況	163	第185図	溝跡(10)	202
第151図	第95号住居跡出土遺物	164	第186図	溝跡(11)	203
第152図	第96号住居跡	165	第187図	溝跡(12)	204
第153図	第96号住居跡遺物出土状況	166	第188図	溝跡(13)	205
第154図	第96号住居跡出土遺物(1)	167	第189図	溝跡(14)	206
第155図	第96号住居跡出土遺物(2)	168	第190図	溝跡(15)	207
第156図	第97号住居跡・遺物出土状況	170	第191図	溝跡(16)	208
第157図	第97号住居跡出土遺物	171	第192図	溝跡出土遺物(1)	215
第158図	第98号住居跡(1)	172	第193図	溝跡出土遺物(2)	216
第159図	第98号住居跡(2)	173	第194図	畠跡全体図	218
第160図	第98号住居跡遺物出土状況	174	第195図	畠跡(1)	219
第161図	第98号住居跡出土遺物(1)	175	第196図	畠跡(2)	220
第162図	第98号住居跡出土遺物(2)	176	第197図	畠跡(3)	221
第163図	第99号住居跡(1)	179	第198図	畠跡(4)	222
第164図	第99号住居跡(2)	180	第199図	畠跡(5)	223
第165図	第99号住居跡遺物出土状況(1)	181	第200図	土壌(1)	226
	181	第201図	土壌(2)	227
第166図	第99号住居跡遺物出土状況(2)	182	第202図	土壌(3)	228
	182	第203図	土壌(4)	229
第167図	第99号住居跡出土遺物(1)	183	第204図	土壌(5)	230
第168図	第99号住居跡出土遺物(2)	184	第205図	土壌(6)	231
第169図	第100号住居跡	186	第206図	土壌(7)	232
第170図	第100号住居跡出土遺物	186	第207図	土壌出土遺物(1)	235
第171図	第101号住居跡	187	第208図	土壌出土遺物(2)	236
第172図	第101号住居跡遺物出土状況	188	第209図	土壌出土遺物(3)	237
第173図	第101号住居跡出土遺物	188	第210図	第1号遺物集中遺物出土状況	241
第174図	井戸跡	190	第211図	第1号遺物集中出土遺物	241
第175図	井戸跡出土遺物	191	第212図	河川跡(1)	243
第176図	溝跡(1)	193	第213図	河川跡(2)	244

第214図	河川跡 (3)	245	第224図	河川跡出土遺物 (3)	256
第215図	河川跡 (4)	246	第225図	河川跡出土遺物 (4)	257
第216図	河川跡 (5)	247	第226図	河川跡出土遺物 (5)	258
第217図	河川跡 (6)	248	第227図	河川跡出土遺物 (6)	259
第218図	河川跡 (7)	250	第228図	河川跡出土遺物 (7)	260
第219図	河川跡 (8)	251	第229図	河川跡出土遺物 (8)	261
第220図	河川跡 (9)	252	第230図	河川跡出土遺物 (9)	262
第221図	河川跡 (10)	253	第231図	河川跡出土遺物 (10)	263
第222図	河川跡出土遺物 (1)	254	第232図	河川跡出土遺物 (11)	264
第223図	河川跡出土遺物 (2)	255	第233図	遺構外出土遺物	270

表目次

第1分冊

第1表	周辺の遺跡一覧表	9	第22表	第17号住居跡出土遺物観察表	105
宮西遺跡			第23表	第18号住居跡出土遺物観察表	106
第2表	第1号住居跡出土遺物観察表	18	第24表	第21号住居跡出土遺物観察表	108
第3表	第2号住居跡出土遺物観察表	20	第25表	第23号住居跡出土遺物観察表	110
第4表	第3号住居跡出土遺物観察表	21	第26表	第24号住居跡出土遺物観察表	110
第5表	第4号住居跡出土遺物観察表	24	第27表	第25号住居跡出土遺物観察表	112
第6表	第5号住居跡出土遺物観察表	26	第28表	第26号住居跡出土遺物観察表	115
第7表	第6号住居跡出土遺物観察表	28	第29表	第29号住居跡出土遺物観察表	116
第8表	第7号住居跡出土遺物観察表	31	第30表	第42号住居跡出土遺物観察表	121
第9表	第3号畠跡一覧表	32	第31表	第45号住居跡出土遺物観察表	122
第10表	土壌一覧表	35	第32表	第46号住居跡出土遺物観察表	124
第11表	土壌出土遺物観察表	39	第33表	第47号住居跡出土遺物観察表	125
第12表	遺構外出土遺物観察表	44	第34表	第48号住居跡出土遺物観察表	126
宮東遺跡			第35表	第49号住居跡出土遺物観察表	129
第13表	第4号住居跡出土遺物観察表	70	第36表	第50号住居跡出土遺物観察表	130
第14表	第5号住居跡出土遺物観察表	71	第37表	第51号住居跡出土遺物観察表	132
第15表	第6号住居跡出土遺物観察表	76	第38表	第52号住居跡出土遺物観察表	135
第16表	第9号住居跡出土遺物観察表	77	第39表	第55号住居跡出土遺物観察表	138
第17表	第10号住居跡出土遺物観察表	88	第40表	第61号住居跡出土遺物観察表	140
第18表	第11号住居跡出土遺物観察表	92	第41表	第62号住居跡出土遺物観察表	140
第19表	第14号住居跡出土遺物観察表	96	第42表	第64号住居跡出土遺物観察表	146
第20表	第15号住居跡出土遺物観察表	98	第43表	第65号住居跡出土遺物観察表	147
第21表	第16号住居跡出土遺物観察表	101	第44表	第68号住居跡出土遺物観察表	149
			第45表	第70号住居跡出土遺物観察表	150

第46表	第90号住居跡出土遺物観察表	154	第56表	第101号住居跡出土遺物観察表	188
第47表	第92号住居跡出土遺物観察表	157	第57表	井戸跡出土遺物観察表	192
第48表	第94号住居跡出土遺物観察表	162	第58表	溝跡一覧表	209
第49表	第95号住居跡出土遺物観察表	164	第59表	溝跡出土遺物観察表	217
第50表	第96号住居跡ピット一覧表	166	第60表	畝跡一覧表	224
第51表	第96号住居跡出土遺物観察表	169	第61表	土壇一覧表	233
第52表	第97号住居跡出土遺物観察表	171	第62表	土壇出土遺物観察表	238
第53表	第98号住居跡出土遺物観察表	177	第63表	第1号遺物集中出土遺物観察表	242
第54表	第99号住居跡出土遺物観察表	184	第64表	河川跡出土遺物観察表	265
第55表	第100号住居跡出土遺物観察表	186	第65表	遺構外出土遺物観察表	270

I 発掘調査の概要

1 発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所では「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】」に基づき、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業として、利根川右岸の堤防を拡幅し、強化する事業を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課では、国が実施するこうした公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係機関と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財の所在及び取扱いについては、利根川上流河川事務所長から平成17年1月20日付け利上沿第18号で、埼玉県教育委員会教育長宛て、埋蔵文化財の所在及びその取扱いについて照会がなされた。

事業予定区域については、埋蔵文化財の詳細な状況等を把握するための確認調査を実施する必要がある旨を、平成17年3月17日付け教生文第1780号で回答した。

「宮西遺跡」(No.69-040)は、平成22年7月に確認調査を実施し、新たに中世以降の遺構が確認されたため、平成22年7月6日付けで遺跡台帳に登録された。埋蔵文化財の所在が明確になったことから、平成22年7月23日付け教生文第790-1号で、記録保存のための発掘調査が必要である旨を回答した。その後、事業の計画変更及び埋蔵文化財の現状保存は困難との結論に達したため、発掘調査の措置を講ずることとした(1～2次)。この発掘調査と平成25年1月に実施した試掘調査により平成25年1月17日付けで遺跡の範囲を拡大変更し、平成25年2月18日付け教生文第2035-1号で発掘調査が必要である旨回答した(3～4次)。

「宮東遺跡」(No.69-042)についても、平成23年10月に実施した試掘調査の成果から平成23年10月31日付けで遺跡台帳に登録した遺跡である。

その後、事業の進捗に伴って平成26年2月に実施した試掘調査の成果から平成26年2月27日付けで東に範囲を拡大した。埋蔵文化財の取扱いは、平成23年11月17日付け教生文第1543-1号、平成26年3月31日付け教生文第2691-1号で発掘調査が必要である旨を回答した(1～6次)。

両遺跡の発掘調査に際しては、発掘調査実施機関である公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と、利根川上流河川事務所、生涯学習文化財課(当時)の三者で定期的に会議を開催し、各種の調整を行った。

文化財保護法第94条第1項の規定に基づく利根川上流河川事務所長からの通知に対する同条第4項の規定による埼玉県教育委員会教育長からの勧告は以下のとおりである。

平成23年3月18日付け教生文第4-1404号

平成26年2月27日付け教文資第4-1633号

文化財保護法第92条第1項の規定に基づく公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長からの発掘調査届に対する埼玉県教育委員会教育長からの指示通知は以下のとおりである。

宮西遺跡

1次 平成23年11月7日付け教生文第2-55号

2次 平成24年4月20日付け教生文第2-7号

3次 平成25年10月3日付け教生文第2-40号

4次 平成26年9月12日付け教生文第2-38号

宮東遺跡

1次 平成24年4月20日付け教生文第2-8号

2次 平成25年5月24日付け教生文第2-9号

3次 平成26年2月5日付け教生文第2-61号

4次 平成26年5月15日付け教生文第2-6号

5次 平成27年6月1日付け教生文第2-16号

6次 平成28年5月19日付け教生文第2-5号

(埼玉県教育局市町村支援部文化資源課)

2 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

宮西遺跡及び宮東遺跡の発掘調査は、首都圏氾濫区域域防強化対策事業に伴って実施された。

宮西遺跡の発掘調査は平成23年度（第1次）・平成24年度（第2次）・平成25年度（第3次）・平成26年度（第4次）の4箇年度にわたって実施した。調査対象面積は7,138.46㎡である。

宮東遺跡の発掘調査は平成24年度（第1次）・平成25年度（第2次・第3次）・平成26年度（第4次）・平成27年度（第5次）・平成28年度（第6次）の5箇年度にわたって実施した。調査対象面積は9,570.56㎡である。

宮西遺跡第1次調査（平成23年度）

調査期間：平成23年11月1日から1月31日
調査面積：2,500㎡
発掘事務所の設置：11月当初
囲柵、重機による表土除去作業：11月上旬
補助員による遺構確認作業：11月中旬
基準点測量及びグリッド杭打設作業：11月中旬
精査、遺構測量、撮影：11月下旬～1月下旬
空中写真撮影：1月中旬
撤収：1月末

宮西遺跡第2次調査（平成24年度）

調査期間：平成24年4月6日から5月31日
調査面積：2,500㎡
動力工事、重機による表土除去作業：4月上旬
補助員による遺構確認作業：4月中旬
基準点測量及びグリッド杭打設作業：4月中旬
精査、遺構測量、撮影：4月下旬～5月下旬
空中写真撮影：5月中旬
重機による埋戻し、撤収：5月末

宮西遺跡第3次調査（平成25年度）

調査期間：平成25年10月1日から2月28日
調査面積：2,268.46㎡
囲柵、動力工事：10月上旬
重機による表土除去作業：10月上旬～下旬、12

月中旬

補助員による遺構確認作業：10月下旬
基準点測量及びグリッド杭打設作業：10月下旬、

12月中旬

精査、遺構測量、撮影：11月上旬～2月下旬
空中写真撮影：12月中旬
重機による埋戻し：2月末

宮西遺跡第4次調査（平成26年度）

調査期間：平成26年10月1日から12月31日
調査面積：2,370㎡
囲柵、動力、重機による表土除去作業：10月上旬～中旬

補助員による遺構確認作業：10月中旬
基準点測量及びグリッド杭打設作業：10月末
精査、遺構測量、撮影：10月下旬～12月下旬
空中写真撮影：12月中旬
重機による埋戻し：1月上旬

宮東遺跡第1次調査（平成24年度）

調査期間：平成24年4月6日から3月31日
調査面積：4,342.56㎡
囲柵、動力工事：4月上旬～4月中旬
重機による表土除去作業：4月上旬～5月下旬、
8月上旬～中旬、1月上旬～2月上旬
補助員による遺構確認作業：4月下旬
基準点測量及びグリッド杭打設作業：5月中旬
～下旬、8月下旬、1月下旬～2月中旬
精査、遺構測量、撮影：5月上旬～3月中旬
空中写真撮影：7月下旬、11月下旬、3月上旬
撤収：3月末

宮東遺跡第2次調査（平成25年度）

調査期間：平成25年4月1日～9月30日
調査面積：4,342.56㎡
重機による表土除去：4月上旬、7月上旬
補助員による遺構確認作業：4月中旬
基準点測量及びグリッド杭打設作業：4月中旬、
7月中旬

精査、遺構測量、撮影：4月下旬～9月下旬
空中写真撮影：6月下旬

重機による埋め戻し：9月上旬～9月下旬

宮東遺跡第3次調査（平成25年度）

調査期間：平成26年2月3日～3月31日
調査面積：882㎡

囲柵、動力工事：2月上旬

重機による表土除去：2月上旬～下旬

補助員による遺構確認作業：3月上旬

基準点測量及びグリッド杭打設：2月下旬

撤収：3月下旬

宮東遺跡第4次調査（平成26年度）

調査期間：平成26年4月1日から3月31日
調査面積：5,228㎡

囲柵、動力工事：4月中旬

重機による表土除去作業：4月上旬～5月下旬、
6月中旬～7月上旬、12月中旬～下旬、3月
中旬

補助員による遺構確認作業：4月下旬

基準点測量及びグリッド杭打設作業：6月上旬、
8月下旬、2月中旬

精査、遺構測量、撮影：5月上旬～3月中旬

空中写真撮影：6月上旬、1月下旬

撤収：3月末

宮東第5次調査（平成27年度）

調査期間：平成27年4月1日～3月31日
調査面積：5,864㎡

囲柵、動力工事：4月中旬、8月中旬

重機による表土除去作業：7月中旬～8月下旬、
11月中旬

補助員による遺構確認作業：9月上旬

基準点測量及びグリッド杭打設作業：8月末～
9月初頭、11月下旬

精査、遺構測量、撮影：4月上旬～3月下旬

空中写真撮影：7月上旬、10月下旬

撤収：3月末

宮東第6次調査（平成28年度）

調査期間：平成28年4月1日～7月31日
調査面積：2,814㎡

精査、遺構測量、撮影：4月上旬～7月上旬
空中写真撮影：5月下旬

重機による埋戻し、撤収：7月中旬～末

(2) 整理・報告書の作成

整理・報告書作成事業は、平成30年10月1日
から令和3年3月31日まで実施した。

遺物は、平成30年10月から水洗・注記を行い、
続いて接合作業を行った。接合した遺物は実測図
を作成し、計測値や特徴なども記入した。遺物実
測図はトレースを行い、必要に応じて拓本を採っ
た。これらはスキャナを使用してデジタル・デー
タ化し、レイアウト編集して印刷用の挿図版下
データを作成した。また令和2年7月から8月に
かけて遺物写真を撮影し、写真図版の版下デー
タを編集・作成した。

遺構は、発掘調査で作成された平面図・土層断
面図等を修正・編集して第二原図を作成した。パ
ソコンを使用してデジタル・トレースと編集作業
を行い、印刷用の挿図版下データを作成した。遺
構写真は、発掘調査で撮影されたものの中から選
択・編集し、写真図版用の版下データを作成した。

令和2年1月上旬から作成した遺構・遺物の
データ等をもとに原稿を執筆し、遺構・遺物の挿
図と写真図版などを組み合わせて割付を作成した。
完了後印刷業者に入稿し、校正を3回行い、令和
3年3月下旬に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告
書第467集『宮西Ⅰ／宮東Ⅰ』を刊行した。

図面類・写真類・データ類・遺物等の諸資料は、
令和2年12月から整理・分類を行い、埼玉県文
化財収蔵施設の収蔵庫へ仮収納した。

3 発掘調査・報告書作成の組織

平成23年度（発掘調査）

理 事 長	藤 野 龍 宏	調査部	
常務理事兼総務部長	根 本 勝	調 査 部 長	小 野 美代子
総務部		調 査 部 副 部 長	鯛 持 和 夫
総 務 部 副 部 長	金 子 直 行	調 査 監 兼 調 査 第 一 課 長	富 田 和 夫
総 務 課 長	矢 島 将 和	主 査	吉 田 稔
		主 事	橋 本 脩 平

平成24年度（発掘調査）

理 事 長	中 村 英 樹	調査部	
常務理事兼総務部長	根 本 勝	調 査 部 長	昼 間 孝 志
総務部		調 査 部 副 部 長	鯛 持 和 夫
総 務 部 副 部 長	富 田 和 夫	調 査 第 二 課 長	黒 坂 禎 二
総 務 課 長	矢 島 将 和	主 査	田 中 広 明
		主 査	山 本 靖
		主 事	高 屋 敷 飛 鳥
		主 事	中 泉 雄 太

平成25年度（発掘調査）

理 事 長	中 村 英 樹	調査部	
常務理事兼総務部長	大 嶋 紳 一 郎	調 査 部 長	昼 間 孝 志
総務部		調 査 部 副 部 長	鯛 持 和 夫
総 務 部 副 部 長	富 田 和 夫	調 査 第 一 課 長	細 田 勝
総 務 課 長	藤 倉 英 明	主 査	田 中 広 明
		主 事	渡 邊 理 伊 知

平成26年度（発掘調査）

理 事 長	樋 田 明 男	調査部	
常務理事兼総務部長	大 嶋 紳 一 郎	調 査 部 長	昼 間 孝 志
総務部		調 査 部 副 部 長	富 田 和 夫
総 務 部 副 部 長	瀧 瀬 芳 之	調 査 監 兼 調 査 第 一 課 長	赤 熊 浩 一
総 務 課 長	藤 倉 英 明	主 査	田 中 広 明
		主 任	堀 内 紀 明
		主 事	渡 邊 理 伊 知
		主 事	滝 澤 誠
		主 事	高 田 賢 治
		主 事	宮 村 誠 二

平成27年度（発掘調査）

理事 長 樋田 明 男
 常務理事兼総務部長 木村 博 昭
総務部
 総務部 副部長 瀧 瀬 芳 之
 総務課 長 安田 孝 行

調査部

調査部 長 金子 直 行
 調査部 副部長 富田 和 夫
 調査監兼調査第一課長 赤熊 浩 一
 主 任 堀内 紀 明
 主 事 水村 雄 功

平成28年度（発掘調査）

理事 長 塩野谷 孝 志
 常務理事兼総務部長 木村 博 昭
総務部
 総務部 副部長 黒坂 禎 二
 総務課 長 曾川 浩 二

調査部

調査部 長 金子 直 行
 調査部 副部長 赤熊 浩 一
 主幹兼調査第一課長 田中 広 明
 主 任 堀内 紀 明
 主 事 水村 雄 功

平成30年度（整理・報告書作成）

理事 長 藤田 栄 二
 常務理事兼総務部長 川目 晴 久
総務部
 総務部 副部長 田中 広 明
 総務課 長 新井 了 悟

調査部

調査部 長 瀧 瀬 芳 之
 調査部 副部長 吉田 稔
 調査部副部長兼整理第二課長 山本 靖 誠
 主 事 滝澤 誠

平成31年度（整理・報告書作成）

理事 長 藤田 栄 二
 常務理事兼総務部長 高津 導
総務部
 総務部 副部長 山本 靖 誠
 総務課 長 新井 了 悟

調査部

調査部 長 黒坂 禎 二
 調査部副部長兼整理第一課長 上野 真由美
 主幹兼整理第二課長 福田 聖
 主 任 村山 卓
 主 事 滝澤 誠

令和2年度（整理・報告書作成）

理事 長 藤田 栄 二
 常務理事兼総務部長 福沢 景
総務部
 総務部 副部長 山本 靖 誠
 総務課 長 鈴木 裕 一

調査部

調査部 長 吉田 稔
 調査部副部長兼整理第一課長 上野 真由美
 主 事 滝澤 誠

2 歴史的環境

宮西・宮東遺跡の所在する加須低地周辺は、台地の沈降と河川の乱流によって堆積土に厚く覆われている。そのため遺跡の分布は未だ不明な部分が多く、本来は現在検出されているより多くの遺跡の存在が予想され、本事業に伴う調査で、数多くの遺跡の存在が知られるようになった。

今回の報告では、主に古墳時代から古代の遺構を扱うため、古墳時代から古代を中心として見ていきたい。

旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、いずれも後期旧石器時代後半に属し、加須低地では埋没台地上に立地する。羽生市谷田遺跡(17)、内谷遺跡(41)からは、ナイフ形石器、剥片が出土している。

縄文時代

縄文時代の遺跡は、宮西・宮東遺跡の北西約1kmには、縄文時代後晩期の環状盛土遺構が発見された加須市長竹遺跡(3)が位置し、多数の住居跡や掘立柱建物跡、土壇、埋壘、遺物集中などが検出され、この中には、床面に焼土を敷いた後期末葉から晩期初頭の住居跡が含まれる。また遺跡分布図の南側になるが、加須市域では埋没度の少ない旧騎西町の荻原遺跡で、中後期の集落跡が調査されている(嶋村2008)。

弥生時代

弥生時代の遺跡はあまり発見されていない。遺構が検出されているのは、宮西・宮東遺跡の上流3.2kmに位置する屋敷裏遺跡(6)のみであり、住居跡1軒、方形周溝墓1基、土壇9基が見つまっている。この他に採集地として羽生市戸野漆畑遺跡(37)、天王遺跡(13)が知られている。

古墳時代

古墳時代の遺跡は、主に中期以降に出現するようになる。前期の遺構が見つまっている遺跡は少ないが、屋敷裏遺跡からは住居跡44軒、掘立柱建物跡1棟が検出されている。住居跡の分布が調査

区域外へ続く大規模な集落跡と推測され、北陸系や東海系、畿内系、山陰系などさまざまな地域の土器が出土することから、同時代の拠点的な集落と考えられる。この他に、屋敷裏遺跡の上流約2kmにある米の宮遺跡(20)からは、住居跡1軒が検出されている。

古墳時代中期から後期になると、遺跡数が増加する。屋敷裏遺跡では中期の住居跡2軒、後期の住居跡19軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡4基、畠跡2箇所、土壇3基、円形周溝状遺構1基が検出されている。このうち第10・13号住居跡からは、本来は古墳の副葬品である脚付長頸壺が住居跡から出土し、付近の村君古墳群中にある永明寺古墳(15)との関連が考えられている。

長竹遺跡からは、6世紀後半から7世紀頃の畠跡が検出されている。

利根川対岸に位置する加須市(旧北川辺町)飯積遺跡(45)では、5世紀後半代の住居跡が22軒、6世紀代の住居跡が69軒、7世紀代の住居跡が45軒検出され、奈良時代まで集落が継続的に営まれる。古墳時代から奈良時代にかけての拠点的な集落と考えられる。

このように、古墳時代中期に当たる5世紀後半以降、利根川沿川では急速に集落が展開していく。それに伴い、周辺の埋没ローム上に古墳群が造られるようになる。

遺跡の南方約2kmには極遺川古墳群が位置し、御室塚古墳(75)、浅間塚古墳(76)、稲荷塚古墳(77)が現存する。また、かつて西方にあり、現在は消滅した宮西塚古墳からは、方格四獣鏡、ガラス玉、馬具等が出土し、6世紀中葉頃の築造とされている。

宮西・宮東遺跡の西方約500mには、加須市大越古墳群が位置し、稲荷塚古墳(11)、浅間塚古墳(9)、八幡塚古墳(10)の3基が現存し、人物埴輪、円筒埴輪の出土が伝えられている。

宮西・宮東遺跡の北西約4kmには、羽生市村君古墳群があり、全長73mの永明寺古墳、御嶺塚古墳(19)、稲荷塚古墳(18)の現存する3基のほか、浅間塚跡、上村君八幡塚跡などの小円墳が存在したと伝えられている。

また西約3.0kmには今泉古墳群があり、稲荷山古墳(25)、天神塚古墳(27)、熊野塚古墳(28)、観音塚古墳(24)が現存する。稲荷山古墳は明治26年に横穴式石室が検出され、刀、鏡、甲がままとまって出土したと伝えられている。

古代

古代の遺跡は古墳時代に次いで多い。遺跡の北西側には長竹遺跡があり、8世紀中頃から10世紀後半にかけての住居跡が57軒検出されている。8世紀中頃から10世紀後半まで存続する集落跡で、各時期2～3軒程度の住居跡が点々と営まれ、10世紀前半に最盛期を迎えるという特徴がある。

また長竹遺跡の西側に隣接する加須市樋ノ口遺跡(4)でも、10世紀代の住居跡が10軒検出されている。

利根川を挟んだ対岸には飯積遺跡が位置する。古墳時代に最盛期を迎える集落だが、古代の住居跡も40軒検出され、8世紀初頭から8世紀前半頃の住居跡が大半を占める。

遺跡の北西2.5kmにある羽生市茂手木遺跡(5)からは、9世紀中葉～後半にかけての住居跡が19軒と、10世紀中葉の住居跡が1軒検出されている。9世紀中葉～後半の短期間に住居が多く作られる一方で、前後の時期の遺構は認められず、短期間に営まれた集落と考えられる。9世紀中葉の京都産緑釉陶器塚が出土した他、墨書土器が比較的多く出土し、底部に「寺」と墨書された土師器塚は特筆される。

遺跡の北西約3kmにある屋敷裏遺跡からは、9世紀から10世紀前半の住居跡が26軒検出され、他にも掘立柱建物跡1棟、土壇12基、井戸跡6基、畠跡4箇所が確認された。長竹遺跡と同じく10世

紀前半に最盛期を迎える集落であり、10世紀初頭の第45号住居跡からは、古代の楽器である金属製口琴が出土した。

遺跡の西約4.5kmに位置する米の宮遺跡からは、9世紀から10世紀にかけての住居跡が4軒、土壇1基が検出されている。

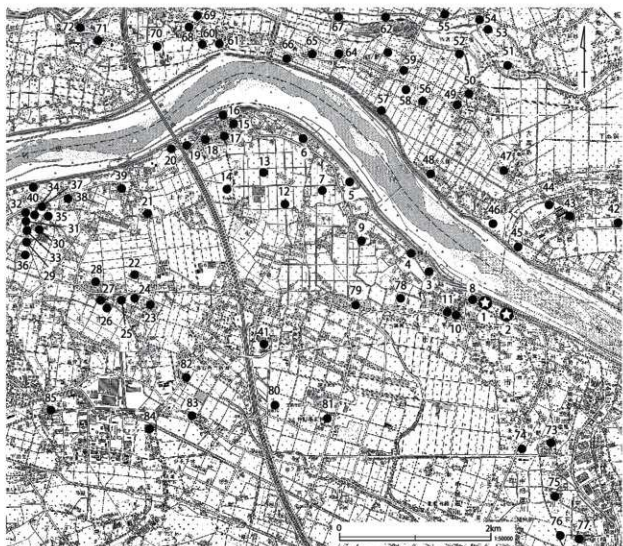
西方約6kmに位置する羽生市北尾崎北遺跡(40)からは、10世紀代を主体とする集落跡が検出された。この内、10世紀中葉の住居跡からは、八稜鏡と槍先、雁股鎌が出土し、特殊な遺物群が同一住居跡から検出された点で注目される。

分布図外であるが、内陸部には東北自動車道の工事に伴い発掘調査が行われた加須市水深遺跡があり、古墳時代から奈良時代にかけての集落跡と、土師器を焼いた土器焼成遺構が検出されている。

利根川左岸に当たる群馬県板倉町でも、古代の遺跡が見つまっている。板倉町沼田南遺跡(67)からは、9世紀から10世紀頃と考えられる住居跡が5軒、また板倉町花和田遺跡(62)からは、9世紀代と考えられる住居跡が4軒検出されている。板倉町城遺跡(57)からは、9世紀初頭から中葉頃の土壇が検出されている。これら3遺跡では洪水層が認められ、沼田南遺跡で10世紀代と考えられる住居跡が洪水層の上に構築されていることから、明確な時期は不明だが、9世紀から10世紀の早い時期に、利根川左岸で洪水が発生していた状況を示している。

中・近世

中・近世は、利根川東遷に伴い利根川堤防が築造される時期にあたる。宮西遺跡の西側に隣接して位置する加須市旧利根川堤防跡(8)では、利根川堤防の調査が実施された。堤防が江戸時代初期に築かれ、時代と共に補強を繰り返されていく状況が捉えられている。堤防の下からは中世の墓地が検出され、人骨を伴う土壇墓が100基以上検出された。



第2図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧表 (第2図)

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	宮西遺跡	18	稲荷塚古墳	35	尾崎古墳群第9号墳	52	伊勢ノ木遺跡	69	薬王寺古墳
2	宮東遺跡	19	御前塚古墳	36	福照院古墳	53	小保呂第2貝塚	70	斗合田遺跡
3	長竹遺跡	20	米の宮遺跡	37	奥戸漆畑遺跡	54	板倉遺跡	71	江黒古墳
4	樋ノ口遺跡	21	上村君沖遺跡	38	奥戸遺跡	55	藤ノ木古墳	72	上江黒遺跡
5	茂手木遺跡	22	大口遺跡	39	風張遺跡	56	登戸遺跡	73	穴塚古墳
6	屋敷裏遺跡	23	外之内遺跡	40	北尾崎北遺跡	57	城遺跡	74	石小塚古墳
7	本宮遺跡	24	観音塚古墳	41	内谷遺跡	58	辻遺跡	75	御室塚古墳
8	旧利根川堤防跡	25	稲荷山古墳	42	麦倉遺跡	59	岡村遺跡	76	浅間塚古墳
9	浅間塚古墳	26	西原遺跡	43	山越遺跡	60	稲袋塚古墳	77	稲袋塚古墳
10	八幡塚古墳	27	天神塚古墳群	44	須賀遺跡	61	富士塚古墳	78	別所遺跡
11	稲荷塚古墳	28	熊野塚古墳	45	飯積遺跡	62	花和田遺跡	79	三田ヶ谷本村遺跡
12	鍋田遺跡	29	尾崎古墳群第2号墳	46	島悪途遺跡	63	岡西遺跡	80	赤野人馬遺跡
13	天王遺跡	30	尾崎古墳群第3号墳	47	平塚根中世墓	64	松ノ木古墳	81	惣達遺跡
14	砂田遺跡	31	尾崎古墳群第4号墳	48	大久保中世墓	65	中古墳	82	内野遺跡
15	永明寺古墳	32	尾崎古墳群第5号墳	49	大塚山古墳	66	新村下遺跡	83	高橋遺跡
16	東畑遺跡	33	尾崎古墳群第6号墳	50	稲荷神社古墳	67	沼田南遺跡	84	天神塚古墳
17	谷田遺跡	34	尾崎古墳群第8号墳	51	小保呂第1貝塚	68	愛宕塚古墳	85	北谷遺跡

III 遺跡の概要

1 宮西・宮東遺跡の概要

宮西遺跡および宮東遺跡は、加須市北部に位置する連続した遺跡である。両遺跡からは、古墳時代中期から近世までの遺構が検出された。本書では、古墳時代から古代までの遺構を対象とし、中・近世については次の報告書で扱う予定である。

宮西遺跡は平成23年から平成26年にかけて、4次に及ぶ調査が行われた。

平成23年は第1次調査として遺跡中央部の第一面を調査し、中・近世の井戸跡群が検出された。

平成24年には第2次調査として第1次調査の下層にあたる第二面を調査し、調査区の中央部から古代の集落跡が検出された。

平成25年は当初宮東遺跡B区とされた調査区が、宮西遺跡第3次調査に改められた。遺構は宮西遺跡第1次調査で検出された井戸跡の続きと考えられる井戸跡群が検出された。

平成26年度は第4次調査として宮西遺跡第1・2次調査区の西側にあたる箇所を調査し、井戸跡等が検出された。

宮東遺跡は平成24年から平成28年にかけて、6次に及ぶ調査が行われた。

平成24年は第1次調査として、遺跡の西側を調査した。調査区を西側調査区と中央調査区、東側調査区の3つに分け、第1次では西側調査区と東側調査区の第一～三面と、中央調査区第一面の調査を実施した。

第一面からは宮西遺跡から続く井戸跡群や区画溝である可能性がある大規模な溝跡等が検出された。第二面からは古代の集落跡が検出され、東側調査区には住居跡が多く分布するが、西側調査区では1軒しか検出されない状況が捉えられた。

第三面からは古墳時代の集落跡が検出され、東側調査区で見つかった大型の第10号住居跡からは、大量の土器が出土した。

平成25年は第2・3次調査を行った。第2次は、第1次の続きとなる中央調査区の第二・三面の調査を行った。第二面からは東側調査区から続く古代の集落跡、第三面からは集落跡の続きと、北東～南西方向に走行する河川跡が検出され、河川跡の縁からは遺物が多く出土した。

第3次調査からは遺跡東側の調査を開始し、調査区をⅠ～Ⅵ区に分けて調査を行った。

第3次は、西端に当たる、Ⅰ・Ⅱ区の表土除去を行い、遺構検出を行った。

平成26年度は第4次調査として、Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ区の第一～三面と、Ⅲ・Ⅳ区の第一・二面を調査した。

第一面からは、近世の溝跡や井戸跡、水田跡等が検出された。特にⅡ区からは、細い溝跡から多くの遺物が検出された。

第二面からは古代の集落跡が検出され、床面に噴砂が堆積した住居跡が検出された。

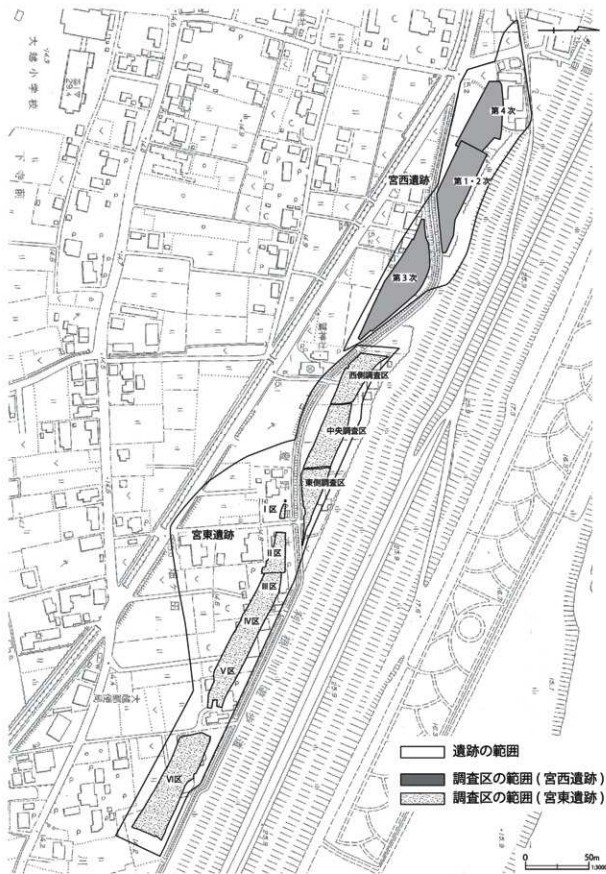
第三面からは古墳時代の集落跡が検出され、一部の住居跡では、柱根が残存していた。

平成27年度は第5次調査として、Ⅲ・Ⅳ区の第三面と、Ⅵ区第一面の調査を行った。Ⅲ・Ⅳ区の第三面からは、古墳時代の集落跡が検出された。Ⅵ区の第一面からは、畝跡が検出された。

平成28年度は第6次調査として、Ⅵ区の第二面と第三面の調査を行った。第二面からは古代の住居跡が1軒と、畝跡や遺物集中地点が検出された。遺物集中地点からは平安時代の遺物が多く検出され、石製の巡方等特殊な遺物が出土した。

第三面からは、古墳時代と考えられる畝跡が検出され、少量ではあるが高弁等の古墳時代の遺物が出土した。

両遺跡からは、古墳時代中期から平安時代まで営まれた集落跡や古墳時代の河川跡、中世の井戸跡群や区画溝、近世の井戸跡や溝跡が検出された。



第3図 遺跡位置図

IV 宮西遺跡の調査

1 調査の概要

宮西遺跡では、第一面から中・近世の井戸跡や溝跡等、第二面からは古代の集落跡が検出された。このうち、古代の遺構は、住居跡7軒、畠跡1箇所、土城17基であった。

古代の遺構が検出されたのは、第1・2次で調査を行った遺跡中央部のみであった。検出された遺構の時期も、9世紀中葉～後半のみであり、比較的短期間に営まれた集落であったと推察される。

住居跡は全て第2次調査区の中央部に集中し、畠跡や土城の分布域も住居跡の分布域とほぼ重複する。おそらくこの一帯が微高地状に高くなり、居住に適した環境となっていたためと考えられる。

遺構分布域の外側では遺物の出土量が極端に少なくなり、西側に隣接する第4次調査区からは9世紀代の須恵器やロクロ土師器、土師器甕が遺構外から数点出土した程度で、東側に隣接する第3次調査区域からは円筒埴輪の破片が1点検出されたのみであった。

このような状況から、遺構分布域周辺に深い掘り込みを持つ遺構があったとは考え難く、検出はされなかったが畠跡等が広がっていたか、谷地形になっており、生活の場として使用できる土地では無かった可能性も考えられる。

基本土層を第4図に示した。第II層中から中・近世の遺構、第III層中から古代の遺構が検出されている。古代面の第III層からシルト層である第IV層を挟んだ第V層が、洪水砂層であることが注目される。

このような砂層は羽生市茂手木遺跡でも確認されており、砂層の上層にシルト層が堆積する点や、古代面で検出された遺構が9世紀代中～後半に限定される点など、共通点を多く持つ。

第I層は灰褐色土で、現代の耕作土である。

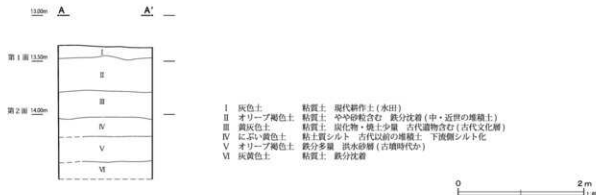
第II層はオリーブ褐色土で、中・近世の堆積土層であり、第一面の遺構は第II層中から検出された。

第III層は黄灰色土で、古代の堆積土層である。本報告書で扱う第二面の遺構は、第III層中から検出された。堆積土中には炭化物や焼土粒子が含まれていた。

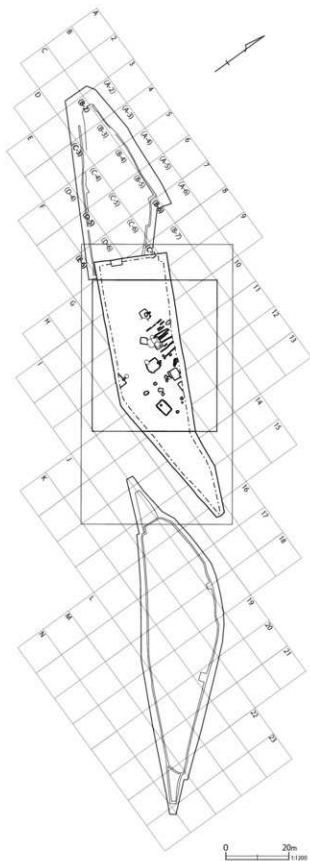
第IV層はにぶい黄色土で、古代以前の堆積土層である。下流側はシルト化していた。

第V層は洪水砂層を主体とする。古墳時代の堆積土層と考えられる。

第VI層は灰黄色土で、古墳時代以前の堆積土層と考えられる。



第4図 基本土層



第5図 全体図(1)

2 古代の遺構と遺物

古代の住居跡は、一部例外があるものの主軸方位を揃えて建てられている。カマドは基本的に北壁に設けられ、住居形態は東西に長い長方形のものが多く、住居跡は遺物から、9世紀中葉～後半のものと考えられる。

このうち第1号住居跡からは、旧三河国で生産された三河型甕が出土した。三河国から人の移動があったことを示す資料であり、当地域一帯がそのような交流のある地域であったことを示唆する事例である。

畠跡は集落域の北西部から検出され、住居跡との重複も認められるが、走行方向が住居跡の主軸方位と揃うことや、遺構が薄い場所に展開していることから、集落に伴うものである可能性が高い。

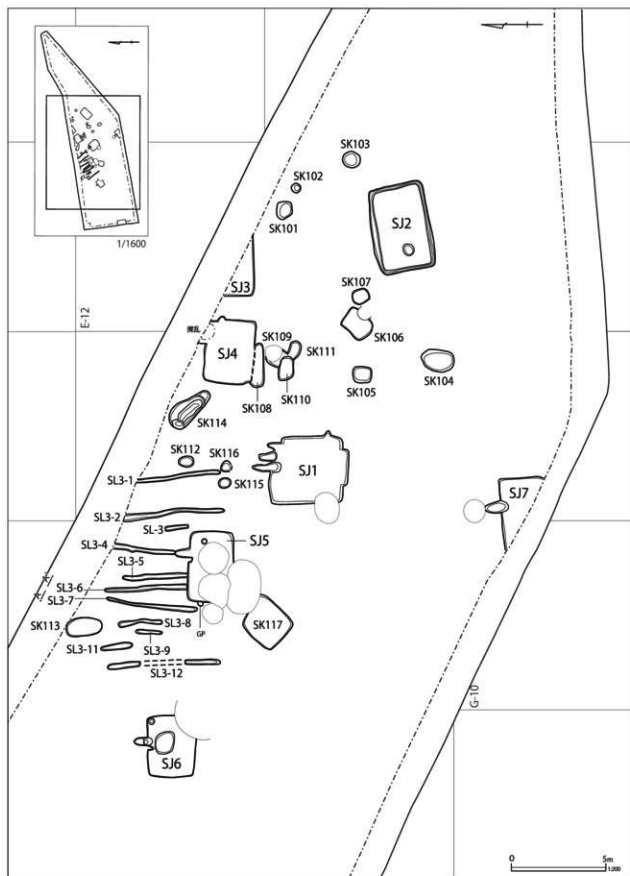
土壌も集落域内から検出され、東半部に比較的多く分布する。土壌から出土した遺物も9世紀後半のものであることから、集落に伴う遺構と考えられる。特に、第114・117号土壌からは、比較的まとまった量の遺物が出土している。

遺物は須恵器坏等の供膳具類、須恵器甕等の貯蔵具類、ロクロ土師器坏、土師器坏等の供膳具類、土師器甕等の煮沸具類が出土している。

土師器坏が極めて少ない点特徴的で、図示可能なものは第114号土壌から出土した1点のみであった。9世紀中葉～後半の時期でも、隣接する宮東遺跡などからは出土しており、この点は他の同時期の集落跡とは異なる様相を示す。

須恵器は識別できた限りでは南比企、末野、東金子、三巻、三和、新治等の製品を含み、特に南比企の製品が多い傾向にある。新治の製品は1点のみであった。また緑釉陶器は出土せず、灰軸陶器は1点のみであり、墨書土器も少なかった。

本遺跡は比較的短期間営まれた集落であったが、様々な地域と交流を持っていたと推察される。ただし、威信財の類は持たないことから、あくまで一般的な集落であったと考えられる。



第6図 全体図(2)

(1) 住居跡

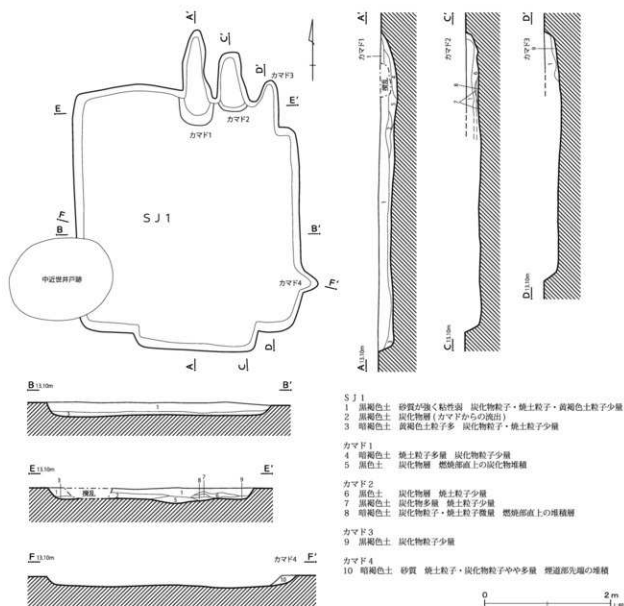
第1号住居跡 (第7・8図)

第2次調査区中央部のF-11グリッドに位置する。中近世の井戸跡と重複し、本遺構が古い。平面形態は方形で、南壁の中央部に張り出しを持つ。カマドは北壁中央部から東壁に向かって並ぶ形で3基と、東壁南寄りに1基の合計4基設けられる。住居跡の規模は長軸4.17m、短軸3.54m、深さ0.27mを測り、主軸方位はN-2°-Wを指す。覆土は黒褐色土が主体で、炭化物と焼土粒子が全体に含

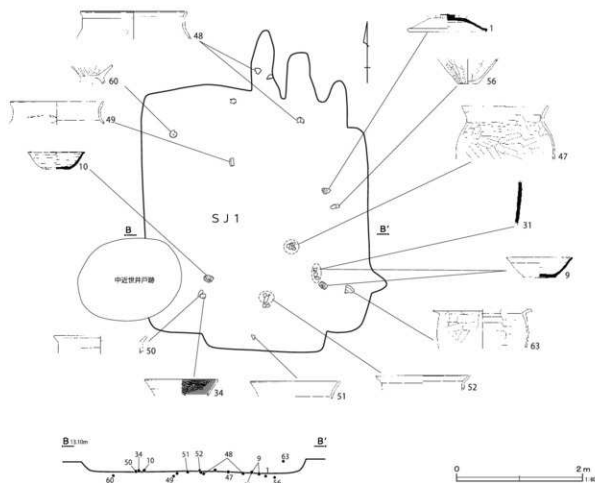
まれる。

カマドは北壁中央部のものから時計周りに1～4の番号を付けた。カマド1は住居跡北壁中央部に位置し、全長1.54m、幅0.44m、深さ0.25mを測る。袖は無く、燃焼部が僅かに窪み、煙道に向けて緩やかに立ち上がる構造をもつ。カマド1に伴う炭化物層が住居内に流れ込んでいたことから、カマド1は住居廃絶時に使用されていたと考えられる。

カマド2は全長1.35m、幅0.50m、深さ0.19mを測る。袖の有無は不明だが比較的残存状態が良く、



第7図 第1号住居跡



第8図 第1号住居跡遺物出土状況

燃焼部は扁平で煙道部にかけて急峻に立ち上がる構造を持つ。残存状況が良いことから、新しい段階のカマドである可能性が高い。

カマド3は全長0.94m、幅0.32m、深さ0.14mを測る。北東角に設けられ、削平を受けている。削平は住居の拡張に伴うものと考えられることから、古い段階のカマドと推察される。

カマド4は全長0.44m、幅0.32m、深さ0.13mを測る。カマド全体が大きく削平を受け、煙道部付近が僅かに残存するのみである。削平は住居跡の拡張に伴うものと考えられ、削平を受けていることや唯一東壁に設けられていることから、最も古い段階のカマドである可能性がある。

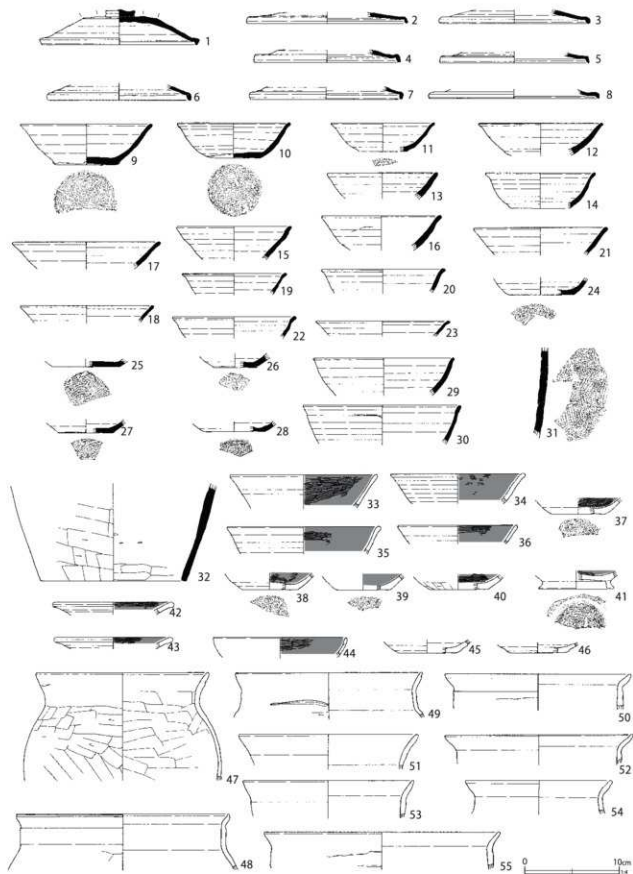
上記の状況から、カマドはカマド4→カマド3→カマド2→カマド1の順で作り替えられたと考

えられる。

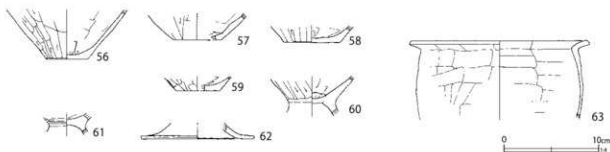
住居跡の床面は平坦で、掘り込んだ地面をそのまま利用している。床下土壌やピット、壁溝は検出されず、掘り方も確認されなかった。

遺物の多くは床面直上で検出され、須恵器蓋・坏・埴・甕・瓶、ロクロ土師器坏・高台付坏・皿、土師器甕・小型台付甕等が出土した(第9・10図1~63)。

1~32は須恵器である。1~8は蓋で、南比企を主体とし、僅かに末野の製品を含む。9~28は坏である。南比企産を主体とし、末野や他産地の製品を少量含む。10は内外面に火焼痕が明瞭に残る。鳩山編年Ⅷ期の所産か。12、13、16、23は被熱の痕跡が認められる。29、30は埴で、ともに南比企産である。



第9図 第1号住居跡出土遺物(1)



第10図 第1号住居跡出土遺物(2)

31は甕で、外面が強く被熱している。胎土に雲母を含むことから新治産と考えられる。32は瓶で、底部が剥落しているが三和産の多孔式瓶である。

33～46はロクロ土師器である。33～40は内黒の坏で、いずれも胎土に角閃石が含まれることから利根川流域で作られたものと考えられる。41は内黒の高台付坏だが、黒色処理はほぼ飛んでいる。42、43は内黒の皿で、外面のロクロ目がややきつい。44は土師器坏形の内黒の坏である。口縁部がやや内湾気味に立ち上がる。45、46は坏である。

47～59は土師器の甕である。47は「コ」の字状口縁になる前段階のもので、他は定型化した「コ」の字状口縁甕である。60～62は小型台付甕で、

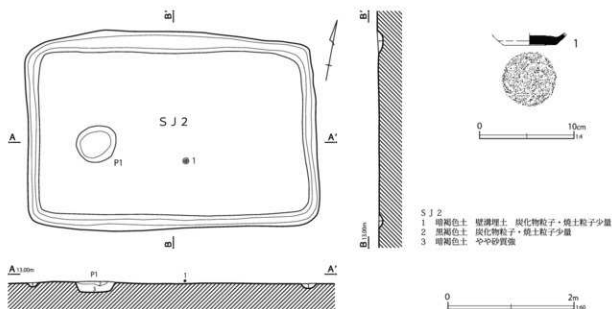
いずれも底部や高台部の破片である。63は器形や胎土の特徴から三河型甕と考えられる。短胴甕になると考えられ、口縁部が逆「L」字状に屈曲し、内外面ともに丁寧なヘラナデが施される。胎土には黒雲母が変色したと考えられる金色および赤銅色の雲母を多く含む。床面からはやや浮いた状態で出土したが、同一個体と思われる破片が住居跡の覆土中から出土していること、器形的にも他の遺物と時期差が無いことから、住居に伴うものである可能性が高い。

遺物の時期は9世紀前半～後半まで時期幅があるが、須恵器坏や土師器甕の頸部形状等から9世紀後半を主体とするものと考えられる。

第2表 第1号住居跡出土遺物観察表(第9・10図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
1	須恵器	蓋	(16.5)	3.7	—	BEIK	25	普通	黄灰	№12 末野産	7-1	
2	須恵器	蓋	(17.0)	[1.2]	—	EH1JK	5	良好	灰	南比金産		
3	須恵器	蓋	(15.6)	[2.1]	—	EH1J	10	普通	灰	南比金産 内面口唇部外縁に降灰		
4	須恵器	蓋	(15.5)	[1.3]	—	IJK	10	良好	灰	南比金産		
5	須恵器	蓋	(15.8)	[1.1]	—	H1J	10	普通	暗青灰	南比金産		
6	須恵器	蓋	(16.0)	[1.6]	—	CH1JK	10	普通	暗青灰	南比金産		
7	須恵器	蓋	(16.0)	[1.3]	—	EH1JK	5	良好	灰	南比金産		
8	須恵器	蓋	(18.0)	[0.9]	—	EH1K	10	良好	黄灰			
9	須恵器	坏	(13.8)	[4.3]	3.3	CEH1K	30	普通	灰	№7・8		7-2
10	須恵器	坏	11.7	3.7	5.7	D1JK	70	普通	灰	№3 南比金産 内外面火燂痕有り口唇部が大きく外反する		7-3
11	須恵器	坏	(10.8)	3.0	(5.0)	BEIK	15	良好	灰	刻書か		
12	須恵器	坏	(12.8)	[3.4]	—	E1JK	10	普通	灰白	南比金産 内外面ともに煤付着		
13	須恵器	坏	(11.6)	[2.8]	—	CH1K	20	普通	褐灰	内面被熱		
14	須恵器	坏	(11.6)	3.7	(6.3)	EH1JK	15	良好	灰	南比金産		
15	須恵器	坏	(12.0)	[3.6]	—	CEH1JK	15	良好	にぶい赤褐	南比金産		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
16	須恵器	坏	(12.2)	[3.7]	—	E J K	10	普通	にぶい・黄橙	南比金産 酸化焙焼成 口唇部内縁煤付着	
17	須恵器	坏	(15.4)	[2.9]	—	C E H I K	5	普通	黄灰		
18	須恵器	坏	(14.0)	[1.8]	—	H I K	5	普通	灰黄褐	南比金産	
19	須恵器	坏	(11.0)	[2.3]	—	E I J K	10	良好	灰	南比金産 口唇部内縁に降灰	
20	須恵器	坏	(13.0)	[2.6]	—	E H I J K	5	良好	褐灰	南比金産	
21	須恵器	坏	(14.0)	[2.9]	—	C E H I K	10	普通	褐灰		
22	須恵器	坏	(13.0)	[2.3]	—	B H I K	5	普通	褐灰	末野産	
23	須恵器	坏	(14.0)	[1.7]	—	I K	15	良好	灰	全体被熱か	
24	須恵器	坏	—	[1.9]	(7.0)	E H I K	20	普通	黄灰	末野産か	
25	須恵器	坏	—	[0.8]	(7.2)	I J K	25	普通	灰	南比金産	
26	須恵器	坏	—	[1.5]	(4.6)	E I J K	25	良好	灰	南比金産	
27	須恵器	坏	—	[1.4]	(5.8)	E I K	15	良好	灰		
28	須恵器	坏	—	[1.1]	(6.6)	B E H I K	15	良好	黄灰	末野産か	
29	須恵器	埴	(14.8)	[4.0]	—	E I J K	5	良好	褐灰	南比金産	
30	須恵器	埴	(18.6)	[4.1]	—	E H I J K	5	良好	黄灰	南比金産	
31	須恵器	甕	—	[9.7]	—	A E I K	5	良好	黄灰	No.8 新治産 外面下半煤付着	
32	須恵器	甕	—	[9.3]	(15.4)	D H I K	15	普通	灰白	三和産 多孔式 外面煤付着	
33	ロクロ土師器	坏	(15.2)	[3.6]	—	C E H I K	10	普通	にぶい・橙	No.1 内黒	
34	ロクロ土師器	坏	(14.0)	[3.2]	—	C H I K	5	普通	にぶい・橙	内黒 黒色処理はほぼ飛んでいる	
35	ロクロ土師器	坏	(16.0)	[2.9]	—	H I K	5	普通	灰黄褐	内黒	
36	ロクロ土師器	坏	(12.4)	[2.0]	—	C H I K	5	普通	灰褐	内黒	
37	ロクロ土師器	坏	—	[1.7]	(5.7)	E I K	20	普通	にぶい・橙	内黒	
38	ロクロ土師器	坏	—	[1.8]	(5.6)	C I K	20	普通	にぶい・橙	内黒	
39	ロクロ土師器	坏	—	[1.7]	(5.5)	C I K	15	普通	にぶい・褐	内黒	
40	ロクロ土師器	坏	—	[1.6]	(6.0)	C E H I K	20	普通	にぶい・橙	内黒	
41	ロクロ土師器	高台付坏	—	[1.8]	(7.8)	C I K	45	普通	にぶい・黄橙	内黒	
42	ロクロ土師器	皿	(12.2)	[1.4]	—	C H I K	10	普通	にぶい・橙	内黒	
43	ロクロ土師器	皿	(12.2)	[1.2]	—	C H I K	5	普通	橙	内黒	
44	ロクロ土師器	坏	(14.0)	[2.1]	—	C H I K	5	普通	にぶい・赤褐	内黒	
45	ロクロ土師器	坏	—	[1.4]	(6.0)	C H I K	10	普通	にぶい・黄橙		
46	ロクロ土師器	坏	—	[1.1]	(6.0)	C H I K	10	普通	にぶい・橙		
47	土師器	甕	(18.0)	[11.4]	—	B E I K	20	普通	にぶい・赤褐	No.10	7-4
48	土師器	甕	(22.4)	[6.0]	—	B C E I K	10	普通	赤褐	No.15・18	
49	土師器	甕	(19.6)	[4.8]	—	B C H I K	20	普通	橙	No.13	
50	土師器	甕	(19.6)	[3.8]	—	B C H I K	5	普通	橙	No.2	
51	土師器	甕	(18.8)	[3.7]	—	B C E H I K	10	普通	橙	No.4	
52	土師器	甕	(19.8)	[3.2]	—	B E H I K	15	普通	にぶい・橙	No.6 外面黒斑有り	
53	土師器	甕	(18.0)	[4.0]	—	B H I K	5	普通	橙	内外面煤付着	
54	土師器	甕	(15.2)	[3.6]	—	B E I K	20	普通	にぶい・赤褐	外面煤付着	
55	土師器	甕	(24.8)	[4.0]	—	B C H I K	10	普通	橙		
56	土師器	甕	—	[5.2]	(4.6)	C H I K	25	普通	灰褐	No.11 外面底部を除き煤付着	7-5
57	土師器	甕	—	[2.8]	(5.0)	C E H I K	20	普通	にぶい・橙		
58	土師器	甕	—	[1.8]	(6.0)	B C E H I K	20	普通	にぶい・褐		
59	土師器	甕	—	[1.6]	(4.6)	E H I K	30	普通	にぶい・橙	外面煤付着	
60	土師器	小型台付甕	—	[4.3]	—	E I K	55	普通	にぶい・橙	No.14	
61	土師器	小型台付甕	—	[2.3]	—	C H I K	80	普通	にぶい・橙		
62	土師器	小型台付甕	—	[1.7]	(11.8)	C H I K	10	普通	橙		
63	土師器	甕	(19.4)	[8.4]	—	A E K	40	普通	灰白	No.9 胎土に雲母を多く含む 外面全体煤付着 三河型甕	7-6 11-1



第11図 第2号住居跡・出土遺物

第3表 第2号住居跡出土遺物観察表 (第11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図取
1	須恵器	杯	—	[1.3]	5.4	E I J K	90	普通	にぶい橙	No.1 南比企産 酸化焰焼成	

第2号住居跡 (第11図)

第2次調査区中央やや東寄りのF-12グリッドに位置する。平面形態は東西に長い長方形で、住居跡の覆土はほぼ削平されており、壁溝とピットが1基のみ検出された。住居跡の規模は長軸4.65m、短軸3.13mを測り、長軸方位はN-79° - Eを指す。

壁溝は幅0.18~0.33m、深さ0.06~0.08mで、住居跡を全周している。ピットは住居跡の中央西寄りに位置し、規模は長径0.65m、短径0.58m、深さ0.16mで、平面形態は円形を呈する。

遺物は住居跡中央部から1点出土した(第11図1)。1は須恵器の杯で、南比企の製品である。酸化焰焼成で、小礫を多く含む。

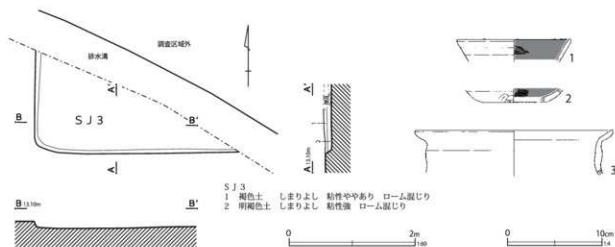
遺物が1点のみであるため、詳細な時期は不明だが、糸切り離し無調整の須恵器杯が出土していることや、宮西遺跡全体の遺物出土状況から、9世紀代のものと考えられる。

第3号住居跡 (第12図)

第2次調査区中央北壁際のE-12グリッドに位置する。西壁と南壁が調査区域外へと延びるため、平面形態は不明である。住居跡の規模は検出できた範囲で長軸3.25m、短軸1.64m、深さ0.1~0.12mを測り、長軸方位はN-90°を指す。

遺物はロクロ土師器杯、土師器甕等が出土した(第12図1~3)。1、2はロクロ土師器の杯で、胎土の特徴や黒色処理が飛んでいる点が共通することから、同一個体の可能性がある。2は底部の破片で、外面下端から底部にかけて手持ちヘラケズリが施される。3は土師器の甕で、「コ」の字状口縁甕である。この他に、図示し得ないが小型台付甕等が出土している。

出土遺物量が少ないため、詳細な時期は不明だが、「コ」の字状口縁甕が出土していることや、宮西遺跡全体の遺物出土状況から、9世紀後半のものと考えられる。



第12図 第3号住居跡・出土遺物

第4表 第3号住居跡出土遺物観察表 (第12図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	ロクロ土師器	坏	(12.0)	[2.4]	—	C E H I K	5	普通	にぶい橙	黒色処理は残っている	
2	ロクロ土師器	坏	—	[1.4]	(7.0)	B H I K	10	普通	にぶい黄橙	内黒	
3	土師器	甕	(20.7)	[4.8]	—	C E I K	15	普通	にぶい赤橙		

第4号住居跡 (第13・14図)

第2次調査区中央北壁際のE-11・12グリッドに位置する。第108号土壇と重複し、本遺構が古い。平面形態は方形で、北壁中央やや東寄りにカマドが設けられる。住居跡の規模は、残存部で長軸3.39m、短軸2.65m、深さ0.1~0.18mを測り、長軸方位はN-90°を指す。覆土は全体に炭化物質と焼土粒子が含まれる。

カマドは北側と東半分を攪乱と排水溝によって壊されており、残存長0.5m、幅0.05m、深さ0.17mを測る。全体像はわからないが、袖は無く、燃焼部は扁平な構造であったと推察される。北壁際ではカマドに伴う炭化物質層が住居内に流れ込んでいる状況が捉えられた。

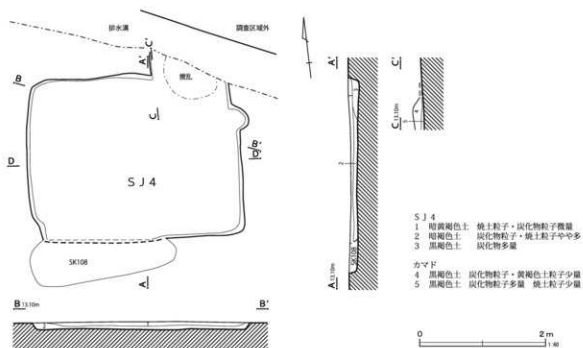
遺物は住居跡全体から検出されており、須恵器坏・高台付坏・甕、ロクロ土師器坏・高台付坏、土師器甕・小型台付甕、羽口、砥石等が出土した(第15図1~45)。1~18は須恵器である。1~15は坏で、南比企の製品を主体として東金子、三疊等其他産地の製品を少量含む。1は南比企産で、鳩

山編年Ⅷ期の所産と考えられる。1と4、5と15、9と12はそれぞれ器形と胎土が類似するため、同一個体の可能性がある。1、4、7、9、11、12は被熱痕跡が認められる。16は皿である。南比企産で、内底面に重ね焼き時のバリが残る。17は高台付坏である。末野産で、内外面に被熱の痕跡が認められる。18は甕で、胎土に長石粒を多く含むことから、三和産と考えられる。

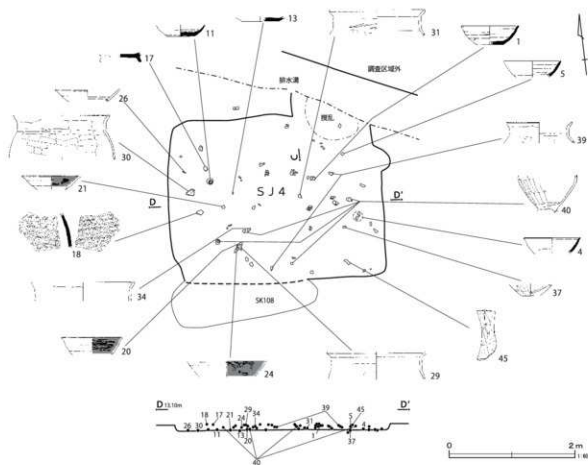
19~28はロクロ土師器である。19~24は内黒の坏で、薄手のもの(19、20、22~24)とやや厚手のもの(21)がある。いずれも角閃石を含むことから、利根川流域で作られた土器と考えられる。25は内黒の碗で、外面に「田」と墨書されている。26~28は坏で、26と28は同一個体の可能性がある。29~38は土師器の甕で、いずれも「コ」の字状口縁甕である。39~43は土師器の小型台付甕である。

44は羽口で、器面にへラケズリのような痕跡が僅かに認められる。

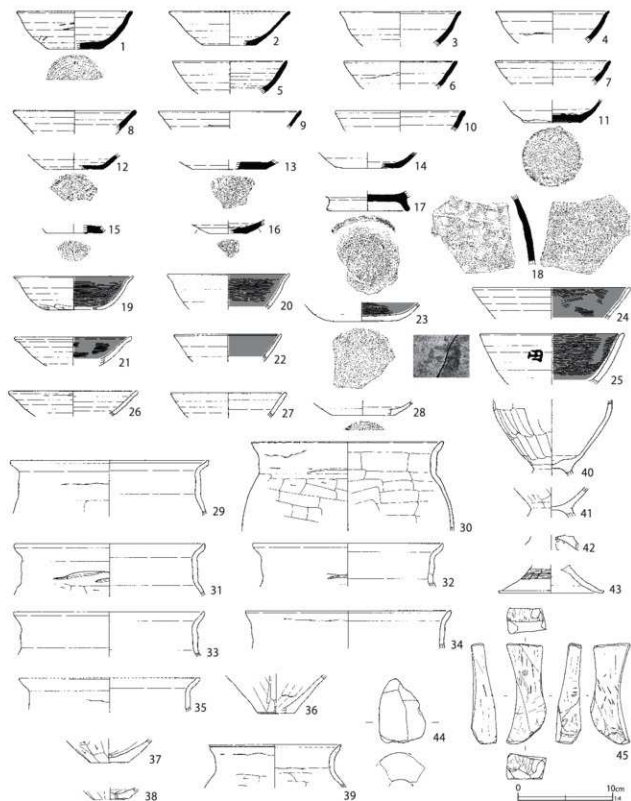
45は石製品の砥石で、流紋岩製である。



第13図 第4号住居跡



第14図 第4号住居跡遺物出土状況



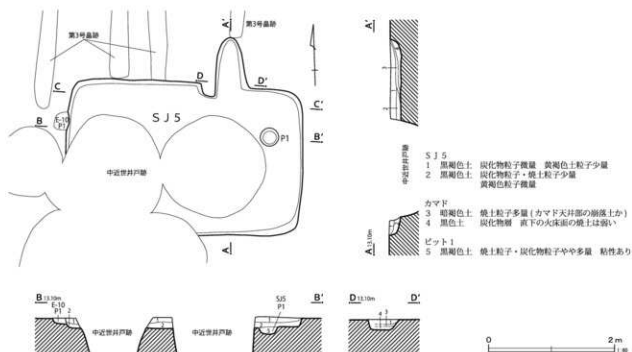
第15図 第4号住居跡出土遺物

遺物の時期は、南比企産の須恵器杯が鳩山編年Ⅶ期であることや、土師器甕の形状が定型化した

「コ」の字状口縁甕であることから、9世紀後半と考えられる。

第5表 第4号住居跡出土遺物観察表 (第15図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	坏	(12.0)	4.0	(5.6)	E H I J K	35	普通	黄灰	№15 南比企産 外面被熱	7-7
2	須恵器	坏	(12.4)	3.6	(5.6)	E I K	5	普通	灰	三森産	
3	須恵器	坏	(12.5)	[3.7]	—	E I J K	10	普通	黄灰	南比企産	
4	須恵器	坏	(11.8)	[3.4]	—	C H I J	10	普通	灰	№49 南比企産 口唇部被熱	
5	須恵器	坏	(12.0)	[3.5]	—	E I J K	20	普通	灰	№8 南比企産 内面下半焼成不良により酸化焙化	
6	須恵器	坏	(11.8)	[3.0]	—	I J K	15	普通	灰	南比企産 口唇部外縁に重ね焼きによる変色が認められる 内外面下半焼成不良により酸化焙化している	
7	須恵器	坏	(12.0)	[2.6]	—	E I J K	10	良好	黄灰	南比企産 内外面被熱	
8	須恵器	坏	(12.8)	[2.5]	—	H I K	5	普通	灰白		
9	須恵器	坏	(15.0)	[1.9]	—	I K	5	良好	黄灰	南比企産 内外面被熱 内面煤付着	
10	須恵器	坏	(13.6)	[2.2]	—	C H I K	5	普通	褐灰	内外面煤付着	
11	須恵器	坏	—	[2.4]	6.0	E H I K	80	普通	明赤褐	№30 東金子産か 底部糸切り摩七疵が重複する 内底面立ち上がり部に重ね焼きによるバリが残る 体部煤付着	7-8
12	須恵器	坏	—	[1.7]	(6.0)	E I K	25	普通	灰黄褐	南比企産 全体被熱	
13	須恵器	坏	—	[1.0]	(7.8)	H I K	20	普通	灰	№28 外面火燂痕有り	
14	須恵器	坏	—	[1.8]	(6.8)	I K	25	普通	灰白	内外面ともに摩耗が激しい	
15	須恵器	坏	—	[0.9]	(5.8)	C E H I J K	20	良好	にぶい赤褐	南比企産	
16	須恵器	皿	—	[1.4]	(4.0)	E I J K	25	良好	灰	南比企産 底部へラ記号有り	
17	須恵器	高台付坏	—	[2.2]	(8.4)	B E H I K	60	普通	黄灰	№29 末野産 内外面被熱	
18	須恵器	甕	—	[7.5]	—	D E I K	5	普通	灰白	№32 三和産 内面煤付着	
19	クロロ土師器	坏	(12.4)	3.6	(6.0)	C E I K	15	普通	にぶい赤褐	内黒 外面煤付着	7-9
20	クロロ土師器	坏	(12.8)	[3.8]	—	C E I K	25	普通	にぶい褐	№37 内黒 外面煤付着	
21	クロロ土師器	坏	(12.4)	[3.0]	—	C H I K	15	普通	にぶい褐	№27 内黒	
22	クロロ土師器	坏	(11.2)	[2.9]	—	C E H K	5	普通	にぶい黄橙	内外面ともに摩耗が激しく調整は不明瞭	
23	クロロ土師器	坏	—	[2.0]	(8.0)	C E H I K	35	普通	橙	内黒 外面の摩耗が激しく底部はほぼ磨滅	
24	クロロ土師器	坏	(16.6)	[3.4]	—	C H I K	15	普通	橙	№39 内黒	
25	クロロ土師器	埴	15.0	[5.4]	—	C E I K	50	普通	灰白	№41・51 内黒 墨書「田」	8-1
26	クロロ土師器	埴	(13.4)	[2.7]	—	C H I K	10	普通	にぶい橙	№55 歪み有り	
27	クロロ土師器	坏	(12.0)	[2.7]	—	CM	5	普通	にぶい橙	胎土に赤色チャート粒を含む	
28	クロロ土師器	坏	—	[1.8]	(6.6)	C E I K	20	普通	にぶい褐	内面被熱	
29	土師器	甕	(20.8)	[5.9]	—	E I K	10	普通	にぶい橙	№38 内外面強く被熱	
30	土師器	甕	(20.0)	[9.4]	—	E I K	20	普通	明赤褐	№31	8-2
31	土師器	甕	(20.0)	[5.6]	—	C H I K	10	普通	橙	№19	
32	土師器	甕	(20.0)	[4.6]	—	C E H I K	5	普通	橙		
33	土師器	甕	(20.0)	[4.8]	—	C H I K	5	普通	橙	内面煤付着	
34	土師器	甕	(21.6)	[4.0]	—	B C E H I K	5	普通	にぶい橙	№35	
35	土師器	甕	(18.7)	[3.7]	—	C E I K	10	普通	明赤褐		
36	土師器	甕	—	[4.2]	(3.6)	C H I K	15	普通	にぶい橙		
37	土師器	甕	—	[2.5]	(4.0)	C E H I K	20	普通	灰黄褐	№48 外面煤付着	
38	土師器	甕	—	[1.2]	(3.8)	C E H I K	30	普通	灰黄褐	外面煤付着	
39	土師器	小型台付甕	(13.8)	[4.6]	—	C E H I K	15	普通	にぶい赤褐	№11・42 外面煤付着	
40	土師器	小型台付甕	—	[8.1]	—	C E I K	45	普通	明赤褐	№10・36・43・46	8-3
41	土師器	小型台付甕	—	[3.2]	—	B C H I K	25	普通	にぶい赤褐	内面の摩耗が激しい	
42	土師器	小型台付甕	—	[1.6]	—	C E I K	45	普通	明赤褐	外面煤付着	
43	土師器	小型台付甕	—	[3.0]	(10.8)	C H I K	15	普通	にぶい橙		
44	土製品	羽口	長さ[6.7] 内径(1.7)	外径(7.2) 重さ72.1g	—	G J I K	—	普通	にぶい橙		11-2
45	石製品	砥石	長さ10.6	幅4.2	厚さ2.7	重さ116.9g	—	—	—	№52 流紋岩 砥面6	11-3



第16図 第5号住居跡

第5号住居跡 (第16・17図)

第2次調査区中央部のE-10グリッドに位置する。遺構の大部分が中・近世の井戸跡によって壊される。平面形態は東西に長い長方形で、北壁東寄りにカマドが設けられる。住居跡の規模は長軸3.70m、短軸2.32m、深さ0.15mを測り、主軸方位はN-4°-Eを指す。覆土には全体的に炭化物が含まれていた。

カマドは全長0.96m、幅0.51m、深さ0.17mを測る。西側の袖が僅かに張り出し、燃焼部は掘り込みを持たずに平坦で、奥壁から煙道に向けて急峻に立ち上がる構造を持つ。カマド内には灰層と考えられる炭化物層が堆積し、その上にカマド天井の可能性のある焼土粒子混じりの暗褐色土層が乗る。カマド中央部からは小型台付甕が逆位の状態で出土した。

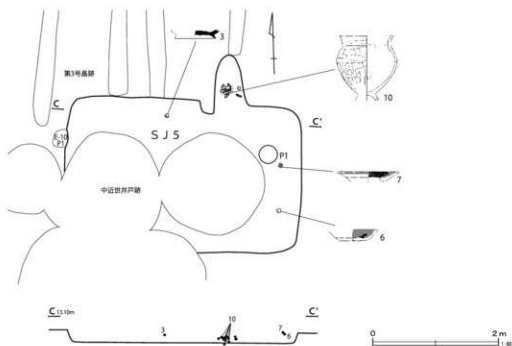
住居の東側からピットが1基確認されているが、住居の西側は中・近世の井戸跡によって大きく壊されているため、対になるピット等は検出できなかった。

井戸跡によって大きく壊されているため遺物量は少ないが、住居跡全体から土器が疎らに出土している。遺物は須恵器蓋・坏・高台付坏、ロクロ土器器坏・皿、土器器甕・小型台付甕等が出土した(第18図1~10)。1~3は須恵器で、南比企や末野の製品である。

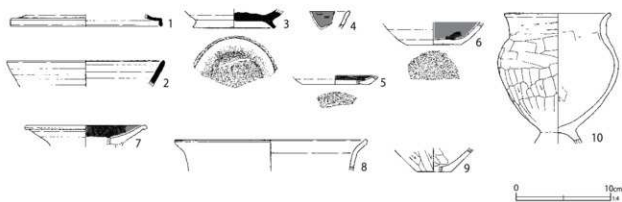
4~7は内黒のロクロ土器で、4~6は坏である。いずれも胎土に角閃石を多く含むため、利根川流域で作られた製品と考えられる。7は高台付皿で、外面のロクロ目がきつく、高台部は剥離している。

8、9は土器の甕で、「コ」の字状口縁甕である。10は小型台付甕で、カマドの燃焼部から逆位の状態で検出された。口縁部に煤が付着していないことから長く据え付けられた状態であったと推察され、カマドの支脚として利用されていたと考えられる。

遺物量が少ないため時期は判然としないが、土器組成や甕の頸部形状などから9世紀後半と考えられる。



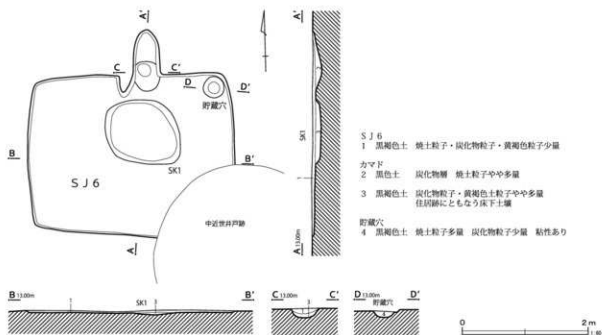
第17図 第5号住居跡遺物出土状況



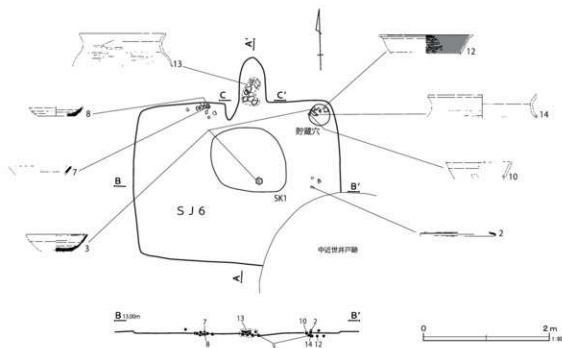
第18図 第5号住居跡出土遺物

第6表 第5号住居跡出土遺物観察表 (第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	蓋	(19.8)	[1.2]	—	IJK	5	普通	灰	南比金座 口唇部外縁に重ね焼きによる変色が認められる	
2	須恵器	坏	(16.4)	[2.8]	—	HIK	5	普通	黄灰		
3	須恵器	高台付坏	—	[2.0]	(8.2)	BEIK	40	普通	灰白	№14 末野産 内面煤付着	8-4
4	ロクロ土師器	坏	—	[1.9]	—	CHIK	5	普通	橙	内黒	
5	ロクロ土師器	坏	—	[1.0]	(7.0)	CHIK	20	普通	にぶい橙	内黒	
6	ロクロ土師器	坏	—	[2.4]	(5.6)	CEHIK	30	普通	橙	№13 内黒	
7	ロクロ土師器	高台付皿	(13.4)	[2.1]	—	CHIK	20	普通	にぶい橙	№12 内黒	8-5
8	土師器	甕	(20.1)	[3.3]	—	CHIK	15	普通	橙		
9	土師器	甕	—	[2.6]	(3.8)	EHIK	25	普通	灰褐	外面煤付着	
10	土師器	小型台付甕	11.0	[13.9]	—	CEIK	75	普通	にぶい赤褐	№1・2・3・5・6・7・15 外面胴部上半から頸部にかけて煤付着	8-6



第19図 第6号住居跡

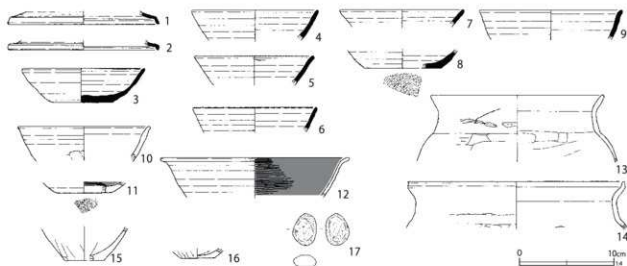


第20図 第6号住居跡遺物出土状況

第6号住居跡 (第19・20図)

第2次調査区中央やや西寄りのE-9グリッドに位置する。遺構の南東部を中・近世の井戸跡に

よって壊されている。平面形態はやや東西に長い長方形で、北壁中央部にカマドが設けられる。住居跡の規模は長軸3.27m、短軸2.67m、深さ0.06m



第21図 第6号住居跡出土遺物

第7表 第6号住居跡出土遺物観察表 (第21図)

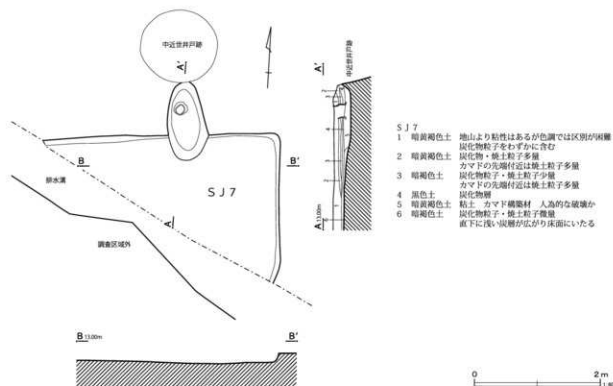
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	蓋	(15.8)	[1.4]	—	H I J K	5	良好	楊灰	南比金産	
2	須恵器	蓋	(15.8)	[1.0]	—	C E H I K	10	良好	灰黄楊	№29 末野産	
3	須恵器	坏	(12.8)	3.6	6.3	E I K	55	普通	灰	№15・27	8-7
4	須恵器	坏	(13.2)	[3.3]	—	E H I K	5	普通	黄灰	内面煤付着 口唇部外縁に重ね焼きによる変色が認められる	
5	須恵器	坏	(12.2)	[3.1]	—	E H I K	5	普通	灰白	三義産か	
6	須恵器	坏	(13.0)	[2.7]	—	E H I K	5	不良	淡黄橙		
7	須恵器	坏	(13.0)	[1.9]	—	E H I K	10	良好	黄灰	№22	
8	須恵器	坏	—	[2.0]	(8.0)	H I K	15	普通	灰黄	№23 内面煤付着	
9	須恵器	坏	(15.0)	[3.2]	—	H I J K	5	普通	黄灰	南比金産	
10	土師器	坏	(13.8)	[3.7]	—	C H I K	5	普通	にぶい橙	№14	
11	ロクロ土師器	坏	—	[1.2]	(5.8)	C E H I K	15	普通	にぶい楊	内黒 外面煤付着	
12	ロクロ土師器	坏	(19.7)	[4.3]	—	C H I K	5	普通	にぶい黄橙	№12 内黒	
13	土師器	甕	(18.0)	[7.1]	—	B C E H I K	15	普通	橙	№1・2・3・4・5・6・7・8・9・10	
14	土師器	甕	(22.7)	[5.1]	—	E I K	10	普通	にぶい赤楊	№13	
15	土師器	甕	—	[3.6]	(4.0)	C E I K	30	普通	明赤楊	外面煤付着	
16	土師器	甕	—	[1.0]	(3.6)	B C H I K	25	普通	にぶい楊		
17	石製品	磨石	長さ3.3	幅2.5	厚さ1.3	重さ5.5g				№30 角閃石安山岩 多孔質 自然面 遺存	11-3

を測り、主軸方位はN-1°-Eを指す。覆土はほぼ削平され、堆積状況は不明だが、全体的に焼土粒子と炭化物が含まれる。

住居跡の中央やや北寄りには長径1.33m、短径1.01m、深さ0.08mを測る不整形円形の床下土壌があり、覆土には炭化物等が含まれる。住居跡の北東隅には長径0.35m、短径0.33m、深さ0.1mを測る円形の貯蔵穴があり、焼土粒子が多く含まれていた。

壁溝やピット等は確認されなかった。

カマドは全長0.97m、幅0.43m、深さ0.15mを測る。袖は西側のみ0.3m程住居跡内に張り出す。燃焼部は浅く掘り込まれ、煙道部に向かって緩やかに傾斜していく構造を持つ。覆土は削平を受けているため堆積状況はわからないが、煙道部から燃焼部にかけて炭化物層が堆積していた。燃焼部中央からは土師器甕がまとめて出土したが、いずれも破片であった。



第22図 第7号住居跡

遺物は住居跡北半部のカマド周辺や貯蔵穴から検出され、須恵器蓋・坏・埴、ロクロ土師器坏・埴、土師器甕等が出土した(第21図1~17)。1~9は須恵器である。1、2は蓋で、1が南比企、2が末野の製品である。3~8は坏で、5は三疊の製品である。3は内面の立ち上がり不明瞭になる。9は埴で、南比企の製品である。

10は土師器の坏である。外面下半にヘラケズリ調整が施される。11、12はロクロ土師器である。11は内黒の坏で、外面全体に煤が付着する。12は埴で、薄手だが大型になるものであり、外面には黒斑が認められる。

13~16は土師器の甕で、いずれも「コ」の字状口縁甕である。13はカマドの燃焼部から出土し、他に胴部の大型破片があるが接合はしなかった。

17は石製品で、角閃石安山岩製の磨石である。

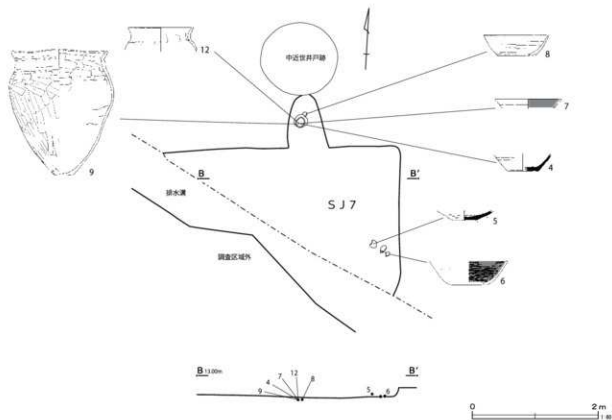
遺物の時期は、甕の頸部形状などから9世紀後半と考えられる。

第7号住居跡(第22~23図)

第2次調査区中央部南端のG-10・11グリッドに位置する。遺構の北壁西側と東壁南側は調査区域外へ延びているため、平面形態は不明である。北壁東寄りにカマドが設けられる。住居跡の規模は残存部分の長軸3.75m、短軸2.34m、深さ0.17mを測り、主軸方位はN-3°-Wを指す。覆土は僅かに炭化物を含む暗黄褐色土が全体に堆積し、床面付近からは薄い炭化物層が検出された。

壁溝やピット、貯蔵穴等は確認されなかった。

カマドは全長1.23m、幅0.63m、深さ0.26mを測り、北端部は中・近世の井戸によって壊される。袖は無く、燃焼部から煙道部にかけて浅く掘り込まれ、煙道付近で急峻に立ち上がる構造を持つ。覆土は火床面直上にカマド構築材と考えられる粘土が厚く堆積し、その上にカマドの炭化物層や焼土粒子等を含む層が薄く堆積していく。火床面と構築土層の間に焼土層等が認められないことから、



第23図 第7号住居跡遺物出土状況

住居廃絶時にカマドを人為的に破壊したと考えられる。崩落した構築土の上からは残存率の高い土師器甕が逆位で出土した。

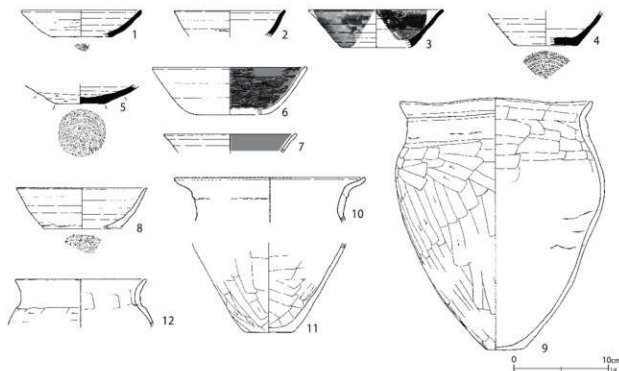
遺物は住居跡のカマド内および東側から検出され、須恵器杯・皿、ロクロ土師器杯、土師器甕が出土した(第24図1～12)。1～5は須恵器である。1～4は杯で、2は南比企の製品である。1、3は強く被熱し、3は内外面ともに油煙が付着して内面は皮膜状になる。3、4は被熱により色調が異なるが、外面のロクロ目がきついついといった特徴が類似するため、同一個体の可能性がある。5は皿で、南比企の製品である。つまみの無い蓋である可能性も考えられる。

6～8はロクロ土師器の杯で、いずれも胎土に角閃石を含むことから利根川流域の製品と考えられる。6、7は内黒の杯である。6はやや大型の杯で、外面に火襷状の黒斑があり、口唇部外縁に

重ね焼きに伴うと考えられる黒斑が認められる。8は杯で、底部が薄く、内面の立ち上がりが不明瞭である。

9～11は土師器の甕で、「コ」の字状口縁甕であり、頭部の「コ」の字形はだいぶ崩れている。9は残存率が高い甕で、カマド内から逆位で出土した。カマド構築土の崩落層より上層から出土したことから、構築材等では無く、煮炊き具として使用されていたものと考えられる。全体的に強く被熱し、歪みが強い。胴部中位には煤の付着が認められる。11は体部外面全体に煤が付着する。12は小型台付甕で、やや大型のものか。内外面ともに煤が強く付着する。カマドの構築材として利用されたものか。

遺物の時期は、須恵器皿が出土している点や、土師器甕の頸部形状等から、9世紀後半～末と考えられる。



第24図 第7号住居跡出土遺物

第8表 第7号住居跡出土遺物観察表 (第24図)

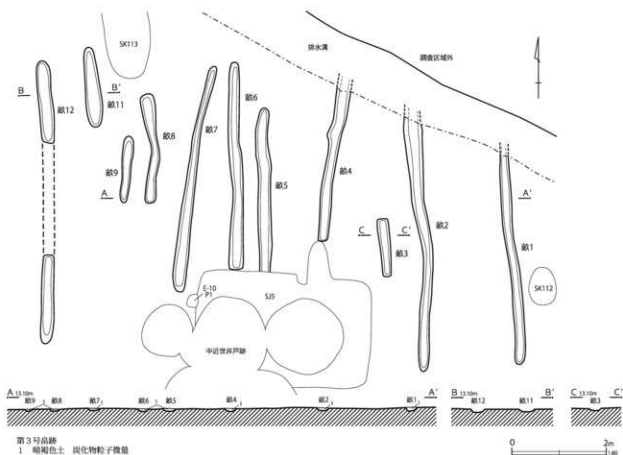
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	坏	(12.6)	2.8	(6.4)	BEHIK	5	不良	灰黄褐	全体強く被熱	
2	須恵器	坏	(11.5)	[2.8]	—	E I J	30	普通	黄灰	南北比産	
3	須恵器	坏	(14.0)	4.0	(7.2)	E I K	10	普通	褐	カマドNa1 内面漆または油煙付着 全体被熱	
4	須恵器	坏	—	[3.7]	(6.4)	I K	20	普通	灰	カマドNa1	
5	須恵器	皿	—	[2.1]	5.2	H I J K	75	良好	灰	Na1 南北比産	8-8
6	ロクロ土師器	坏	(16.0)	5.0	(7.5)	CEIK	25	普通	にぶい黄橙	Na2 内黒	8-9
7	ロクロ土師器	坏	(13.8)	[2.1]	—	CEHIK	5	普通	橙	カマドNa1 内黒	
8	ロクロ土師器	坏	(13.6)	4.3	(8.0)	C I	25	普通	にぶい橙	カマドNa2 全体被熱 糸切り跡し痕 が重複している	
9	土師器	甕	20.1	26.7	4.0	BCHIK	90	普通	明赤褐	カマドNa1 歪み強い	9-1
10	土師器	甕	(20.1)	[3.6]	—	BEIK	5	普通	にぶい赤褐		
11	土師器	甕	—	[9.5]	5.0	CEIK	30	普通	にぶい赤褐	外面煤付着	9-2
12	土師器	小型甕か	13.6	[5.1]	—	BCHIK	80	普通	にぶい橙	カマドNa1 内外面ともに煤付着	9-3

(2) 畝跡

古代の畝跡は古代の遺構分布域と重なり、調査区中央部から1箇所検出された。畝間溝の走行方向は北一南であり、住居跡の軸方位と同様である。遺物は検出されなかったが、住居跡と同じ確認面から検出されたことや、古代の遺構分布域に位置することから、古代の遺構とした。

第3号畝跡 (第25図)

調査区中央北西寄りのE-10・11グリッドに位置する。検出された畝間溝は12条である。東側に位置する畝1・2・4は北側が調査区域外へ延び、畝5は第5号住居跡と重複する。走行方向は北一南で、畝間溝の規模は、長さ1.23~5.97m、幅0.22~0.36mを測り、深さは0.03~0.09mと浅い。畝



第25図 第3号畠跡

第9表 第3号畠跡一覧表 (第25図)

番号	グリッド	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	番号	グリッド	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)
1	E-11	[4.48]	0.22	0.09	7	E-10	4.84	0.28	0.05
2	E-11	[5.43]	0.36	0.05	8	E-10	2.34	0.27	0.04
3	E-10	1.23	0.23	0.03	9	E-10	1.41	0.22	0.04
4	E-10	[3.28]	0.22	0.07	10	—	—	—	—
5	E-10	[3.47]	0.25	0.06	11	E-10	1.69	0.33	0.05
6	E-10	4.40	0.26	0.06	12	E-10	(5.97)	0.29	0.06

間溝の間隔は0.32～1.6mであり、間隔や走行方向はやや不揃いである。

遺物が検出されなかったため、詳細な時期は不明である。ただし、住居跡群と同じ面から検出されたこと、また、住居跡群の軸方位と畠間溝の走行方向が類似すること、住居跡群に隣接するなどの状況から、9世紀代の畠跡である可能性が高い。集落の存続期間中に営まれた畠跡か。

(3) 土壌

土壌は17基検出された。調査区の中央部に分布し、その範囲は住居跡の分布域と重複する。遺物が出土していない土壌もあるが、住居跡が全て9世紀代のものであること、また、他の土壌や遺構外出土遺物も基本的に9世紀代の遺物で占められていることから、全て9世紀代の土壌と考えられる。

遺構の平面形態は円形・楕円形・隅丸方形等で、長径2.0m前後のやや大型の土壇も散見される。このうち、第114・117号土壇からは比較的多くの遺物が出土した。

住居跡は主軸方位を揃えて建てられているが、土壇には主軸方位の規則性は認められなかった。

第101号土壇 (第26図)

調査区中央部東寄りのF-12グリッドに位置する。平面形態は方形に近い楕円形で、規模は長径0.94m、短径0.81m、深さ0.16mを測り、長軸方向はN-87°-Wを指す。断面形態は箱形で、底面は平坦である。

遺物は須恵器環、ロクロ土師器環等が出土した(第28図1~4)。1、2は須恵器の環で、1が三和、2が南比企の製品である。2は全体的に被熱し、内面に網目状の変色が認められる。3、4はロクロ土師器で、どちらも胎土に角閃石を含むことから、利根川流域の製品と考えられる。3は内黒の環で、内面が磨耗している。4は環で、内外面に大きく黒斑が認められる。

遺物の時期は、9世紀後半と考えられる。

第102号土壇 (第26図)

調査区中央部東寄りのF-12グリッドに位置し、第101号土壇の東側に隣接する。平面形態は円形で、規模は直径0.48m、深さ0.13mを測る。断面形態は椀形である。

遺物は須恵器蓋・環が出土した(第28図5~8)。5~7は環で、5、6が南比企、7が三疊の製品である。5は底径が口径の2分の1より大きいことから、鳩山編年VI期と考えられる。8は蓋で、南比企の製品である。

遺物の時期は、9世紀中葉と考えられる。

第103号土壇 (第26図)

調査区中央部東寄りのF-12グリッドに位置し、第102号土壇の南東側に隣接する。平面形態は南北にやや長い円形で、規模は長径0.94m、短径0.84m、深さ0.15mを測る。断面形態は箱形である。

遺物は出土しなかった。

第104号土壇 (第26図)

調査区中央部やや南寄りのF-11グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は直径1.69m、短径1.14m、深さ0.24mを測る。断面形態は箱形で南側から北側に向けて深くなる。

遺物は須恵器環・皿、ロクロ土師器環、土師器甕、小型台付甕等が出土した(第28図9~17)。9~13は須恵器である。9は南比企、11は三疊の製品である。9は深身であり、椀形になるものである。11は被熱し、全体的に変色している。10、12は胎土に角閃石を多く含む。13は皿で、南比企の製品である。外面下端および底部に手持ちヘラケズリ調整が施される。14、15はロクロ土師器で、どちらも胎土に角閃石を含むことから、利根川流域の製品と考えられる。14は内黒の環で、やや大型である。外面のロクロ目がきつく、体部外面下半から底部にかけて手持ちヘラケズリ調整が施され、底部中央には僅かに糸切り離し痕が認められる。15は環で、内外面ともにロクロ目が明瞭に残る。16は土師器の甕で、胎土に片岩細粒を多く含む。17は小型台付甕である。外面に煤が付着し、口唇部外縁の一部に使用による磨耗が認められる。

遺物の時期は、9世紀後半と考えられる。

第105号土壇 (第26図)

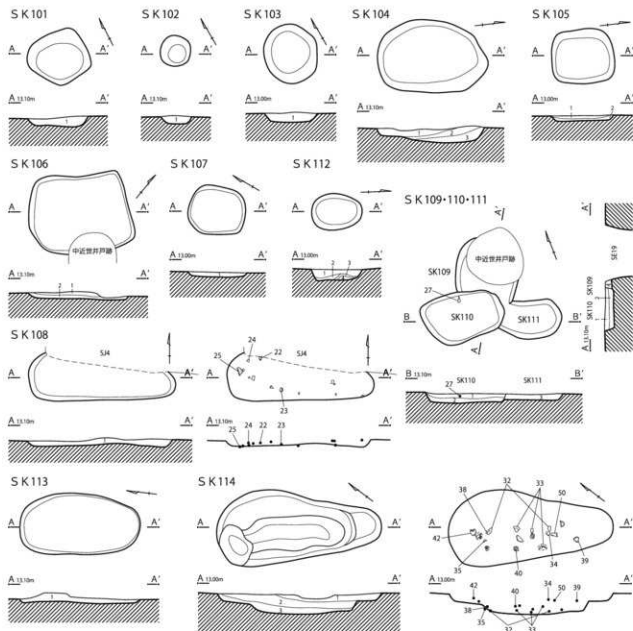
調査区中央部、F-11グリッドに位置する。平面形態は南北にやや長い隅丸方形で、規模は長径0.98m、短径0.86m、深さ0.09mを測る。断面形態は箱形である。

遺物は出土しなかった。

第106号土壇 (第26図)

調査区中央部やや東寄りのF-11・12グリッドに位置し、南東側の一部を中近世の井戸跡によって壊される。平面形態は不整形で、規模は長径1.58m、短径1.24m、深さ0.10mを測る。断面形態は皿形である。

遺物は須恵器蓋、ロクロ土師器環が出土した



- S K 101
1 黒褐色土 炭化物粒子・焼土粒子少量
- S K 102
1 黒褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子微量

- S K 103
1 黒褐色土 砂質が強い、ローム粒子・炭化物粒子少量

- S K 104
1 暗褐色土 粘性強 焼土粒子・炭化物粒子・ロームブロック少量
2 黒褐色土 粘性あり 炭化物多量 焼土粒子少量
3 暗褐色土 中々砂質 炭化物・焼土粒子少量

- S K 105
1 暗褐色土 炭化物粒子少量
2 暗褐色土 黄褐色粒子少量

- S K 106
1 黒褐色土 炭化物粒子・黄褐色粒子少量
2 暗褐色土 炭化物粒子・黄褐色粒子少量

- S K 107
1 暗褐色土 炭化物粒子少量

- S K 112
1 黒褐色土 炭化物粒子・黄褐色粒子少量
2 暗褐色土 炭化物粒子少量 粘性あり
3 黒色土 炭化物
4 暗褐色土 炭化物粒子やや多量

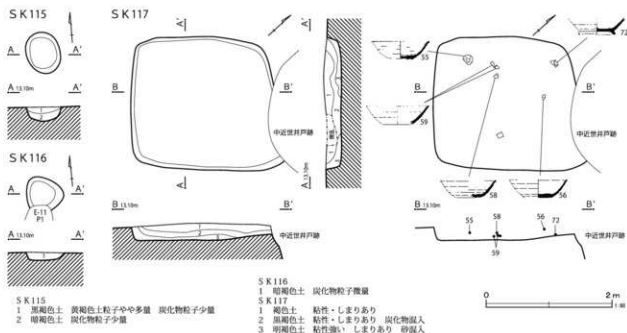
- S K 109・110・111
1 黒褐色土 炭化物粒子少量
2 暗黄褐色土 炭化物粒子少量
3 暗褐色土 炭化物粒子少量
4 黒褐色土 炭化物粒子少量

- S K 108
1 暗褐色土 炭化物粒子微量

- S K 113
1 暗褐色土 炭化物粒子少量

- S K 114
1 黒褐色土 炭化物粒子・焼土粒子・黄褐色土粒子微量
2 黒褐色土 炭化物粒子・焼土粒子微量 黄褐色粒子ほとんど含まない
3 暗褐色土 炭化物粒子・焼土粒子微量

第26図 土壌 (1)



第27図 土壌 (2)

第10表 土壌一覧表 (第26・27図)

No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	重複遺構	No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	重複遺構
101	F-12	楕円形	N-87°-W	0.92	0.81	0.16		110	F-11	隅丸長方形	N-88°-W	1.23	0.76	0.15	SK109・111
102	F-12	円形	-	0.48	0.48	0.13		111	F-11	楕円形	N-68°-W	[0.94]	0.60	0.10	SK109・110
103	F-12	円形	-	0.94	0.84	0.15		112	E-11	楕円形	N-3°-E	0.79	0.57	0.17	
104	F-G-11	楕円形	N-7°-E	1.69	1.14	0.24		113	D-E-10	楕円形	N-7°-W	1.90	0.97	0.16	
105	F-11	隅丸方形	N-8°-E	0.98	0.86	0.09		114	E-11	楕円形	N-42°-W	2.60	1.18	0.31	
106	F-11・12	不整形	N-50°-E	1.58	1.24	0.10		115	E-11	楕円形	N-3°-W	0.66	0.53	0.23	
107	F-12	楕円形	N-29°-W	0.91	0.77	0.08		116	E-11	隅丸正三角形	N-30°-W	0.50	0.56	0.13	E-11PI
108	E-11	楕円形	N-88°-W	2.33	[0.74]	0.13	SJ4	117	E-F-10	隅丸方形	N-44°-E	[2.36]	2.07	0.26	
109	F-11	楕円形	N-40°-E	1.00	[0.9]	0.10	SK110・111								

(第28図18, 19)。18は須恵器の蓋で、南比企の製品である。19はロクロ土師器で、内黒の坏である。胎土に角閃石を含むことから、利根川流域の製品と考えられる。

遺物の時期は、9世紀代と考えられる。

第107号土壌 (第26図)

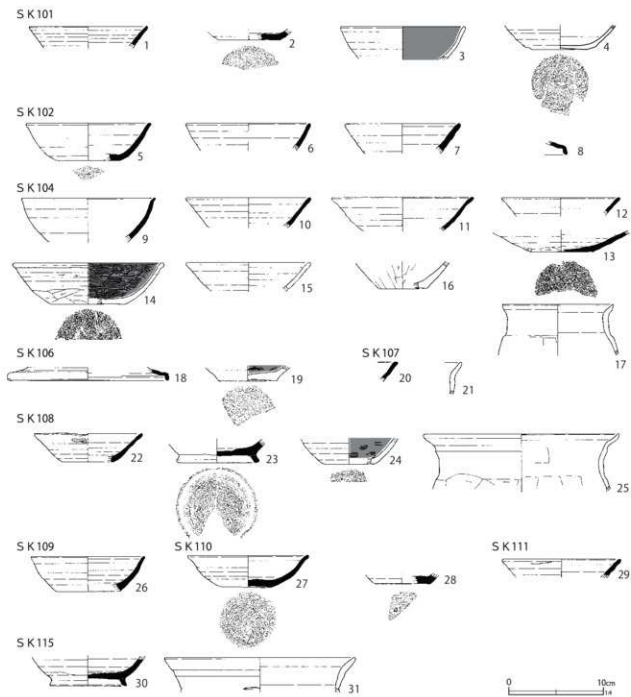
調査区中央部やや東寄りのF-12グリッドに位置し、第106号土壌の東側に隣接する。平面形態は東西にやや長い楕円形で、規模は長径0.91m、短径0.77m、深さ0.08mを測る。断面形態は皿形である。

遺物は須恵器坏と土師器甕が出土した(第28図20, 21)。どちらも小破片だが、21が土師器の「コ」の字状口縁甕と推察されることから、遺物の時期は9世紀後半と考えられる。

第108号土壌 (第26図)

調査区中央部やや北寄りのE-11グリッドに位置する。第4号住居跡と重複し、本遺構が古い。平面形態は東西に長い楕円形で、規模は長径2.33m、短径0.74m、深さ0.13mを測る。断面形態は皿形である。

遺物は須恵器坏・高台付坏、ロクロ土師器坏、



第28図 土壇出土遺物(1)

土師器甕が出土した(第28図22~25)。22、23は須恵器である。22は坏で、東金子の製品であり、口縁部に歪みが認められる。23は高台付坏で、末野の製品であり、内底面中央部に煤が付着する。

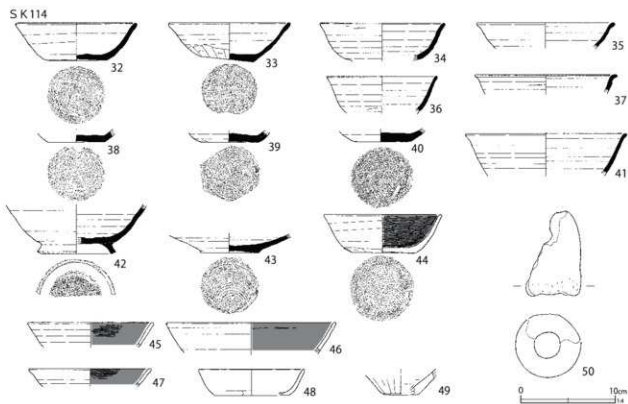
24は内黒のロクロ土師器坏である。胎土に角閃石を多く含むことから、利根川流域の製品と考え

られる。25は土師器の「コ」の字状口縁甕であり、「コ」の字の形状はやや崩れる様相を持つ。

遺物の時期は9世紀後半から末と考えられる。

第109号土壇(第26図)

調査区中央部のF-11グリッドに位置し、第110・111号土壇と重複し、さらに中・近世の井



第29図 土壌出土遺物(2)

戸跡によって遺構の中央部が大きく壊される。平面形態は南北に長い楕円形で、規模は残存部で長径1.00m、短径0.90m、深さ0.10mを測る。断面形態は箱形と推測される。

遺物は須恵器坏が出土した(第28図26)。26は須恵器の坏で、南比企の製品である。鳩山編年ⅦからⅧ期と考えられる。

遺物の時期は、9世紀後半と考えられる。

第110号土壌(第26図)

調査区中央部のF-11グリッドに位置する。第109・111号土壌と重複し、本遺構が新しい。平面形態は東西に長く、やや歪んだ隅丸長方形で、規模は長径1.23m、短径0.76m、深さ0.15mを測る。断面形態は箱形である。

遺物は須恵器坏が出土した(第28図27、28)。27は三甕、28は南比企の製品である。27は被熱によって全体的に赤褐色へと変色し、体内内面下半には煤が付着する。

遺物の時期は9世紀代と考えられる。

第111号土壌(第26図)

調査区中央部のF-11グリッドに位置する。第109・110号土壌と重複し、第110号土壌より古い。平面形態は東西に長い楕円形で、規模は残存部で長径0.94m、短径0.60m、深さ0.10mを測る。断面形態は箱形である。

遺物は須恵器坏が出土した(第28図29)。29は全体に煤が付着し、産地は不明である。

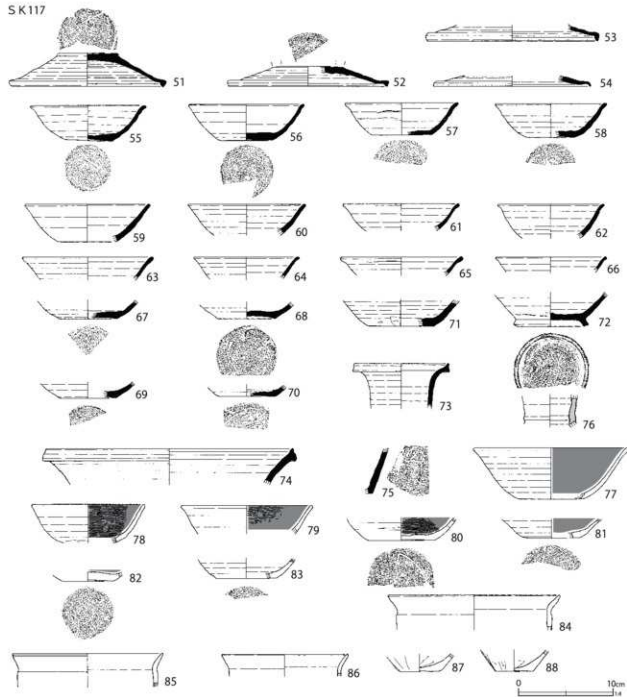
遺物の時期は9世紀代と考えられる。

第112号土壌(第26図)

調査区中央北寄りのE-11グリッドに位置する。平面形態は南北にやや長い楕円形で、規模は長径0.79m、短径0.57m、深さ0.17mを測る。断面形態は箱形で、覆土下層からは薄い炭化物層が検出された。

遺物は出土しなかった。

SK117



第30図 土壌出土遺物(3)

第113号土壌 (第26図)

調査区中央北西寄りのD・E-10グリッドに位置する。平面形態は南北に長い楕円形で、規模は長径1.90m、短径0.97m、深さ0.16mを測る。断面形態は皿形である。

遺物は出土しなかった。

第114号土壌 (第26図)

調査区中央北部のE-11グリッドに位置する。平面形態は南北に長い楕円形で、規模は長径2.60m、短径1.18m、深さ0.31mを測る。断面形態は箱形で、中央部が一段低くなる構造を持つ。

比較的多くの遺物が検出され、須恵器坏・高台

第11表 土壇出土遺物観察表 (第28~30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	坏	(12.4)	[2.8]	—	DH I K	10	良好	黄灰	SK101 三和産	
2	須恵器	坏	—	[1.2]	(6.6)	E I J K	20	良好	褐灰	SK101 南比企産 全体被熱	
3	ロクロ土師器	坏	(13.0)	[3.5]	—	CH I K	5	普通	橙	SK101 内黒 内外面摩耗により調整は不明瞭	
4	ロクロ土師器	坏	—	[2.6]	6.0	C E I K	40	普通	灰黄	SK101 軟質 内外面黒斑有り	9-4
5	須恵器	坏	(12.8)	4.0	(6.9)	E I K	20	普通	黄灰	SK102 南比企産	9-5
6	須恵器	坏	(13.0)	[2.9]	—	E I J K	5	普通	黄灰	SK102 南比企産	
7	須恵器	坏	(12.0)	[3.2]	—	H I K	15	普通	灰白	SK102 三義産	
8	須恵器	蓋	—	[1.5]	—	H I J K	5	普通	灰黄褐	SK102 南比企産	
9	須恵器	坏	(14.0)	[4.7]	—	I J	20	普通	黄灰	SK104 南比企産	
10	須恵器	坏	(13.0)	[3.2]	—	B E H I K	15	普通	黄灰	SK104 未野産か 外面被熱	
11	須恵器	坏	(15.0)	[3.6]	—	C I K	15	普通	灰白	SK104 三義産 内面被熱	
12	須恵器	坏	(12.4)	[2.0]	—	E G H I K	10	普通	灰黄褐	SK104 東金子産か	
13	須恵器	皿	—	[2.3]	(6.6)	B I J	40	普通	灰	SK104 南比企産	
14	ロクロ土師器	坏	(15.6)	4.4	(8.0)	H I K	30	普通	にぶい橙	SK104 内黒	9-6
15	ロクロ土師器	坏	(13.0)	[3.0]	—	CH I K	10	普通	橙	SK104	
16	土師器	甕	—	[2.9]	(5.0)	CH I K	20	普通	灰黄褐	SK104	
17	土師器	小型台付甕	(11.7)	[5.5]	—	A I K	20	普通	褐	SK104 外面煤付着	
18	須恵器	蓋	(16.8)	[1.4]	—	E I J K	5	良好	灰	SK106 南比企産 口唇部外縁に重ね焼きの痕跡有り	
19	ロクロ土師器	坏	—	[1.6]	(6.2)	CH I K	25	普通	にぶい橙	SK106 内黒 内面摩耗	
20	須恵器	坏	—	[2.1]	—	E I K	5	良好	黄灰	SK107	
21	土師器	甕	—	[3.5]	—	CH I K	5	普通	橙	SK107	
22	須恵器	坏	(11.1)	3.0	(5.2)	E I K	20	良好	灰	SK108 No.2 東金子産 口縁部歪み有り	
23	須恵器	高台付坏	—	[2.5]	8.0	B E I K	70	普通	灰	SK108 No.8 未野産 内底面中央部被熱	
24	ロクロ土師器	坏	—	[2.8]	(5.4)	CH I K	20	普通	灰褐	SK108 No.1 内黒	
25	土師器	甕	(20.6)	[6.1]	—	CH I K	5	普通	にぶい褐	SK108 No.3	
26	須恵器	坏	(12.0)	3.7	(12.8)	E H I J K	10	良好	灰	SK109 南比企産	
27	須恵器	坏	(12.5)	3.4	5.5	E H I K	50	普通	にぶい褐	SK110 No.1 三義産 内面煤付着	9-7
28	須恵器	坏	—	[1.2]	(6.0)	E I J K	10	良好	灰	SK110 南比企産	
29	須恵器	坏	(12.4)	[2.0]	—	I K	10	普通	褐灰	SK111 内外面被熱	
30	須恵器	高台付坏	—	[3.2]	(8.0)	E H I K	20	良好	灰白	SK115 未野産	
31	土師器	甕	(20.0)	[3.7]	—	CH I K	10	良好	にぶい赤褐	SK115	
32	須恵器	坏	12.6	4.0	6.2	C E I K	90	普通	黄灰	SK114 No.6・17 三義産か 全体強く被熱	9-8
33	須恵器	坏	12.6	4.1	5.7	E I K	85	普通	灰	SK114 No.7・11・12 三和産 口唇部外縁に重ね焼きの痕跡が認められる	9-9
34	須恵器	坏	(13.0)	[4.0]	—	H I J K	20	良好	褐灰	SK114 No.13 南比企産	
35	須恵器	坏	(14.4)	[2.8]	—	I K	5	良好	灰	SK114 No.3 三義産か	
36	須恵器	坏	(11.6)	[4.0]	—	E I J K	10	良好	黄灰	SK114 南比企産	
37	須恵器	坏	(14.8)	[2.1]	—	E I K	5	普通	良好	SK114 未野産か	
38	須恵器	坏	—	[1.4]	(6.0)	E I J K	85	普通	灰	SK114 No.16 南比企産	
39	須恵器	坏	—	[1.2]	(6.1)	I J K	65	普通	灰白	SK114 No.9 南比企産 内外面煤付着	
40	須恵器	坏	—	[1.4]	6.4	E I K	80	普通	灰白	SK114 No.10 軟質 内外面煤付着	
41	須恵器	高台付坏	(17.0)	[4.5]	—	H I J K	5	良好	黄灰	SK114 No.4 南比企産	
42	須恵器	高台付坏	—	[5.3]	(7.4)	B I	30	普通	灰	SK114 No.1 未野産	10-1
43	須恵器	皿	—	[2.1]	6.1	I J K	70	普通	にぶい橙	SK114 No.5・8 南比企産	
44	ロクロ土師器	坏	12.2	4.1	6.9	I K	80	普通	にぶい橙	SK114 No.2 内黒 黒色処理はほぼ飛んでいる 外面黒斑有り	10-2

宮西遺跡

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
45	クワロ土師器	坏	(13.2)	[2.7]	—	C H I K	10	普通	にぶい橙	SK114 内黒		
46	クワロ土師器	坏	(17.8)	[3.3]	—	C E H I K	10	普通	にぶい橙	SK114 内黒 内外面ともに摩耗が激しく調整は不明瞭		
47	クワロ土師器	坏	(12.8)	[2.0]	—	C E H I K	5	普通	にぶい赤褐	SK114 内黒		
48	土師器	坏	(11.0)	2.8	(7.8)	C H I K	15	普通	にぶい橙	SK114		
49	土師器	甕	—	[2.7]	(4.0)	C H I K	20	普通	灰褐	SK114		
50	土製品	羽口	長さ[8.9] 外径(6.9) 内径(2.7) 重さ101g							にぶい褐	SK114 №14	11-2
51	須恵器	蓋	(16.0)	3.5	—	E I J K	25	良好	にぶい赤褐	SK117 南比企産 酸化焙焼成	10-3	
52	須恵器	蓋	(16.8)	2.1	—	B E G H I K	15	良好	灰	SK117 未野産		
53	須恵器	蓋	(18.0)	[1.7]	—	E H I J K	5	良好	灰	SK117 南比企産		
54	須恵器	蓋	(16.6)	[1.1]	—	H I J K	15	普通	灰黄	SK117 南比企産		
55	須恵器	坏	12.0	3.7	3.0	E I J K	80	良好	灰白	SK117 №6 南比企産 内外面火燐痕有り 体部外面に糸切り痕(ボジ)が残る	10-4	
56	須恵器	坏	(12.0)	3.8	5.6	E I J K	45	普通	灰	SK117 №2 南比企産		
57	須恵器	坏	(11.8)	3.4	(6.4)	E H I J K	20	良好	灰白	SK117 南比企産 内面火燐痕有り 内外面被熱		
58	須恵器	坏	(11.4)	3.6	(4.7)	E I J K	20	普通	黄灰	SK117 №5 南比企産 内面火燐痕有り	10-5	
59	須恵器	坏	12.9	4.0	6.0	C E I K	55	普通	にぶい黄橙	SK117 №3・4 外面煤付着	10-6	
60	須恵器	坏	(12.3)	[3.3]	—	E H J K	15	良好	黄灰	SK117 南比企産 内外面火燐痕有り 内面煤付着		
61	須恵器	坏	(12.2)	[2.8]	—	D E I K	5	良好	灰	SK117 未野産か		
62	須恵器	坏	(11.2)	[3.6]	—	E H I J K	15	良好	灰白	SK117 南比企産 内外面火燐痕有り		
63	須恵器	坏	(12.6)	[2.5]	—	E H I K	5	良好	にぶい橙	SK117 東金子産か 酸化焙焼成		
64	須恵器	坏	(11.0)	[2.4]	—	E H I K	5	良好	黄灰	SK117 未野産か		
65	須恵器	坏	(12.5)	[2.0]	—	H I J K	5	良好	灰	SK117 南比企産		
66	須恵器	坏	(11.6)	[1.6]	—	E H I J K	15	良好	灰黄褐	SK117 南比企産		
67	須恵器	坏	—	[2.0]	(6.2)	E I J K	20	普通	にぶい橙	SK117 南比企産 酸化焙焼成		
68	須恵器	坏	—	[1.8]	6.1	I K	50	普通	にぶい赤褐	SK117 東金子産か 酸化焙焼成		
69	須恵器	坏	—	[2.2]	(6.0)	E I K	20	良好	灰	SK117 未野産か		
70	須恵器	坏	—	[1.2]	(6.0)	B E H I K	25	良好	灰	SK117 未野産		
71	須恵器	坏	—	[2.8]	(7.0)	D H I K	20	普通	灰白	SK117 三和産		
72	須恵器	高台付坏	—	[3.7]	(7.1)	B E H I	45	普通	灰黄褐	SK117 №1 未野産	10-7	
73	須恵器	長頸瓶	(9.9)	[4.8]	—	I K	20	良好	灰	SK117 内面降灰		
74	須恵器	甕	(25.8)	[3.8]	—	E H I J K	5	良好	灰	SK117 南比企産		
75	須恵器	甕	—	[4.8]	—	A E H I K	5	普通	褐灰	SK117 新治産		
76	須恵器	甕	—	[3.5]	—	I K	5	良好	灰白	SK117 内外面磨軸		
77	クワロ土師器	坏	(16.2)	5.4	(7.0)	C E H I K	15	普通	橙	SK117 内黒 摩耗が激しく調整は不明瞭		
78	クワロ土師器	坏	(11.7)	[4.1]	—	C E I K	15	普通	にぶい橙	SK117 内黒		
79	クワロ土師器	坏	(13.6)	[4.0]	—	C H I K	15	普通	橙	SK117 内黒		
80	クワロ土師器	坏	—	[2.4]	7.0	H I K	25	普通	橙	SK117 内黒		
81	クワロ土師器	坏	—	[2.0]	(5.6)	C H I K	25	普通	橙	SK117 内黒 摩耗が激しく調整は不明瞭		
82	クワロ土師器	坏	—	[0.9]	5.4	E I K	80	普通	にぶい橙	SK117 内黒		
83	クワロ土師器	坏	—	[2.1]	(6.4)	C H I K	25	普通	橙	SK117 内黒		
84	土師器	甕	(18.0)	[3.7]	—	B E I K	25	普通	明赤褐	SK117		
85	土師器	甕	(15.7)	[3.5]	—	B H I K	5	普通	明赤褐	SK117		
86	土師器	甕	(13.2)	[2.4]	—	E I K	15	普通	橙	SK117		
87	土師器	甕	—	[1.9]	(4.0)	E H I K	25	普通	にぶい橙	SK117 内面煤付着		
88	土師器	甕	—	[2.3]	(4.0)	B C E H I K	30	普通	橙	SK117		

付杯・皿、ロクロ土師器杯、土師器杯・甕、羽口等が出土した(第29図32~50)。32~43は須恵器である。32~40は杯で、南比企を主体とし、末野、三甕、三和等の製品を含む。32は内外面共に強く被熱し、全体に煤が付着する。被熱により変質しているが、胎土が白く、器面が滑らかだったと推察されることから三甕の製品である可能性がある。33は三和の製品で外面下端および底部に手持ちヘラケズリ調整が施される。34、38、39はいずれも外面に煤が付着する。40は軟質で胎土に少量の角閃石を含む。被熱の影響か、または黒斑なのか不明だが、内外面共に器面が変色し、黒色となる。

41、42は高台付碗である。41は南比企、42は末野の製品であり産地は異なるが、どちらも硬質に焼き締まる。43は皿で、南比企の製品である。外面および断面は酸化焰焼成で、内面と底部付近のみ還元化する。底部の周辺には、糸切り離しを一度失敗したと推察される糸切り痕の重複が認められる。

44~47は内黒のロクロ土師器杯である。44~46は胎土に角閃石を含むため、利根川流域の製品と考えられる。47は片岩または雲母を含むため、他地域の製品である可能性がある。44は外面下端および底部外周に手持ちヘラケズリ調整が施される。46は薄いが、やや大型になる。48は土師器の杯で、北武蔵型の杯である。

49は土師器の甕で、やや厚手である。50は土製品の羽口で、胎土に砂粒を多く含む。

遺物の時期は9世紀中葉から後半と考えられる。

第115号土壌 (第27図)

調査区中央部やや北寄りのE-11グリッドに位置する。平面形態は南北にやや長い楕円形で、規模は長径0.66m、短径0.53m、深さ0.23mを測る。断面形態は碗形である。

遺物は須恵器高台付杯、土師器甕が出土した(第28図30、31)。30は須恵器の高台付杯で、末野の

製品である。31は土師器の甕で、「コ」の字状口縁甕である。

遺物の時期は9世紀後半と考えられる。

第116号土壌 (第27図)

調査区中央部やや北寄りのE-11グリッドに位置する。グリッドピットと重複する。平面形態は隅丸正三角形で、規模は長径0.59m、短径0.56m、深さ0.13mを測る。断面形態は箱形である。

遺物は土師器甕片が僅かに出土しているが、図示し得るものはなかった。

第117号土壌 (第27図)

調査区中央やや西寄りのE・F-10グリッドに位置し、遺構の東側は中・近世の井戸跡によって壊される。平面形態は東西にやや長い隅丸方形で、規模は長径2.36m、短径2.07m、深さ0.26mを測る。断面形態は箱形である。

遺物が多く検出され、須恵器蓋・杯・高台付杯・長頸瓶・甕、ロクロ土師器杯、土師器甕等が出土した(第30図51~88)。51~75は須恵器である。51~54は蓋で、51、53、54が南比企、52が末野の製品である。51はつまみが無いタイプで、天井部外面は糸切り離し後無調整である。切り離しに失敗したためか、糸切り離し痕は重複し、天井部が僅かに円柱状になる。52は天井部外面に外周回転ヘラケズリが施され、中央部には糸切り離し痕が残る。

55~71は杯で、南比企の製品を主体とし、末野、東金子、三和等の製品が含まれる。55、57、58、60、62は器形や色調、火襷痕の残り方が非常によく似ている。このうち55、57、58は底部の残存率および厚さの違いから別個体と考えられるため、生産地にて同時に焼成された製品がまとめて搬入されたことを示すものか。59は黄色が強く、胎土に角閃石を含む。63と68は同一個体の可能性がある。

72は高台付杯で、末野の製品である。73は長頸瓶である。硬質で胎土の混入物は非常に少なく、

断面は互層状になる。74、75は甕で、74が南比企、75は新治の製品である。76は灰軸陶器の長頸瓶の破片である。

77～83はロクロ土師器である。いずれも胎土に角閃石を含むため、利根川流域の製品と考えられる。77～82は内黒の坏で、77は薄手だがやや大型になる。78は外面下端に、77、80は底部外周に手持ちヘラケズリ調整が施される。83は坏で、角閃石を多く含む。

84～88は土師器の甕で、「コ」の字状口縁甕である。遺物の時期は、つまみの無い須恵器蓋の存在や、須恵器坏、土師器甕の頸部形状から9世紀後半と考えられる。

(4) 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物は、第2次調査で検出されたものが大半である。その分布範囲も、第2次調査区の中央部にあたり、遺構分布域と重複する。

まず第2次調査区から出土したものを見ていく。

E-9グリッドからは、須恵器の坏が出土した(第31図1)。生産地は不明でロクロ目がきつい。

E-10グリッドからは、須恵器蓋・坏、土師器小型台付甕が出土した(第31図2～4)。2、3は須恵器である。2は蓋で、南比企の製品である。3は坏で、末野の製品である。4は土師器の小型台付甕で、頸部外面に種子圧痕が認められる。

E-11グリッドからは、須恵器坏・皿・壺、ロクロ土師器坏・鉢、土師器甕が出土した(第31図5～16)。5～11は須恵器である。5～8は坏で、南比企の製品を主体的に含む。9、10は皿である。ともに南比企の製品で、つまみの無い蓋になる可能性もある。11は壺で、末野の製品か。

12～15はロクロ土師器である。12、13は坏で、胎土に角閃石を含む。14は内黒の坏で、外面下端から底部にかけて、判読不能だが3文字の墨書が認められる。15は内黒の鉢で、大型になるものである。

16は土師器の甕である。「コ」の字状口縁甕で、定型化した段階のものであり、頸部が長い。

E-12グリッドからは、須恵器坏が出土した(第31図17)。17は坏で、南比企の製品である。

F-10グリッドからは、須恵器坏が出土した(第31図18)。18は坏で、南比企の製品であり、火瘃痕が認められる。

F-11グリッドからは、須恵器坏、土師器甕が出土した(第31図19～25)。19～22は須恵器の坏で、全て南比企の製品である。22は底部外周回転ヘラケズリが施され、宮西遺跡では唯一の8世紀代の遺物である。

23～25は土師器の甕である。23、24は「コ」の字状口縁甕で、定型化した段階のものである。

F-12グリッドからは、須恵器坏、ロクロ土師器坏、土師器甕が出土した(第31図26～31)。26～28は須恵器の坏で、それぞれ東金子、南比企、末野の製品である。

F-13グリッドからは、須恵器坏、ロクロ土師器坏が出土した(第31図32、33)。32は須恵器の坏で、南比企の製品である。33は内黒のロクロ土師器坏で、大型品である。

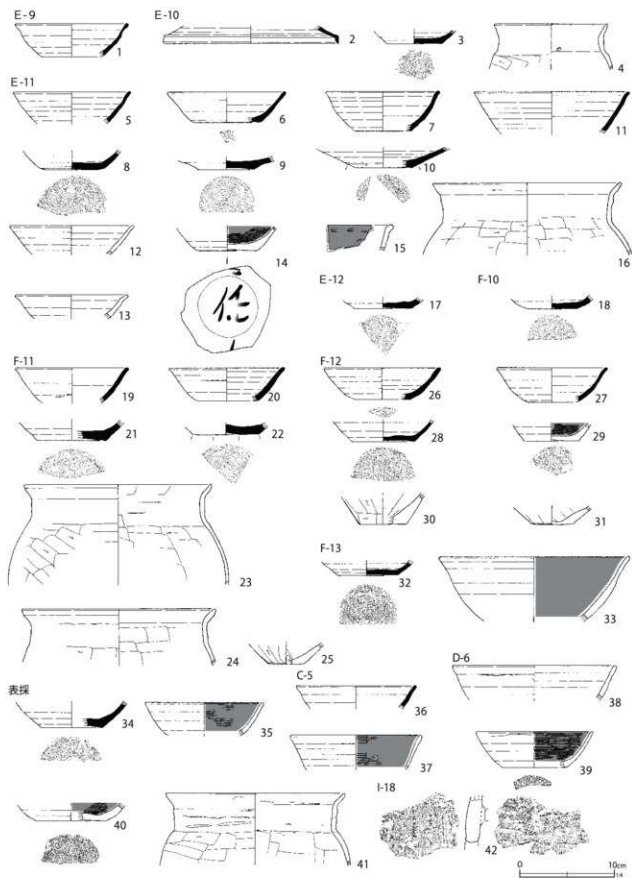
表採遺物は少なく、図示し得たものは須恵器坏とロクロ土師器であった(第31図34、35)。34は須恵器の坏で、南比企の製品である。

第4次調査区C-5グリッドからは、須恵器坏、内黒のロクロ土師器坏が出土した(第31図36、37)。36は須恵器の坏で、南比企の製品である。

第4次調査区D-6グリッドからは、ロクロ土師器坏、土師器甕が出土した(第31図38～41)。38～40はロクロ土師器である。40は大型品で、壺になる可能性もある。

41は土師器の甕である。「コ」の字状口縁甕で、定型化した段階のもので、頸部が長い。

第3次調査区I-18グリッドからは、埴輪片が1点出土した(第31図42)。42は円筒埴輪の破片で、透かし部分が残存する。



第31図 遺構外出土遺物

第12表 遺構外出土遺物観察表 (第31図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	坏	(11.8)	3.5	(6.3)	H I K	10	良好	灰白	E9	
2	須恵器	蓋	(18.4)	[1.9]	—	H I J K	5	良好	黄灰	E10 南比企産 口唇部外縁に重ね焼きによる変色有り	
3	須恵器	坏	—	[1.5]	(5.8)	B E H I K	15	良好	楊灰	E10 末野産	
4	土師器	甕	(11.8)	[4.9]	—	C E I K	20	普通	楊灰	E10 内外面煤付着 種子痕有り	
5	須恵器	坏	(12.1)	[3.4]	—	E H I J K	10	良好	灰	E11 南比企産 口唇部降灰	
6	須恵器	坏	(12.3)	3.2	(7.0)	C H I K	10	普通	楊灰	E11	
7	須恵器	坏	(11.6)	4.2	(6.0)	H I J K	5	普通	黄灰	E11 南比企産 内面被熱	
8	須恵器	坏	—	[2.1]	(6.8)	E H I K	30	不良	灰	E11	
9	須恵器	皿	—	[1.4]	5.8	I J K	50	普通	灰黄	E11 南比企産	
10	須恵器	皿	—	[2.2]	(6.0)	E H I J K	30	普通	黄灰	E11 南比企産	
11	須恵器	壺	(16.2)	[4.5]	—	B E I K	5	普通	黄灰	E11 末野産か	
12	クワロ土師器	坏	(13.0)	[3.1]	—	C H I K	5	普通	にぶい橙	E11	
13	クワロ土師器	坏	(5.6)	[2.6]	—	C E H I K	15	普通	にぶい楊	E11 内面煤付着	
14	クワロ土師器	坏	—	[2.7]	6.2	E H I K	80	普通	橙	E11 内黒 外面墨書 3文字あるが判読不能	10-8
15	クワロ土師器	鉢	(21.0)	[2.8]	—	C E I K	5	普通	黄灰	E11 SK108周辺№1 内黒	
16	土師器	甕	(19.7)	[7.7]	—	A E I K	20	普通	明赤楊	E11・12	
17	須恵器	坏	—	[1.2]	(6.0)	E H I J K	25	良好	灰	E12 南比企産	
18	須恵器	坏	—	[1.4]	(5.2)	E I J K	25	普通	黄灰	F10 南比企産 火摩痕有り	
19	須恵器	坏	(11.4)	[3.8]	—	I J K	15	普通	黄灰	F11 南比企産 内面火摩痕わずかに残る	
20	須恵器	坏	(12.0)	3.5	(6.4)	E H I J K	30	不良	にぶい黄橙	F11 南比企産 酸化塩焼成 口唇部煤付着	
21	須恵器	坏	—	[2.2]	(7.0)	E I J	30	普通	灰	F11 南比企産	
22	須恵器	坏	—	[1.2]	(7.0)	E I J	25	普通	黄灰	F11 南比企産	
23	土師器	甕	(18.6)	[10.7]	—	A B C E I K	20	普通	明赤楊	F11 P2№1・2	10-9
24	土師器	甕	(20.3)	[6.1]	—	A E I K	10	普通	にぶい橙	F11	
25	土師器	甕	—	[2.3]	(4.0)	C E H I K	20	普通	灰楊	F11	
26	須恵器	坏	(12.2)	3.4	(6.0)	E H I K	20	良好	灰	F12 東金子産か	
27	須恵器	坏	(11.6)	3.7	(5.5)	E H I J K	15	良好	灰	F12 南比企産	
28	須恵器	坏	—	[2.3]	(6.6)	B E H I K	40	良好	灰	F12 末野産か	
29	クワロ土師器	坏	—	[1.9]	(5.8)	C H I K	20	普通	にぶい橙	F12 内黒 外面黒斑有り	
30	土師器	甕	—	[3.3]	(5.0)	B C E H I K	20	普通	にぶい橙	F12	
31	土師器	甕	—	[2.1]	4.6	C E H I K	25	普通	灰黄楊	F12	
32	須恵器	坏	—	[1.6]	6.2	C I J K	50	良好	黄灰	F13 南比企産 内外面被熱	
33	クワロ土師器	鉢	(20.0)	[6.9]	—	C E H I K	10	普通	橙	F13 内黒 内外面ともに摩耗が激しく調整は不明瞭	
34	須恵器	坏	—	[2.8]	(6.6)	E I J	40	普通	黄灰	南比企産	
35	クワロ土師器	坏	(12.4)	[3.6]	—	E I K	20	普通	にぶい楊	内黒 内外面摩耗	
36	須恵器	坏	(12.5)	[2.5]	—	I J K	15	普通	灰	B4 南比企産 火摩痕有り	
37	クワロ土師器	坏	(13.6)	[3.7]	—	H I K	5	普通	にぶい橙	B4 内黒	
38	クワロ土師器	坏	(17.1)	[3.8]	—	E H I K	15	普通	にぶい橙	C5	
39	クワロ土師器	坏	(12.2)	3.7	(6.8)	H I K	20	普通	橙	C5 内黒 外面被熱	
40	クワロ土師器	坏	—	[1.9]	(7.6)	C H I K	25	普通	にぶい橙	C5 内黒	
41	土師器	甕	(18.7)	[7.6]	—	C E I K	25	普通	橙	C5	
42	土製品	円筒埴輪	—	[5.0]	—	C D E H	5	普通	にぶい橙	B6 外面タテハケ 内面タテハケ 透孔	10-10

V 宮東遺跡の調査

1 調査の概要

宮東遺跡は、第1・2次調査では西半部を対象とし、西側調査区・中央調査区・東側調査区の3つに調査区を分け、第3～6次調査では西側からI区～VII区に区分けを行い、調査を実施した。

調査の結果、第一面からは中・近世の井戸跡群や区画溝の可能性のある溝跡、第二面からは古代の集落跡や畠跡、第三面からは古墳時代の集落跡や河川跡が検出された。

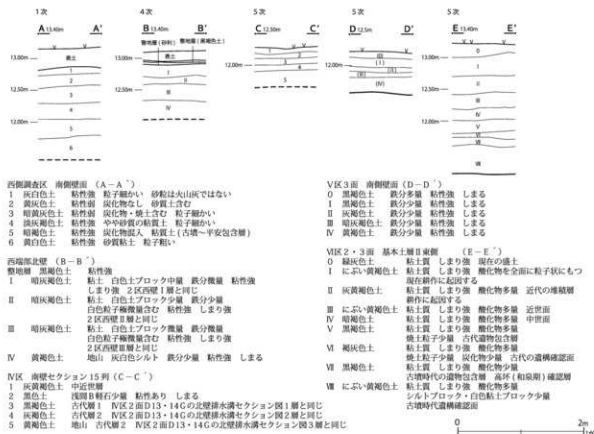
今回、報告の対象となる遺構は、古墳時代の住居跡48軒、井戸跡5基、畠跡8箇所、溝跡181条、土壇83基、遺物集中1箇所、河川跡1条、古代の住居跡43軒、掘立柱建物跡6棟、井戸跡14基、畠跡5箇所、溝跡68条、土壇153基、遺物集中2箇所である。

基本土層は第32図に示した。場所によって土色が異なるが、これは作田した時期や土の乾燥状態の違いによるものと考えられる。

基本的には表土、近世の耕作土、中・近世の堆積土層、古代の堆積土層、古墳時代の堆積土層の順になる。

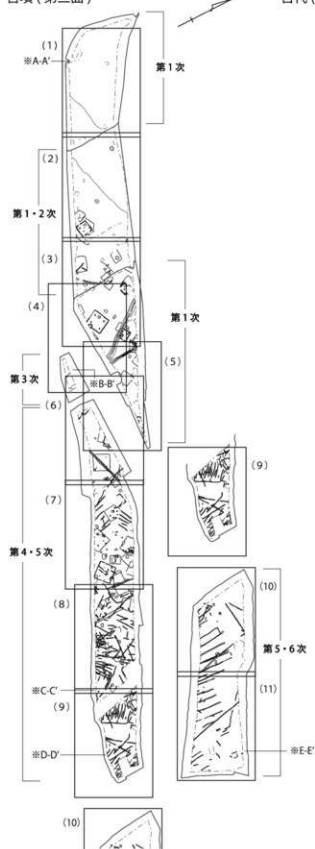
古代の遺構確認面の高さで見ると、第1次調査は12.70～12.80m、第4次調査区西側で12.30～12.40m、第6次調査は11.80～12.00mで、西側と東側では高低差が0.80～0.90m程になる。

これは当時の地形を表しているものと推察され、古墳時代から古代にかけては起伏のある地形であった可能性があり、高い箇所には集落が展開し、低い箇所は畠として利用されていたと考えられる。

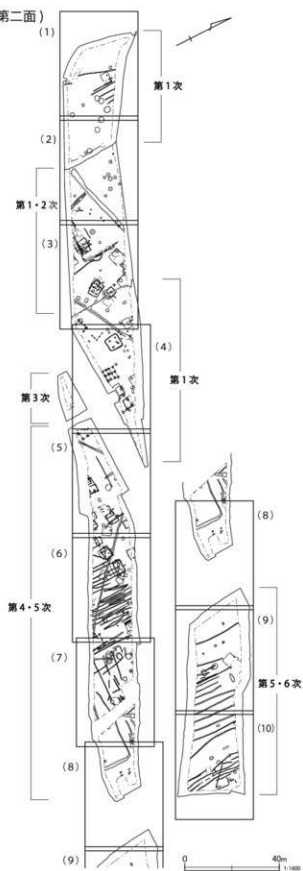


第32図 基本土層

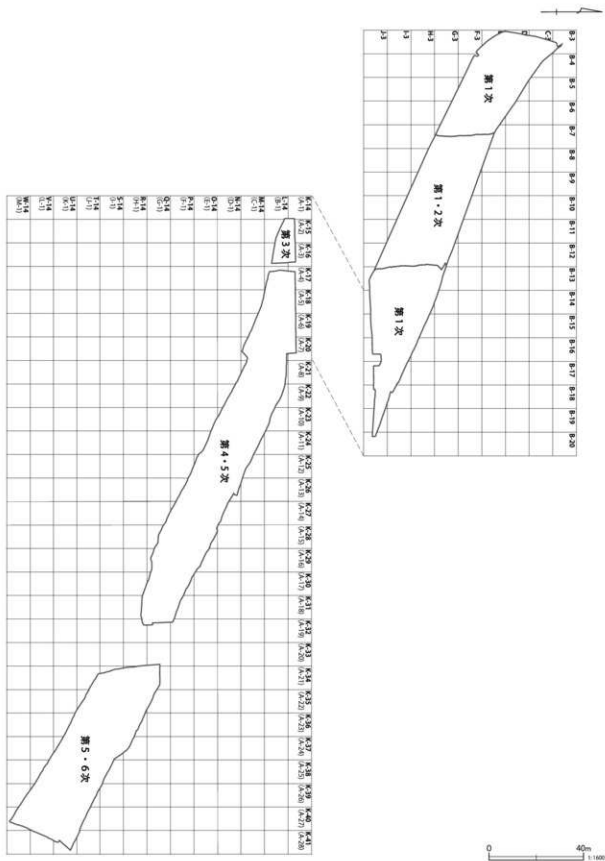
古墳 (第三面)



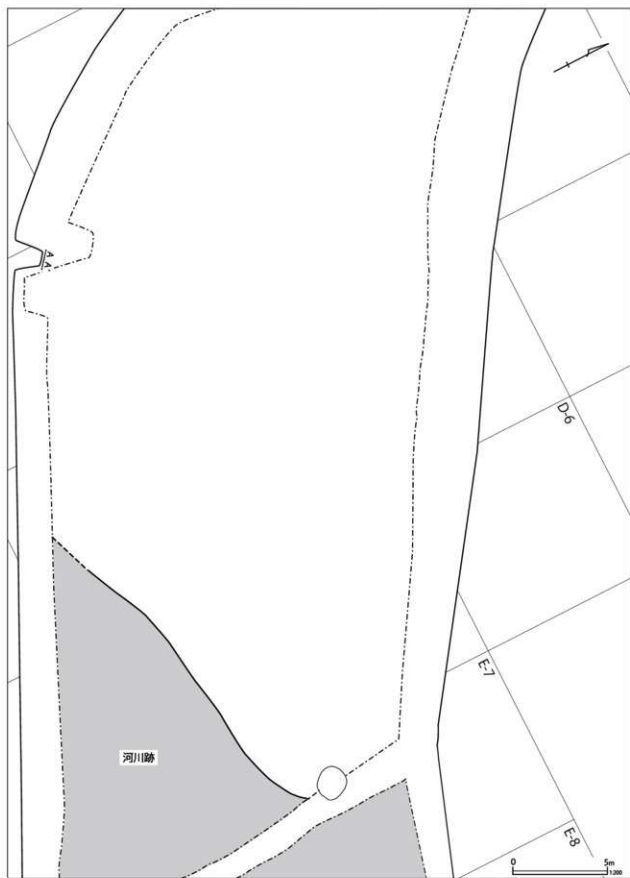
古代 (第二面)



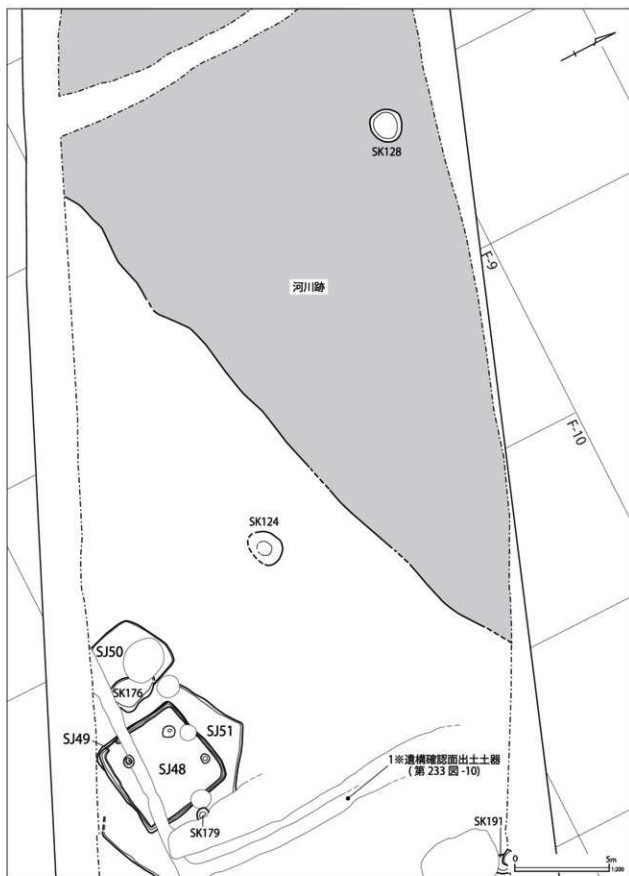
第33図 全体図 (1)



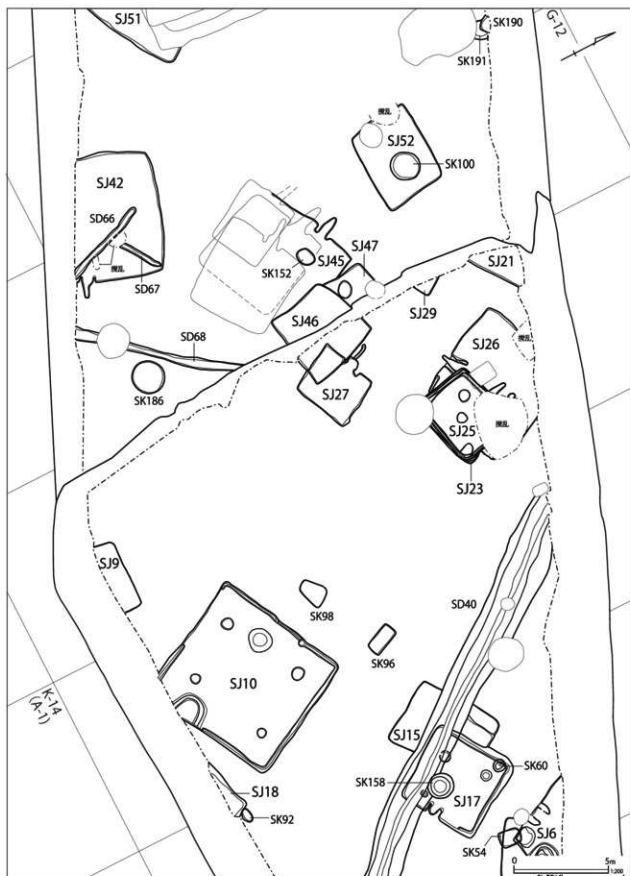
第34図 全体図(2)



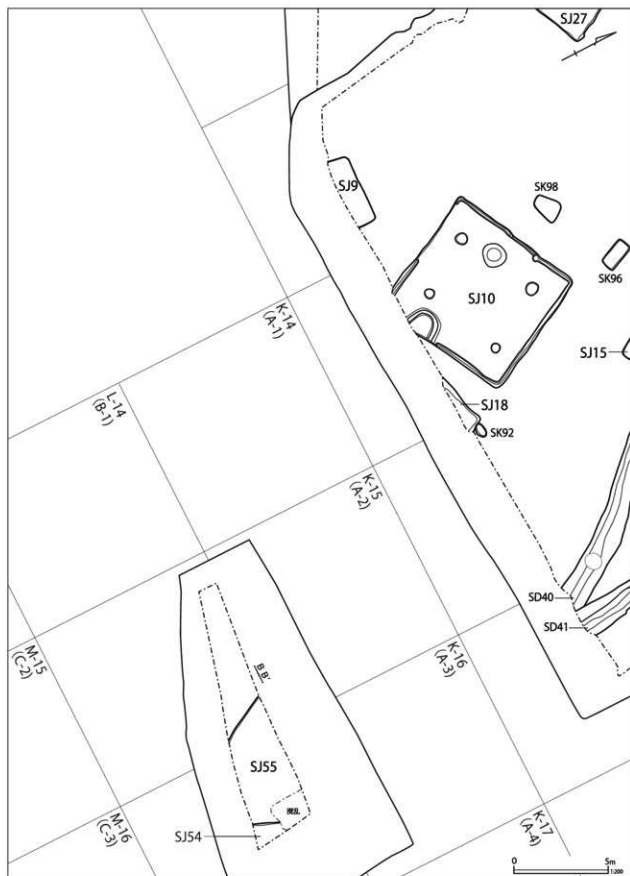
第35図 古墳時代分割図(1)



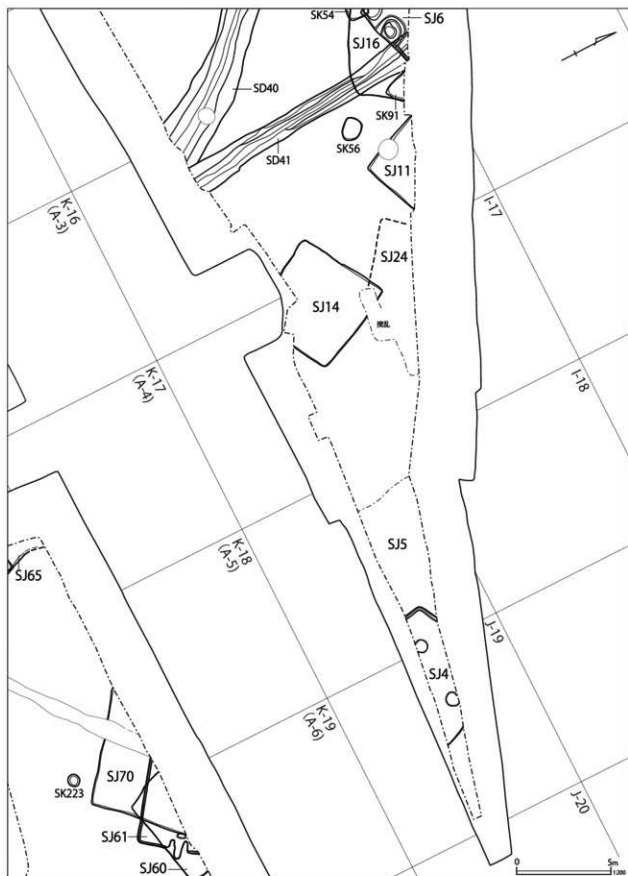
第36図 古墳時代分割図(2)



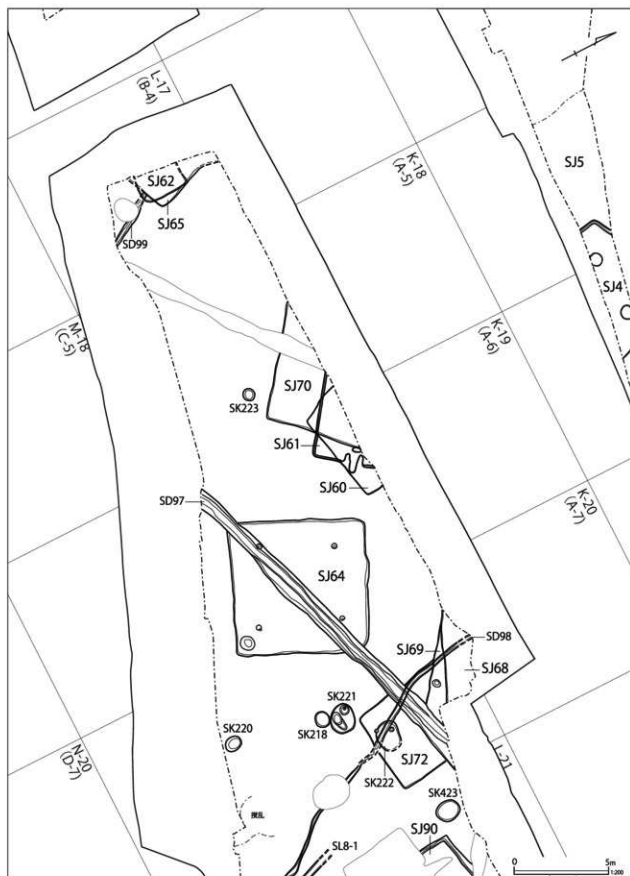
第37図 古墳時代分割図 (3)



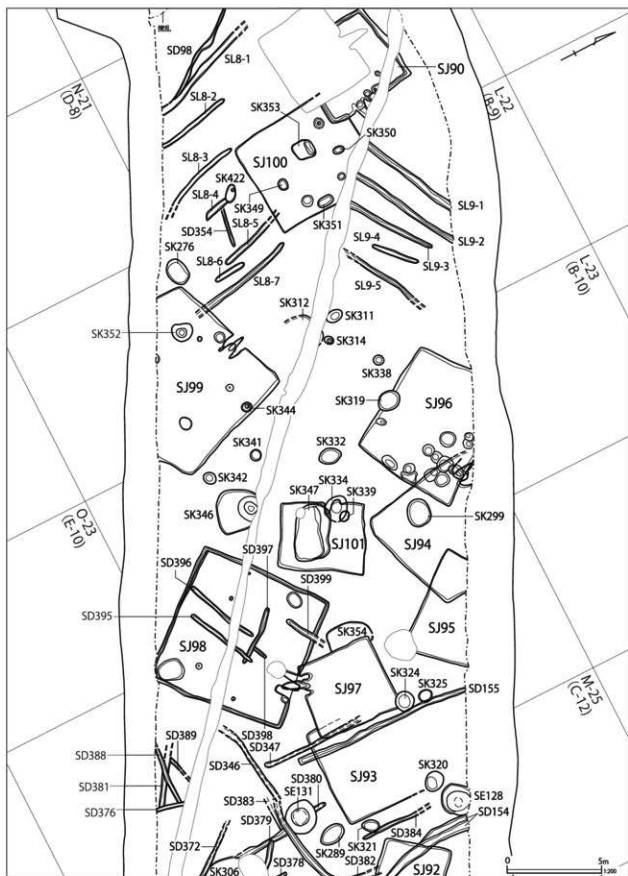
第38図 古墳時代分割図(4)



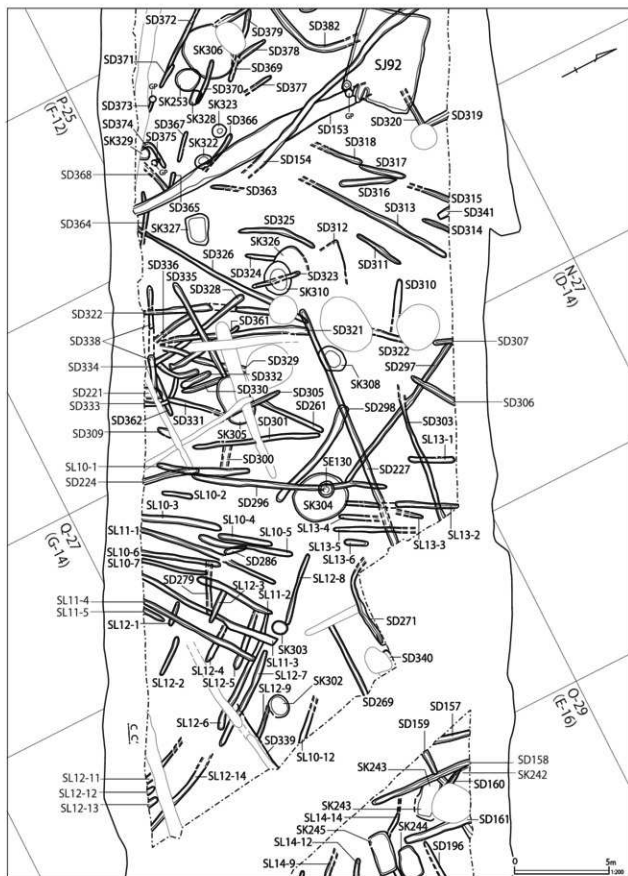
第39図 古墳時代分割図(5)



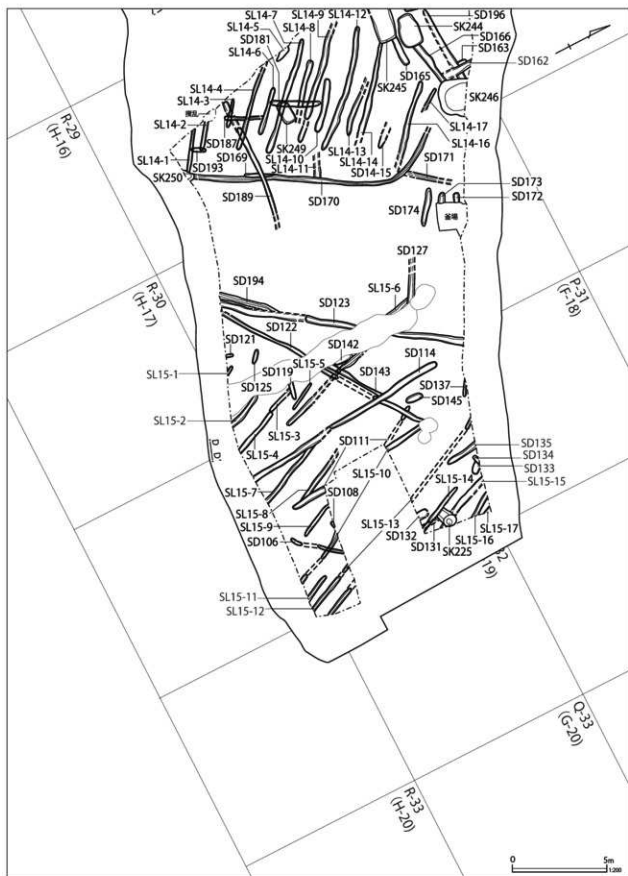
第40図 古墳時代分割図(6)



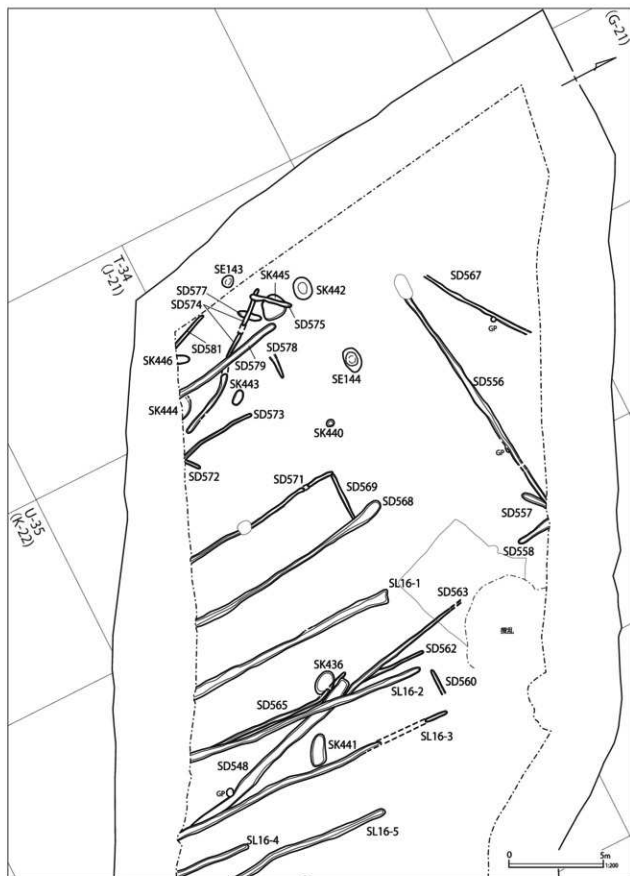
第41図 古墳時代分割図(7)



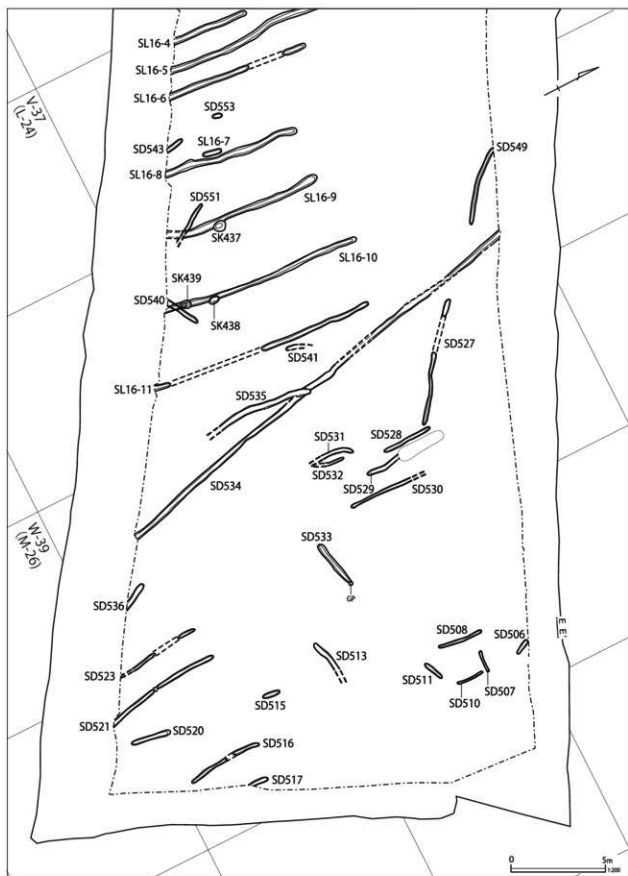
第42図 古墳時代分割図(8)



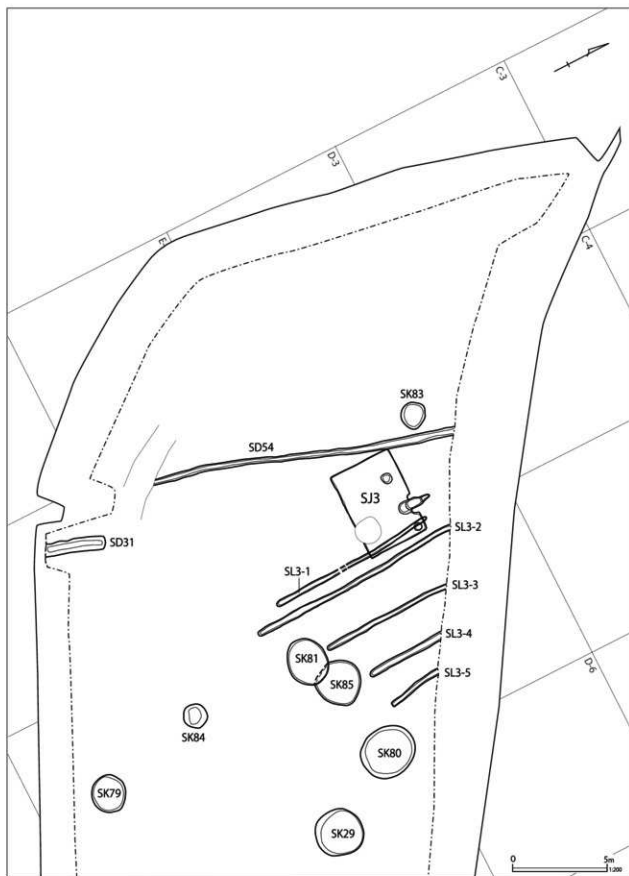
第43図 古墳時代分割図(9)



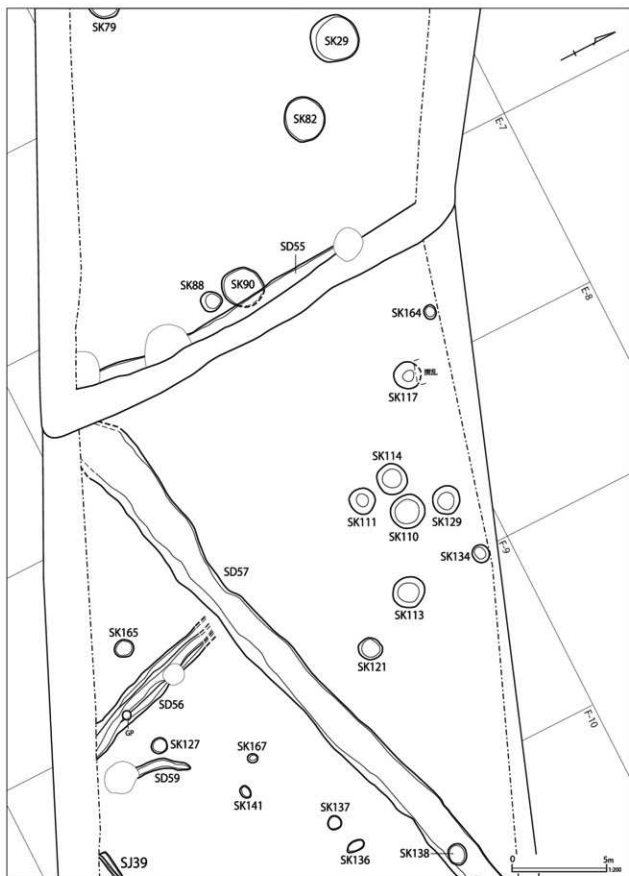
第14図 古墳時代分割図 (10)



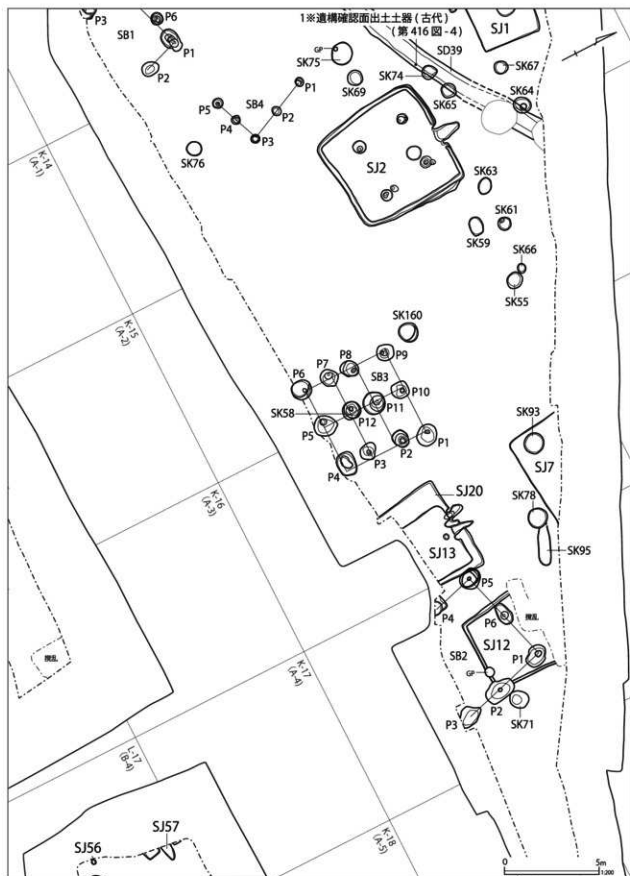
第45図 古墳時代分割図 (11)



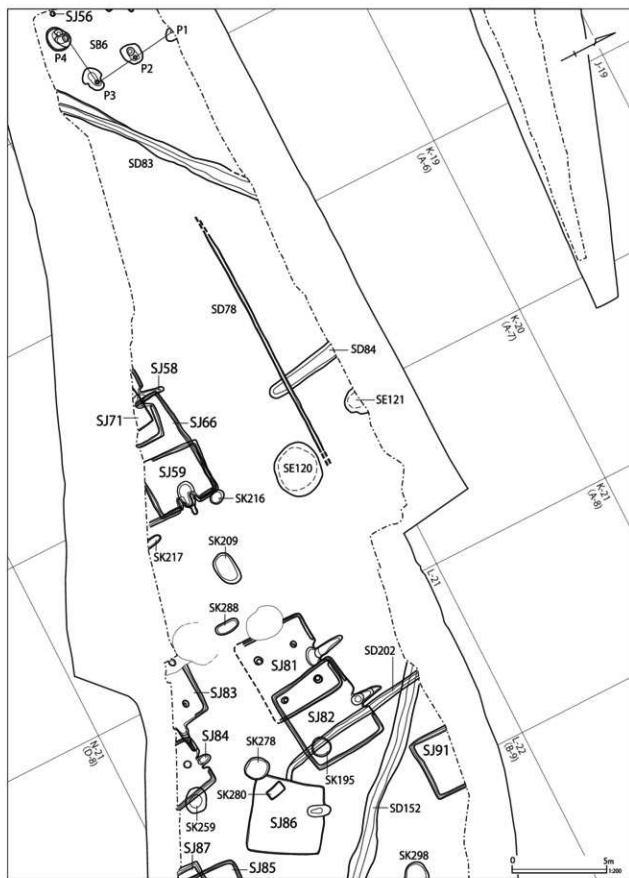
第46図 古代分割図（1）



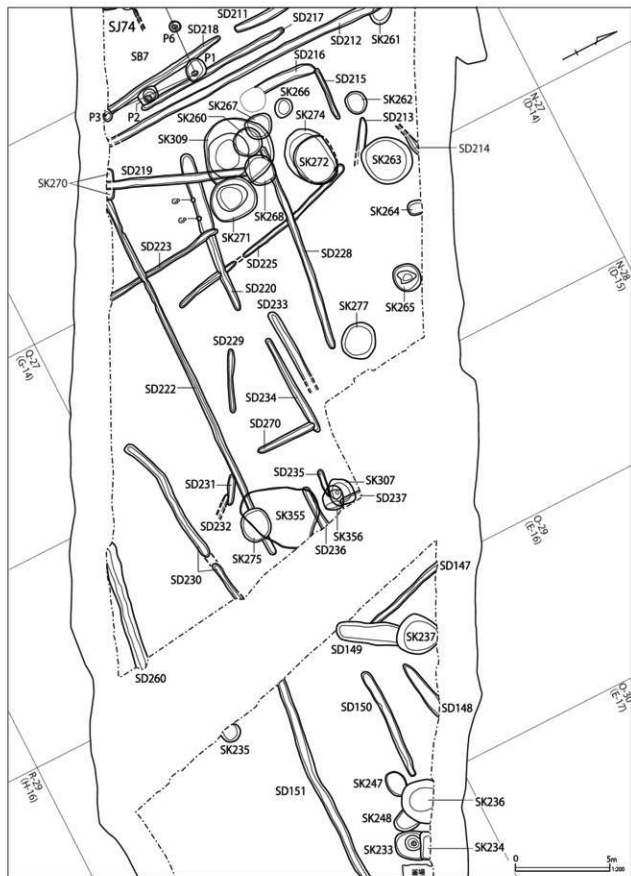
第47図 古代分割図(2)



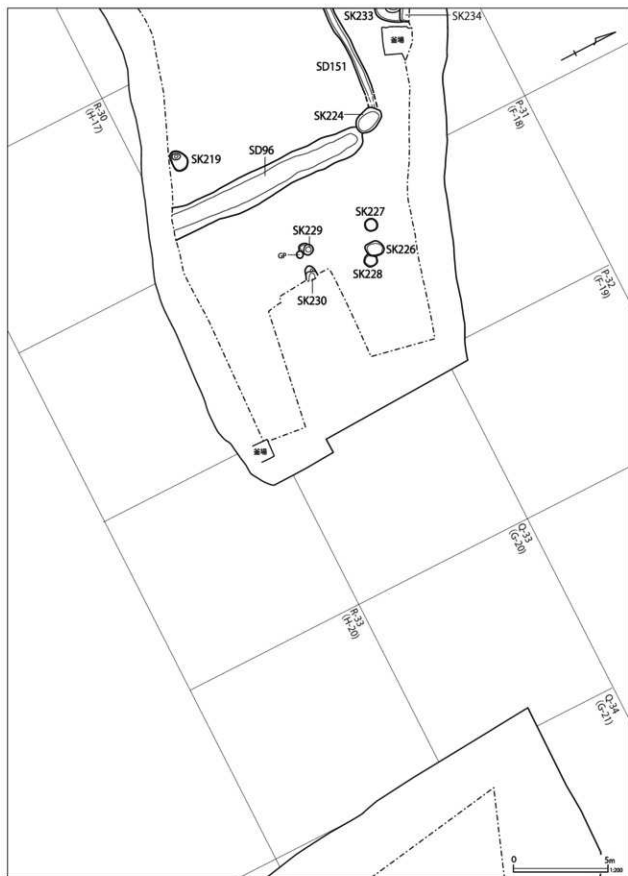
第49図 古代分割図(4)



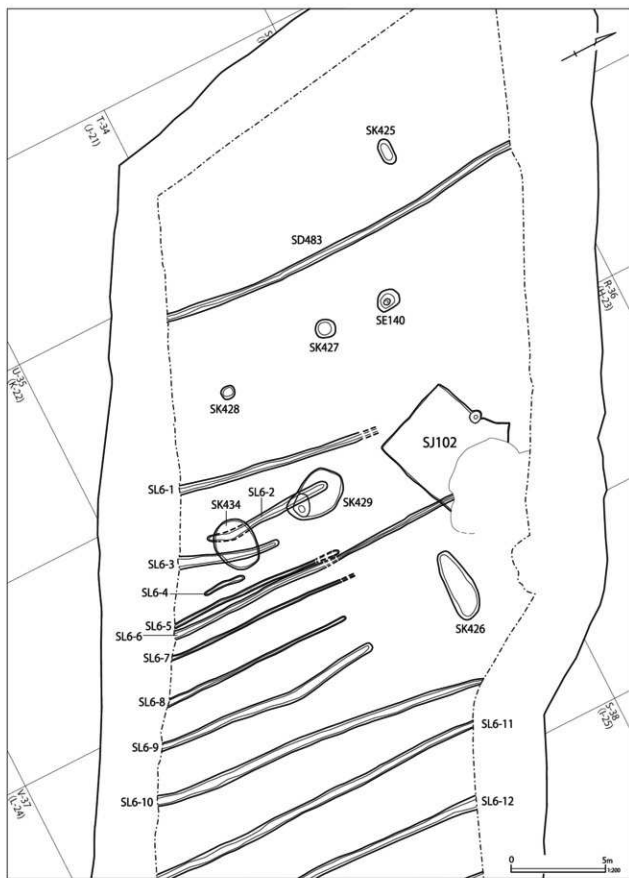
第50図 古代分割図(5)



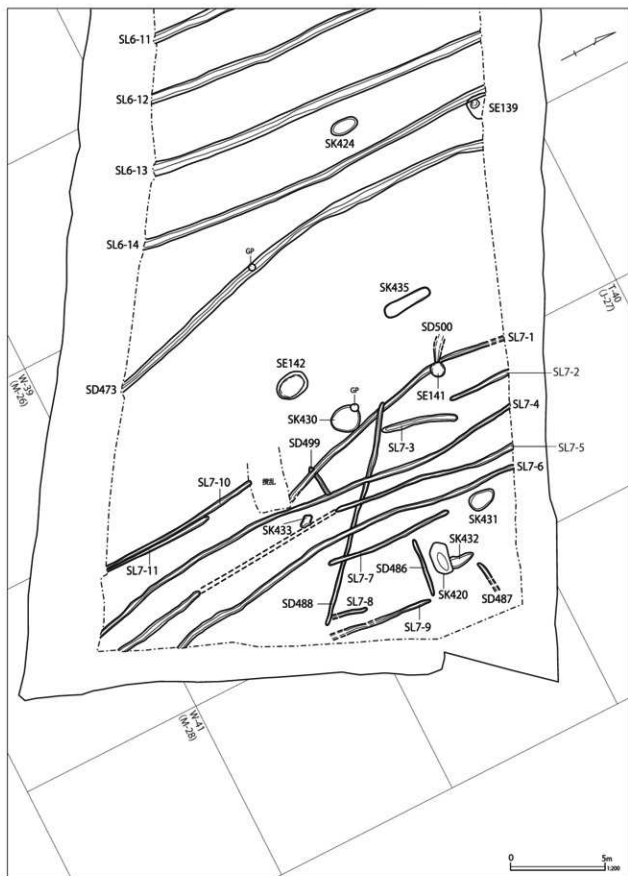
第52図 古代分割図(7)



第53図 古代分割図(8)



第54図 古代分割図(9)



第555図 古代分割図(10)

2 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は、住居跡48軒、井戸跡5基、畠跡9箇所、溝跡181基、土壇83基、遺物集中箇所1箇所、河川跡1条である。

住居跡は遺跡中央部の東西170m程の範囲に集中する形で検出された。5世紀前半から住居跡が造られるようになり、10世紀前半まで連続と集落が営まれる。

6世紀後半から7世紀代にかけて一時的な断絶が認められるが、集落は調査区域外に広がることから、集落の中心が別の場所に移っていたと考えられる。各時代、5～10軒前後の住居跡が存在し、重複が認められる箇所もある。5世紀後半から6世紀前半にかけては住居跡が大型化し、一辺10m近い住居跡も散見される。

東側調査区から検出された、大型の第10号住居跡からは、大量の遺物が出土した。坏や高坏、埴形土器、壺、甕類など、完形のものや残存率が高いものが多く出土している。

大型住居跡ではないが、第6号住居跡からは須恵器蓋の他に把手付甕が出土しており、他にも石製模造品等特殊な遺物が出出されている。

集落の西側からは河川跡が検出されており、河川跡を挟んで西側からは、古墳時代の遺構は検出されていない。河川跡の周辺に当たることから、湿潤な土地となっており、生活の場には適さなかったと推察される。

また、すぐ西側に隣接する宮西遺跡の基本土層からは、古代面の下から洪水砂層が検出されているため、土地そのものが低く、氾濫原となっていた可能性も考えられる。

河川跡の南縁からは、5世紀中葉から6世紀初頭にかけての夥しい量の遺物が出出された。おそらく土器の廃棄場所として使用されていたと考えられる。

河川跡の最終埋没は8世紀代と考えられ、古墳時代を通して、徐々に埋没していった状態であつ

たと推察される。

集落の東側からは、畠跡が検出された。基本土層の状況から、こちらも谷地形になっていたと推察されるが、何度も走行方向を変えながら、耕作が行われている。特にIV区からV区にかけて畠跡が多く検出されており、集落に隣接する地であることから、頻繁に耕作が行われていたと考えられる。

調査区全体で見ると、西側から河川跡、集落、畠跡の順で検出されており、当時の低地における土地利用の一形態を示していると考えられる。基本土層から、おそらく集落域が微高地状に高くなり、その土地に集落が営まれたのであろう。

土壇は集落域から東側で多く検出されており、住居跡および畠跡の分布域と重複する。一部の土壇からは比較的多くの遺物が出土し、第347号土壇からは、須恵器の蓋や壺類も出土した。

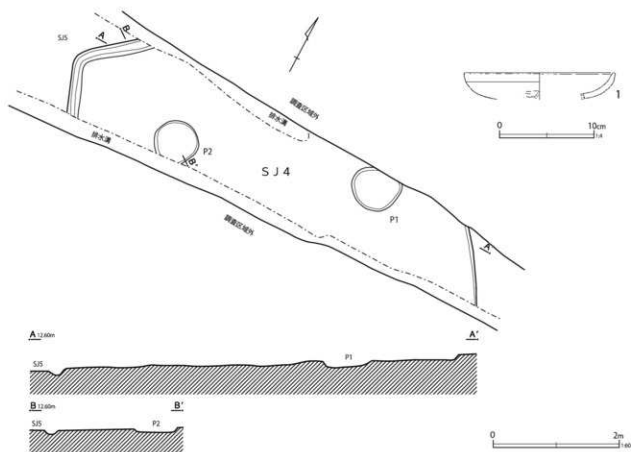
また残存率の高い甕が出土した土壇もあり、第222・223・352・354号土壇からは、全体像がわかるほど残存率の高い甕類が検出されている。

古墳時代中期以前に遡る遺物はほぼ出土していないことから、古墳時代前期まで未開の地であったと推察される。その後、何等かの要因により、古墳時代中期以降に集落が形成されるようになり、長期間存続することから、ある程度安定した生活が送られていたと考えられる。

また中・近世の遺構確認面からではあるが、残存率の高い甕が出土した(第233図10)。5世紀後半のものと考えられ、いずれかの遺構にあったものが、中・近世の段階で掘り返され、廃棄されたと推察される。

(1) 住居跡

古墳時代の住居跡は48軒検出された。時期がわかるもので、5世紀前半が3軒、5世紀中葉が8軒、5世紀後半が12軒、6世紀前半が4軒、6世紀中葉が5軒、7世紀代が4軒と推移する。



第56図 第4号住居跡・出土遺物

第13表 第4号住居跡出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(15.8)	[2.8]	(13.9)	CEK	10	普通	橙	古代	

第4号住居跡（第56図）

第1次調査における東側調査区の東端部、J-18・19グリッドに位置する。第5号住居跡と重複し、本遺構が新しい。調査区域が狭いため、遺構の大部分が調査区域外へ延びるが、残存状況から平面形態は方形であったと考えられる。

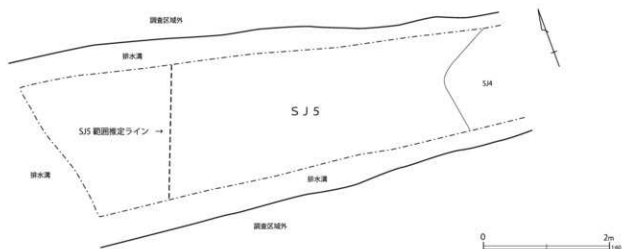
住居跡の規模は、推定で長軸6.05m、短軸4.50m、深さ0.2mを測り、主軸方位はN-18°-Wを指す。覆土は全て削平され、西側の壁溝と、東側の住居跡の立ち上がり部が僅かに残存するのみであった。壁溝は西側コーナー部で検出されたが、東側では確認されなかった。ピットは2基確認されたが、いずれも掘り込みは浅かった。

遺物は土師器の坏が出土した（第56図1）。口径の広いもので、皿になる可能性もある。

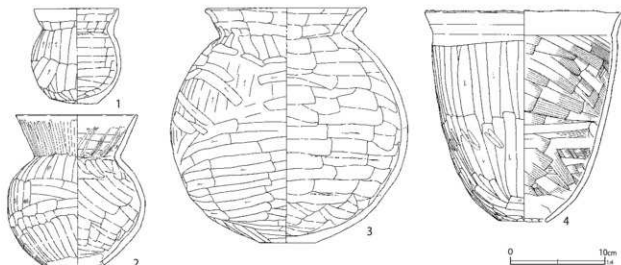
遺物が少量であるため、時期の詳細は不明だが、住居跡の規模が大型であることから、6世紀代の住居跡である可能性がある。

第5号住居跡（第57図）

第1次調査における東側調査区の東端部、J-18・19グリッドに位置する。第4号住居跡と重複し、本遺構が古い。調査区域が狭く、第4号住居跡によって大きく壊されているため、住居の規模や形状は不明である。覆土は全て削平され、壁溝や柱穴等も検出されなかったが、残存率の高い土器が4個体出土した。



第57図 第5号住居跡



第58図 第5号住居跡出土遺物

第14表 第5号住居跡出土遺物観察表 (第58図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	鉢	8.8	10.1	5.1	E H I K	95	普通	にがい橙	外面黒斑有り	73-1
2	土師器	小型壺	12.6	[16.2]	—	C E H I K	90	普通	橙	底部二次穿孔 外面黒斑有り	73-2
3	土師器	甕	17.1	24.8	6.0	C E H I K	100	普通	橙	内外面煤付着 壁面より出土	73-3
4	土師器	瓶	20.8	22.2	4.9	C E G H I K	95	普通	明赤褐		73-4

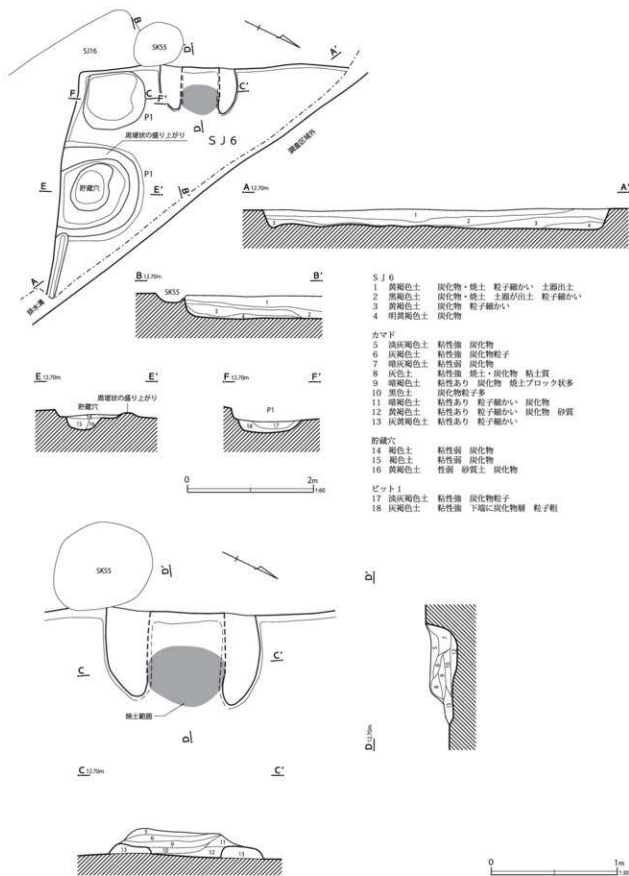
遺物は土師器の鉢・小型壺・甕・瓶等が出土した(第58図1~4)。1は鉢である。2は小型壺で底部が打ち欠かれる。3は球胴形の甕で完形である。4は瓶で胴部下端の付着物が3の甕に転写されることから、重ねて使用されたと考えられる。

遺物の時期は、土師器甕の形状等から5世紀前半から中葉と考えられる。

第6号住居跡 (第59・60図)

第1次調査における東側調査区の中央北壁際、H・I-15・16グリッドに位置する。第16号住居跡と重複し、本遺構が新しい。住居跡の北半部は調査区域外へと延びるため、平面形態は不明である。

規模は検出された範囲で長軸4.28m、短軸4.21m、



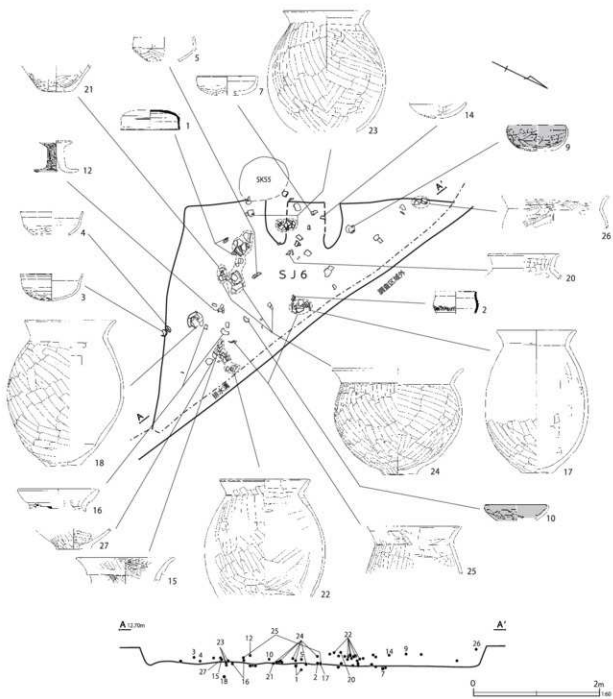
- SJ6
- 1 黄褐色土 炭化物・焼土 粒子細かい 土器出土
 - 2 黒褐色土 炭化物・焼土 土器が出土 粒子細かい
 - 3 黄褐色土 炭化物 粒子細かい
 - 4 明黄褐色土 炭化物

- カマド
- 5 淡灰褐色土 粘性強 炭化物
 - 6 灰褐色土 粘性強 炭化物粒子
 - 7 暗灰褐色土 粘性弱 炭化物
 - 8 灰土 粘性強 焼土・炭化物 粘土質
 - 9 暗褐色土 粘性あり 炭化物 焼土ブロック状多
 - 10 黒色土 炭化物粒子多
 - 11 暗褐色土 粘性あり 粒子細かい 炭化物
 - 12 黄褐色土 粘性あり 粒子細かい 炭化物 砂質
 - 13 灰黄褐色土 粘性あり 粒子細かい

- 貯蔵穴
- 14 褐色土 粘性弱 炭化物
 - 15 褐色土 粘性弱 炭化物
 - 16 黄褐色土 性弱 砂質土 炭化物

- ピット1
- 17 淡灰褐色土 粘性強 炭化物粒子
 - 18 灰褐色土 粘性強 下端に炭化物層 粒子粗

第59図 第6号住居跡



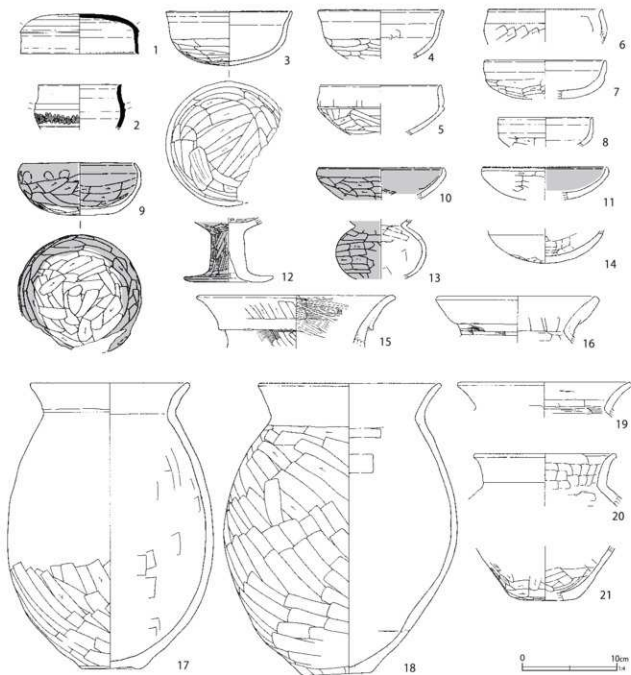
第60図 第6号住居跡遺物出土状況

深さ0.37mを測り、主軸方位は $N-72^{\circ}-E$ を指す。覆土は堆積状況から、西側から東側に向けて徐々に土砂が流れ込み、埋没していったと考えられる。

西壁中央やや南寄りからはカマドが検出された。袖が0.7m程住居内に張り出す形状で、カマドの規

模は全長0.77m、幅0.57m、深さ0.24mを測る。燃焼部は焼土が堆積していた。

南壁中央やや西寄りには周堤状の盛り上がりがあり、規模は長径1.55m、短径1.32m、高さ0.1mであった。周堤状の遺構内には貯蔵穴が設けられ、規模は長径0.85m、短径0.6m、深さ0.15mを測る。



第61図 第6号住居跡出土遺物(1)

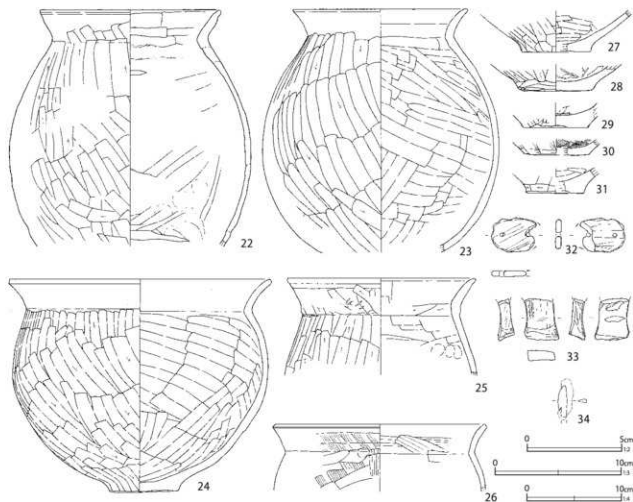
壁溝は南壁の東側で検出されたが、他の箇所では確認されなかった。

ピットは住居跡南西隅から1基検出された。規模は長径0.95m、短径0.9m、深さ0.15mを測り、覆土下層には炭化物層が堆積する。

遺物は須恵器蓋・把手付埴、土師器坏・高坏・埴形土器・小型壺・壺・甕、石製模造品・砥石、

鉄鎌等が出土した(第61・62図1~34)。

1、2は須恵器である。1は蓋で、口唇部に面を持ち、天井部外面には降灰を受ける。胎土には長石粒を含み、硬質に焼成される。TK23段階か。2は把手部分が欠損するが、把手付埴と考えられる。口唇部に面を持ち、外縁は鋭角につまみだされる。体部中央に櫛書き波状文が施文され、内外



第62図 第6号住居跡出土遺物(2)

面ともに綺麗に発色した自然釉がかかる。陶邑の製品か。

3～31は土師器である。3～11は坏で、深身のもの(3, 4)、坏蓋模倣(5)、半球形(10, 11)など、さまざまな形状がある。9, 10は内外面、11は内面に赤彩が施される。8は胎土に緑泥片岩を多く含むため、搬入品と考えられる。

12は高坏で、脚部が半中実で棒状になる。13は埴形土器で、外面に赤彩が施される。14は小型壺の底部と推察される。

15, 16は複合口縁の壺である。15は口縁部が外反し、16は僅かに内湾する。17～31は甕である。17～21は長胴甕で、やや下膨れになる。24は鉢形の甕である。

32は石製模造品の有孔円板である。滑石製で、

2箇所に穿孔される。33は流紋岩製の砥石で、かなり使い込まれ、磨り減っている。

34は鉄鏝で、逆刺をもつ片刃鏝の鏝身部分である。

遺物の時期は、須恵器坏蓋の年代や甕の形状から、5世紀末と考えられる。

第9号住居跡(第63図)

第1次調査における東側調査区の西南端、J-13グリッドに位置する。住居跡の南半部は調査区域外へと延びるため、平面形態は不明である。

規模は、残存部で長軸3.8m、短軸1.25m、深さ0.11mを測り、長軸方位は $N-90^\circ$ を指す。覆土の床面付近からは、薄い炭化層が部分的に検出された。カマドや壁溝、ピット等は検出されなかった。

第15表 第6号住居跡出土遺物観察表 (第61・62図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	蓋	12.5	4.2	—	I	70	良好	灰	No.28・29 天井部外面降灰	73-5
2	須恵器	把手付埴	(8.7)	[4.8]	—	I	40	良好	黄灰	No.47 陶器産か・内外面自然釉	73-6
3	土師器	坏	13.2	5.8	—	CEHIK	80	良好	明赤褐	No.24 内外面煤付着	73-7
4	土師器	坏	(13.0)	[5.1]	—	CEHIK	30	普通	明赤褐	No.43 内外面被熱	73-8
5	土師器	坏	(12.6)	[5.3]	—	CEHIK	30	普通	明赤褐	No.13 内外面共に摩耗が激しい	74-1
6	土師器	坏	(12.0)	[3.7]	—	CGHIK	20	普通	明赤褐		
7	土師器	坏	(12.7)	[4.1]	—	CEHIK	20	普通	赤褐	カマドNo.7 内面口縁部の一部に被熱痕	
8	土師器	坏	(9.8)	[3.2]	—	BGIK	15	普通	にぶい橙	胎土に微細な緑泥片岩の細片を多量に含む・種子圧痕か	
9	土師器	坏	11.9	5.5	—	CGHIK	75	良好	にぶい黄褐	No.3 内外面赤彩	74-2
10	土師器	坏	(12.4)	[3.4]	—	CEHIK	25	普通	にぶい褐	No.14 内外面赤彩	
11	土師器	坏	(13.0)	[3.5]	—	ACEHIJK	20	普通	にぶい褐	内面赤彩	
12	土師器	高坏	—	[6.8]	9.4	ACDHIK	55	普通	明赤褐	No.38	74-3
13	土師器	埴形土器	—	[6.4]	—	CEHIK	40	普通	赤褐	外面赤彩	
14	土師器	小型壺	—	[3.5]	—	CEHIK	45	普通	橙	No.5 外面摩耗が激しい	
15	土師器	壺	(20.0)	[5.7]	—	CEHIK	15	普通	にぶい橙	内面黒斑有り	
16	土師器	壺	(16.4)	[5.0]	—	AHEIK	30	普通	橙	No.18・40	74-4
17	土師器	壺	(16.6)	[30.2]	(6.4)	ACIK	50	普通	にぶい橙	No.46	74-5
18	土師器	甕	19.0	31.0	7.2	ACEGHIK	50	普通	橙	No.48	74-6
19	土師器	甕	(18.0)	[3.7]	—	CEHIK	25	普通	褐灰		
20	土師器	甕	(14.6)	[5.6]	—	CEHIK	25	普通	にぶい赤褐	No.44	
21	土師器	甕	—	[5.8]	7.0	CEHIK	50	普通	灰褐	No.34 底部煤付着	
22	土師器	甕	(19.0)	[25.0]	—	CHIK	25	普通	にぶい黄橙	カマドNo.8~12・14・31 外面黒斑有り	74-7
23	土師器	甕	18.2	[25.7]	—	ACEHIK	35	普通	にぶい黄橙	No.19・20・41	74-8
24	土師器	甕	27.4	22.4	7.4	EHIK	75	普通	浅黄橙	No.8・9・10・11・12・34	75-1
25	土師器	甕	(20.0)	[10.3]	—	CEHIK	25	普通	にぶい黄橙	No.17・46	
26	土師器	甕	(22.2)	[7.1]	—	CEHIK	10	普通	橙	No.1 摩耗が激しい	
27	土師器	甕	—	[4.4]	(7.4)	CDEHIK	30	普通	灰黄褐	No.22	
28	土師器	甕	—	[2.8]	(7.4)	CDEIK	30	普通	にぶい黄橙	外面煤付着	
29	土師器	甕	—	[2.6]	(6.8)	CGHIK	30	普通	にぶい褐		
30	土師器	甕	—	[1.7]	(7.0)	DEHIK	25	良好	明赤褐	内面ハケ目 外面煤付着	
31	土師器	甕	—	[2.6]	(6.0)	CEHIK	25	普通	にぶい褐	外面被熱により摩耗している	
32	石製品	石製模造品	長さ1.8	幅[2.4]	厚さ0.3	重さ2.9g				滑石 有孔円板 穿孔2有り 線条痕多数	102-4
33	石製品	砥石	長さ[4.4]	幅3.7	厚さ1.8	重さ30.1g				流紋岩 砥面4遺存	102-4
34	鉄製品	鉄織	織身長[2.0]	頸部長[0.8]	幅0.7	厚さ0.3	重さ3.4g			片刃箭 逆刺をもつ片刃織の織身部分平造り	102-3

遺物は住居跡の中央部北寄りから比較的まとまって検出され、土師器の高坏・壺等が出土した(第64図1~7)。1、2は高坏で、1は内面に赤彩が施される。

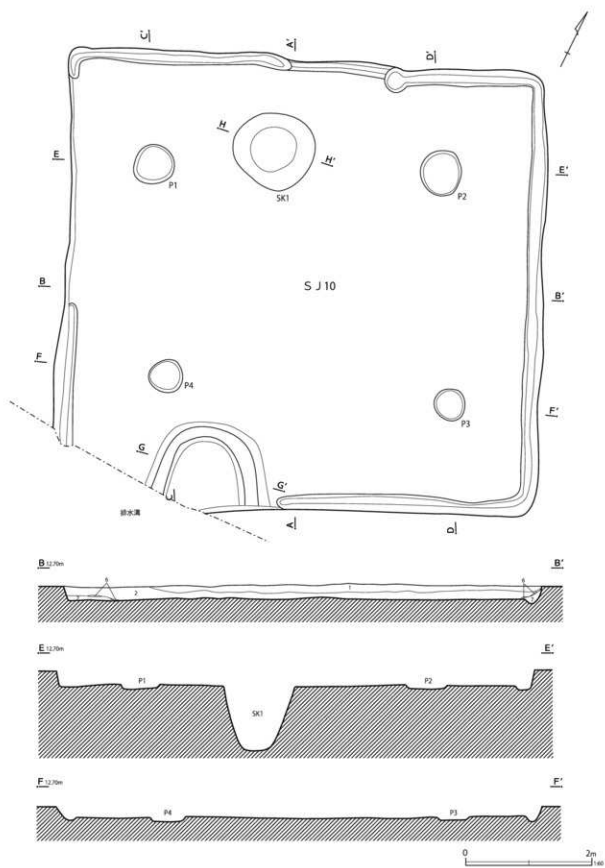
3~7は壺である。3は複合口縁の壺で、内外面に刷毛目調整が施される。

出土遺物量が少ないため詳細な時期は不明だが、坏が無い点などから5世紀代の住居跡である可能性がある。

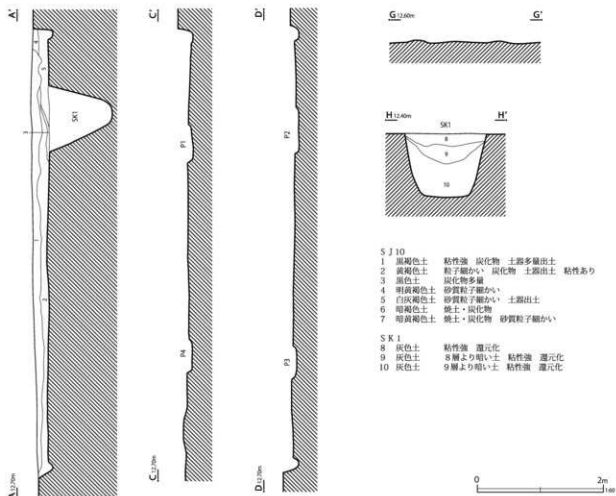
第10号住居跡 (第65~68図)

第1次調査における東側調査区の西寄り、I・J-13・14グリッドに位置する。一辺7.0mを越える大型の住居跡で、住居跡の南西隅は排水溝によって壊される。遺物が非常に多く出土し、完形や残存率の高い個体も多く含まれていた点が特徴的である。

住居跡の平面形態は方形で、規模は長軸7.68m、短軸7.20m、深さ0.30mを測り、長軸方位はN-



第65図 第10号住居跡(1)



第66図 第10号住居跡(2)

70° - Eを指す。覆土の埋没状況から、北西側から徐々に堆積していったと考えられ、全層から土器が大量に出土した。

南壁西寄りには周堤状の盛り上がり認められ、規模は長径1.85m、短径1.42m、深さ0.03mを測る。中央やや北寄りには床下土壌と考えられるやや大型の第1号土壌が位置し、規模は長径1.30m、短径1.20m、深さ0.97mを測る。壁溝は住居跡の西壁北半と周堤状の盛り上がり部以外の箇所で見出され、幅0.19~0.30m、深さ0.03~0.06mを測る。

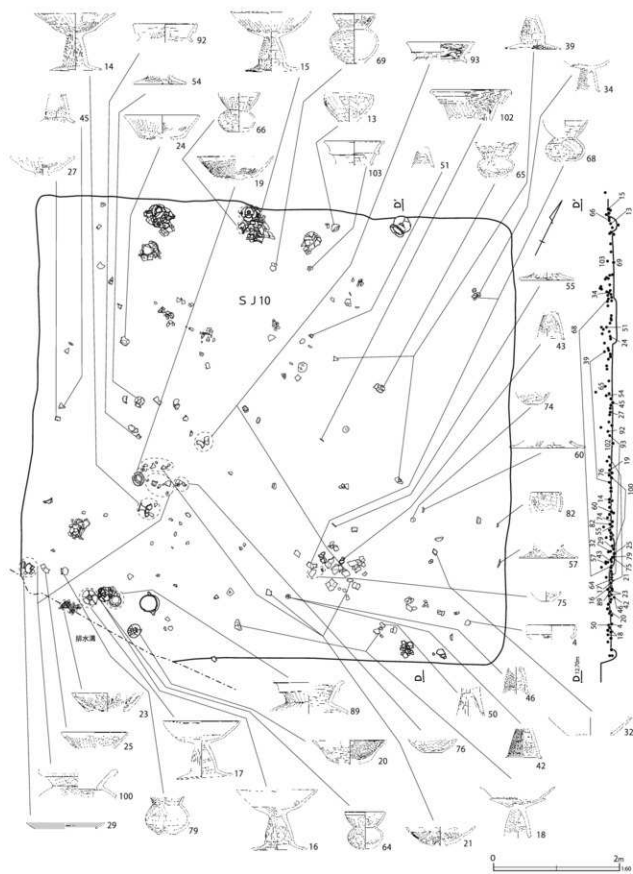
当初は北壁中央部にカマドを想定したが、燃焼部や火床面は検出されなかったため、カマドは無いと判断した。

遺物は住居跡全体から出土した。高坏・埴形土

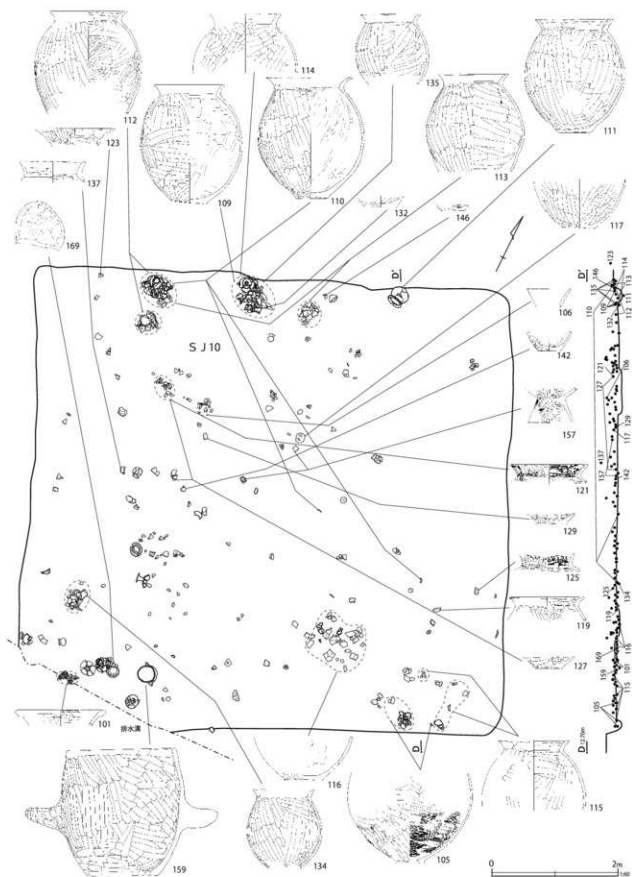
器は住居跡全体から検出されている。甕も全体から出土しているが、残存率の高いものは北壁の中央部付近に集中して分布する。壁沿いに置いた状態で保管されていたのであろうか。

検出された遺物は、土器器坏・埴・高坏・埴形土器・鉢・手捏土器・小型壺・壺・甕・台付甕・瓶、土製品羽口、石製品砥石、鉄製品刀子等である(第69~74図1~170)。

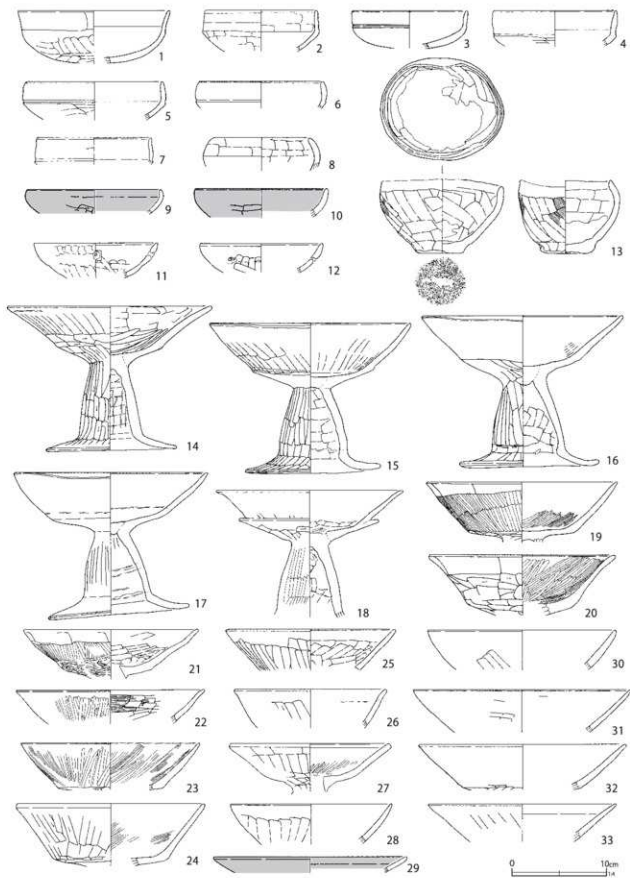
1~12は坏である。2~7は坏蓋模倣坏である。9、10は半球形坏で、内外面に赤彩が施される。9は薄手で口縁部が内湾し、10は厚手で口縁部は開く。11、12は体部に補修痕のような二次穿孔が認められる。13は埴で、歪みの影響か意図的なものか不明だが、口縁部の一部が耳皿状に湾曲する。



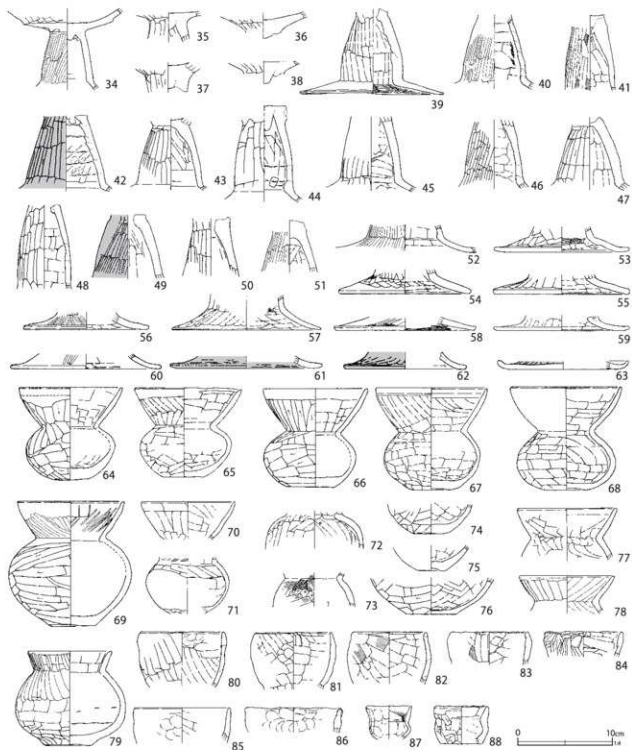
第67図 第10号住居跡遺物出土状況(1)



第68图 第10号住居跡遺物出土状況(2)



第69図 第10号住居跡出土遺物(1)



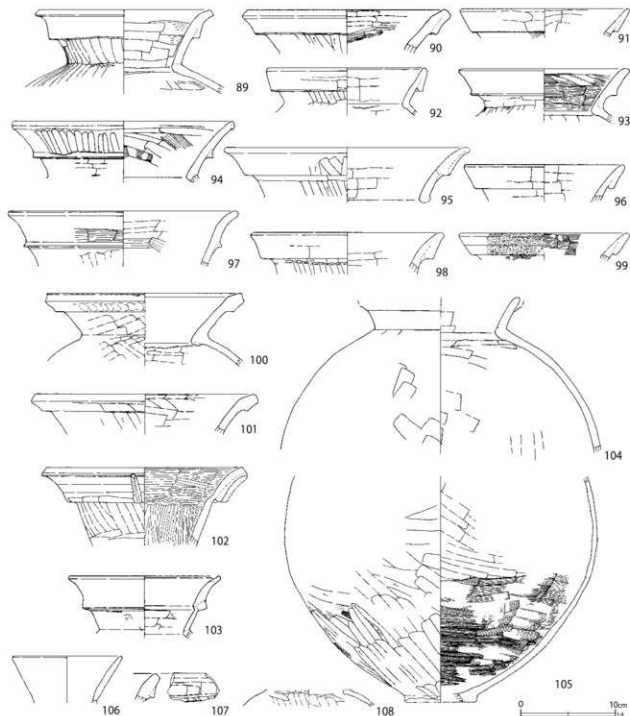
第70図 第10号住居跡出土遺物(2)

内底面が円形に摩耗する。

14～63は高杯である。坏部は立ち上りに段を持ち、脚部はやや膨らむものが多い。18は明確な段を持つ。29、61は内外面に、42、49、62は外面

に赤彩が施される。

64～78は埴形土器である。69、76は大型で鉢または小型壺になる可能性がある。胴部は算盤玉形になるものが多い。73は外面に刷毛目調整が施さ



第71図 第10号住居跡出土遺物（3）

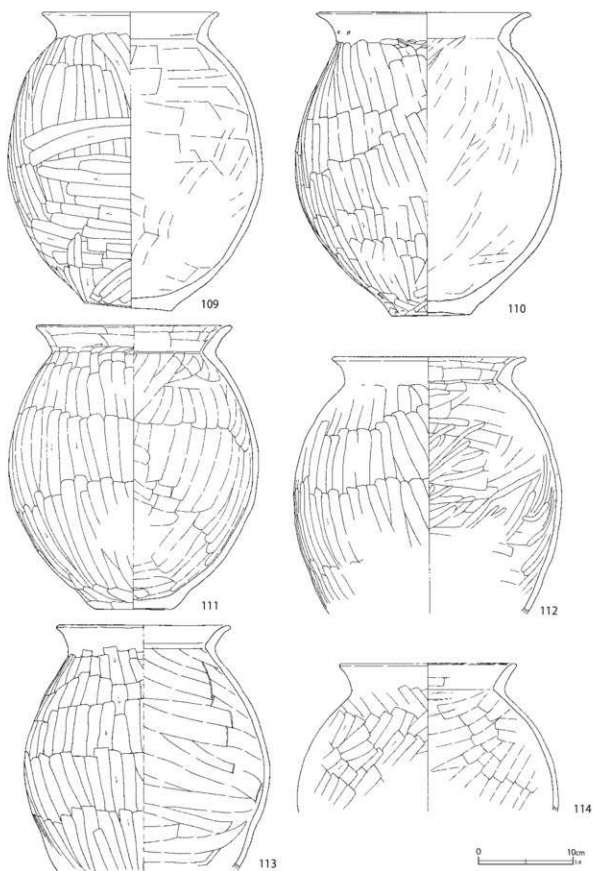
れる。

79は鉢である。埴形土器と比較して口縁部が短く、胴部がやや下膨れになる。口縁部外面には縦方向のミガキが施される。

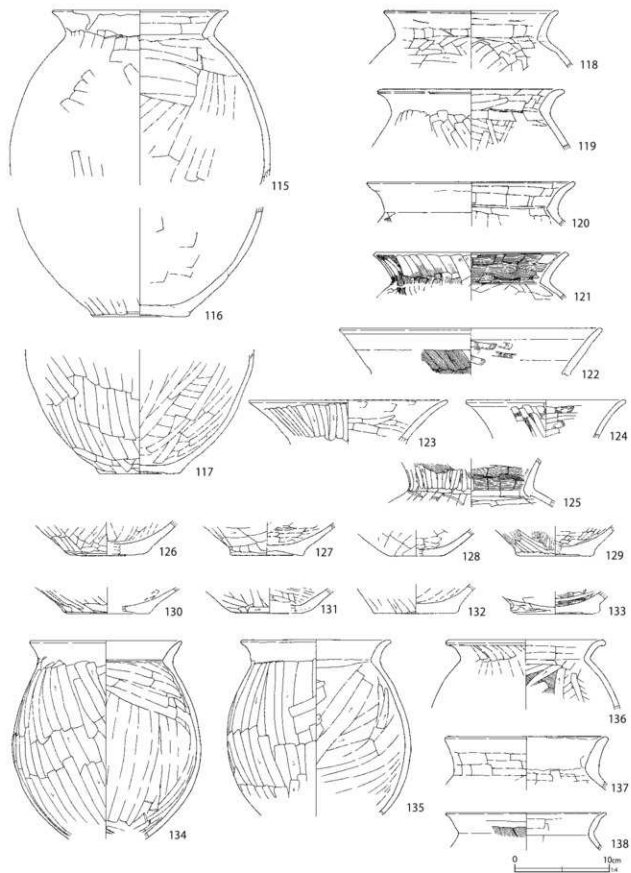
80～88は手捏土器である。中型の製品（80～

86）と、小型の製品（87、88）がある。中型のものは深身でコップ形になり、小型のものは鉢形に近い形状になる。

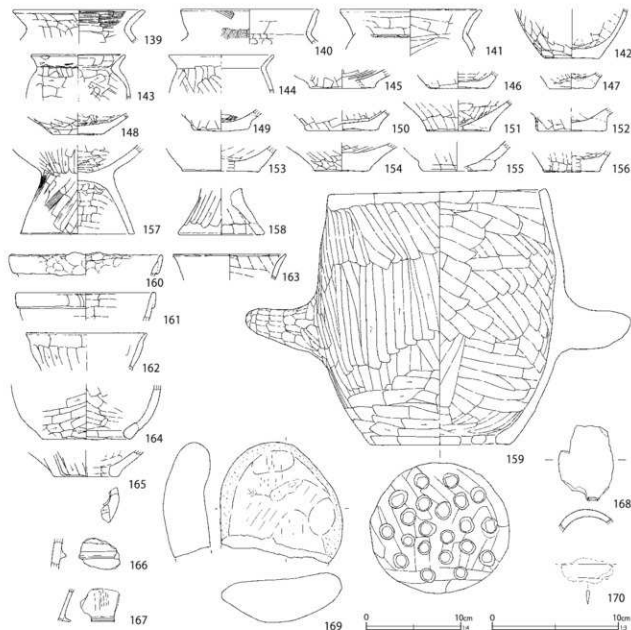
89～108は壺である。89～93、95、96、98、99は複合口縁になり、99は口縁部下半に皺状痕が帯



第72図 第10号住居跡出土物(4)



第73図 第10号住居跡出土遺物(5)



第74図 第10号住居跡出土遺物(6)

状に認められる。100、101は口唇部のみ肥大化する。102は口縁部に棒状浮文が1条のみ貼付される。単位は不明である。106、108は小型壺になる可能性がある。

109～156は甕である。器形はやや縦長になる球胴形で、大型(109～133)と中型(134～142)、小型(143、144)の3種類がある。大型の甕は胴部中位に最大径を持ち、調整にはヘラケズリ及びペラナデが用いられるものが多い。121のみ内

外面に刷毛目調整が施される。122～124は口縁部が長く伸び、123、124は大きく外反するもので、122、124は内外面に刷毛目調整が施される。

中型の甕は胴部中位に最大径を持つが、やや下膨れ気味になる。小型の甕は全体像がわかるものは無かった。

157、158は台付甕である。157は外面に部分的だが刷毛目が認められる。

159～165は瓶である。160～163は小型の鉢形

第17表 第10号住居跡出土遺物観察表 (第69-74図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(16.0)	[5.6]	-	CEGHIK	20	普通	明赤褐	黒斑有り	
2	土師器	坏	(11.6)	[4.4]	-	EHK	25	普通	橙	内外面煤付着	75-3
3	土師器	坏	(12.0)	[4.0]	-	CEGHIK	10	普通	橙		
4	土師器	坏	(13.0)	[3.8]	-	CHIK	5	普通	橙	No.36	
5	土師器	坏	(14.4)	[4.1]	-	CEGHIK	10	普通	橙		
6	土師器	坏	(13.0)	[2.8]	-	CEHIK	10	普通	橙	外面下半煤付着	
7	土師器	坏	(12.0)	[2.8]	-	CHIK	5	普通	明赤褐	外面煤付着	
8	土師器	坏	(10.0)	[3.5]	-	CEHIK	20	普通	橙		
9	土師器	坏	(14.0)	[2.6]	-	CHIK	5	普通	にぶい橙	内外面赤彩	
10	土師器	坏	(13.8)	[3.1]	-		10	普通	にぶい赤褐	内外面赤彩	
11	土師器	坏	(13.0)	[3.8]	-	CEHIK	20	普通	にぶい橙	体部穿孔有 補修痕か 12と同一個体の可能性有り	75-4
12	土師器	坏	(13.0)	[3.1]	-	EHIK	15	普通	にぶい橙	体部穿孔有 補修痕か 11と同一個体の可能性有り	75-5
13	土師器	埴	12.6	7.8	5.2	EIK	95	普通	にぶい橙	No.153 歪みが強い 内底面摩耗	75-6
14	土師器	高坏	21.3	15.3	13.4	BCDGHIK	90	良好	橙	No.8 内外面黒斑有り	75-7
15	土師器	高坏	21.1	15.9	14.4	BCEIK	90	普通	橙	No.9	75-8
16	土師器	高坏	20.9	16.0	14.8	AEGIK	95	普通	明赤褐	No.13 内外面や々摩耗	76-1
17	土師器	高坏	20.1	15.1	14.9	BEIK	95	普通	明赤褐	No.14 内外面ともに摩耗が激しく調整は不明瞭	76-2
18	土師器	高坏	19.6	[13.5]	-	BHIK	80	普通	橙	No.50・106 外面黒斑有り	76-3
19	土師器	高坏	20.0	[6.4]	-	CEHIK	95	良好	明赤褐	No.7 内面上半被熱	76-4
20	土師器	高坏	19.4	[6.4]	-	CEHIK	95	良好	にぶい橙	No.30	76-5
21	土師器	高坏	18.6	[5.2]	-	BHIK	80	普通	橙	No.20・109・136 外面黒斑有り	
22	土師器	高坏	(19.8)	[3.6]	-	CIK	10	普通	にぶい橙		
23	土師器	高坏	(18.8)	[5.0]	-	CEHIK	30	普通	橙	No.143・144	
24	土師器	高坏	(19.8)	[6.5]	-	IK	25	普通	橙	No.63 内外面ともに摩耗	
25	土師器	高坏	(17.6)	[4.3]	-	CEGIK	30	普通	黒褐	No.28	
26	土師器	高坏	(15.8)	[4.1]	-	BEHIK	5	普通	にぶい橙		
27	土師器	高坏	16.9	[5.1]	-	CGIK	25	普通	明赤褐	No.53	
28	土師器	高坏	(17.0)	[4.3]	-	EHIK	20	普通	にぶい橙		
29	土師器	高坏	(20.2)	[1.7]	-	EIG	25	普通	橙	No.27 内外面赤彩	
30	土師器	高坏	(19.8)	[4.2]	-	EHIK	10	普通	橙	内外面ともに摩耗が激しい	
31	土師器	高坏	(22.9)	[4.5]	-	CEGHI	10	普通	にぶい橙	内外面摩耗が激しく調整は不明瞭	
32	土師器	高坏	(21.6)	[4.8]	-	BEGIK	5	普通	明赤褐	No.42 内外面ともに摩耗が激しく調整は不明瞭	
33	土師器	高坏	(20.0)	[4.0]	-	BGHIK	5	普通	明赤褐	内外面ともに摩耗が激しい	
34	土師器	高坏	-	[8.7]	-	BEGHIK	75	普通	明赤褐	No.4	
35	土師器	高坏	-	[3.3]	-	BCEIK	80	普通	にぶい橙		
36	土師器	高坏	-	[2.8]	-	EIK	30	普通	橙		
37	土師器	高坏	-	[3.3]	-	CDHIK	80	普通	橙		
38	土師器	高坏	-	[2.4]	-	EIK	60	普通	橙		
39	土師器	高坏	-	[9.0]	(15.0)	BEIK	55	普通	橙	No.47・83	
40	土師器	高坏	-	[7.9]	-	HIK	40	普通	明赤褐		
41	土師器	高坏	-	[8.1]	-	CGHIK	25	普通	にぶい橙		
42	土師器	高坏	-	[8.0]	-	BEIK	75	普通	明赤褐	No.49 外面赤彩	
43	土師器	高坏	-	[7.6]	-	EHIK	55	普通	橙	No.24 内外面煤付着	
44	土師器	高坏	-	[10.2]	-	BEIK	35	普通	橙		
45	土師器	高坏	-	[8.0]	-	BIK	25	普通	橙	No.54 外面摩耗が激しい 内外面一部煤付着	
46	土師器	高坏	-	[7.3]	-	EHIK	45	普通	橙	No.49	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
47	土師器	高坏	—	[7.7]	—	CGHIK	80	普通	橙		
48	土師器	高坏	—	[8.9]	—	CEHIK	30	普通	橙		
49	土師器	高坏	—	[6.8]	—	BI	30	普通	にぶい赤褐	外面赤彩	
50	土師器	高坏	—	[6.1]	—	CEIK	70	普通	にぶい褐	No.91	
51	土師器	高坏	—	[5.5]	—	BIK	60	普通	にぶい橙	No.82	
52	土師器	高坏	—	[2.9]	—	CEIK	25	普通	橙		
53	土師器	高坏	—	[2.7]	(14.2)	EHIK	50	普通	淡橙		
54	土師器	高坏	—	[2.6]	14.0	CHIK	90	普通	橙	No.58 黒斑有り	
55	土師器	高坏	—	[2.1]	(14.1)	BHIK	35	普通	にぶい橙	No.25	
56	土師器	高坏	—	[1.8]	(12.8)	EHIK	15	普通	にぶい橙		
57	土師器	高坏	—	[3.7]	(15.8)	CEGIK	25	普通	にぶい橙	No.40 外面付着	
58	土師器	高坏	—	[1.4]	(14.6)	BCEHIK	10	普通	にぶい褐		
59	土師器	高坏	—	[1.6]	(14.4)	EHIK	25	普通	にぶい橙		
60	土師器	高坏	—	[1.6]	(16.0)	CEGHIK	10	普通	にぶい橙	No.115	
61	土師器	高坏	—	[1.3]	(16.2)	CEGHI	10	普通	赤褐	内外面赤彩	
62	土師器	高坏	—	[1.8]	(13.1)	CEGHIK	30	普通	明赤褐	外面赤彩	
63	土師器	高坏	—	[0.9]	(14.0)	HIK	20	普通	明褐灰	外面黒斑有り	
64	土師器	増形土器	10.8	9.8	3.9	ACEHIK	95	普通	にぶい赤褐	No.145	76-6
65	土師器	増形土器	11.2	9.4	4.4	ACGHI	90	普通	橙	No.2 外面黒斑有り	76-7
66	土師器	増形土器	11.0	10.4	5.0	ACHIK	90	普通	明赤褐	No.10・147	76-8
67	土師器	増形土器	11.7	10.8	4.9	AHIK	85	普通	にぶい橙	内外面黒斑有り	76-9
68	土師器	増形土器	11.6	10.9	4.4	DEHK	80	普通	にぶい黄橙	No.6・22 内面に種子圧痕か	77-1
69	土師器	増形土器	11.2	8.2	4.8	CEHIK	100	良好	橙	No.152 体部外面に種子圧痕が見られる	77-2
70	土師器	増形土器	(9.9)	[4.0]	—	CEGIK	10	普通	にぶい橙		
71	土師器	増形土器	—	[5.9]	—	CHIK	30	普通	にぶい褐		
72	土師器	増形土器	—	[3.9]	—	CHIK	15	普通	明赤褐	内面種子圧痕有り	
73	土師器	増形土器	—	[3.7]	—	EHIK	20	普通	にぶい橙		
74	土師器	増形土器	—	[3.2]	4.0	CEHIK	80	普通	にぶい赤褐	No.44 外面黒斑有り	
75	土師器	増形土器	—	[2.7]	2.4	CEGIK	45	普通	にぶい黄橙	No.112 内外面ともに摩耗が激しい	
76	土師器	増形土器	—	[3.9]	5.2	CEHIK	55	普通	にぶい橙	No.133	
77	土師器	増形土器	(10.4)	[5.5]	—	CHIK	5	普通	明赤褐		
78	土師器	増形土器	(10.0)	[4.0]	—	CEHIK	30	普通	赤褐		
79	土師器	鉢	8.6	10.0	4.8	CEHIK	100	良好	にぶい橙	No.18 外面黒斑有り	77-3
80	土師器	手捏土器	(8.6)	[5.8]	—	EI	20	普通	褐灰		
81	土師器	手捏土器	(8.0)	[6.0]	—	CEHIK	20	普通	にぶい黄橙		
82	土師器	手捏土器	(7.6)	[5.5]	—	CHI	10	普通	にぶい橙	No.45	
83	土師器	手捏土器	(8.0)	[3.5]	—	CEHIK	15	普通	褐灰		
84	土師器	手捏土器	(8.0)	[2.7]	—	CHIK	25	普通	灰褐		
85	土師器	手捏土器	(10.0)	[3.7]	—	CEHIK	5	普通	褐灰		
86	土師器	手捏土器	(9.8)	[2.6]	—	CHIK	5	普通	にぶい赤褐		
87	土師器	手捏土器	4.6	[3.5]	—	EHIK	60	普通	にぶい黄橙		77-4
88	土師器	手捏土器	(5.4)	4.0	(4.2)	EHIK	30	普通	にぶい赤褐	内面の摩耗が激しい	77-5
89	土師器	壺	18.1	[8.9]	—	ACEHIK	90	普通	にぶい赤褐	No.12	77-6
90	土師器	壺	(21.0)	[4.7]	—	CEHIK	10	普通	橙		
91	土師器	壺	(17.4)	[3.1]	—	EHI	5	普通	にぶい橙		
92	土師器	壺	(16.4)	[5.1]	—	EHIK	10	普通	橙	No.56	
93	土師器	壺	(17.4)	[5.7]	—	ACEHIK	50	普通	橙	No.110・139	
94	土師器	壺	(23.0)	[6.5]	—	EIK	20	普通	にぶい橙		
95	土師器	壺	(25.6)	[5.9]	—	BCEGHIK	5	普通	にぶい橙	口唇部内縁磨減	
96	土師器	壺	(16.6)	[4.0]	—	BEIK	10	普通	橙		

宮東遺跡

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
97	土師器	壺	(23.6)	[6.9]	—	B I K	15	普通	浅黄橙		
98	土師器	壺	(19.6)	[4.4]	—	B E I K	10	普通	赤褐		
99	土師器	壺	(17.2)	[2.9]	—	C G H I K	5	普通	橙		
100	土師器	壺	(20.3)	[7.7]	—	B E I K	40	普通	橙	No.27・134	77-7
101	土師器	壺	(23.0)	[4.3]	—	E H I K	15	普通	褐灰	No.143・144	
102	土師器	壺	(20.8)	[8.3]	—	C E H I K	40	不良	明褐色	No.116	77-8
103	土師器	壺	(15.6)	[6.6]	—	C E G K	10	普通	明赤褐	No.97	
104	土師器	壺	—	[27.9]	(10.5)	C E H I K	30	普通	にぶい橙	No.108・111・112 器面の摩耗が激しく調整は不明瞭	
105	土師器	壺	—	[23.9]	(7.3)	C E H I K	25	普通	にぶい橙	No.34・102・103 外面黒斑有り	
106	土師器	壺	(11.2)	[5.0]	—	C E G I	90	普通	にぶい橙	No.70 外面黒斑有り	
107	土師器	壺	—	[3.0]	—	C E H I K	5	普通	にぶい橙		
108	土師器	壺	—	[1.9]	—	C E G H I	25	普通	にぶい橙	外面煤付着	
109	土師器	甕	18.5	31.5	9.3	C E H I K	90	普通	橙	No.11・147・149・150 黒斑有り 内面煤付着	77-9
110	土師器	甕	21.9	32.1	8.2	C D H I K	95	普通	灰褐	No.15・115・116・146 胴部外面上半煤付着 内底面にも煤付着	77-10
111	土師器	甕	(21.0)	30.0	8.0	C E H I K	95	普通	にぶい橙	No.142 乾燥か歪みがとても強い	78-1
112	土師器	甕	20.0	[27.1]	—	B E H I K	55	普通	暗褐	No.19・146 外面全体煤付着	78-2
113	土師器	甕	18.0	[25.8]	—	C G H I K	70	普通	橙	No.146・151 煤付着	
114	土師器	甕	(18.2)	[15.7]	—	E H I K	30	普通	浅黄橙	No.147・150 内外面煤付着	
115	土師器	甕	(18.2)	[18.5]	—	B C E I K	25	普通	にぶい橙	No.33・35・36・37・39 口唇部外縁の摩耗および剥離が激しい	
116	土師器	甕	—	[27.9]	(10.5)	C E H I K	30	普通	にぶい橙	No.107・110・113・114 器面の摩耗が激しく調整は不明瞭	
117	土師器	甕	—	[13.1]	8.6	B C E H I	40	普通	にぶい赤褐	No.84 外面煤付着	
118	土師器	甕	(18.0)	[6.2]	—	B I K	20	普通	にぶい橙		
119	土師器	甕	(19.2)	[6.5]	—	C E H I	30	普通	明赤褐	No.43	
120	土師器	甕	(21.8)	[4.7]	—	B C I K	20	普通	明赤褐		
121	土師器	甕	(21.0)	[5.1]	—	C E G H I K	40	普通	橙	No.66	
122	土師器	甕	(27.2)	[5.2]	—	C E H I K	5	普通	にぶい橙		
123	土師器	甕	(20.8)	[4.7]	—	C E H I K	20	普通	明赤褐	No.98	
124	土師器	甕	(16.6)	[4.1]	—	C H I K	10	普通	明赤褐		
125	土師器	甕	—	[5.2]	—	B G H I K	30	普通	にぶい橙	No.46	
126	土師器	甕	—	[3.6]	(9.0)	D E G I K	25	普通	明赤褐	長石粒(バミス)を多く含む 内面煤付着	
127	土師器	甕	—	[3.5]	7.5	B C G H I K	80	普通	にぶい橙	No.60・66	
128	土師器	甕	—	[2.8]	(5.8)	C E H I K	15	普通	にぶい橙	外面煤付着	
129	土師器	甕	—	[3.2]	7.6	B I K	50	普通	にぶい褐	No.67	
130	土師器	甕	—	[2.8]	(8.6)	E G I K	25	普通	浅黄橙	内外面ともに摩耗が激しい	
131	土師器	甕	—	[2.7]	(8.0)	H I K	25	普通	にぶい赤褐		
132	土師器	甕	—	[3.1]	9.2	B I K	60	普通	赤	No.150 内面種子圧痕有り	
133	土師器	甕	—	[2.4]	(9.2)	C E G H I K	25	普通	にぶい橙		
134	土師器	甕	15.8	[21.0]	—	C E H I K	95	良好	橙	No.141 外面煤付着 黒斑有り	78-3
135	土師器	甕	(16.0)	[18.5]	—	A I K	80	普通	明赤褐	No.9・11・148・150 外面煤付着	78-4
136	土師器	甕	(16.2)	[7.4]	—	H I K	20	普通	にぶい橙	内面黒斑有り	
137	土師器	甕	(16.6)	[5.7]	—	C E I K	30	普通	明赤褐	No.57	
138	土師器	甕	(16.7)	[4.0]	—	C E I K	10	普通	明赤褐		
139	土師器	甕	(13.2)	[3.6]	—	E I K	20	普通	橙	内外面ともに煤付着	
140	土師器	甕	(14.2)	[3.7]	—	C E H I K	5	普通	褐		
141	土師器	甕	(13.8)	[5.0]	—	C E H I K	10	普通	明赤褐		
142	土師器	甕	—	[5.2]	5.6	C E H I K	50	普通	にぶい橙	No.137	
143	土師器	甕	(9.8)	[4.8]	—	C E G I	10	普通	にぶい橙		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
144	土師器	甕	(10.8)	[4.1]	—	CDEGI	15	普通	褐灰		
145	土師器	甕	—	[2.0]	(6.6)	B I K	30	普通	にぶい橙		
146	土師器	甕	—	[1.8]	6.1	E I K	60	普通	橙	No.154 内面全体煤付着	
147	土師器	甕	—	[1.7]	(4.6)	E I K	45	普通	にぶい赤褐		
148	土師器	甕	—	[2.3]	4.7	CEGHIK	60	普通	橙	底部の摩耗が激しい	
149	土師器	甕	—	[2.3]	5.8	CEGHIK	55	普通	明赤褐	内面煤付着	
150	土師器	甕	—	[2.2]	(6.8)	CEHIK	25	普通	にぶい褐		
151	土師器	甕	—	[3.3]	(6.6)	BCEIK	40	普通	にぶい橙	内面煤付着	
152	土師器	甕	—	[2.5]	(7.2)	CEIK	45	普通	明褐灰		
153	土師器	甕	—	[2.8]	(8.0)	DEHIK	10	普通	にぶい褐	胎土に長石粒を多く含む。内面煤付着 器面の摩耗が激しい	
154	土師器	甕	—	[3.0]	(5.8)	E I K	25	普通	にぶい橙	外面煤付着	
155	土師器	甕	—	[3.1]	(7.0)	B I K	20	普通	にぶい橙	内面摩耗が激しい	
156	土師器	甕	—	[2.1]	(6.0)	EHIK	25	普通	褐灰		
157	土師器	台付甕	—	[9.5]	(11.8)	BCEGIK	40	普通	橙	No.85・118 外面黒斑	
158	土師器	台付甕	—	[4.9]	(8.8)	E I K	45	普通	にぶい赤褐		
159	土師器	甕	28.0	26.8	15.0	CEHIK	80	普通	橙	No.16 多孔式 21孔	78-5
160	土師器	甕	(16.0)	[2.2]	—	CEHIK	5	普通	にぶい褐		
161	土師器	甕	(14.6)	[3.0]	—	CHIK	5	普通	にぶい橙	甕の可能性ある	
162	土師器	甕	(12.6)	[4.0]	—	CHI	10	普通	にぶい赤褐	外面煤付着	
163	土師器	甕	(11.6)	[2.8]	—	HIK	40	普通	橙		
164	土師器	甕	—	[5.8]	(9.0)	CDI	10	普通	明赤褐	単孔式	
165	土師器	甕	—	[2.8]	(6.6)	EHIK	20	普通	にぶい黄褐	多孔式か	
166	土師器	器種不明	—	[3.2]	—	EHIK	5	普通	にぶい橙		
167	土師器	器種不明	—	[3.5]	—	CEHIK	5	普通	にぶい赤褐		
168	土師器	羽口	長さ[8.0]	幅[5.8]	厚さ0.7	重さ45.0g		明赤褐	高坏を転用		102-2
169	石製品	砥石	長さ[12.8]	幅[13.0]	厚さ4.5	重さ1031.4g			No.17 角閃石安山岩 密着 使用面1		102-4
170	鉄製品	刀子	刃長[4.0]	刃幅1.1	背幅0.2	重さ9.4g			刃部破損		102-3

になるものと推察され、159、164、165は大型になると考えられる。159は把手付甕で、胴部は瓶形になり、底部は平底で、小孔が多数穿たれる多孔式甕である。164は単孔式甕で、165は底部の穿孔が小孔になると推察されることから、多孔式甕である可能性がある。

166、167は不明品で、外面に突帯が廻る。

168は高坏の脚部転用羽口である。先端は被熱により溶化する。

169は角閃石安山岩製の砥石で、磨痕が認められる。

170は鉄製品の刀子で、刃部は破損している。

遺物の時期は、坏の出土量が少ないこと、高坏の脚部に膨らみがあること、甕が球胴形に近い形状であることなどから、5世紀中～後半と考えられる。

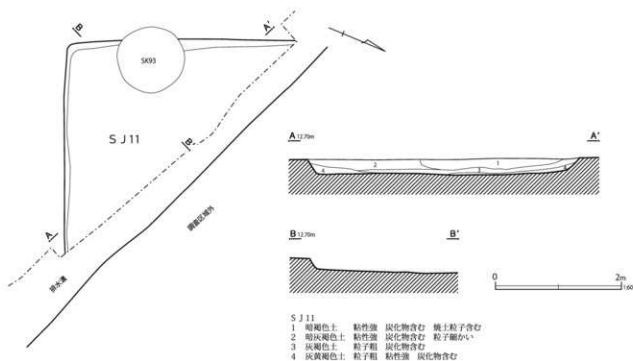
第11号住居跡（第75図）

第1次調査における東側調査区の中央やや東寄りのI-16グリッドに位置し、第93号土壇と重複する。住居跡の北半部は調査区域外へと延びるため、平面形態は不明である。

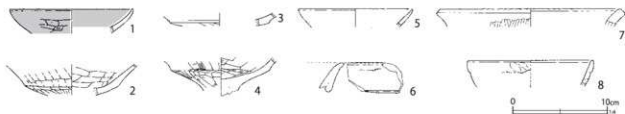
規模は、残存部で長軸3.62m、短軸3.33m、深さ0.25mを測り、長軸方位はN-23°-Wを指す。覆土は炭化物を含む暗褐色土や灰褐色土が互層状に堆積する。カマドや壁溝、ピット等は検出されなかった。

遺物は土師器の坏・高坏・埴形土器・壺・甕等が出土した（第76図1～8）。1は坏で、内外面に赤彩が施される。2～4は高坏である。いずれも立ち上がり部に段を持つものである。5は破片だが、埴形土器の可能性ある。

6、7は壺で、いずれも破片である。8は鉢形



第75図 第11号住居跡



第18表 第11号住居跡出土遺物観察表 (第76図)

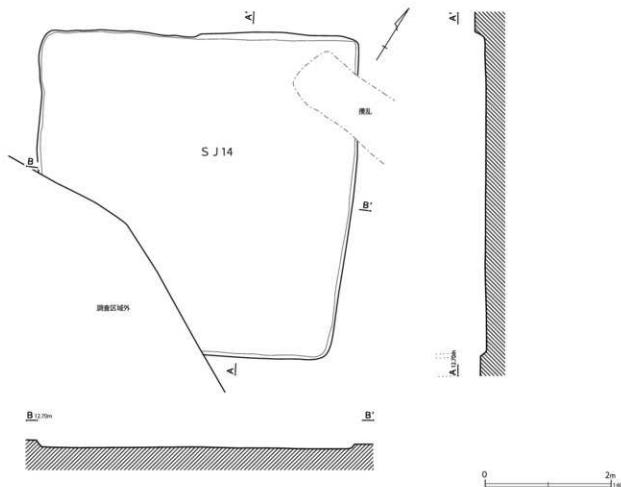
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(13.0)	[2.6]	-	CEHIK	5	普通	にぶい橙	内外面赤影	
2	土師器	高坏	-	[3.3]	-	CEHIK	20	普通	にぶい橙	内面黒灰有り	
3	土師器	高坏	-	[1.4]	-	CEHIK	5	普通	にぶい橙		
4	土師器	高坏	-	[4.0]	-	EHIK	30	普通	橙		
5	土師器	増型土器か	(12.0)	[2.0]	-	CHI	5	普通	明赤褐		
6	土師器	壺	-	[3.1]	-	CEHIK	5	普通	にぶい橙		
7	土師器	壺	(19.0)	[1.9]	-	CDEHIK	10	普通	にぶい橙		
8	土師器	瓶か	(13.0)	[2.7]	-	CHIK	5	普通	橙		

になる小型瓶の可能性もある。

全体像がわかる遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、高坏の形状や、壺がある点などから5世紀後半代の住居跡である可能性がある。

第14号住居跡 (第77・78図)

第1次調査における東側調査区の東寄り、I・J-16・17グリッドに位置する。住居跡の南西部は調査区域外へと延びる。



第77図 第14号住居跡

住居跡の平面形態は方形で、規模は長軸5.18m、短軸5.05m、深さ0.15mを測り、長軸方位はN-29° -Wを指す。

覆土と地山の識別ができず、周辺を面的に掘り下げたところ、遺物がまよって検出された。遺物が出土した高さで掘り下げを止め、周辺を精査した結果、立ち上がりが確認されたことから住居跡と判断した。

カマドや壁溝、ビット等は検出されなかった。

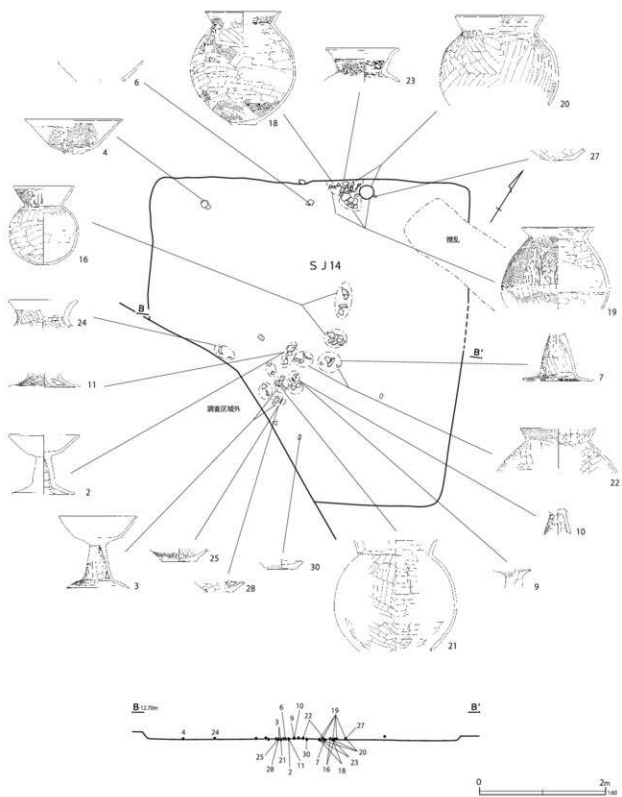
遺物は住居跡中央部と北壁中央付近からまよって検出され、土師器杯・高坏・小型壺・壺・甕、鋸等が出土した(第79・80図1~33)。1は坏で、深身になる。2~12は高坏である。2、3は脚部が膨らみを持たず、直線的に広がる。5は

内外面に刷毛目調整が施される。

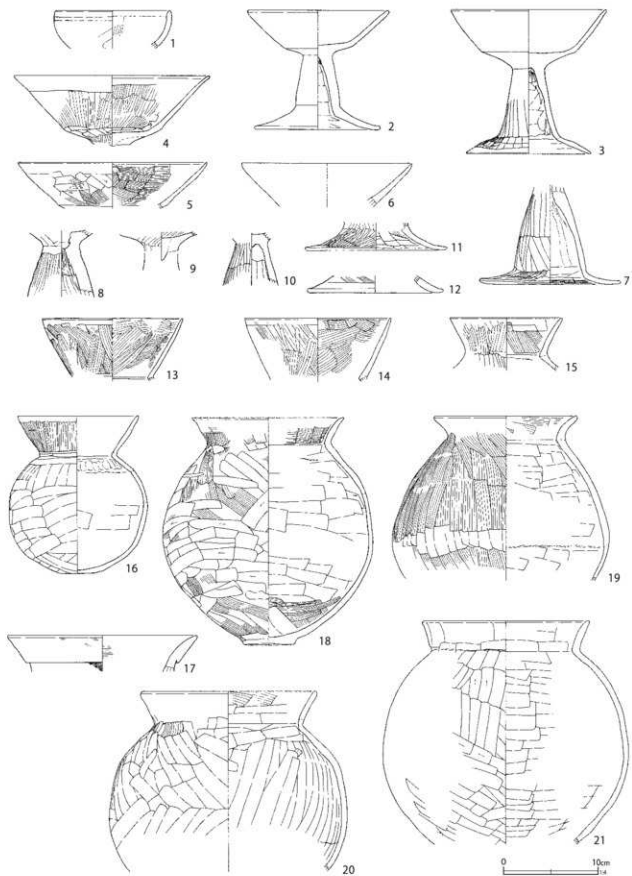
13~16は小型壺である。口縁部から頸部にかけて、ミガキまたは刷毛目調整が施される。17は複合口縁の壺である。18~32は甕である。18~21は球形で、18、19は外面および口縁部内面に刷毛目調整が施され、19は胴部がやや算盤玉形になる。22はやや大型の甕か。23、24は口縁部が長く伸びる。31はやや小型の甕である。

33は鉄製品の鋸である。覆土中から出土した。出土位置がわからないため、本住居跡に帰属するものかは不明だが、直歯でアサリが無い等古い特徴を持つ。

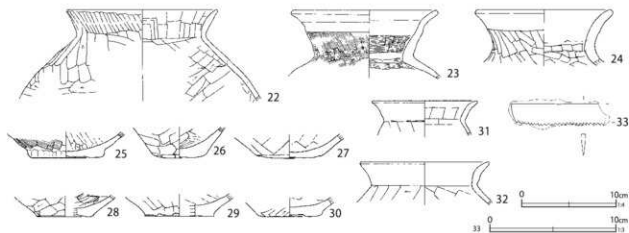
遺物の時期は、高坏や甕の形状から5世紀前葉から中葉と考えられる。



第78図 第14号住居跡遺物出土状況



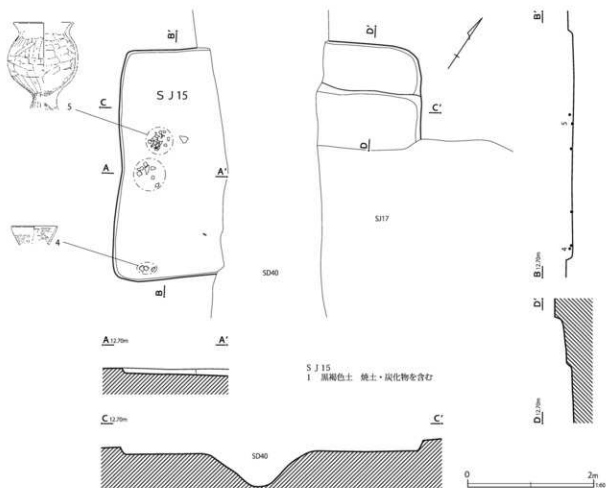
第79図 第14号住居跡出土遺物(1)



第80図 第14号住居跡出土遺物(2)

第19表 第14号住居跡出土遺物観察表 (第79・80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
1	土師器	坏	(12.0)	[4.0]	—	CEHIK	5	普通	にぶい黄橙			
2	土師器	高坏	14.8	12.6	(12.8)	ACEHIK	60	普通	橙	No.12	78-6	
3	土師器	高坏	(16.4)	15.3	12.8	ACEHIK	45	普通	にぶい橙	No.18・20	78-7	
4	土師器	高坏	(20.5)	[7.2]	—	AHIK	40	普通	にぶい橙	No.6		
5	土師器	高坏	(19.7)	[4.9]	—	CEI	15	普通	橙	内面黒底有り		
6	土師器	高坏	(18.0)	[4.6]	—	CEHIK	20	普通	橙	SJ20No.5		
7	土師器	高坏	—	[10.4]	14.4	ACEGHIK	80	普通	にぶい橙	No.14	78-8	
8	土師器	高坏	—	[7.0]	—	CEHIK	20	普通	にぶい橙			
9	土師器	高坏	—	[2.6]	—	ACEHIK	90	普通	浅黄橙	No.16		
10	土師器	高坏	—	[5.6]	—	CEHIK	90	良好	にぶい橙	No.16		
11	土師器	高坏	—	[2.9]	(14.6)	CEHIK	30	良好	にぶい橙	No.12		
12	土師器	高坏	—	[1.8]	(13.8)	ACHIK	15	普通	にぶい橙			
13	土師器	小型壺	(14.8)	[6.6]	—	ACEHIK	25	良好	にぶい赤褐			
14	土師器	小型壺	(15.3)	[6.7]	—	CIK	15	普通	にぶい橙			
15	土師器	小型壺	(11.7)	[5.7]	—	CDEHIK	25	普通	浅黄橙			
16	土師器	小型壺	(12.6)	16.7	3.7	ACEHIK	70	普通	にぶい橙	No.7・8	79-1	
17	土師器	壺	(18.8)	[3.8]	—	ACEHIK	5	普通	にぶい黄橙			
18	土師器	壺	15.9	24.0	5.0	CEHIK	80	普通	褐灰	No.3	79-2	
19	土師器	壺	14.8	[17.4]	—	CEGHIK	70	普通	橙	No.1~3	79-3	
20	土師器	壺	(16.3)	[19.1]	—	ACEHIK	80	普通	にぶい黄橙	No.1・3	79-4	
21	土師器	壺	17.2	[23.6]	—	EHIK	30	普通	にぶい橙	No.8	79-5	
22	土師器	壺	15.8	[9.7]	—	CEHIK	45	普通	にぶい橙	No.13・14		
23	土師器	壺	(16.2)	[7.2]	—	AGHIK	35	良好	にぶい橙	No.3	79-6	
24	土師器	壺	(14.0)	[5.9]	—	CEHIK	20	普通	灰褐	No.10		
25	土師器	壺	—	[2.7]	(8.1)	C	30	普通	褐灰	No.20		
26	土師器	壺	—	[3.2]	(3.4)	CEHIK	25	普通	にぶい褐			
27	土師器	壺	—	[2.5]	(6.7)	ACIK	35	普通	灰褐	No.1		
28	土師器	壺	—	[2.3]	(5.7)	ACHIK	25	普通	にぶい橙	No.20		
29	土師器	壺	—	[2.4]	(7.3)	AIK	30	普通	にぶい橙			
30	土師器	壺	—	[2.0]	6.5	ACGHIK	70	普通	にぶい黄橙	No.22		
31	土師器	小型壺	(10.8)	[3.8]	—	CEHIK	30	良好	にぶい橙			
32	土師器	小型壺	(13.6)	[4.5]	—	ACGHIK	10	普通	にぶい赤褐			
33	鉄製品	鋸	長さ[7.5] 背幅0.3 刃幅1.7 重さ23.3g							素書 アサリなし ナグシ不明 古代カ		102-3



第81図 第15号住居跡・遺物出土状況

第15号住居跡（第81図）

第1次調査における東側調査区の中央部、H-15、I-14・15グリッドに位置する。第17号住居跡、第40号溝跡と重複し、本遺構が古い。住居跡の中央部は第40号溝跡に、南東部は第17号住居跡によって大きく壊される。

住居跡の平面形態は東西にやや長い長方形で、規模は長軸4.75m、短軸3.61m、深さ0.18mを測り、長軸方位はN-57°-Eを指す。北東隅は、目的は不明だが床が一段高くなる状況が捉えられた。何等かの構造物か。覆土が浅いため、堆積状況は不明である。カマドや壁溝、ピット等は検出されなかった。

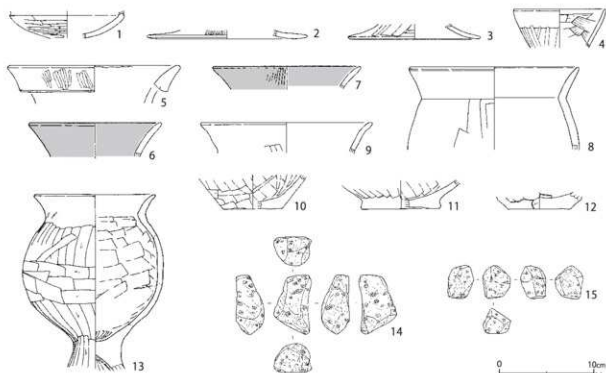
遺物は土師器坏・高坏・埴形土器・壺・甕・台付甕、磨石等が出土した（第82図1～15）。1は

坏の体部破片で、坏蓋模倣坏と考えられる。2、3は高坏で、ともに破片である。2は外面にミガキが施される。4は埴形土器で、内面に刷毛目調整が認められる。

5～7は壺で、5は複合口縁の壺である。6、7は小型壺になると考えられ、内外面に赤彩が施される。8～12は甕で、8は長胴形の甕である。13は台付甕で、やや歪な形であり、台部が厚手になる。住居跡西壁寄りの箇所から潰れた状態で出土した。

14、15は磨石である。軽石製で、14は全面に使用痕が認められる。

出土遺物量が少ないため詳細な時期は不明だが、甕の形状や台付甕が残ることなどから、5世紀後半から末の住居跡である可能性がある。



第82図 第15号住居跡出土遺物

第20表 第15号住居跡出土遺物観察表 (第82図)

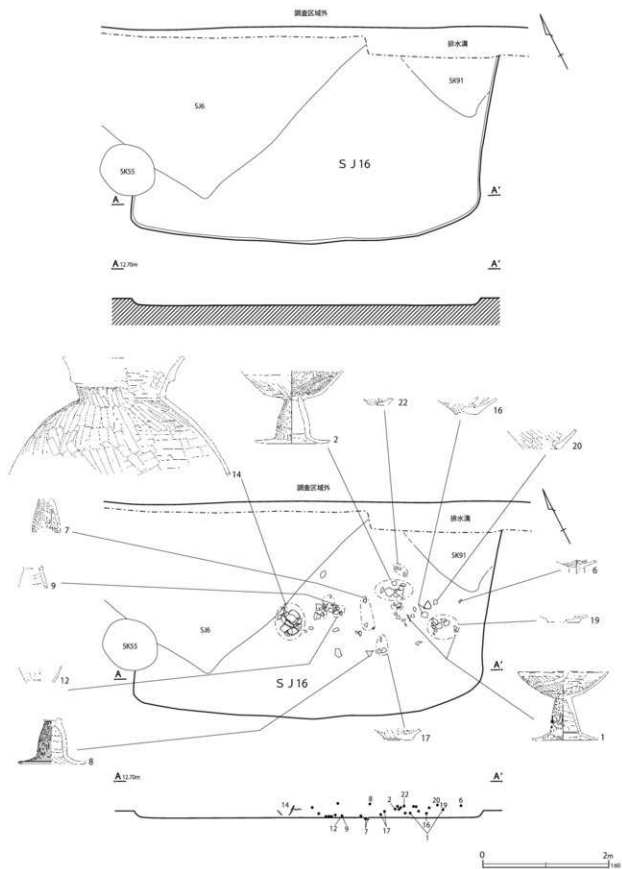
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	—	[2.9]	—	AH1K	20	普通	にぶい橙		
2	土師器	高坏	—	[0.9]	(17.0)	AEH1K	10	普通	橙		
3	土師器	高坏	—	[1.6]	(13.6)	CE1K	15	普通	にぶい赤褐		
4	土師器	埴形土器	(9.6)	[4.1]	—	ACE1K	20	普通	にぶい黄橙	No.2	
5	土師器	壺	(18.0)	[2.8]	—	ACEH1K	10	普通	にぶい橙		
6	土師器	壺	(13.6)	[3.8]	—	CEG1K	20	普通	にぶい橙	内外面赤彩	
7	土師器	壺	(15.4)	[2.4]	—	ACEH1K	15	普通	にぶい橙	内外面赤彩	
8	土師器	壺	(18.0)	[8.8]	—	ACEH1K	5	普通	浅黄橙	SJ17No.7・8・10	
9	土師器	壺	(18.0)	[3.2]	—	ACEH1K	5	普通	浅黄橙		
10	土師器	壺	—	[3.6]	(6.2)	AC1K	25	普通	橙	煤か	
11	土師器	壺	—	[3.0]	8.2	CGH1K	30	普通	明焼灰		
12	土師器	壺	—	[1.8]	(6.6)	CEH1K	25	普通	にぶい黄橙		
13	土師器	台付壺	12.6	[18.7]	—	CEH1K	65	普通	にぶい褐	No.4	79-7
14	石製品	磨石	長さ6.3	幅4.0	厚さ3.0					軽石 全面使用	102-4
15	石製品	磨石	長さ3.5	幅2.9	厚さ2.7					軽石 全面使用	102-4

第16号住居跡 (第83図)

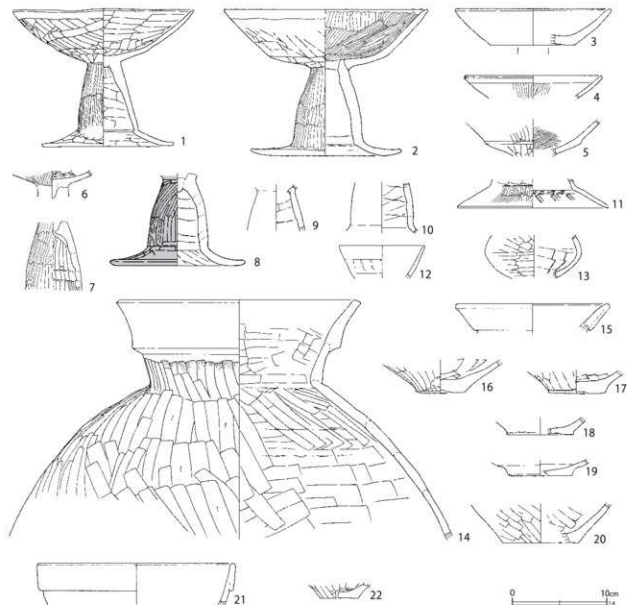
第1次調査における東側調査区の中央北寄り、I-15・16グリッドに位置する。第6号住居跡、第55・91号土壌と重複し、本遺構が古い。住居跡の北側は第6号住居跡と第91号土壌によって大きく壊され、平面形態は不明である。規模は残存部

で長軸5.51m、短軸2.91m、深さ0.10mを測り、長軸方位はN-53°-Wを指す。

覆土と地山が同色であるため区別がつかず、全体を面下げしたところ遺物が多く出土し、周囲を精査した結果、住居の立ち上がりが検出された。カマドや壁溝、ピット等は検出されなかった。



第83図 第16号住居跡・遺物出土状況



第84図 第16号住居跡出土遺物

遺物は土師器高坏・埴形土器・壺・甕・甗等が出土した(第84図1~22)。1~11は高坏で、1は脚部が直線的に広がり、2は僅かに膨らみを持つ。12、13は埴形土器で、13は体部が算盤玉形になる。14、15は壺で、14は大型になる。

16~20は甕で、いずれも底部破片である。21、22は甗で、どちらも小型と推察される。22の底部形状は小孔の単孔式である。

遺物の時期は、坏が無いことや、高坏の形状などから、5世紀前半~中葉と考えられる。

第17号住居跡(第85・86図)

第1次調査における東側調査区の中央部、I-15グリッドに位置する。第15号住居跡、第40号溝跡と重複し、第40号溝跡より古く、第15号住居跡より新しい。住居跡の一部は第40号溝跡と中・近世の井戸跡によって壊される。

住居跡の平面形態はほぼ正方形で、規模は長軸4.69m、短軸4.38m、深さ0.75mを測り、主軸方位はN-32°-Wを指す。覆土は全体的に炭化物を含み、中層には焼土が含まれる。第2層の下部か

第21表 第16号住居跡出土土物観察表 (第84図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	18.8	14.6	12.8	ACHIK	70	普通	にぶい赤褐	SJ11No4・10	79-8
2	土師器	高坏	21.4	15.5	16.0	ACHIK	80	普通	明赤褐	SJ11No14	80-1
3	土師器	高坏	(16.2)	[3.8]	—	AEHK	15	普通	にぶい橙	外面黒斑有り	
4	土師器	高坏	(14.4)	[2.4]	—	ACEHIK	5	普通	にぶい橙		
5	土師器	高坏	—	[3.9]	—	ACEFGIK	10	普通	にぶい赤褐		
6	土師器	高坏	—	[2.9]	—	CEHIK	40	普通	にぶい赤褐	SJ11No5	
7	土師器	高坏	—	[7.3]	—	CEHIK	75	普通	橙	No5・7	
8	土師器	高坏	—	[9.8]	(14.2)	CEHIK	70	普通	にぶい赤褐	SJ11No2 外面赤彩 内面煤付着	80-2
9	土師器	高坏	—	[5.0]	—	CEHIK	20	普通	灰褐	No9	
10	土師器	高坏	—	[5.5]	—	EHIK	50	普通	にぶい橙		
11	土師器	高坏	—	[3.1]	(16.0)	AIK	15	普通	にぶい橙		
12	土師器	埴形土器	(9.0)	[3.5]	—	CGHIK	10	普通	橙	No9	
13	土師器	埴形土器	—	[4.6]	—	ACIK	20	普通	明赤褐		
14	土師器	壺	(24.4)	[25.0]	—	CHIK	60	普通	橙	SJ8No1	80-3
15	土師器	壺	(15.7)	[2.8]	—	CEGIK	5	普通	にぶい橙		
16	土師器	甕	—	[3.5]	5.2	CEHIK	70	普通	にぶい赤褐	No1	
17	土師器	甕	—	[2.5]	6.1	ACGI	75	普通	明焼灰	No3・4	
18	土師器	甕	—	[2.0]	(6.9)	ACHIK	20	普通	にぶい赤褐		
19	土師器	甕	—	[1.7]	(6.8)	AEHK	25	普通	灰黄褐	No4	
20	土師器	甕	—	[4.2]	(8.0)	CDEGHIK	10	普通	橙	No6	
21	土師器	甕	(21.0)	[4.4]	—	ACEHIK	10	良好	明赤褐		
22	土師器	甕	—	[1.6]	(4.0)	AHIK	35	普通	にぶい褐	SJ11No15	

らは土器が多く検出された。

カマドは南壁中央部に設けられる。カマドの規模は、全長0.60m、幅0.36m、深さ0.52mを測り、燃焼部は平坦で、奥壁から煙道部に向けてほぼ垂直に立ち上がる構造を持つ。

燃焼部中央に円柱状の土製支脚を立て、その上に高坏を逆位で据え付け、甕を支えていたと推察される。燃焼部内はやや東寄りからは、やや小型の甕も検出された。カマド内部の覆土は、火床面直上には炭層、その上には焼土層が厚く堆積していた。

壁溝は北壁と東壁、南壁の東端で確認された。規模は幅0.25～0.45m、深さ0.05mであった。

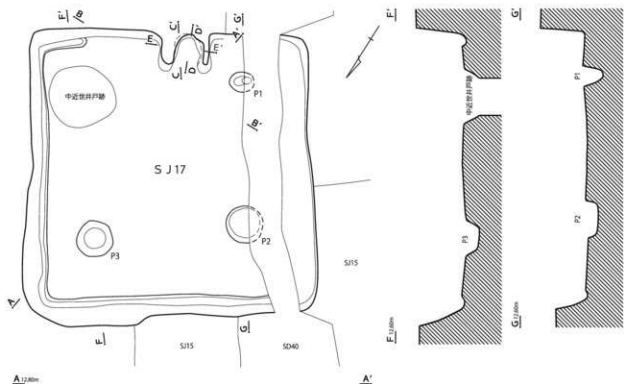
ピットは3基検出された。おそらく建物の柱穴と考えられ、南東部は中・近世の井戸跡によって壊された範囲に位置していたと推察される。平面形態は円形で、規模はピット1が長径0.37m、短径0.33m、深さ0.32m、ピット2が長径0.58m、短径0.52m、深さ0.18m、ピット3が直径0.56mの円

形で、深さは0.20mであった。

遺物は主にカマド周辺からまとまって検出された。また、覆土中に遺物が水平に分布することから、床を厚くして貼り直している可能性がある。出土した遺物は須恵器甕、土師器坏・埴・鉢・高坏・壺・甕・甎、羽口、支脚等である(第87・88図1～33)。1は須恵器の甕で、外面に並行タキが施される。

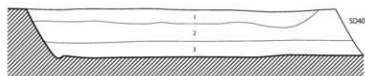
2～31は土師器である。2～11は坏で、坏蓋模倣坏を主体とする。3は強く被熱し、内面全体に煤が強く付着する。9は内外面に赤彩が施され、口縁部外面に暗文状のミガキが施される。12～15は埴である。12、13は内面に方向の統一性がないミガキが施される。12は外面に刷毛目調整が認められ、15は内外面に赤彩が施される。16、17は鉢である。16は内面、17は内外面に赤彩が施される。18～20は高坏で、脚の短いタイプである。

21は複合口縁の壺である。22～27は甕である。22は長胴形の甕で、カマド内から出土した。23も



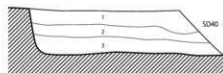
A 12.80m

A'



B 12.80m

B'

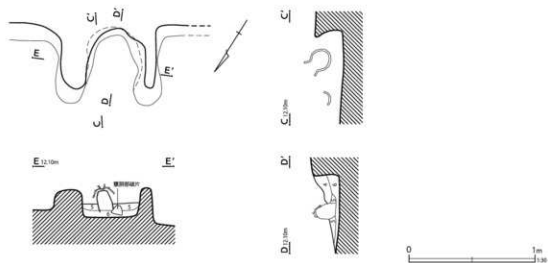
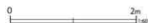


SJ 17

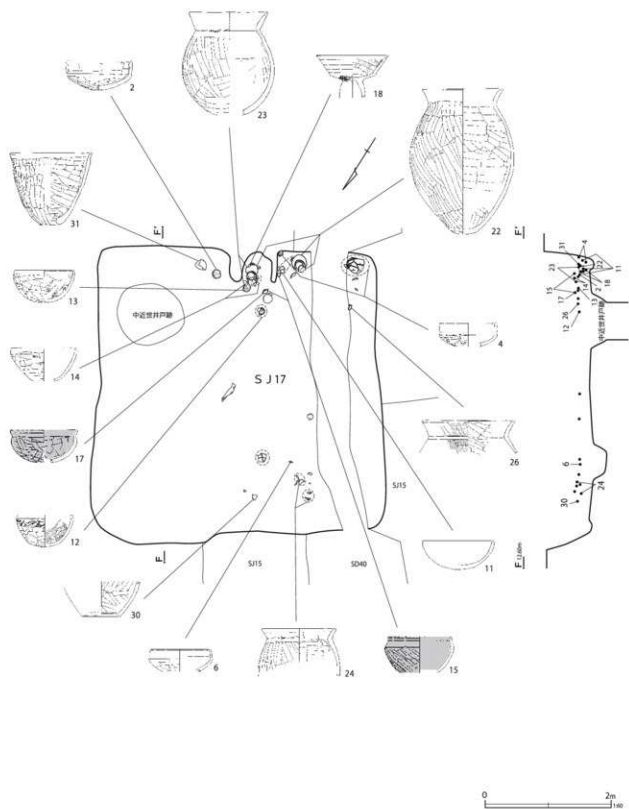
- 1 暗褐色土 粘性あり 粒子細かい 炭化物含む
- 2 灰褐色土 粘性強 礫土・炭化物含む 土器出土
- 3 黄褐色土 粘性強 ローム質 土器出土

カマド

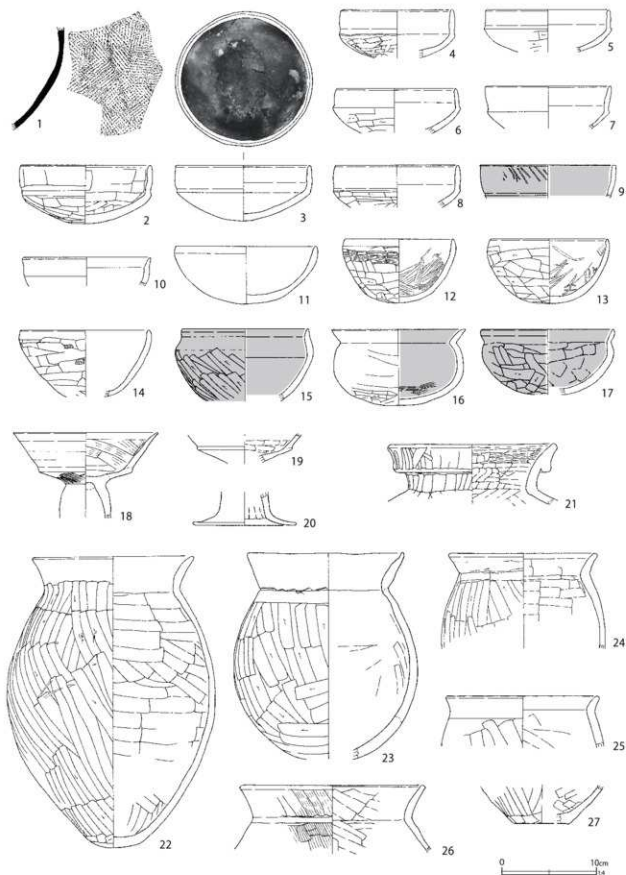
- 4 赤褐色土 焼土層
- 5 黒色土 炭層 灰色土(灰)含む
- 6 黒色土 炭層



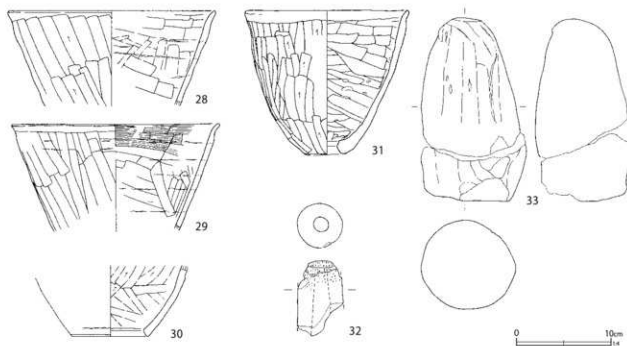
第85図 第17号住居跡



第86図 第17号住居跡遺物出土状況



第87図 第17号住居跡出土遺物(1)



第88図 第17号住居跡出土遺物(2)

カマド内から出土したもので、やや小型の甕である。28～31は甕である。28～30は大型、31は小型のものである。28～30は大型、31は小型のものである。

32、33は土製品である。32は羽口で、先端が被熱し変色する。33は支脚で、円柱状のものである。器面には僅かに調整の痕跡が残るが、全体的に摩耗し、非常に脆い。

遺物の時期は、模倣坏がまとも出土していること、高坏や土師器甕の形状などから、6世紀中葉と考えられる。

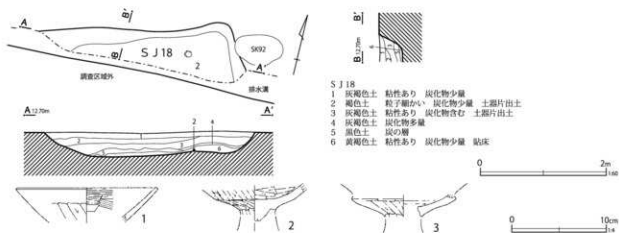
第18号住居跡(第89図)

第1次調査における東側調査区の南壁際、J-14・15グリッドに位置する。第92号土壌と重複し、本遺構が古い。住居跡の大部分は調査区域外へと延びる。北壁と東壁の一部が検出されたのみであるため、住居跡の平面形態は不明である。規模は、残存部で長軸2.92m、短軸0.83m、深さ0.38mを測り、長軸方位はN-77°-Eを指す。覆土は全層に炭化物を含み、床面付近からは炭化物層が検出された。カマドや壁溝、ピット等は検出されなかつ

第22表 第17号住居跡出土遺物観察表(第87・88図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	甕	—	[10.8]	—	EH1K	5	良好	灰		
2	土師器	坏	13.6	6.1	—	AH1K	95	普通	にぶい赤褐	カマド№2	80-4
3	土師器	坏	14.1	5.8	—	CEH1K	100	普通	にぶい赤褐	カマド№8 内外面摩耗、剥離が激しく調整は不明瞭 内面強く被熱 内底面中央煤付着 内面口縁部剥離が激しい	80-5
4	土師器	坏	(12.0)	[5.1]	—	AH1K	30	普通	明赤褐	カマド№10・21	80-6
5	土師器	坏	(13.0)	[4.5]	—	CEH1K	5	普通	橙		
6	土師器	坏	(13.0)	[4.7]	—	ACH1K	5	普通	橙	№9	
7	土師器	坏	(13.0)	[4.5]	—	ACH1K	15	普通	明赤褐	内外面共に摩耗が激しく調整は不明瞭	
8	土師器	坏	(13.0)	[4.5]	—	ACH1K	20	普通	橙		
9	土師器	坏	(14.4)	[3.5]	—	CEH1K	5	良好	にぶい橙	内外面赤彩	
10	土師器	坏	(13.4)	[3.1]	—	ACEH1K	5	普通	橙		

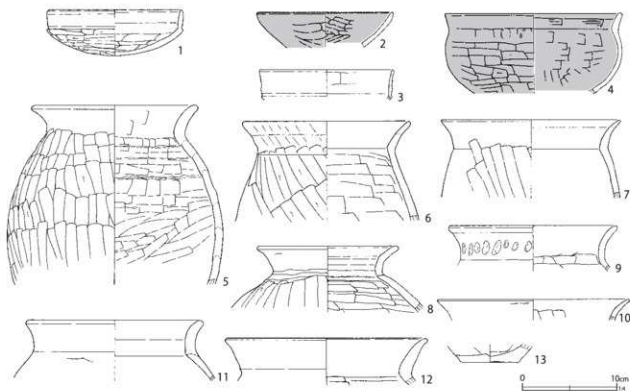
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
11	土師器	坏	14.8	6.1	—	C G I K	60	普通	にぶい橙	カマドNo.11・13・14 内外面に摩耗が激しく調整は不明	80-7
12	土師器	埴	(11.5)	[8.8]	—	A C I K	70	普通	橙	カマドNo.9 内面黒斑有り	81-1
13	土師器	埴	12.3	6.8	—	C E H I K	100	良好	にぶい赤褐	カマドNo.4 内面ミガキ	81-2
14	土師器	埴	(13.6)	[7.0]	—	C E H I K	60	普通	にぶい橙	カマドNo.3・5	81-3
15	土師器	埴	13.2	[7.6]	—	A E I K	30	普通	にぶい赤褐	カマドNo.7・12 内外面赤彩	81-4
16	土師器	鉢	(14.2)	[8.0]	—	A C I K	20	普通	にぶい橙	内面赤彩 内外面に強く被熱し摩耗が激しい	
17	土師器	鉢	(14.0)	[6.9]	—	A C E H I K	20	普通	明赤褐	カマドNo.7 内外面赤彩 内面黒斑有り 口唇部煤付着	
18	土師器	高坏	(15.3)	[9.0]	—	A I K	45	普通	橙	カマドNo.6・22	
19	土師器	高坏	—	[3.2]	—	A C H I K	20	普通	明赤褐		
20	土師器	高坏	—	[3.5]	(11.0)	A C I K	35	普通	明赤褐		
21	土師器	壺	(17.2)	[6.4]	—	E H I K	30	良好	灰黄褐		
22	土師器	壺	16.8	30.9	5.4	A C E G H I K	80	普通	明赤褐	カマドNo.6・16・17	81-5
23	土師器	壺	(16.2)	[21.9]	—	A C I K	90	普通	にぶい橙	カマドNo.3・6 外面煤付着	81-6
24	土師器	壺	(15.7)	[10.1]	—	C E H I K	45	普通	にぶい橙	No.4・6 内面頸部から口唇部にかけて煤付着	81-7
25	土師器	壺	(16.0)	[5.5]	—	C E I K	10	普通	にぶい橙		
26	土師器	壺	(18.8)	[7.2]	—	C E H I K	20	良好	にぶい橙	カマドNo.18	
27	土師器	壺	—	[4.1]	(5.8)	A E I	15	普通	褐		
28	土師器	瓶	(21.8)	[9.9]	—	C E G H I K	10	普通	橙		
29	土師器	瓶	(21.8)	[11.2]	—	C D E I K	30	普通	橙		
30	土師器	瓶	—	[7.5]	(8.0)	C H I K	15	普通	灰白	No.1	
31	土師器	瓶	17.1	15.3	4.3	A C E H I K	95	良好	にぶい橙	No.1	81-8
32	土製品	羽口	長さ[7.7] 外径4.7 内径1.5 重さ90.3g						にぶい橙		102-2
33	土製品	支脚	高さ19.4 長さ10.0 短径9.5 重さ1521g			A I J	90	不良	明黄褐	カマドNo.23	



第89図 第18号住居跡・出土遺物

第23表 第18号住居跡出土遺物観察表 (第89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	(14.8)	[3.7]	—	A C E H I K	5	普通	にぶい橙		
2	土師器	高坏	—	[3.9]	—	G H I	85	普通	橙	No.1	
3	土師器	高坏	—	[2.3]	—	A H I K	25	普通	橙		



第91図 第21号住居跡出土遺物

第24表 第21号住居跡出土遺物観察表 (第91図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	
1	土師器	坏	(13.9)	4.8	-	ACHIK	50	普通	明赤褐	No.48	82-1
2	土師器	坏	(14.2)	[3.7]	-	CEHIK	10	普通	明赤褐	No.47 内外面赤彩	
3	土師器	坏	(14.0)	[3.1]	-	ACHIK	5	普通	橙		
4	土師器	鉢	(18.8)	[8.5]	-	AEIK	20	普通	赤褐	No.1 内外面赤彩	82-2
5	土師器	甕	16.8	[19.0]	-	CEHIK	70	良好	にぶい赤褐	No.46	
6	土師器	甕	(17.4)	[10.5]	-	ABCEHIK	35	普通	にぶい橙	No.16・32	
7	土師器	甕	(19.0)	[8.2]	-	ABCEHIK	15	普通	にぶい橙	No.15・22・23	
8	土師器	甕	(15.0)	[7.0]	-	ACHIK	55	普通	にぶい赤褐	No.2・3	
9	土師器	甕	(17.6)	[4.8]	-	ABDEHIK	25	普通	橙	No.17	
10	土師器	甕	(20.0)	[2.2]	-	CEHIK	15	普通	にぶい橙	No.23	
11	土師器	甕	(18.0)	[6.4]	-	ABCEHIK	25	普通	にぶい橙	No.12・14	
12	土師器	甕	(21.0)	[5.0]	-	ACEHIK	10	普通	明赤褐	No.7	
13	土師器	甕	-	[1.9]	(6.0)	CEHIK	25	普通	にぶい赤褐	No.41 底部木葉痕	

坏・鉢・甕等が出土した(第91図1~13)。1~3は坏で、1は坏蓋模倣坏である。2は内外面に赤彩が施される。4は鉢である。大形であり、内外面に赤彩が施される。

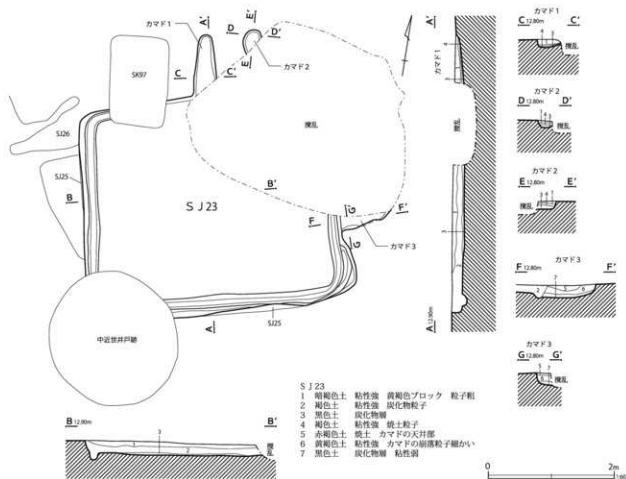
5~13は甕である。5~7は長胴形で、胴部中位に最大径を持つ。

遺物の時期は、坏や甕の形状から、6世紀前半と考えられる。

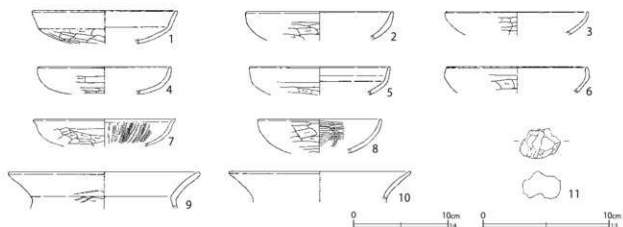
第23号住居跡 (第92図)

第1次調査における東側調査区の西北部、H-13グリッドに位置する。第25・26号住居跡、第97号土壇と重複し、第97号土壇より古く、第25・26号住居跡より新しい。遺構の北東部を攪乱、南西隅の中・近世の井戸跡によって壊される。

住居跡の平面形態は東西にやや長い長方形で、規模は長軸4.10m、短軸3.48m、深さ0.22mを測り、



第92図 第23号住居跡



第93図 第23号住居跡出土遺物

主軸方位はN-16°-Wを指す。覆土はレンズ状堆積で、床面には炭化物層が認められた。

カマドは北壁中央部と、北壁やや東寄り、東壁の南寄りに3基設けられ、中央のカマドに1、東

寄りのカマドに2、東壁のカマドに3と番号を付した。カマド1は燃焼部付近を攪乱によって壊されるため、全体像は不明だが、燃焼部の掘り込みを持たず、煙道部に向かって緩やかに傾斜する構造

第25表 第23号住居跡出土遺物観察表 (第93図)

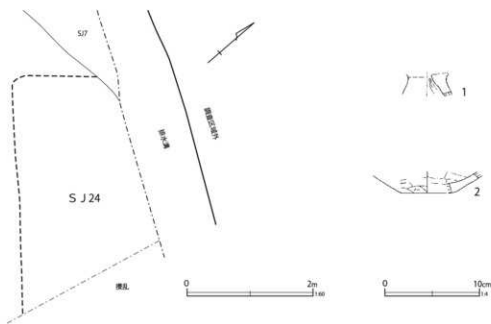
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(15.1)	[3.5]	—	CHIK	10	普通	橙		
2	土師器	坏	(15.4)	[3.0]	—	CHIK	5	普通	橙		
3	土師器	坏	(15.0)	[2.5]	—	CHIK	5	普通	明赤褐		
4	土師器	坏	(14.0)	[3.9]	—	CHIK	5	普通	にぶい赤褐		
5	土師器	坏	(14.8)	[3.0]	—	ACEHIK	10	普通	にぶい褐		
6	土師器	坏	(14.8)	[2.8]	—	CEHIK	5	普通	橙		
7	土師器	坏	(14.8)	[2.9]	—	CEHIK	10	普通	明褐	暗文坏 被熱	82-3
8	土師器	坏	(13.0)	[3.6]	—	ACHIK	5	普通	明赤褐	内面ミガキ	
9	土師器	甕	(20.0)	[3.9]	—	BCEHIK	5	普通	にぶい橙		
10	土師器	甕	(19.2)	[3.3]	—	CHIK	15	普通	にぶい橙	内面摩耗	
11	鉄滓	桶形鍛冶滓	長さ2.4	幅3.0	厚さ1.8	重さ22.8g					

と推察される。攪乱の影響により、袖の有無は不明である。規模は、全長0.83m、幅0.35m、深さ0.15mを測る。

カマド2は大部分を攪乱によって壊されるため、詳細はわからないが、残存状況から煙道部が急峻に立ち上がる構造だったと考えられる。規模は、残存部で全長0.26m、幅0.25m、深さ0.10mを測る。

カマド3は北半分が攪乱によって壊されるが、

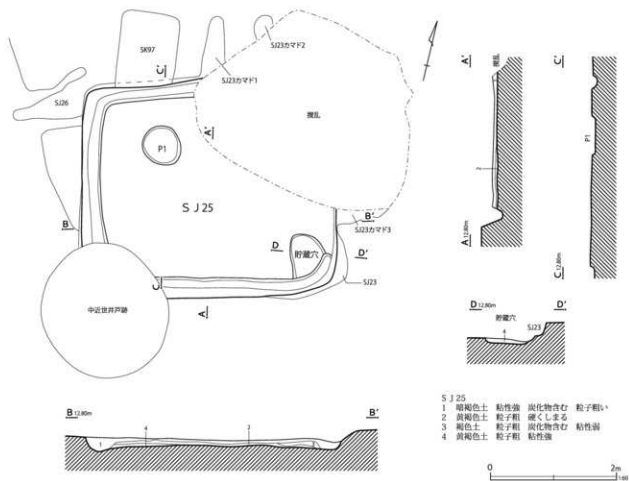
南半分は残存する。燃焼部が掘り込まれ、奥壁から煙道に向って急峻に立ち上がる構造を持つ。袖はあったと推察されるが、壁溝によって壊される。規模は全長0.80m、残存部の幅0.20m、深さ0.20mを測る。カマドの新旧関係は、カマド周辺が攪乱によって大きく壊されているため明確でないが、カマド3は燃焼部前面に壁溝が廻り、袖も壊されていたと推察されることから、古いカマドであっ



第94図 第24号住居跡・出土遺物

第26表 第24号住居跡出土遺物観察表 (第94図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	—	[2.5]	—	CEIK	20	普通	明赤褐		
2	土師器	甕	—	[2.3]	(5.7)	DEIK	5	普通	橙		



第95図 第25号住居跡

たと考えられる。

壁溝はカマドを除き全周していたと考えられ、規模は幅0.15～0.35m、深さ0.22～0.27mであった。ピットは検出されなかった。

遺物は土師器杯・甕が出土した(第93図1～11)。1～8は杯である。7は内面に暗文が施される。8は丸底の杯だが、内面にミガキが施される。9、10は甕で、どちらも口縁部に最大径を持つ長胴甕と考えられる。11は鉄滓で、椀形鍛冶滓である。

遺物の時期は杯や甕の形状から、7世紀末から8世紀初頭と考えられる。

第24号住居跡 (第94図)

第1次調査における東側調査区の東側、I-16・17グリッドに位置する。正確な記録が無いため詳細は不明だが、調査時に作成された概念図お

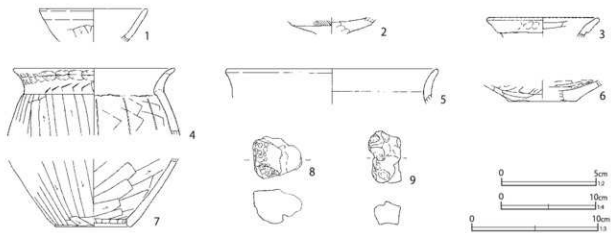
よび空中写真で形を確認できたため、それらを基に推定図を作成した。

遺物は土師器高杯・甕等が出土した(第94図1、2)。どちらも小破片であり、詳細な時期は不明である。

第25号住居跡 (第95図)

第1次調査における東側調査区の北西部、H-13グリッドに位置する。第23・26号住居跡、第97号土壇と重複し、第23号住居跡、第97号土壇より古く、第26号住居跡より新しい。第23号住居跡と同位置で重複し、遺構の北東部を掘乱、南西角を中・近世の井戸跡によって壊される。

住居跡の平面形態は東西にやや長い長方形で、規模は長軸4.02m、短軸3.45m、深さ0.15mを測り、長軸方位はN-77°-Eを指す。



第96図 第25号住居跡出土遺物

第27表 第25号住居跡出土遺物観察表 (第96図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(11.2)	[3.5]	—	CEHIK	10	普通	にぶい赤褐色		
2	土師器	高坏	—	[1.7]	—	ACEHIK	25	普通	にぶい橙		
3	土師器	壺	(11.6)	[2.1]	—	ACEHIK	30	普通	にぶい黄褐色		
4	土師器	甕	(17.0)	[7.1]	—	ACEHIK	25	普通	にぶい楊		82-4
5	土師器	甕	(22.0)	[3.6]	—	CEHIK	5	普通	にぶい楊		
6	土師器	甕	—	[2.3]	(7.3)	AIK	60	普通	明赤褐色		
7	鉄滓	瓶	—	[7.2]	(8.0)	AEHIK	20	普通	にぶい楊		
8	鉄滓	椀形鍛冶滓	長さ3.3	幅3.8	厚さ2.7	重さ105.8g					
9	貝巢穴痕泥岩	—	長さ2.7	幅1.7	厚さ1.2	重さ3.9g				軟質泥岩 部分的に赤褐色	102-4

壁溝は東壁を除き、全周していたと考えられる。規模は幅0.23～0.35m、深さ0.05～0.10mを測る。

住居跡の南東隅には貯蔵穴が設けられる。平面形態は不整形で、規模は長径0.70m、短径0.55m、深さ0.09mを測る。

ピットは遺構北西部から1基検出された。平面形態は不整形で、規模は長径0.65m、短径0.59m、深さ0.11mを測る。

カマドは検出されなかったが、壁溝が東壁で途切れること、貯蔵穴が南東角にあることなどから、東壁にあった可能性が高い。

遺物は土師器・坏・高坏・壺・甕・瓶、鉄滓、石製品等が出土した(第96図1～9)。1は坏で、体部外面下半にヘラケズリ調整が施される。2は高坏で、坏部の破片である。3は複合口縁の壺である。4～6は甕である。4は口縁部が短いため、

球胴形の甕になると推察される。7は瓶で、大形の単孔式である。

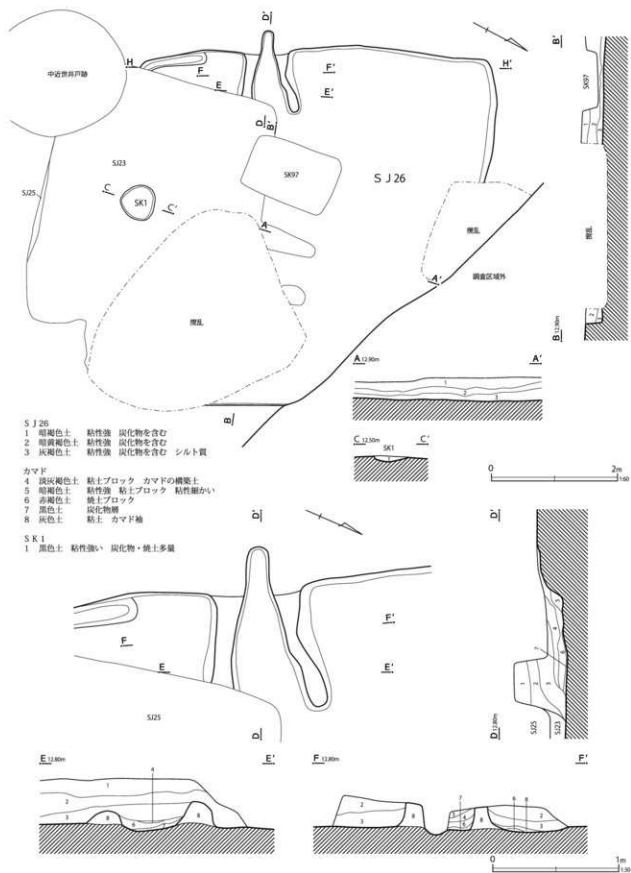
8は椀形鍛冶滓である。9は貝巢穴痕泥岩で、軟質で部分的に赤褐色に変色する。

遺物の時期は、甕の形状などから5世紀後半と考えられる。

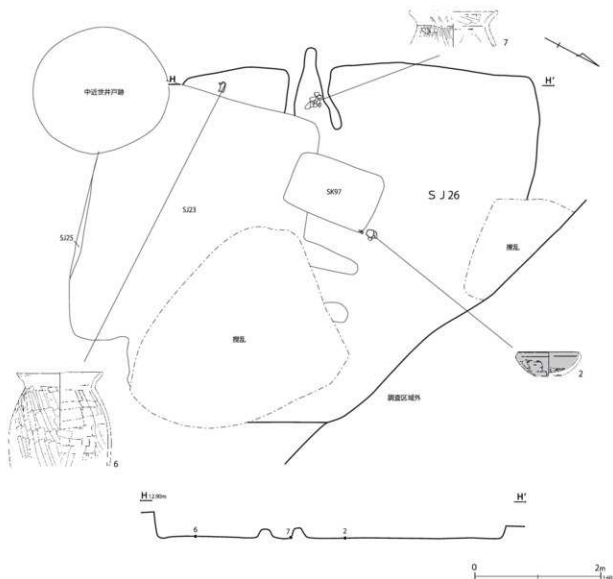
第26号住居跡 (第97・98図)

第1次調査における東側調査区の北西部、G・H-13グリッドに位置する。第23・25号住居跡、第97号土壇と重複し、本遺構が古い。遺構の南半分は住居跡と攪乱によって大きく壊され、北東部は調査区外へと延びる。

住居跡の平面形態は方形で、規模は長軸5.93m、短軸5.56m、深さ0.40mを測り、主軸方位はN-65°-Eを指す。西壁の中央やや南寄りにはカマドが設けられる。重複が激しく堆積状況は不明だ



第97図 第26号住居跡



第98図 第26号住居跡遺物出土状況

が、覆土には全層に炭化物が含まれていた。

カマドは袖が住居内に長く張り出し、燃烧部は平坦で、奥壁から煙道に向けて急峻に立ち上がる構造を持つ。規模は、全長1.25m、幅0.50m、深さ0.41mを測る。覆土は、火床面直上に炭化物層が薄く堆積し、炭化物層の上を焼土ブロックが厚く覆い、その上にカマドの崩落に伴うと考えられる粘土ブロック層が堆積していた。

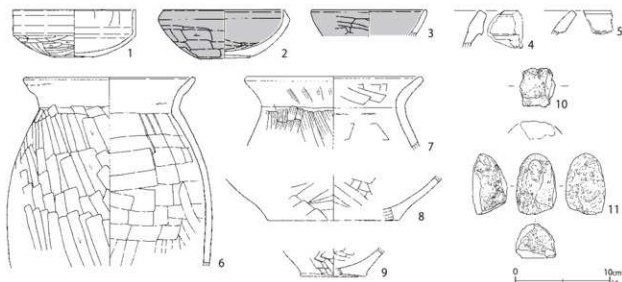
壁溝は西壁のカマドより南側から、部分的に検出された。規模は幅0.18m、深さ0.11mを測る。

ピットは検出されなかった。

遺物は土師器杯・壺・甕、羽口、磨石等が出土した(第99図1～11)。1～9は土師器である。1～3は杯で、1は杯蓋模倣杯、2は半球形の杯である。2、3は内外面に赤彩が施される。4、5は壺で、どちらも小破片である。6～9は甕である。6、7は長胴甕であり、6は胴部中に最大径を持つ。7はカマド燃烧部から出土した。

10は羽口の破片である。11は角閃石安山岩製の磨石で、一部自然面が残る。

遺物の時期は、杯と甕の形状等から、6世紀前半と考えられる。



第99図 第26号住居跡出土遺物

第28表 第26号住居跡出土遺物観察表 (第99図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	環	(12.8)	5.0	(4.2)	ACHIK	30	普通	明赤褐		82-5
2	土師器	環	12.7	5.2	5.7	CEHIK	80	普通	明赤褐	No.2 内外面赤彩	82-6
3	土師器	環	(12.0)	[2.8]	—	CEHIK	10	普通	橙	内外面赤彩	
4	土師器	甕	—	[3.9]	—	ACEHIK	5	普通	橙		
5	土師器	甕	—	[2.5]	—	CEHIK	5	普通	橙		
6	土師器	甕	(17.8)	[19.9]	—	ACEHIK	40	普通	にぶい黄橙	No.1	82-7
7	土師器	甕	(18.8)	[7.7]	—	CEHIK	20	普通	にぶい褐	No.3	
8	土師器	甕	—	[4.8]	(14.0)	ACEHIK	10	普通	明赤褐		
9	土師器	甕	—	[3.1]	(3.4)	CIK	10	普通	にぶい橙		
10	土製品	羽口	長さ4.1 幅3.7 厚さ1.9 重さ18.9g						黄灰		102-2
11	石製品	磨石	長さ6.4 幅4.2 厚さ3.6 重さ54.0g							角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面3	102-4

第29号住居跡 (第100図)

第1次調査における東側調査区の北西角、H-13グリッドに位置する。住居跡の大部分は調査区域外へと延びる。南壁と東壁の一部が検出されたのみであるため、住居跡の平面形態は不明である。規模は、残存部で南北1.24m、東西0.90m、深さ0.12mを測り、長軸方位はN-34°-Wを指す。カマド、壁溝、ピット等は検出されなかった。

遺物は南東隅から多く検出され、土師器高坏・埴形土器・甕等が出土した(第101図1~11)。1~3は高坏で、脚部が直線的に開くものであり、外面にはミガキが施される。4、5は埴形土器で、5は内外面に赤彩が施される。6~11は甕で、6、

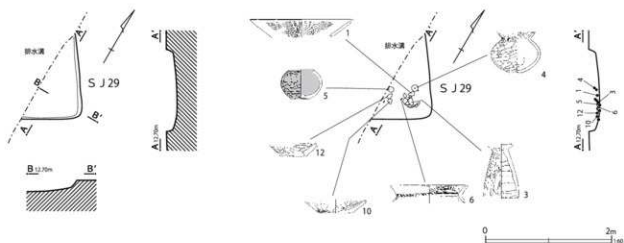
7は口縁部内外面に刷毛目調整が施される。

遺物の時期は、高坏や甕の形状から、5世紀中葉と考えられる。

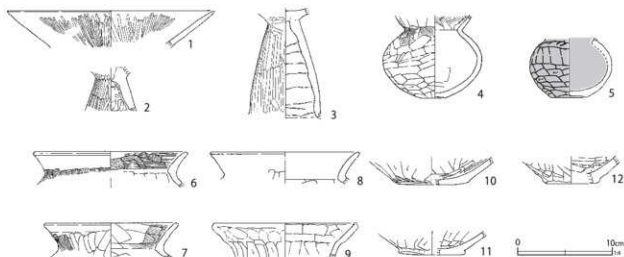
第42号住居跡 (第102・103図)

第2次調査区の南東部、I-11・12グリッドに位置する。住居跡の南半部は調査区域外へと延び、遺構の中央部を中・近世の井戸跡によって壊される。住居跡の北寄りには、後代の地震によって発生したと考えられる、液状化現象に伴う噴砂の痕跡が、北東-南西方向に走る。

住居跡内から2時期分の遺物が検出され、重複の可能性があるので、住居跡の平面形態は不明である。規模は、残存部で長軸6.80m、短軸4.78m、



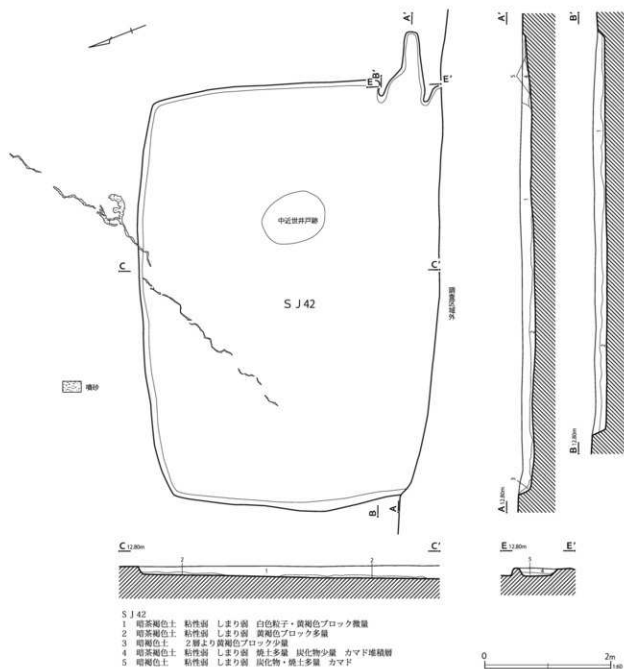
第100図 第29号住居跡・遺物出土状況



第101図 第29号住居跡出土遺物

第29表 第29号住居跡出土遺物観察表 (第101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	構成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	(21.8)	[3.9]	—	CGIK	5	良好	明赤褐	№7 外面被熱	
2	土師器	高坏	—	[4.6]	—	EHIK	50	普通	にぶい赤褐		
3	土師器	高坏	—	[11.7]	—	AHIK	90	普通	にぶい橙	№12 外面被熱	
4	土師器	埴形土器	—	[8.8]	2.2	EHIK	95	良好	にぶい橙	№5 外面黒斑有り	82-8
5	土師器	埴形土器	—	[5.3]	3.6	BEHIK	100	普通	にぶい橙	№4 内外面赤彩	82-9
6	土師器	甕	(16.0)	[3.8]	—	CEHIK	15	普通	明赤褐	№10	
7	土師器	甕	(14.0)	[3.8]	—	CEIK	25	普通	明赤褐	外面煤付着	
8	土師器	甕	(15.6)	[3.3]	—	ACEHIK	5	普通	明赤褐		
9	土師器	甕	(15.0)	[3.7]	—	CGHIK	20	良好	明赤褐		
10	土師器	甕	—	[2.9]	(8.0)	ACEHIK	25	普通	橙	№2 外面黒斑有り	
11	土師器	甕	—	[2.6]	7.0	AHIK	20	普通	赤褐	内面煤付着	
12	土師器	甕	—	[2.9]	(6.0)	EHIK	35	良好	赤褐	№3	



第102図 第42号住居跡

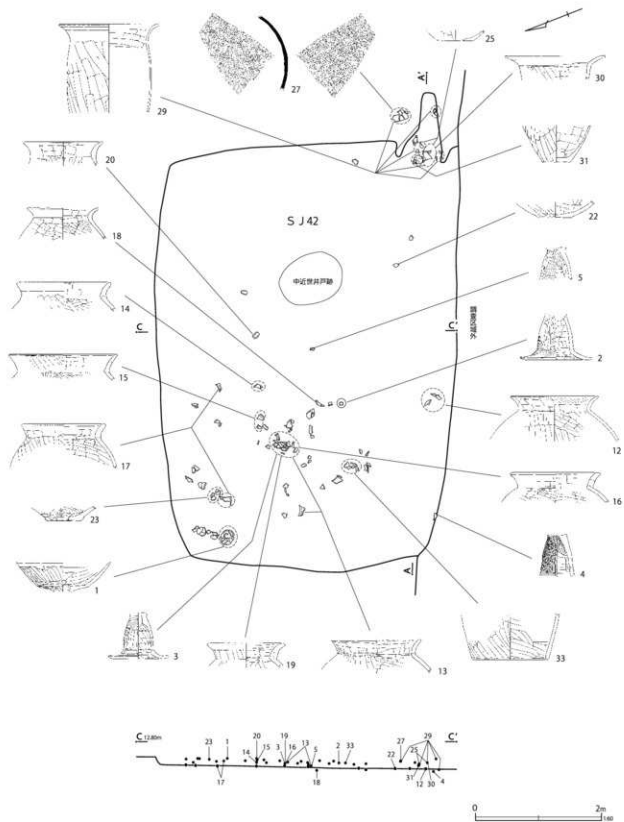
深さ0.17mを測り、主軸方位は $N-71^{\circ}-W$ を指す。カマドは東壁に設けられる。覆土は全体に黄褐色土ブロックを含み、特に床面付近にはブロックを多く含む層が堆積する。

壁溝、ビット等は検出されなかった。

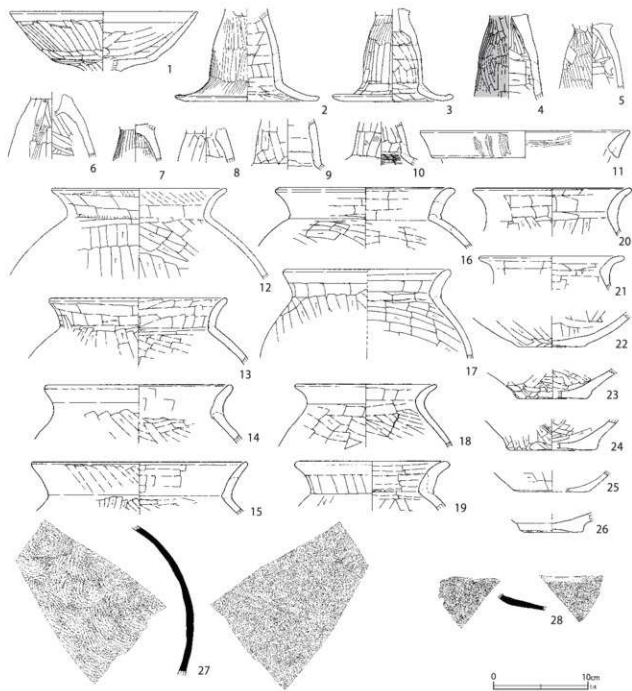
カマドは東壁の調査区域外際から検出された。袖が住居跡内に0.3m程張り出し、燃焼部は掘り込

みを持たず平坦で、奥壁から煙道に向けて急峻に立ち上がる構造を持つ。規模は、全長1.15m、幅0.55m、深さ0.12mを測る。覆土は、火床面に炭化物および焼土粒子を多く含む層が堆積し、その上を、焼土を主体とする層が厚く覆う。

遺物はカマド周辺と住居跡西半部から多く検出され、それぞれ時期が異なる。住居跡西半部から



第103図 第42号住居跡遺物出土状況

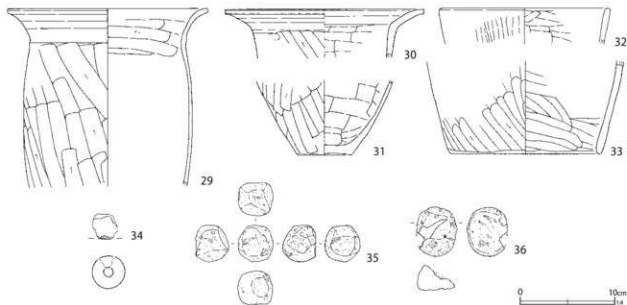


第104図 第42号住居跡出土遺物(1)

は5世紀代の土師器高坏・壺・甕等が出土し(第104図1~26)、カマド周辺からは7世紀代の須恵器甕、土師器甕が出土した(第104・105図27~36)。1~26は土師器である。1~10は高坏で、脚部に膨らみを持つものが多い。11は複合口縁の壺で、内外面に僅かにミガキが認められる。12~

26は甕である。大型の甕(12~17)と中型の甕(18~21)に分かれる。器面の調整は、いずれもヘラケズリまたはヘラナデが施される。

27、28は須恵器の甕である。カマドの脇からまとまって出土し、内面は同心円当てで具、外面は平行タキが施される。



第105図 第42号住居跡出土遺物（2）

29～33は土師器である。29～31は土師器の甕で、口縁部に最大径を持ち、頸部の屈曲が弱い。32、33は甕で、どちらも大型の甕である。

34は高坏脚部転用の羽口で、破片である。35、36は軽石製の磨石で、35は使用面を多く持つ。

遺物の時期は、高坏や甕の形状から、古い一群が5世紀後半、新しい一群が7世紀代と考えられる。7世紀の一群がカマド周辺に分布することから、5世紀代と7世紀代の住居跡の重複である可能性がある。

第45号住居跡（第106図）

第2次調査の東寄り、H-12グリッドに位置する。第46・47号住居跡と重複し、本遺構が新しい。当住居跡周辺は古墳から古代にかけての住居跡が密集し、重複が激しい。

遺構の大部分は後代の住居跡と、中・近世の井戸跡によって壊される。残存部分は北壁と東壁の一部のみであるため、住居跡の平面形態は不明である。

規模は、残存部で東西5.50m、南北3.20m、深さ0.20mを測り、主軸方位はN-24°-Wを指す。カマドは北壁東寄りに設けられる。床面付近から

は厚さ0.02mの炭化物層が検出され、床に敷設されたものである可能性がある。第2層は貼床か。

カマドは袖が0.2～0.4m程住居跡内に張り出し、燃焼部は平坦で、奥壁から煙道部に向けて急峻に立ち上がる構造を持つ。火床面や壁面はあまり被熱せず、カマド内からは、第4層直下から薄い炭化物層が検出されたが、他に明瞭な灰層や焼土層は検出されなかった。炭化物や焼土の混じる層が、住居外から内側に流れ込む形で堆積していた。

壁溝、ピット等は検出されなかった。

検出された遺物は僅かで、土師器杯・埴形土器・鉢が出土した（第106図1～4）。1、2は杯である。北武蔵型杯で、7～8世紀代のものか。3は埴形土器の口縁部である。内外面にミガキが施される。5世紀代のものか。4は鉢で、外面にはヘラケズリ、内面はヘラナデが施される。6世紀代のものか。

住居跡の重複が激しいことから、どの遺物も混入の可能性を否定できず、本住居跡に帰属するものか不明であるため、詳細な時期は不明である。ただし、周囲の住居跡の年代と前後関係から、古墳時代の住居跡と考えられる。

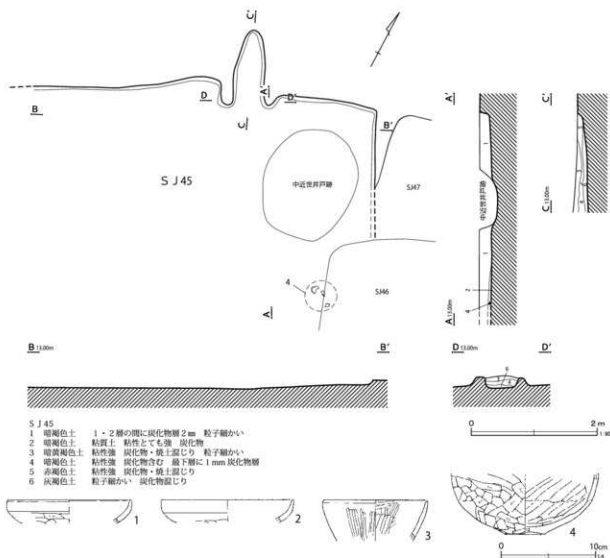
第30表 第42号住居跡出土遺物観察表 (第104・105図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	19.6	[6.4]	—	ACG I K	65	普通	にぶい橙	No.6 外面黒斑有り 内外面共に摩耗が激しい	83-1
2	土師器	高坏	—	[9.8]	15.2	CH I K	55	普通	橙	No.27 外面黒斑有り	83-2
3	土師器	高坏	—	[9.8]	(12.8)	CE I K	40	普通	にぶい黄橙	No.21	83-3
4	土師器	高坏	—	[8.9]	—	E I K	40	普通	にぶい橙	No.41 外面赤彩	
5	土師器	高坏	—	[7.0]	—	CEH I	40	普通	にぶい赤褐	No.28	
6	土師器	高坏	—	[6.7]	—	E I K	10	普通	にぶい橙		
7	土師器	高坏	—	[3.0]	—	CE I K	60	普通	にぶい黄橙		
8	土師器	高坏	—	[3.2]	—	EH I K	25	普通	にぶい橙		
9	土師器	高坏	—	[5.4]	—	CEH I K	20	普通	にぶい橙		
10	土師器	高坏	—	[4.7]	—	E I K	20	普通	にぶい橙		
11	土師器	壺	(22.0)	[2.9]	—	CEH I K	5	普通	にぶい橙		
12	土師器	甕	(18.3)	[9.8]	—	CE I K	20	普通	にぶい赤褐	No.29	
13	土師器	甕	18.2	[7.2]	—	CDGHIK	45	普通	橙	No.21・38	
14	土師器	甕	(19.2)	[6.2]	—	CDH I K	15	普通	明赤褐	No.16	
15	土師器	甕	(22.4)	[5.6]	—	CE I K	15	普通	にぶい橙	No.17	
16	土師器	甕	(18.0)	[6.5]	—	CEH I K	20	普通	にぶい橙	No.21	
17	土師器	甕	17.1	[9.6]	—	H I K	55	普通	橙	No.9・15	83-4
18	土師器	甕	(14.7)	[6.6]	—	CEH I K	25	普通	にぶい橙	No.25	
19	土師器	甕	(15.6)	[5.2]	—	CDEH I K	15	普通	明赤褐	No.21	
20	土師器	甕	(16.0)	[5.1]	—	CDEH I K	10	普通	にぶい赤褐	No.1	
21	土師器	甕	(14.8)	[3.6]	—	EH I K	20	普通	にぶい橙	内外面煤付着	
22	土師器	甕	—	[3.7]	6.8	CDEH I	35	普通	明褐灰	No.4 外面煤付着 長石の細片を多く含む	
23	土師器	甕	—	[3.1]	(7.2)	CE I K	40	普通	明赤褐	No.8	
24	土師器	甕	—	[3.3]	(9.0)	CE I K	25	普通	褐		
25	土師器	甕	—	[2.3]	(8.0)	CH I K	20	普通	にぶい橙	カマドNo.2・4 内外面共に摩耗が激しい	
26	土師器	甕	—	[2.1]	6.6	CEH I K	80	普通	橙	内外面共に摩耗が激しい	
27	須恵器	甕	—	[15.8]	—	EH I K	5	良好	灰	カマドNo.7	
28	須恵器	甕	—	[1.8]	—	H I K	5	普通	暗赤灰		
29	土師器	甕	21.0	[18.8]	—	ACH I K	50	普通	橙	カマドNo.2~4・6・7	83-5
30	土師器	甕	(20.9)	[5.1]	—	CEH I K	15	普通	にぶい橙	カマドNo.2	
31	土師器	甕	—	[7.9]	(5.6)	C I K	75	普通	にぶい黄橙	カマドNo.43	83-6
32	土師器	甕	(17.6)	[3.8]	—	AEH I K	5	普通	にぶい橙		
33	土師器	甕	—	[9.9]	(15.6)	CEH I K	15	良好	にぶい橙	No.33	
34	土師器	高坏転用研石	長さ2.7	外径3.4	内径1.0	重さ7.8g	良好	黄灰			102-2
35	石製品	磨石	長さ3.8	幅3.7	厚さ3.5	重さ24.7g			軽石	多面使用	102-4
36	石製品	磨石	長さ5.2	幅4.3	厚さ2.6	重さ16.7g			軽石	自然面遺存 使用面1	102-4

第46号住居跡 (第107図)

第2次調査の東端から第1次調査区における東側調査区の西端にかかる、H・I-12・13グリッドに位置する。第45号住居跡より古く、第47号住居跡より新しい。遺構の北西部を第45号住居跡によって壊され、中央部は調査区の境界である排水溝が南北に縦断する。第45号住居跡の東側に隣接し、重複が激しい。

住居跡の平面形態はやや歪みのある方形で、規模は、長軸4.11m、短軸3.62m、深さ0.40mを測り、長軸方位はN-11°-Wを指す。覆土は全層にブロックを含み、下層ほどブロックの含有量が多い。カマド、壁溝、ピット等は検出されなかった。遺物は住居跡北半部から検出され、土師器高坏・埴形土器・甕、須恵器坏、土師器坏・甕等が出土した(第108図1~13)。1~10は土師器で



- SJ45
- 1 暗褐色土 1・2層の間に炭化物層 2mm 粒子細かい
 - 2 暗褐色土 粘質土 粘性とても強 炭化物
 - 3 暗黄褐色土 粘性強 炭化物・焼土混じり 粒子細かい
 - 4 暗褐色土 粘性強 炭化物含む 最下層に 1mm 炭化物層
 - 5 赤褐色土 粘性強 炭化物・焼土混じり
 - 6 黄褐色土 粒子細かい 炭化物混じり

第106図 第45号住居跡・出土遺物

第31表 第45号住居跡出土遺物観察表 (第106図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(13.0)	[2.5]	—	ACHIK	10	普通	にぶい橙		
2	土師器	坏	(14.0)	[2.3]	—	ACHIK	5	普通	橙		
3	土師器	埴形土器	(11.0)	[4.3]	—	ACHIK	5	普通	にぶい橙		
4	土師器	鉢	—	[6.3]	(4.2)	EIK	35	普通	にぶい赤褐	No.1	83-7

ある。1～4は高坏で、脚部は僅かに膨らみを持つ。5、6は埴形土器で、5はミガギ、6はヘラナデが施される。7～10は甕である。7は球形形で、外面に刷毛目調整が施される。

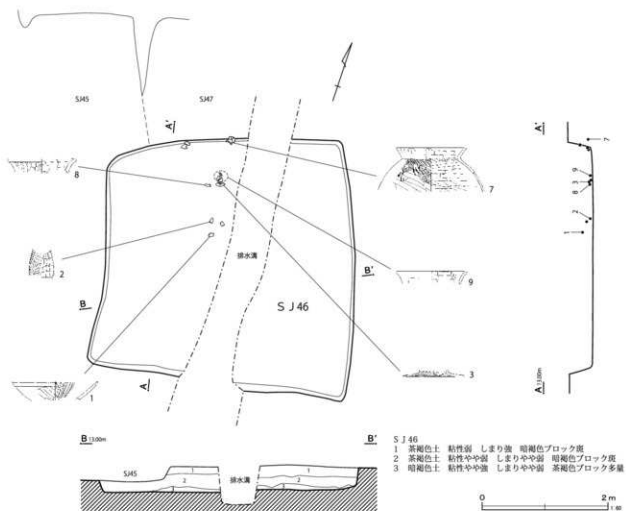
11～13は混入と考えられ、かえりのある須恵器蓋、土師器皿、土師器甕の底部で、いずれも7世

紀末から8世紀初頭のもものと推察される。

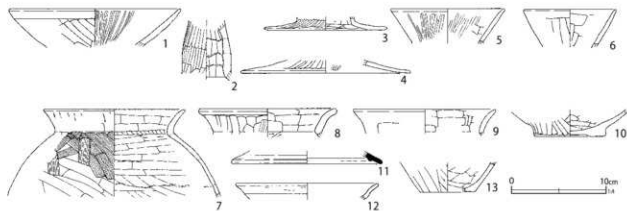
遺物の時期は、高坏や甕の形状から、5世紀中葉と考えられる。

第47号住居跡 (第109図)

第2次調査の東端部、H-12グリッドに位置する。第45・46号住居跡、第174号土壌と重複し、



第107図 第46号住居跡・遺物出土状況



第108図 第46号住居跡出土遺物

本遺構が古い。遺構の南半部は第46号住居跡によって大きく壊され、東半部は調査区の境界である排水溝によって壊されるため、住居跡の平面形態は不明である。

規模は、残存部で南北2.02m、東西1.75m、深さ0.25mを測り、主軸方位はN-12°-Wを指す。住居の北西寄りからは、炉跡が検出された。覆土は全層に炭化物を含み、床面付近は特に多く炭化

第32表 第46号住居跡出土遺物観察表 (第108図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	(18.0)	[4.0]	—	CHIJK	10	普通	灰褐	No.11 内面はにぶい赤褐	
2	土師器	高坏	—	[6.3]	—	AHIK	25	普通	明褐	No.9	
3	土師器	高坏	—	[1.4]	(13.0)	CEHIK	40	普通	にぶい橙	No.7	
4	土師器	高坏	—	[1.4]	(17.6)	ACEHIK	10	良好	にぶい橙		
5	土師器	埴形土器	(12.0)	[3.7]	—	CEHIK	15	普通	にぶい橙		
6	土師器	埴形土器	(9.6)	[4.0]	—	EHIK	5	普通	橙		
7	土師器	甕	(14.6)	[9.3]	—	CEHIK	20	普通	にぶい黄褐	No.4	
8	土師器	甕	(14.2)	[3.5]	—	CDEHIK	15	普通	にぶい赤褐	No.8 内面黒底有り	
9	土師器	甕	(15.0)	[2.8]	—	CGHIK	25	普通	にぶい赤褐	No.5	
10	土師器	甕	—	[2.9]	(7.2)	CEIK	30	普通	赤褐	内面保付着	
11	須恵器	蓋	(15.6)	[1.5]	—	EI	5	普通	黄灰	古代	
12	土師器	皿	(15.0)	[1.7]	—	CHIK	5	普通	にぶい橙	古代	
13	土師器	甕	—	[3.2]	(5.8)	EIK	15	普通	にぶい褐	古代	

物含有する。

炉跡の平面形態は楕円形で、規模は長径0.93m、短径0.71m、深さ0.05mを測り、覆土には焼土と炭化物が多く含まれていた。

壁溝、ピット等は検出されなかった。

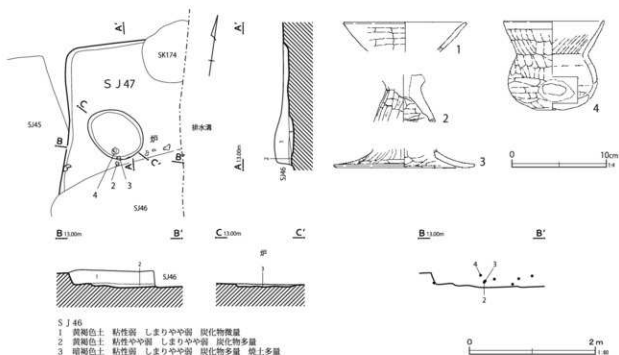
遺物は少量であるが炉跡周辺から検出され、土師器高坏・埴形土器が出土した(第109図1~4)。1~3は高坏である。いずれも小破片であるため

全体像は不明である。4は埴形土器である。胴部中位に人為的と考えられる二次穿孔が認められる。

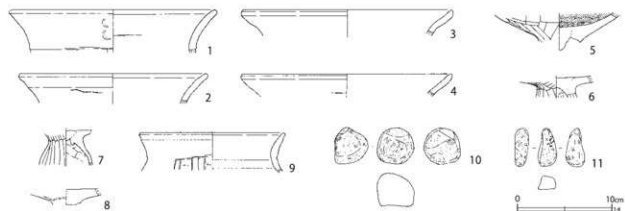
遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、炉跡が検出されたことから、5世紀代の住居跡と考えられる。

第48号住居跡 (第110図)

第2次調査の中央南寄り、H・I-10グリッドに位置する。第49号住居跡と同位置で重複し、本



第109図 第47号住居跡・出土遺物



第111図 第48号住居跡出土遺物

第34表 第48号住居跡出土遺物観察表 (第111図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	(21.0)	[4.5]	—	CDHIK	5	普通	橙		
2	土師器	甕	(19.5)	[3.3]	—	CEIK	15	普通	橙	No.4	
3	土師器	甕	(22.0)	[2.7]	—	ACHI K	5	普通	橙		
4	土師器	甕	(22.0)	[2.4]	—	ACHI K	5	普通	橙		
5	土師器	高坏	—	[4.0]	—	ACEIK	55	普通	明赤褐	No.12	
6	土師器	高坏	—	[2.3]	—	ACEHIK	65	普通	明赤褐	SJ20No.3	
7	土師器	高坏	—	[4.0]	—	AHIK	65	普通	明赤褐	No.15	
8	土師器	高坏	—	[1.7]	—	ACEHIK	70	普通	橙	No.19	
9	土師器	甕	(15.0)	[4.2]	—	ACEHIK	15	普通	にぶい赤褐	No.1	
10	石製品	磨石	長さ3.8	幅3.9	厚さ3.5	重さ26.5g				角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面2	102-4
11	石製品	磨石	長さ4.0	幅2.0	厚さ1.4	重さ4.3g				No.5 角閃石安山岩 多孔質 自然面 遺存 使用面3	102-4

遺構が新しい。遺構の中央部を古代や中・近世の井戸跡や土壌によって壊され、南半部には古代の溝跡が東西方向に横断する。

住居跡の平面形態は方形で、規模は長軸5.25m、短軸5.18m、深さ0.18mを測り、長軸方位はN-8°-Wを指す。覆土はほぼ削平され、僅かに貼床が残存するのみであった。

壁溝は南西角を除いてほぼ全周し、規模は幅0.12~0.36m、深さ0.06~0.10mを測る。ピットは3基検出され、ピット1は長径0.71m、短径0.64m、深さ0.43m、ピット2は長径0.50m、短径0.44m、深さ0.45m、ピット3は長径0.63m、短径0.52m、深さ0.70mを測る。規模が比較的大きく、深いことから、住居の柱穴である可能性がある。

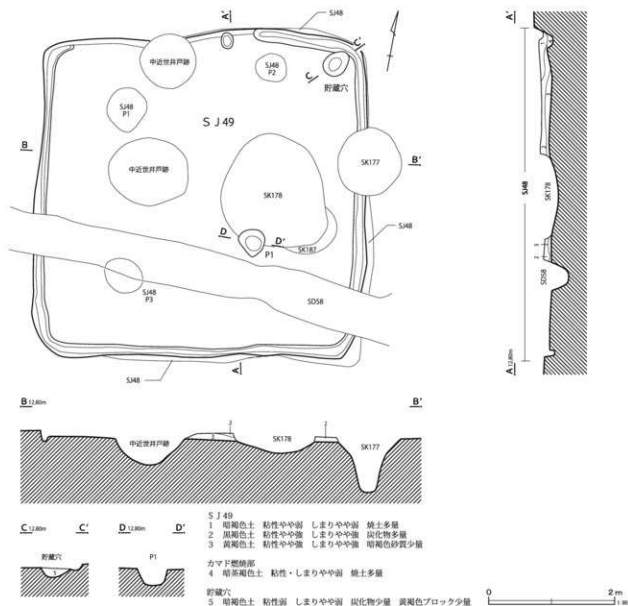
カマドは検出されなかった。

遺物は土師器甕・高坏、磨石等が出土した(第111図1~11)。1~9は土師器である。1~4は甕である。口径が大きく、口縁部が直線的に開く。口縁部に最大径を持つものと推察される。5~8は高坏で、いずれも全体像のわからない破片である。5は内面にミガキが施される。9は甕で、6世紀代のものか。5~9はいずれも混入品と考えられる。10、11は角閃石安山岩製の磨石である。

遺物は少ないが、土師器甕の形状や、同位置で重複する第49号住居跡が7世紀代であることから、7世紀代の住居跡と考えられる。

第49号住居跡 (第112・113図)

第2次調査の中央南寄り、H・I-10グリッドに位置する。第48号住居跡と同位置で重複し、本遺構が古い。遺構の中央部を古代や中・近世の井



第112図 第49号住居跡

戸跡・土壇によって壊され、南半部には古代の溝跡が東西方向に横断する。

住居跡の平面形態は方形で、規模は長軸5.18m、短軸5.10m、深さ0.20mを測り、主軸方位はN-8°-Wを指す。カマドは燃焼部が部分的に検出されたのみで全体像は不明だが、北壁中央部に設けられたと考えられる。

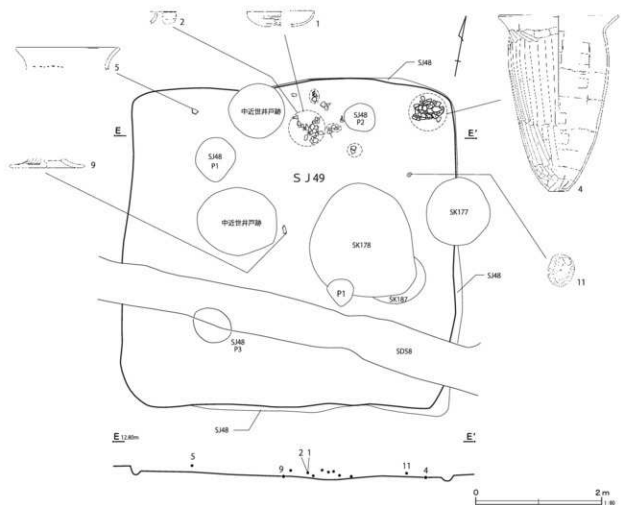
覆土は、住居跡全体を炭化物が多く含まれる層が覆い、北壁のカマド周辺からは焼土を多く含む土が住居内に流れ込む様相が捉えられる。覆土全

体に炭化物や焼土を多く含むことから、焼失住居である可能性があるが、床面から炭化材等は検出されなかった。

貯蔵穴は住居跡北西角から検出された。平面形態は楕円形で、長径0.45m、短径0.34m、深さ0.16mを測り、土師器甕が1個体潰れた状態で出土した。

壁溝は北壁の一部を除いて全周し、幅0.10～0.25m、深さ0.06～0.12mを測る。

ピットは住居跡中央部やや南東寄りから1基検出され、平面形態は楕円形で、規模は長径0.43m、



第113図 第49号住居跡遺物出土状況

短径0.40m、深さ0.25mを測る。

遺物はカマドと推定される箇所周辺から多く検出され、土師器杯・鉢・甕・高坏、磨石等が出土した(第114図1~11)。1、2は坏である。1は丸底で深身の北武蔵型坏である。3は大型の鉢で、調整方法は坏に似る。

4~7は甕である。4は貯蔵穴から潰れた状態で出土したもので、口縁部に最大径を持つ長胴甕である。8、9は高坏で、時期が異なるため混入と考えられる。

10は軽石製、11は角閃石安山岩製の磨石である。

遺物の時期は、深身の土師器杯や、口縁部に最大径を持つ甕の形状から、7世紀末~8世紀前半と考えられる。

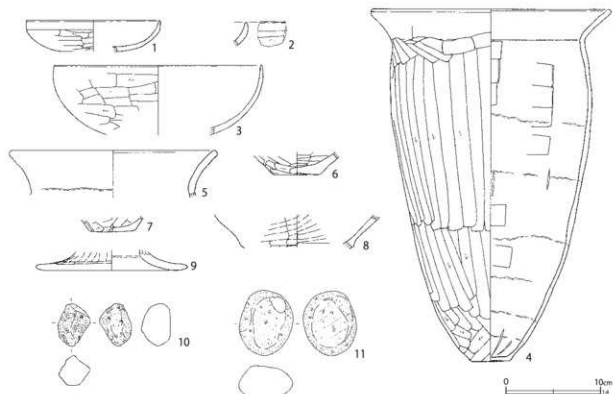
第50号住居跡 (第115図)

第2次調査の中央南端、1-9・10グリッドに位置し、第176号土壌と重複する。遺構の東半部は中・近世の井戸跡に、南壁は古代の溝跡によって壊される。

住居跡の平面形態は隅丸方形と推察され、規模は長軸3.87m、短軸3.60m、深さ0.09mを測り、長軸方位はN-11°-Wを指す。覆土は削平され、残存していなかった。

カマド、壁溝、ピット等は検出されなかった。

遺物は土師器杯・甕、釘等が出土した(第115図1~8)。1~7は土師器である。1、2は坏で、口径の大きい北武蔵型坏である。3、4は皿で、口縁部が大きく外反する。



第114図 第49号住居跡出土遺物

第35表 第49号住居跡出土遺物観察表 (第114図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(14.0)	[3.3]	—	ACHIK	5	普通	橙	No.13	
2	土師器	坏	—	[2.6]	—	ACHIK	5	普通	橙	No.13	
3	土師器	鉢	(21.7)	[5.0]	—	CEHIK	15	普通	橙	内外面共に摩耗	
4	土師器	甕	24.8	37.2	4.1	CEIK	80	普通	にぶい橙	No.1 外面胴部上半から口縁部にかけて煤付着	83-9
5	土師器	甕	(21.4)	[4.9]	—	AEHIK	15	普通	橙	No.14	
6	土師器	甕	—	[1.4]	5.0	CGHIK	25	普通	にぶい黄橙		
7	土師器	甕	—	[1.6]	(4.8)	CHIK	45	普通	にぶい橙		
8	土師器	高坏	—	[3.5]	—	ACDEIK	10	普通	明赤褐		
9	土師器	高坏	—	[2.2]	16.0	ACHIK	25	普通	明赤褐	No.4	
10	石製品	磨石	長さ4.5	幅3.4	厚さ3.1	重さ9.9g				軽石 自然面遺存 多面使用	102-4
11	石製品	磨石	長さ6.9	幅5.7	厚さ3.2	重さ58.7g				No.2 角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面1	102-4

5～7は甕で、5は口縁部に最大径を持つ、長胴甕である。

8は鉄製品の釘である。

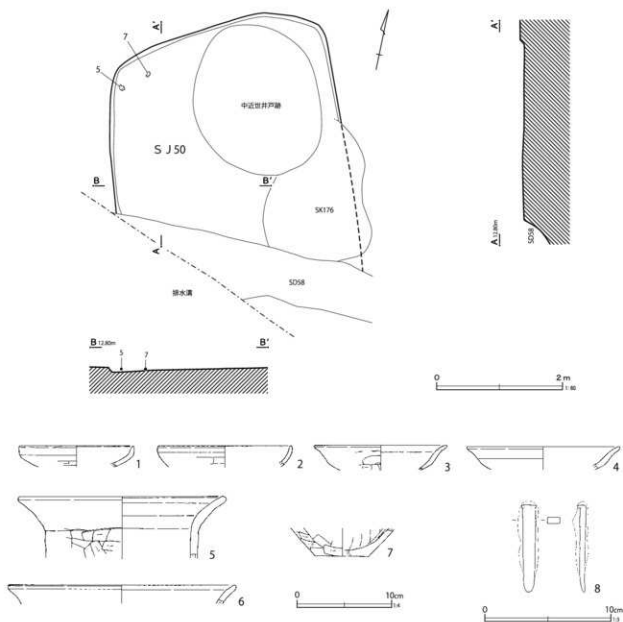
遺物の時期は、土師器甕の形状から7世紀末～8世紀初頭と考えられる。

第51号住居跡 (第116図)

第2次調査の中央南寄り、H・I-10・11グリッドに位置し、第48・49号住居跡と重複し、第

48・49号住居跡より古い。遺構の重複が激しい箇所位置し、遺構の中央を後代の住居跡に大きく壊される他、古代の溝跡や土壌、中・近世の井戸跡等の影響を受ける。

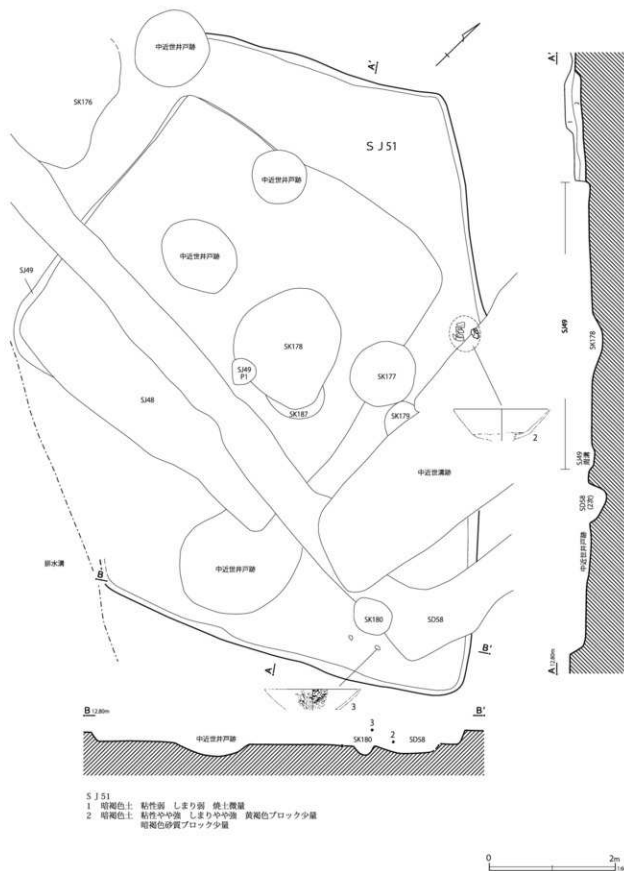
住居跡の平面形態は、検出された範囲ではかなり歪みの強い長方形となるが、後世の攪乱の影響を強く受けているため、正確な形は不明である。規模は、残存範囲で長軸9.46m、短軸5.88m、深さ



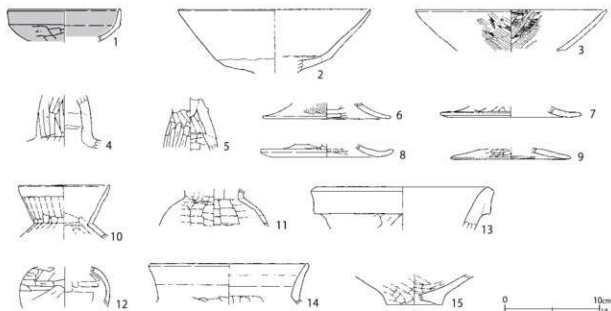
第115図 第50号住居跡・出土遺物

第36表 第50号住居跡出土遺物観察表 (第115図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(14.0)	[2.2]	-	CEHIK	5	普通	橙	内外面摩耗 No.2 No.1 底部ヘラケズリ調整	
2	土師器	坏	(12.0)	[2.2]	-	CEHIK	5	普通	にぶい橙		
3	土師器	皿	(14.0)	[2.6]	-	CEHIK	5	普通	橙		
4	土師器	皿	(16.0)	[2.5]	-	CEHIK	5	普通	橙		
5	土師器	甕	(21.6)	[6.6]	-	CEHIK	15	普通	橙		
6	土師器	甕	(24.0)	[2.0]	-	BCEHIK	5	普通	橙		
7	土師器	甕	-	[3.0]	(5.6)	CIK	40	普通	明赤褐色		
8	鉄製品	釘	長さ6.9	幅1.0	厚さ0.5	重さ14.7g					



第116図 第51号住居跡・遺物出土状況



第117図 第51号住居跡出土遺物

第37表 第51号住居跡出土遺物観察表 (第117図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(11.8)	[3.4]	—	AH I K	10	普通	浅黄橙	内外面赤彩	
2	土師器	高坏	20.0	[6.8]	—	A E I K	95	普通	にぶい橙	No.1 内外面摩耗が激しい	
3	土師器	高坏	(20.0)	[4.5]	—	A C E H I K	5	普通	明赤褐	No.2	
4	土師器	高坏	—	[5.6]	—	C E H I K	15	普通	にぶい橙		
5	土師器	高坏	—	[5.5]	—	E H I K	25	普通	にぶい赤褐		
6	土師器	高坏	—	[1.7]	(13.2)	D E I K	5	普通	にぶい橙		
7	土師器	高坏	—	[1.2]	(15.0)	C E H I K	15	普通	にぶい橙		
8	土師器	高坏	—	[1.4]	(14.0)	E H I K	10	普通	にぶい橙		
9	土師器	高坏	—	[1.1]	(12.6)	C E H I K	5	普通	明赤褐		
10	土師器	埴形土器	(9.4)	[5.7]	—	A D E H I K	35	普通	にぶい橙	外面黒斑有り	
11	土師器	埴形土器	—	[4.0]	—	E I K	15	普通	灰褐		
12	土師器	埴形土器	—	[4.3]	—	E H I K	25	良好	にぶい橙		
13	土師器	壺	(18.0)	[4.5]	—	B C E H I K	5	普通	明赤褐		
14	土師器	甕	(16.6)	[4.2]	—	C H I	5	普通	にぶい橙		
15	土師器	甕	—	[3.2]	(5.8)	C G H I K	25	普通	にぶい橙		

0.10mを測り、長軸方位はN-48° -Wを指す。覆土は住居跡の北側で僅かに確認できたが、堆積状況は不明である。

カマド、壁溝、ピット等は検出されなかった。

遺物は土師器・高坏・埴形土器・壺・甕等が出土した(第117図1~15)。1は坏で、内外面に赤彩が施される。2~9は高坏で、坏部は深身の2と浅身の3がある。脚部は4、5で僅かに膨らみを持つ。10~12は埴形土器で、10は外面に黒斑

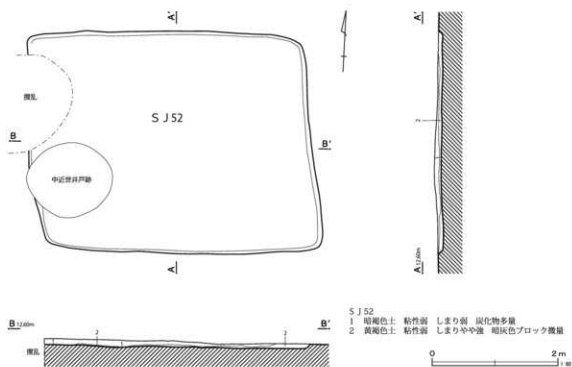
がある。

13は複合口縁の壺である。14、15は甕で、14は頸部の屈曲が弱い。

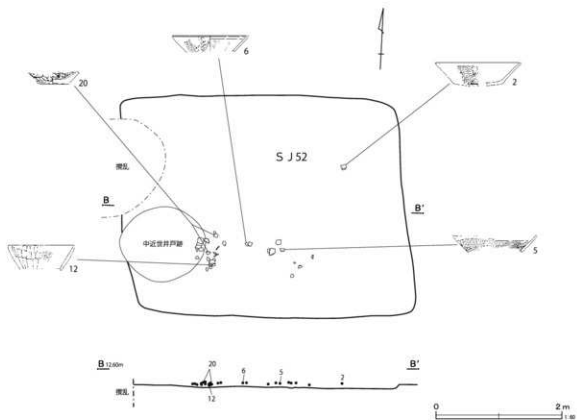
遺物の時期は、土師器坏が少ない点や、高坏・甕の形状等から、5世紀末と考えられる。

第52号住居跡 (第118・119図)

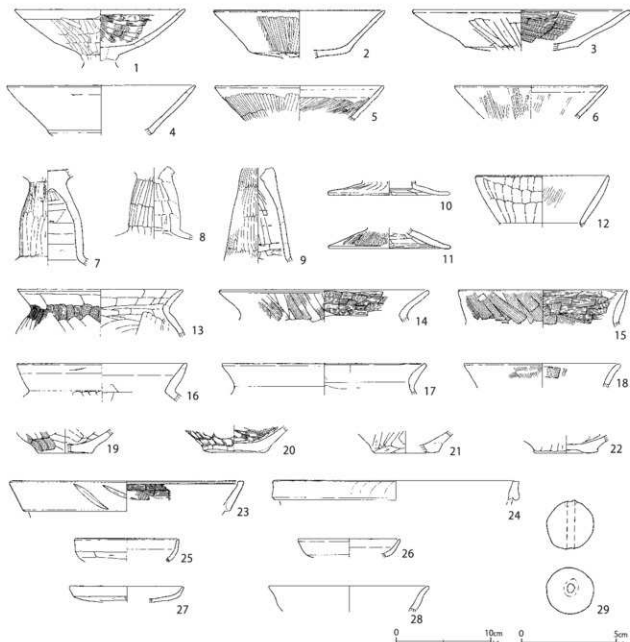
第2次調査の北東部、G・H-12グリッドに位置する。西壁の一部は中・近世の井戸跡によって壊される。



第118図 第52号住居跡



第119図 第52号住居跡遺物出土状況



第120図 第52号住居跡出土遺物

住居跡の平面形態は東西に長い長方形で、規模は長軸4.43m、短軸3.50m、深さ0.07mを測り、長軸方位はN-88°-Eを指す。覆土は削平を受け、床面付近の覆土が僅かに残存するのみであったが、住居跡全体に炭化物を多く含む層の堆積が確認できた。

カマド、壁溝、ピット等は検出されなかった。遺物は住居跡南側から比較的多く検出され、土

師器高坏・埴形土器・甕・壺・甎・坏・土玉等が出土した(第120図1~29)。1~11は高坏で、坏部は浅身のもの(1、3、5、6)と深身のもの(2、4)がある。脚部は直線的に開くもの(9)と僅かに膨らみを持つもの(7、8)がある。12は埴形土器で、やや大型のものか。

13~22は甕である。いずれも破片であり、器形の全体はわからないが、頸部の屈曲がきついこと

第38表 第52号住居跡出土遺物観察表 (第120図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	(18.0)	[5.4]	—	CDHIK	15	普通	明赤褐		
2	土師器	高坏	(18.0)	[5.0]	—	EHIK	15	普通	にぶい赤褐	No.1 底部内面の摩耗が激しい	
3	土師器	高坏	(19.0)	[3.6]	—	CEIK	15	普通	明赤褐		
4	土師器	高坏	(19.7)	[5.3]	—	CDEIK	15	普通	明赤褐	内外面摩耗 特に内面の摩耗が激しい	
5	土師器	高坏	(17.8)	[3.7]	—	EIK	25	普通	明赤褐	No.7	
6	土師器	高坏	(16.0)	[3.5]	—	CHIK	5	普通	褐灰	No.10 内外面摩耗している	
7	土師器	高坏	—	[10.2]	—	CEHIK	60	普通	橙	外面黒斑有り	
8	土師器	高坏	—	[7.6]	—	CEHIK	80	普通	にぶい橙		
9	土師器	高坏	—	[10.0]	—	ACHIJK	40	普通	にぶい赤褐		
10	土師器	高坏	—	[1.5]	(12.6)	EHIK	25	普通	にぶい橙		
11	土師器	高坏	—	[2.2]	(12.6)	ACIK	25	普通	橙		
12	土師器	増形土器	(14.0)	[5.5]	—	AHIK	25	普通	にぶい褐	No.23	
13	土師器	甕	(17.4)	[5.0]	—	CDHIK	25	普通	明赤褐		
14	土師器	甕	(22.0)	[3.4]	—	AIK	15	普通	にぶい橙		
15	土師器	甕	(17.8)	[4.0]	—	CGIK	25	普通	にぶい赤褐		
16	土師器	甕	(18.0)	[4.0]	—	EHIK	5	普通	にぶい橙		
17	土師器	甕	(21.6)	[3.3]	—	CEHIK	5	普通	明赤褐		
18	土師器	甕	(16.5)	[2.6]	—	ACEHIK	5	普通	灰褐		
19	土師器	甕	—	[2.5]	(5.6)	CDGHIK	20	普通	にぶい橙		
20	土師器	甕	—	[2.9]	6.7	HIK	50	普通	赤褐	No.12・16	
21	土師器	甕	—	[2.3]	(6.4)	ACGHIK	20	普通	橙		
22	土師器	甕	—	[1.9]	6.8	CDHIK	60	普通	にぶい赤褐		
23	土師器	壺	(24.4)	[3.2]	—	ACEHIK	5	普通	にぶい橙	転用磁具	
24	土師器	瓶か	(25.0)	[2.0]	—	EGHIK	5	普通	にぶい褐		
25	土師器	坏	(10.9)	[2.4]	—	ACHI K	10	普通	橙	古代	
26	土師器	坏	(10.8)	[1.9]	—	ACHI K	5	普通	橙	古代	
27	土師器	坏	(12.0)	[1.7]	—	ACHI K	10	普通	にぶい橙	古代	
28	土師器	坏	(17.0)	[2.2]	—	AEIK	10	普通	褐灰	古代	
29	土製品	土玉	最大高2.6 孔径9.4	径2.4~2.5 重さ15.4g	—	AEIK	100	良好	にぶい褐		102-1

から、球胴甕になると推察される。器面に刷毛目調整が施されるものが多い。23は複合口縁の壺で、口縁部外面に刃物痕が認められることから、転用砥具として使用されたと考えられる。24は口縁部の破片であるが、瓶である可能性がある。

25~28は坏で、いずれも混入品と考えられる。

29は土製品の土玉である。

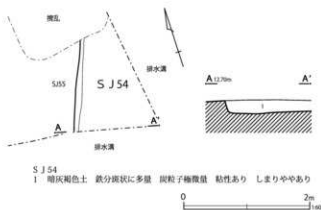
遺物の時期は、高坏の特徴や甕の頭部形状、刷毛目調整の遺物が多いことなどから、5世紀中葉と考えられる。

第54号住居跡 (第121図)

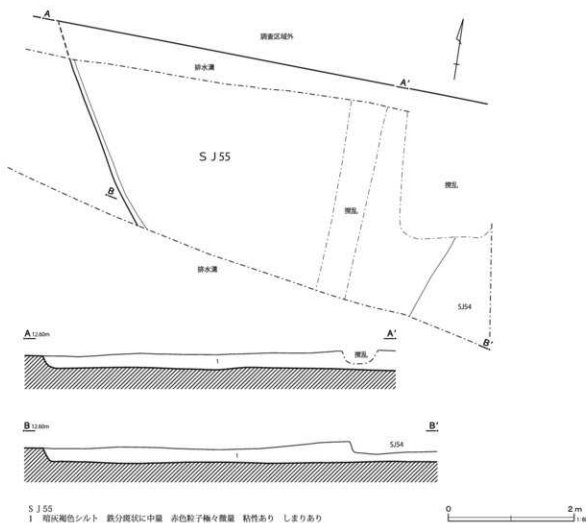
第4次調査におけるI区東端、L-16グリッドに位置する。第55号住居跡と重複し、本遺構が新しい。調査区が狭小な箇所から検出され、遺構の

大部分が調査区域外へ延びるため、平面形態は不明である。

規模は、残存部で南北1.66m、東西1.04m、深



第121図 第54号住居跡



第122図 第55号住居跡

さ0.22mを測り、長軸方位は $N-22^{\circ}-E$ を指す。覆土は単層で炭化物を僅かに含む。

カマド、壁溝、ピット等は検出されなかった。

遺物が出土しなかったため時期は不明だが、古墳時代の遺構である可能性がある。

第55号住居跡 (第122・123図)

第4次調査におけるI区東側、L-15・16グリッドに位置する。第54号住居跡と重複し、本遺構が古い。調査区が狭小であり、遺構の大部分が調査区域外へ延びるため、平面形態は不明である。

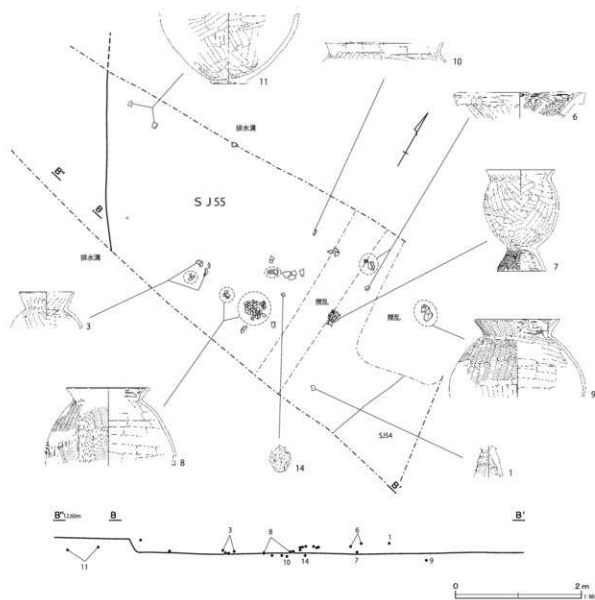
規模は東西4.60m、南北3.92m、深さ0.32mを測り、長軸方位は $N-63^{\circ}-E$ を指す。

カマド、壁溝、ピット等は検出されなかった。

遺物は住居跡全体から比較的多く検出され、土師器高坏・小型壺・壺・台付甕・甕・磨石等が出土した(第124図1~14)。1、2は高坏で、脚部は直線的に開く。

3~5は小型壺である。6は複合口縁の壺で、複合部の幅は不均一で内面にはミガキが施される。7は台付甕で、上部のみ外面に刷毛目調整が施される。8~13は甕である。8、9は球胴形になるもので、外面および口縁部内面に刷毛目調整が施される。12、13は小型壺か埴形土器である可能性がある。14は軽石製の磨石である。

遺物の時期は、甕の形状から5世紀前半~中葉と考えられる。



第123図 第55号住居跡遺物出土状況

第60号住居跡 (第125図)

第4次調査におけるⅡ区中央北壁際、K・L-18・19グリッドに位置する。第61・70号住居跡と重複し、本遺構が新しい。遺構の北半部が調査区域外へ延びるため、平面形態は不明である。

規模は長軸5.35m、短軸2.15m、深さ0.08mを測り、長軸方位はN-76°-Eを指す。

カマド、壁溝、ピット等は検出されなかった。

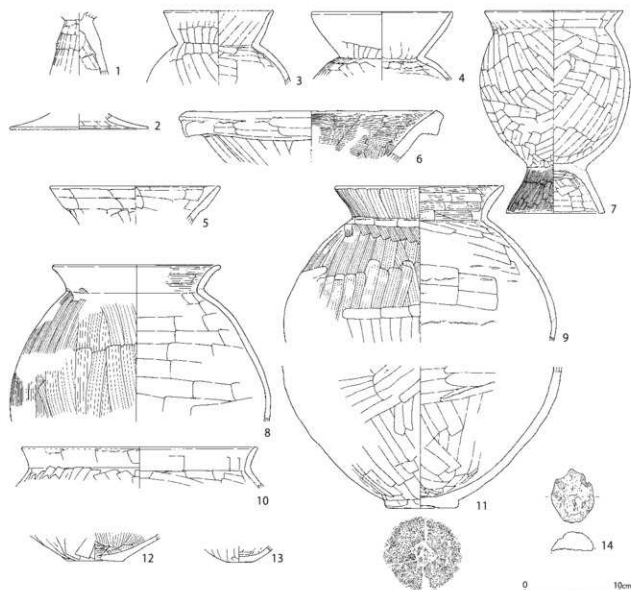
図示可能な遺物が出土しなかったが、住居跡の形状から古墳時代に帰属すると考えられる。

第61号住居跡 (第126図)

第4次調査におけるⅡ区中央北壁際、K・L-18・19グリッドに位置する。第60・70号住居跡と重複し、第60号住居跡より古く、第70号住居跡より新しい。遺構の北半部が調査区域外へ延びるため、平面形態は不明である。

規模は長軸4.45m、短軸3.15m、深さ0.10mを測り、長軸方位はN-52°-Wを指す。

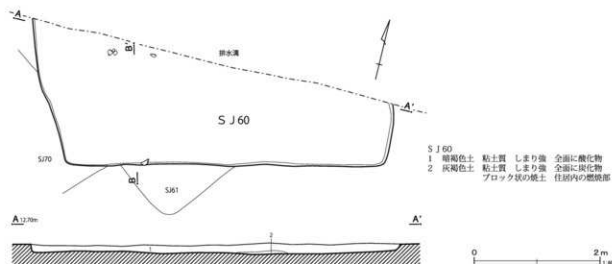
カマドは東壁に設けられる。袖が住居内に0.55m程張り出し、燃焼部は平坦になる構造を持つ。カ



第124図 第55号住居跡出土遺物

第39表 第55号住居跡出土遺物観察表 (第124図)

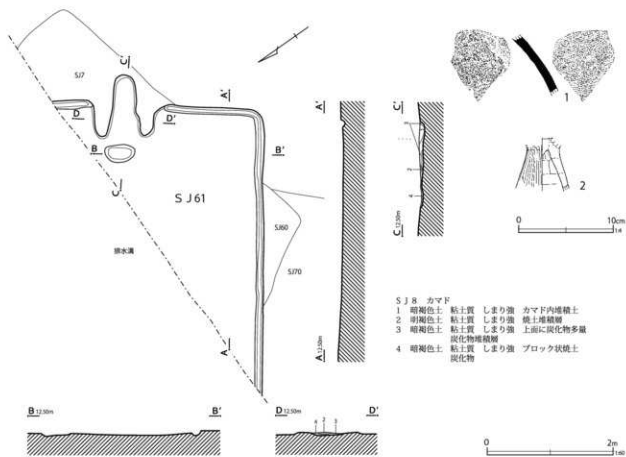
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	—	[6.6]	—	EH1K	25	普通	にぶい黄橙	No.8	
2	土師器	高坏	—	[1.7]	(14.6)	CH1K	10	普通	橙		
3	土師器	壺	(11.4)	[7.9]	—	EH1K	45	普通	明赤褐	No.4・5	84-1
4	土師器	壺	(14.8)	[7.3]	—	CEH1K	15	普通	にぶい橙		
5	土師器	壺	(17.6)	[4.1]	—	CEH1K	25	普通	にぶい褐	内面煤付着	
6	土師器	壺	(26.4)	[5.5]	—	E1K	45	普通	にぶい橙	No.16 歪み有り	84-2
7	土師器	台付甕	14.2	21.4	10.3	E1K	75	普通	にぶい褐	No.17 内外面煤付着	84-3
8	土師器	甕	17.2	[16.5]	—	AE1K	60	普通	にぶい褐	No.20・21 内外面煤付着	84-4
9	土師器	甕	(17.6)	[16.5]	—	E1K	40	普通	灰褐	No.26 外面煤付着	84-5
10	土師器	甕	(25.2)	[4.4]	—	BE1K	40	普通	にぶい黄橙	No.25	
11	土師器	甕	—	[15.0]	7.7	CEH1K	20	普通	にぶい褐	No.1・2	
12	土師器	甕	—	[3.0]	(5.9)	E1K	20	普通	にぶい赤褐	外面煤付着	
13	土師器	甕	—	[1.7]	2.5	EH1K	85	普通	にぶい赤褐		
14	石製品	磨石	長さ5.7	幅4.5	厚さ[2.0]	重さ13.9g				No.24 軽石 自然面遺存 使用面1遺存	102-5



第125図 第60号住居跡

マドの正面からは浅い掘り込みが検出された。規模は全長1.35m、幅0.5m、深さ0.08mを測り、覆土には焼土層や炭化物層が薄く堆積する。

壁溝は、検出された範囲ではカマドを除いて全周し、規模は幅0.10～0.15m、深さ0.05～0.07mを測る。ピット等は検出されなかった。



第126図 第61号住居跡・出土遺物

第40表 第61号住居跡出土遺物観察表 (第126図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	甕	—	[6.1]	—	DEI	5	普通	褐灰		
2	土師器	高坏	—	[5.6]	—	CEHIK	65	普通	橙		

遺物は須恵器甕、土師器高坏が出土した(第126図1、2)。1は須恵器甕の胴部破片で、外面は平行タタキ、内面は同心円文が施される。2は土師器高坏の脚部破片で、外面にはミガキが施される。

遺物が少ないため正確な時期は不明だが、古墳時代の遺構と考えられる。

第62号住居跡 (第127図)

第4次調査におけるⅡ区西端部、L-17グリッドに位置する。第65号住居跡と重複し、本遺構が新しい。遺構の西半部が調査区域外へ延びるため、平面形態は不明である。

規模は長軸2.47m、短軸1.00m、深さ0.14mを測り、長軸方位はN-0°を指す。

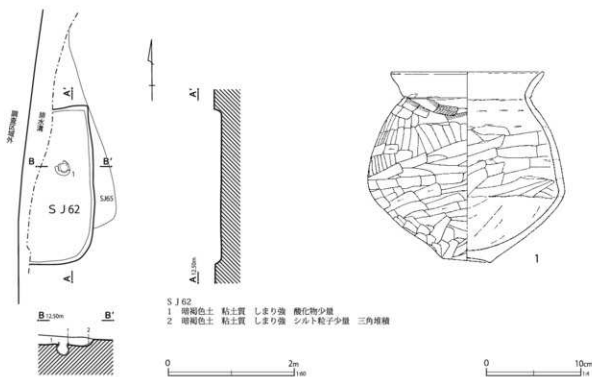
カマド、壁溝、ピット等は検出されなかった。

遺物は土師器甕が出土した(第127図1)。1は甕で、胴部が算盤玉形になる。

遺物が1点のみであるため詳細な時期は不明だが、5世紀代の住居跡と考えられる。

第64号住居跡 (第128・129図)

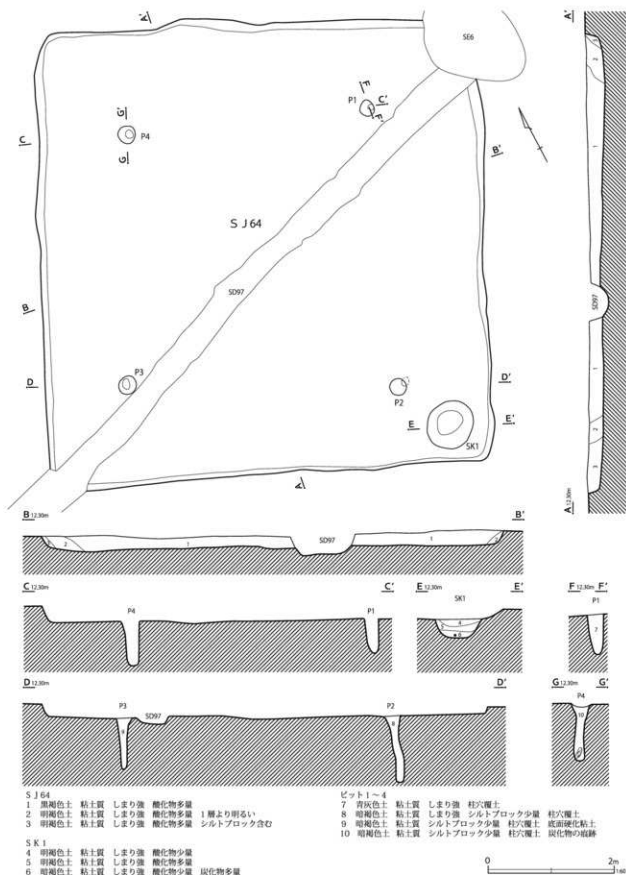
第4次調査におけるⅡ区東寄り、L・M-19・20グリッドに位置する。第97号溝跡と重複し、本遺構が古い。遺構の北東角は古代の井戸跡によ



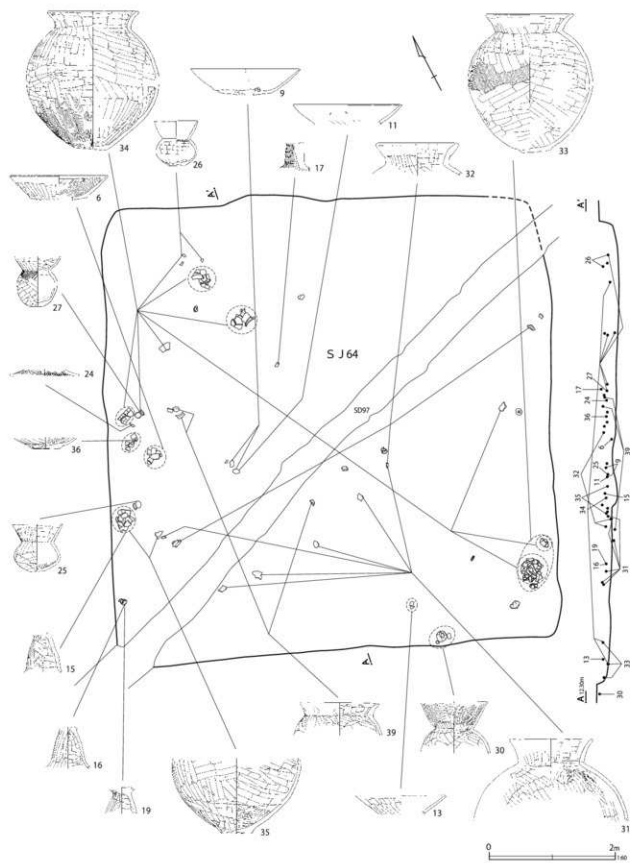
第127図 第62号住居跡・出土遺物

第41表 第62号住居跡出土遺物観察表 (第127図)

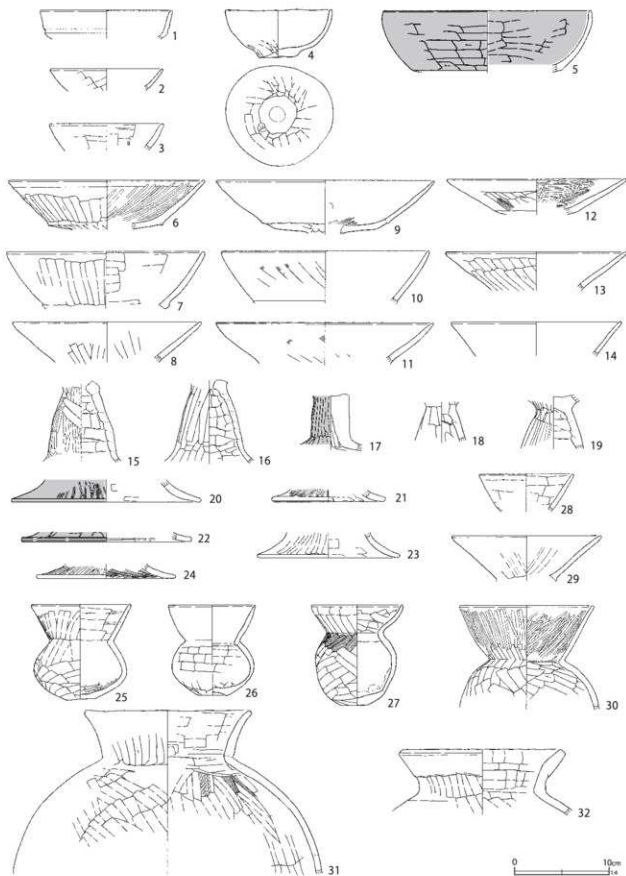
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	15.8	20.1	4.8	CDEGHK	95	普通	橙	No.1 胴部外面中央に帯状に煤付着 一部剥離 口唇部外面の一部にも煤付着	84-6



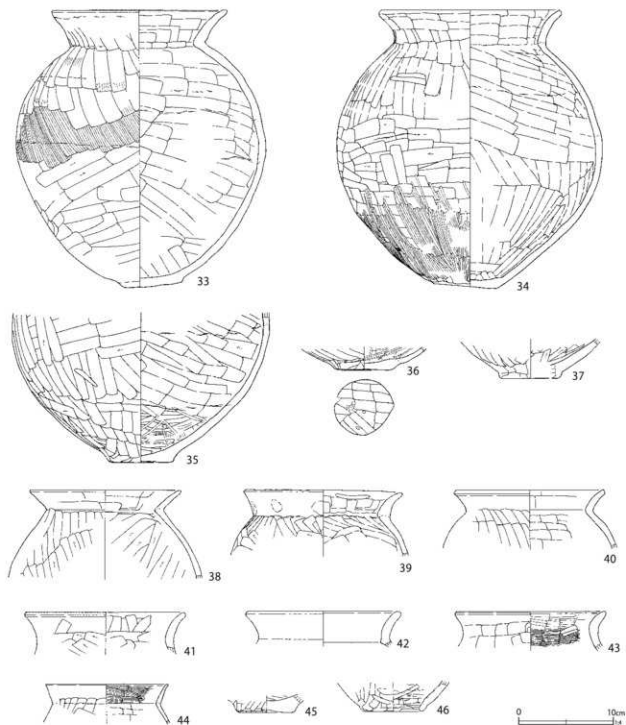
第128図 第64号住居跡



第129図 第64号住居跡遺物出土状況



第130图 第64号住居跡出土遺物(1)

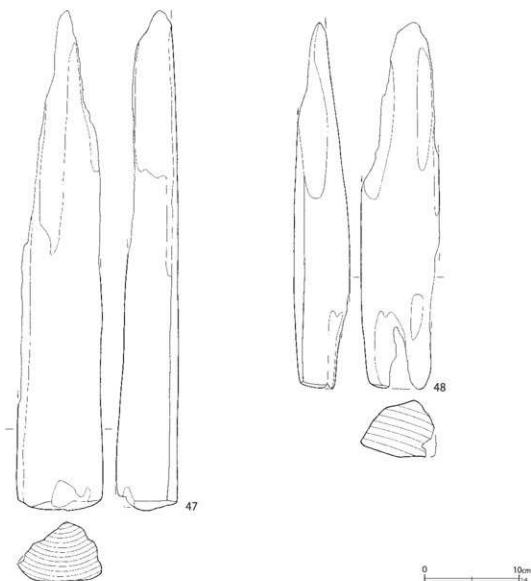


第131図 第64号住居跡出土遺物（2）

て壊され、中央部を第97号溝跡が北東-南西方向に縦断する。

平面形態は方形で、規模は長軸7.09m、短軸7.06m、深さ0.31mを測る比較的大型の住居跡であり、長軸方位はN-25°-Eを指す。

ピットは4基確認され、配置から住居跡の柱穴と考えられる。平面形態はいずれも楕円形で深く、規模はピット1が長径0.25m、短径0.21m、深さ0.63mを測る。ピット2は長径0.26m、短径0.25m、深さ1.01mを測る。ピット3は長径0.28m、短径



第132図 第64号住居跡出土遺物（3）

0.27m、深さ0.81mを測る。ピット4は長径0.28m、短径0.27m、深さ0.89mを測る。このうちピット1・4からは柱材の一部が検出された（第132図47、48）。

柱材はピット中の下層から出土した。検出されたのは柱の根の部分で、水気が多く、地下水位の高い場所に位置していたことから、水没していた部分が残存したと考えられる。

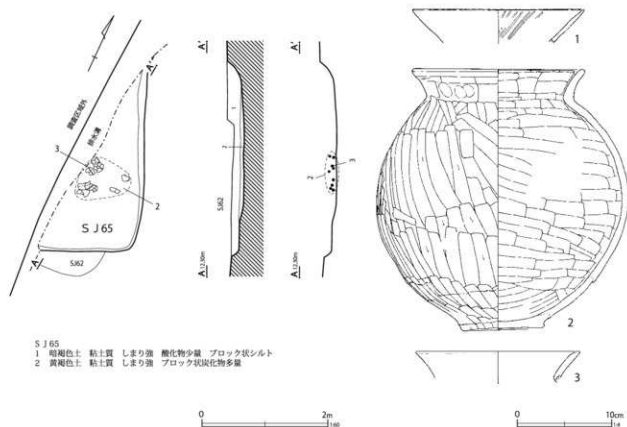
住居跡の南東角には、貯蔵穴と考えられる第1号土壌が位置する。平面形態は楕円形で、長径0.75m、短径0.70m、深さ0.33mを測り、覆土の下

層には炭化物を多量に含む土が堆積していた。付近からは土師器甕が一個体潰れた状態で出土した。カマド、壁溝等は検出されなかった。

遺物は土師器坏・鉢・高坏・埴形土器・小型壺・壺・甕、柱材が出土した（第130～132図1～48）。1～4は坏で、1は坏蓋模倣坏である。4は底部がドーナツ状になる。5は鉢になると考えられ、内外面に赤彩が施される。6～24は高坏である。坏部は大型になる6～11と、中型の12～14の2系統がある。脚部は僅かに膨らみを持つものが多いが、中実状になるものもある。25～28は埴

第42表 第64号住居跡出土土物観察表 (第130~132図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(13.8)	[3.1]	—	CHIK	5	普通	橙		
2	土師器	坏	(11.8)	[2.3]	—	CHIK	5	普通	にぶい橙		
3	土師器	坏	(11.8)	[2.8]	—	DEHIK	10	普通	にぶい橙		
4	土師器	坏	11.0	5.1	4.0	HIK	95	普通	にぶい橙	外面黒斑有り 歪み有り	84-7
5	土師器	鉢か	(22.0)	[6.5]	—	CEHIK	20	普通	にぶい橙	内外面赤彩 歪み有り	
6	土師器	高坏	20.4	[5.2]	—	BEHIK	95	普通	明赤褐	No.41 外面黒斑有り	84-8
7	土師器	高坏	(20.8)	[6.0]	—	BCEHIK	15	普通	赤褐		
8	土師器	高坏	(19.6)	[4.3]	—	DEGIK	10	普通	にぶい橙	内外面共に摩耗が激しい	
9	土師器	高坏	(23.0)	[5.6]	—	CEGIK	15	普通	橙褐	No.43・44 内外面共に摩耗が激しい	
10	土師器	高坏	(21.8)	5.5	—	BEIK	20	普通	明赤褐	内外面摩耗	
11	土師器	高坏	(17.8)	[4.8]	—	CEHIK	10	普通	明赤褐	No.44 内外面共に摩耗が激しい	
12	土師器	高坏	(18.8)	[3.7]	—	CEHIK	15	普通	にぶい赤褐		
13	土師器	高坏	(18.9)	[4.0]	—	CDEHIK	15	普通	明赤褐	No.30 内面の摩耗が激しい	
14	土師器	高坏	(18.0)	[3.6]	—	IK	10	不良	にぶい橙	内外面共に摩耗が激しい	
15	土師器	高坏	—	[8.5]	—	CEHIK	95	普通	にぶい橙	No.38 内面上半が煤けている	
16	土師器	高坏	—	[8.7]	—	BEIK	85	普通	にぶい橙	No.34	
17	土師器	高坏	—	[5.9]	—	CEGHIK	70	普通	にぶい黄橙	No.8 外面赤彩	
18	土師器	高坏	—	[4.3]	—	CEHIK	40	普通	にぶい黄橙		
19	土師器	高坏	—	[5.7]	—	EIK	75	普通	橙	No.24	
20	土師器	高坏	—	[2.4]	(19.8)	CEHIK	5	普通	橙	外面赤彩	
21	土師器	高坏	—	[1.3]	(11.3)	EHIK	20	普通	橙		
22	土師器	高坏	—	[1.0]	(17.8)	CEHIK	20	普通	橙	外面赤彩	
23	土師器	高坏	—	[2.7]	(14.4)	CEHIK	20	良好	橙		
24	土師器	高坏	—	[1.5]	(14.4)	CEHIK	25	普通	にぶい橙	No.14 底部黒斑有り	
25	土師器	埴形土器	10.3	10.0	3.0	CHIK	95	普通	橙	No.40 黒斑有り	84-9
26	土師器	埴形土器	(9.1)	9.5	3.0	CEIK	30	普通	明赤褐	No.1・3	
27	土師器	埴形土器	9.4	10.6	2.9	CDEHIK	100	普通	にぶい赤褐	No.12	84-10
28	土師器	埴形土器	(9.8)	[4.0]	—	CEHIK	20	普通	にぶい橙		
29	土師器	小型蓋	(15.6)	[4.7]	—	EHIK	20	普通	にぶい橙		
30	土師器	小型蓋	13.9	[10.9]	—	EHIK	70	普通	明赤褐	No.31	85-1
31	土師器	蓋	17.0	[17.3]	—	HIK	40	普通	にぶい橙	No.25・27・32・33・36	
32	土師器	蓋	(16.6)	[6.9]	—	CDEGHIK	45	普通	橙	No.18・25・35	
33	土師器	甕	18.2	29.4	6.2	EIK	90	普通	にぶい橙	外面に煤付着	85-2
34	土師器	甕	18.8	29.2	6.7	CEGHIK	90	普通	橙	No.1・4~6・12・13・19・21・23	85-3
35	土師器	甕	—	[15.8]	6.2	CEGIK	95	普通	明赤褐	No.37・39 胴部外面および内面全体に煤付着	85-4
36	土師器	甕	—	[2.5]	6.2	CHIK	50	普通	にぶい橙	No.16 外面煤付着 底部外面に種子圧痕複数有り	
37	土師器	甕	—	[4.2]	(3.0)	CHI	20	普通	橙		
38	土師器	甕	(15.6)	[9.4]	—	EHIK	20	普通	にぶい赤褐	外面全体煤付着	
39	土師器	甕	16.4	[7.0]	—	EHIK	50	普通	にぶい橙	No.10・11・28	85-5
40	土師器	甕	(15.5)	[6.2]	—	CEHIK	15	普通	にぶい橙		
41	土師器	甕	(16.6)	[4.5]	—	CDGHI	20	普通	にぶい橙		
42	土師器	甕	14.7	[3.7]	—	CEHIK	85	普通	にぶい橙		
43	土師器	甕	(15.6)	[4.2]	—	BEHIK	20	普通	にぶい橙	外面黒斑有り	
44	土師器	甕	(12.9)	[4.2]	—	CEHIK	10	普通	にぶい橙		
45	土師器	甕	—	[1.9]	5.3	CDEGIK	95	普通	にぶい橙		
46	土師器	甕	—	[3.2]	(6.0)	CEHIK	20	普通	にぶい橙	外面黒斑有り	
47	木製品	柱	長さ[53.0]	幅9.1	厚さ6.3					みかん割	102-7
48	木製品	柱	長さ[38.7]	幅8.3	厚さ5.9					みかん割	102-7



S J 65
 1 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物少量 ブロック状シルト
 2 黄褐色土 粘土質 しまり強 ブロック状炭化物多量

第133図 第65号住居跡・出土遺物

第43表 第65号住居跡出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高杯	(18.0)	[3.5]	—	A C H I K	10	普通	明赤褐		
2	土師器	甕	17.6	27.6	8.3	C G H I K	90	普通	橙	No.1・3~9 外面煤付着	85-6
3	土師器	甕	(17.0)	[3.3]	—	B C I	25	普通	にぶい橙	No.2	

形土器である。27は壺に近いやや歪な形である。

29、30は小型壺である。30は口縁部内外面にミガキが施される。31、32は壺で、32は複合口縁である。33~45は甕で、33~37は大型の球胴甕である。33は外面に刷毛目調整、34は外面下半にミガキが施される。36は底部に種子圧痕が認められる。38~45は中型の甕で、43、44は口縁部内面に刷毛目調整が認められる。46は単孔式の甕で、大形の甕になると推察される。

47、48は柱穴から出土した柱材である。どちらもクヌギ節で、47はみかん割り状の分割材である。

遺物の時期は、坏が少ない点や、甕の形状等か

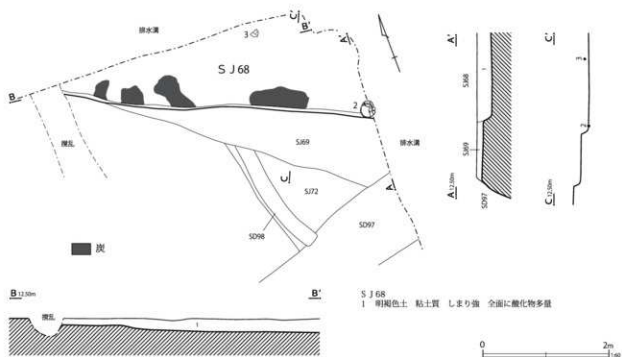
ら5世紀中葉と考えられる。

第65号住居跡 (第133図)

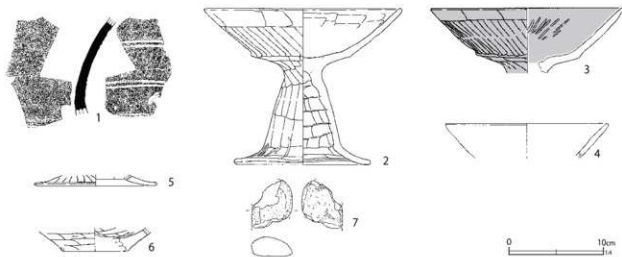
第4次調査におけるⅡ区西端部、L-17グリッドに位置する。第62号住居跡と重複し、本住居跡が古い。遺構の西半部が調査区域外へ延びるため、平面形態は不明である。

規模は、残存部で南北3.05m、東西1.50m、深さ0.24mを測り、長軸方位はN-23°-Wを指す。覆土はシルトブロックを含む層が主体を成し、床面付近からは炭化物がブロック状に多く含まれる層が堆積する。

カマド、壁溝、ピット等は検出されなかった。



第134図 第68号住居跡



第135図 第68号住居跡・出土遺物

遺物は中央部からまとまって検出され、土師器高坏・甕が出土した(第133図1~3)。1は高坏で、内面に放射状のミガキが施される。2、3は甕で、2は球胴形甕である。

遺物は少ないが、甕の形状から5世紀中葉の住居跡と考えられる。

第68号住居跡(第134図)

第4次調査におけるⅡ区北東角、K・L-20グ

リッドに位置する。第69・72号住居跡、第98号溝跡と重複し、本住居跡が新しい。遺構の北半が調査区域外へ延びるため、平面形態は不明である。

規模は、残存部で東西4.90m、南北1.57m、深さ0.24mを測り、長軸方位はN-68°-Wを指す。南壁付近からは、炭がまとまって検出された。カマド、壁溝、ピット等は検出されなかった。遺物は須恵器甕、土師器高坏・甕、磨石が出土

第14表 第68号住居跡出土遺物観察表 (第135図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	甕	—	[10.3]	—	H I K	5	良好	黄灰	東海産 内面降灰	
2	土師器	高坏	20.5	16.6	14.1	C E I K	85	普通	明褐色	No.1 内底面摩耗、剥離が激しい	85-7
3	土師器	高坏	20.1	[6.9]	—	E H I K	70	普通	橙	No.2 内外面赤彩 内底面の剥離が激しい	85-8
4	土師器	高坏	(17.0)	[3.7]	—	E H I K	5	普通	にぶい黄		
5	土師器	高坏	—	[1.2]	(12.2)	E H I K	15	普通	明赤褐色		
6	土師器	甕	—	[2.5]	(7.0)	E H I K	25	普通	灰褐色		
7	石製品	磨石	長さ5.0 幅4.3 厚さ[2.0] 重さ25.3g							角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存使用面1	102-5

した(第135図1～7)。1は須恵器甕の頸部破片で、外面に放射状の列点文が2条認められる。

2～6は土師器である。2～5は高坏で、2は坏部が浅く、脚部が直線的に開くものである。3は内外面に赤彩が施される。6は甕である。

7は角閃石安山岩製の磨石である。

遺物は少ないが、高坏の形状から5世紀中葉の住居跡と考えられる。

第69号住居跡 (第136図)

第4次調査におけるⅡ区北東角、K・L-20グリッドに位置する。第68・72号住居跡、第98号溝跡と重複し、第68号住居跡より古く、第72号住居跡より新しい。遺構の大部分が第68号住居跡によって壊されるため、平面形態は不明である。

規模は、残存部で東西4.90m、南北1.05m、深さ

0.13mを測り、長軸方位はN-53°-Wを指す。

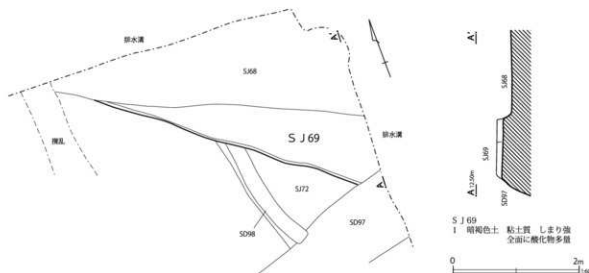
カマド、壁溝、ピット等は検出されなかった。

遺物は出土しなかったが、切り合い関係から古墳時代の住居跡と考えられる。

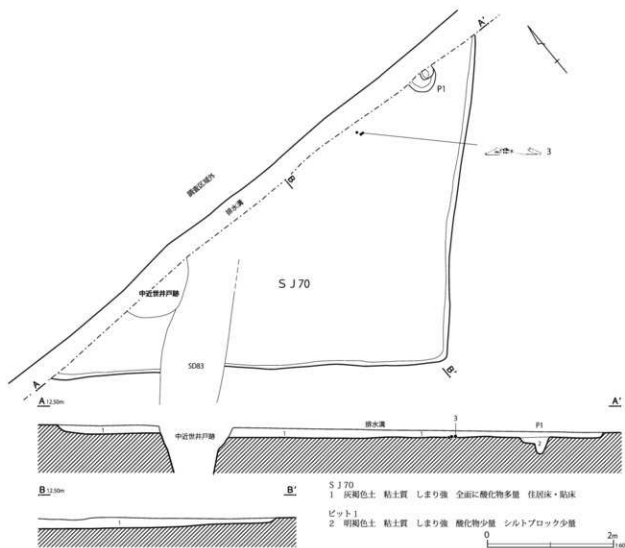
第70号住居跡 (第137図)

第4次調査におけるⅡ区中央北壁際、K・L-18・19グリッドに位置する。第60・61号住居跡、第98号溝跡と重複し、本住居跡が古い。遺構の北半が調査区域外へ延びるため、平面形態は不明である。

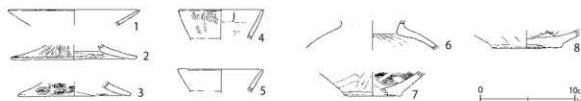
規模は、残存部で東西6.12m、南北5.15m、深さ0.18mを測り、長軸方位はN-52°-Wを指す。住居跡の北東部からはピット1が検出された。規模は、残存部で長径0.45m、短径0.30m、深さ0.18mを測る。



第136図 第69号住居跡



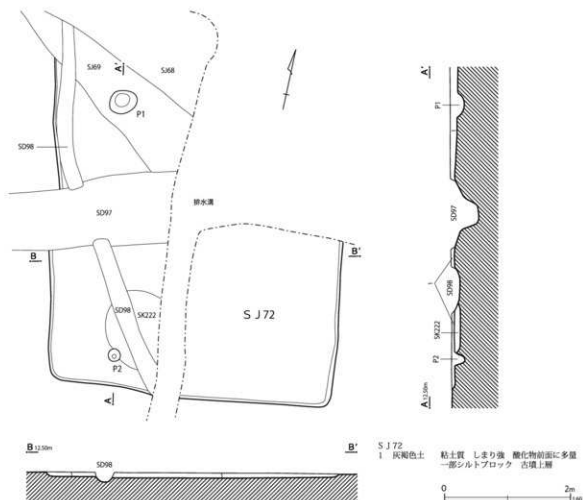
第137図 第70号住居跡・遺物出土状況



第138図 第70号住居跡出土遺物

第45表 第70号住居跡出土遺物観察表 (第138図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坪	(13.9)	[1.7]	—	C I K	5	普通	にぶい橙		
2	土師器	高坪	—	[1.5]	(13.4)	C E H I K	15	普通	にぶい赤褐		
3	土師器	高坪	—	[1.5]	(11.7)	B H I K	15	普通	にぶい赤褐	No.1	
4	土師器	埴形土器	(8.8)	[3.2]	—	B I K	15	普通	にぶい橙	内面煤付着	
5	土師器	埴形土器	(8.8)	[2.5]	—	C E I K	20	普通	橙		
6	土師器	小型壺か	—	[3.1]	—	C H I K	15	普通	橙		
7	土師器	壺	—	[2.6]	(5.4)	H I K	25	普通	明赤褐	外面煤付着	
8	土師器	壺	—	[1.9]	(7.4)	C I K	25	普通	灰白	外面煤付着	



第139図 第72号住居跡

カマド、壁溝等は検出されなかった。

遺物はいずれも破片で、土師器高坏・埴形土器・小型壺・甕が出土した（第138図1～8）。1～3は高坏である。2、3は外面にミガキが施される。4、5は埴形土器で、4は外面にミガキが施される。6は小型壺か。7、8は甕で、ともに内面に刷毛目調整が施される。

遺物が少なく、全体像がわかるものが無いため、詳細な時期はわからないが、切り合い関係から古墳時代の住居跡と考えられる。

第72号住居跡（第139図）

第4次調査におけるⅡ区とⅢ区の境界にあたる、L-20グリッドに位置する。第68・69号住居跡、第97・98号溝跡と、第222号土壌と重複し、本住

居跡が古い。遺構の北半部は調査区域外に続く。

平面形態は南北に長い長方形と推察される。規模は、残存部で南北5.10m、東西4.64m、深さ0.13mを測り、長軸方位はN-11°-Wを指す。

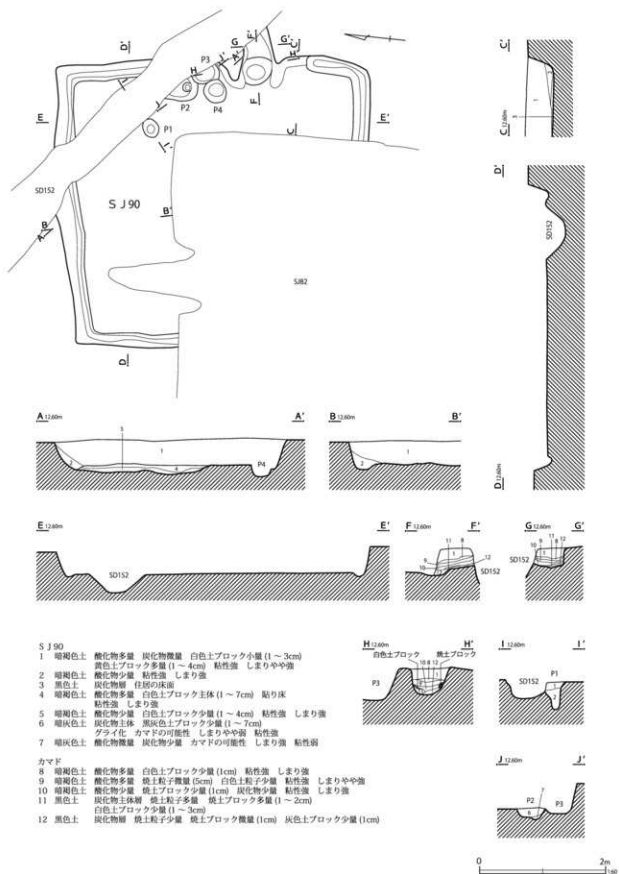
ピットは西側から2基検出され、ピット1は平面形態が楕円形で、規模は長径0.45m、短径0.35m、深さ0.11mを測る。ピット2は平面形態が円形で、規模は長径0.20m、短径0.18m、深さ0.16mを測る。

カマド、壁溝は検出されなかった。

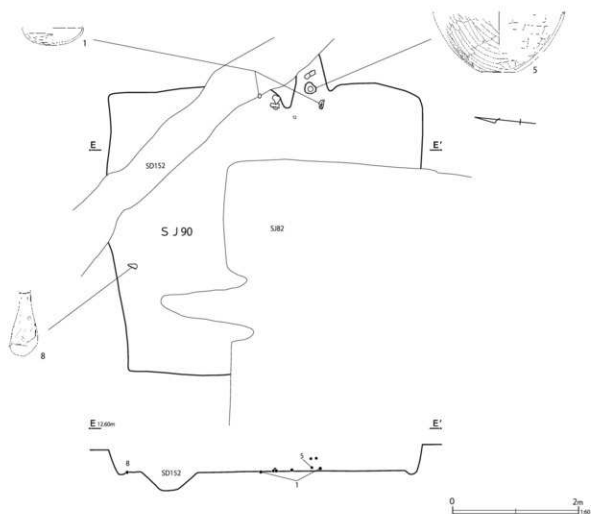
遺物は出土しなかったが、切り合い関係から古墳時代の住居跡と考えられる。

第90号住居跡（第140・141図）

第4次調査におけるⅢ区北西部、L-21グリッドに位置する。遺構の南西部は古代の住居跡に



第140図 第90号住居跡



第141図 第90号住居跡遺物出土状況

よって大きく壊される。

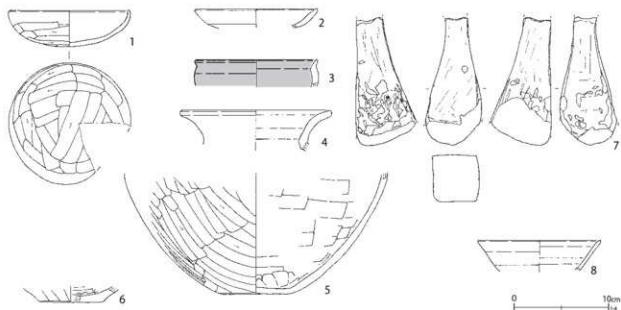
平面形態は方形で、規模は長軸4.95m、短軸4.50m、深さ0.40mを測り、主軸方位はN-85° - Eを指す。カマドは東壁中央部に設けられ、カマド周辺からはピットが複数検出された。

覆土はほぼ単層で、壁際から三角堆積の黒褐色土層が堆積する。カマド周辺からは、床面付近に薄い炭化物層が検出された。

カマドは煙道部の中ほどから古代の溝跡によって壊されるが、それ以外は残存状態が良かった。袖は住居内に0.40m程張り出し、燃焼部は浅い掘り込みを持ち、おそらく煙道部に向かって緩やかに傾斜していく構造であったと考えられる。規模は、

残存部で全長0.89m、幅0.50m、深さ0.45mを測る。覆土は火床面直上に炭化物層が堆積し、その上に焼土を含む炭化物主体の層や、焼土ブロックを含む層が、互層状に薄く堆積する。

ピットはカマドの北側から検出され、ピット1は平面形態が楕円形で、規模は長径0.30m、短径0.25m、深さ0.16mを測る。ピット2は北半部を古代の溝跡によって壊されるため、平面形態は不明である。規模は、残存部で長径0.45m、短径0.40m、深さ0.14mを測る。ピット3は袖の脇に位置し、東半部は古代の溝跡によって壊される。規模は、残存部で長径0.45m、短径0.30m、深さ0.08mを測る。ピット4は平面形態が楕円形で、規模は



第142図 第90号住居跡出土遺物

第146表 第90号住居跡出土遺物観察表 (第142図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	12.7	3.8	-	CHIK	80	普通	にぶい橙	No.3・5	85-9
2	土師器	坏	(12.8)	[2.0]	-	CHIK	5	普通	橙		
3	土師器	坏	(12.7)	[3.0]	-	CEIK	10	普通	にぶい黄橙	内外面赤彩	
4	土師器	壺	(15.7)	[4.3]	-	BCEJK	10	普通	橙	内外面共に摩耗が激しい	
5	土師器	甕	-	[12.8]	(8.0)	CEHIK	25	普通	明赤褐	No.2	
6	土師器	甕	-	[1.7]	(6.8)	CEIK	20	普通	にぶい黄橙		
7	石製品	砥石	長さ[13.5] 幅[6.0] 厚さ[6.3] 重さ509.1g							No.4 波紋岩(緑色) 砥面4遺存 突状痕多数	102-5
8	ロクロ土師器	坏	(12.8)	[3.3]	-	EIK	10	普通	橙	古代	

長径0.37m、短径0.33m、深さ0.30mを測る。

壁溝は検出された範囲では住居跡内を全周し、カマドの周辺のみ途切れる。規模は、幅0.17～0.39m、深さ0.19mを測る。北壁中央部の壁溝中からは、砥石が壁溝の底に刺さった状態で検出された。

遺物は土師器坏・壺・甕、砥石、ロクロ土師器坏等が出土した(第142図1～8)。1、2は坏で、1は半球形の坏である。3は内斜口縁鉢坏で、内外面に赤彩が施される。4は壺としたが、甕となる可能性もある。5、6は甕で、5は球形の甕であり、カマドの燃焼部から出土した。

7は流紋岩製の砥石で、壁溝の底に刺さった状態で検出された。8はロクロ土師器の坏で、混入

品である。

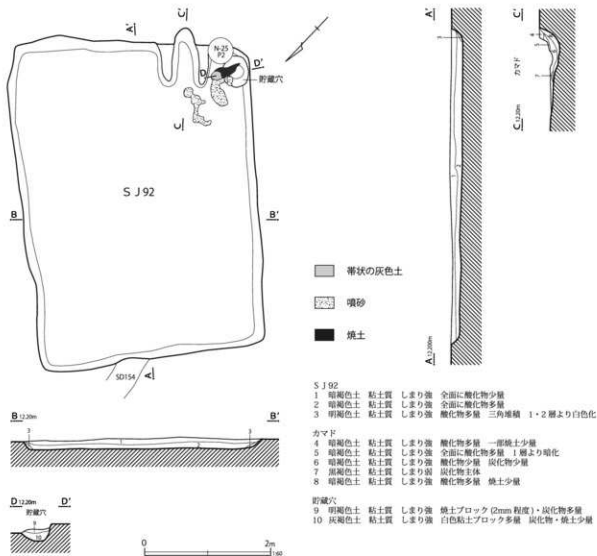
遺物の時期は、カマドの燃焼部から出土した甕の形状などから6世紀代と考えられる。

第92号住居跡 (第143・144図)

第5次調査におけるⅢ区東端、N-25グリッドに位置し、第154号溝跡と重複する。カマドの周辺からは、地震による液状化現象に伴うと考えられる、噴砂が検出された。

平面形態は南北に長い長方形で、規模は長軸5.26m、短軸3.90m、深さ0.18mを測り、主軸方位はN-49°-Wを指す。カマドは南壁西寄りに設けられ、カマドの西側に当たる南角からは、貯蔵穴が検出された。

覆土は水平堆積で、壁際から三角堆積の明褐色



第143図 第92号住居跡

土層が堆積する。

カマドは袖が住居内に0.70m程張り出し、燃焼部は浅く掘り込まれ、煙道部に向って弧を描いて立ち上がる構造をもつ。規模は全長1.32m、幅0.44m、深さ0.30mを測る。覆土は焼土や炭化物混じりの土が堆積するが、明確な灰層や焼土層等は検出されなかった。

貯蔵穴の平面形態は円形で、規模は長径0.50m、短径0.41m、深さ0.26mを測る。覆土には焼土ブロックや炭化物が多く含まれる。

壁溝、ピットは検出されなかった。

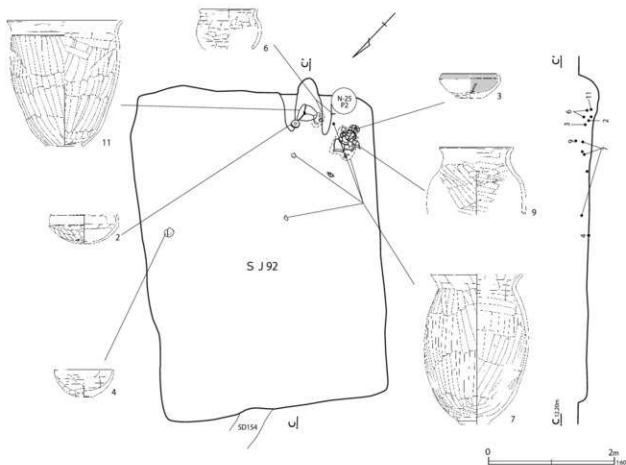
遺物は須恵器蓋、土師器坏・鉢・甕・甔等が出

土した(第145図1~11)。1は須恵器の蓋である。破片だが5世紀代のものか。

2~11は土師器である。2、5は坏蓋模倣坏で、口縁部が僅かに内湾し、5は口縁部外面に放射状のミガキが認められる。2はカマドの正面から検出された。3は内面及び口縁部外面に赤彩が施される。6は鉢で、やや深身になる。

7~10は甕である。7は胴部中位に最大径を持つもので、貯蔵穴付近から出土した。9は厚手で頸部のくびれが弱く、肩が張る。11は大型の単孔式甕で、カマド燃焼部から出土した。

遺物の時期は、土師器坏や甕の形状等から、6



第144図 第92号住居跡遺物出土状況

世紀中葉と考えられる。

第93号住居跡 (第146図)

第5次調査におけるⅢ区東寄り、N-24・25グリッドに位置し、第347号溝跡、第5号畝跡と重複する。遺構の北側は削平を受けて検出できなかったため、平面形態は不明である。

規模は、残存部で長軸5.52m、短軸3.65m、深さ0.11mを測り、長軸方位はN-90°を指す。

全体的に強く削平され、堆積状況はわからないが、覆土には全体的にシルトブロックが含まれていた。

カマド・壁溝・ピット等は検出されなかった。

遺物は出土しなかった。

遺物が無いため時期は不明だが、三面から検出されたことや、住居跡の規模が大きいことから、

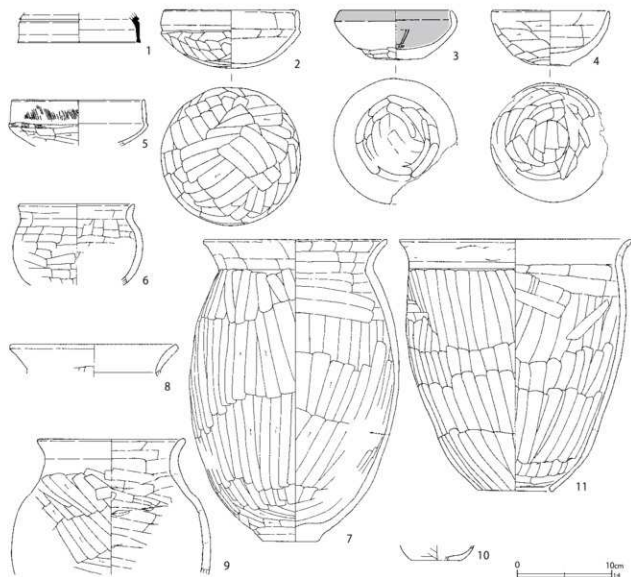
古墳時代の遺構と考えられる。

第94号住居跡 (第147・148図)

第5次調査におけるⅢ区中央北端部、M-23・24グリッドに位置し、第95・96号住居跡、第299号土壇と重複し、第299号土壇より古く、第95・96号住居跡より新しい。遺構の北東部は、調査区域外へ延びる。

平面形態はやや歪な方形である。規模は、残存部で長軸6.30m、短軸6.13m、深さ0.20mを測り、主軸方位はN-16°-Wを指す。カマドは北壁西寄りに設けられる。

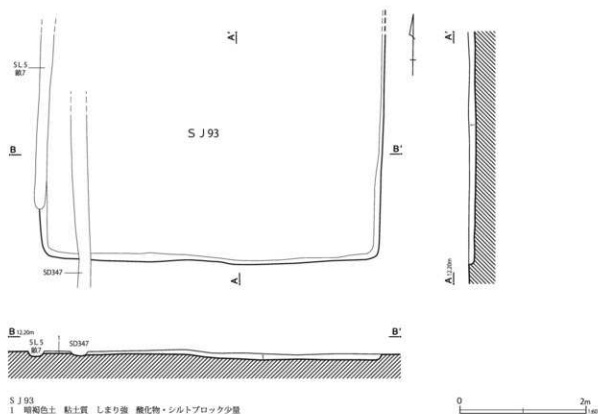
覆土は削平の影響により、あまり残存しないが、黒色土や暗褐色土ブロックを多く含む土が堆積し、床面付近からは、部分的に山形に盛り上がる炭化物層が検出された。全層に炭化物や焼土が含まれ



第145図 第92号住居跡出土遺物

第147表 第92号住居跡出土遺物観察表 (第145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	蓋	(12.8)	[3.2]	—	E I K	5	良好	灰	外面降灰	
2	土師器	坏	14.0	6.2	—	CE I K	95	普通	にぶい橙	No.5 内外面煤付着	86-1
3	土師器	坏	11.7	5.3	5.4	BCEHIK	80	普通	にぶい赤褐色	No.3 内外面赤彩	86-2
4	土師器	坏	12.2	5.8	4.3	BE I K	85	普通	にぶい赤褐色	No.11 緑泥片岩粒を多く含む	86-3
5	土師器	坏	(13.8)	[4.9]	—	CH I K	15	普通	橙		
6	土師器	鉢	12.0	[8.6]	—	CEHIK	60	普通	にぶい橙	No.6・10 外面黒斑有り	86-4
7	土師器	甕	19.2	32.1	5.7	CE I K	80	普通	橙	No.1・7・9 底部外周から胴部上半にかけて煤付着 6C	86-5
8	土師器	甕	(17.4)	[3.5]	—	BCEHIK	5	普通	灰褐色		
9	土師器	甕	(15.0)	[14.3]	—	CH I K	20	普通	灰白	No.2 外面下半煤付着 泥み有り	86-6
10	土師器	甕	—	[1.6]	(5.0)	DEGHIK	25	普通	にぶい橙		
11	土師器	甕	24.4	26.6	8.1	BCEGIK	95	普通	浅黄褐色	No.4 外面黒斑有り	86-7



第146図 第93号住居跡

ることから、焼失住居の可能性があるが、炭化材は検出されなかった。

カマドは排水溝によって煙道部付近が壊されるが、排水溝の掘り込みが浅かったため、覆土は残存していた。袖が住居内に長く張り出し、燃烧部は掘り込みを持ち、奥壁から煙道に向かって急峻に立ち上がる構造と推察される。カマドの燃烧部からは、多くの遺物の破片が混ざりあった状態で検出された。規模は、残存部で全長1.10m、幅0.60m、深さ0.48mを測る。

覆土は、カマド奥壁付近に灰層と考えられる炭化物層が堆積し、その上を焼土・炭化物が多く含まれる暗褐色土層が覆う。さらにその上面には焼土ブロックを多く含む層が堆積し、カマドの崩落に伴うものと推察される。

壁溝・ピット等は検出されなかった。

遺物は住居跡全体から検出され、特にカマド内

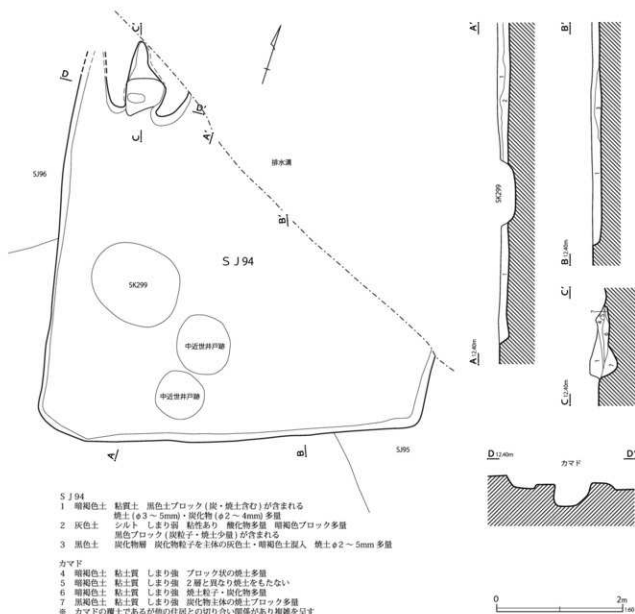
から多く出土した。遺物の種類は、土師器坏・皿・甕、須恵器坏、磨石等である（第149図1～23）。1、2は坏である。深身の碗形で、内外面に赤彩が施される。2は外面下端に刃物痕が認められる。3は鉢である。大型で、坏蓋模倣坏に近い口縁部を持つ。

4～8は甕である。4は胴部が下膨れ状になる。5はやや鉢型に近い形状である。6は口縁部から頸部にかけて欠損するが、胴部中位に最大径を持つものである。8は歪みが強く、胎土に結晶片岩の細片を非常に多く含む。

9～21は別時期の遺物のため混入と考えられるが、比較的まとまった量の一群がある。切り合う遺構の遺物が、検出されなかったが別遺構があった可能性が高い。

9～18は7世紀末から8世紀前半の遺物である。

9、10は北武蔵型の坏で、口縁部が直線的に立ち



第147図 第94号住居跡

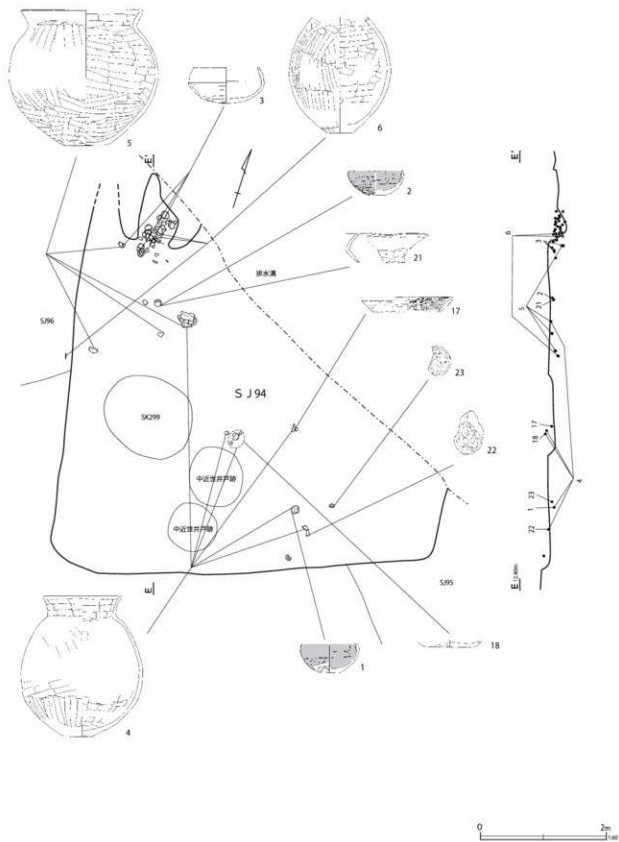
上がる。11~14は北武蔵型の皿である。15~17は厚手の皿で、17は内面にミガキが施される。18は器種不明だが硬質に焼き締まることから、坏ないし皿になると考えられる。

19~21は8世紀中葉以降の遺物である。19は須恵器の坏で、底部に回転ヘラケズリが施されることから、8世紀代の遺物と推察される。20は9世紀前半の北武蔵型坏である。21は、歪みが強いが「く」の字状口縁の甕であり、8世紀中葉の遺物

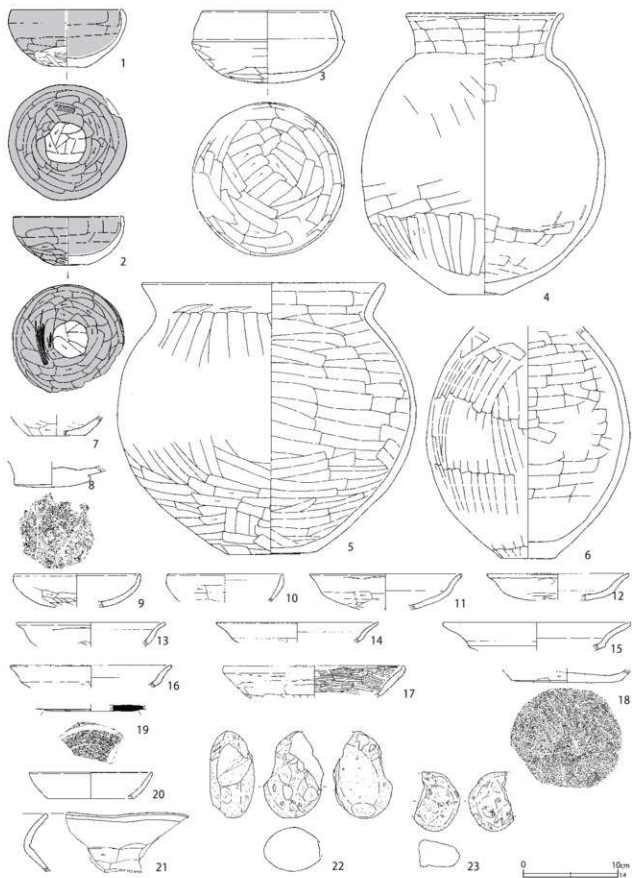
と考えられる。

22、23は角閃石安山岩製の磨石である。22は側面に工具痕が認められる。

遺物の時期は、2時期ある。カマド周辺や床面付近から出土しているものは、坏や甕の形状、大形の鉢の存在などから5世紀末と考えられる。当住居跡はこの時期に帰属するものだろう。もう一方は7世紀末から8世紀前半だが、覆土一括の遺物が多いことから、同時代の遺構と重複していた



第148图 第94号住居跡遺物出土狀況



第149図 第94号住居跡出土遺物

第48表 第94号住居跡出土遺物観察表 (第149図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	11.5	6.2	4.3	E I K	95	普通	明赤褐色	No.3・12 内外面赤彩	86-8
2	土師器	坏	11.4	5.1	3.7	C E H I K	75	普通	にぶい橙	No.9 内外面赤彩 外面黒斑有り 外面体部下端に刃物痕有り	86-9
3	土師器	鉢	13.5	7.7	—	E I K	85	普通	明赤褐色	カマドNo2・4 SJ43P10No2・3 内外面被熱 内底面円環状に煤付着	87-1
4	土師器	甕	(16.4)	29.8	5.4	G H I K	65	普通	赤	カマドNo2・3・5~8 カマド下層No.13 底部木炭痕 調整は不明瞭 胴部中央に帯状に煤付着	87-2
5	土師器	甕	(25.4)	28.6	8.0	B C H I K	55	普通	明赤褐色	No.8 P4No.11 P10No.10 SJ43No.15 胴部外面下半から底部にかけて煤付着 一部摩耗が激しい	87-3
6	土師器	甕	—	[22.6]	(6.0)	E I K	60	普通	にぶい橙	カマドNo.9・10 SJ43No.12	87-4
7	土師器	甕	—	[2.2]	(6.0)	C E H I K	20	普通	橙		
8	土師器	甕	—	[2.7]	7.9	B E H I K	70	普通	橙	歪みが強い、大きめの石英や片岩を多く含む 底部木炭痕	87-5
9	土師器	坏	(13.1)	[3.5]	—	C H I K	15	普通	にぶい橙	古代	
10	土師器	坏	(12.0)	[3.0]	—	E H I K	10	普通	にぶい橙	古代	
11	土師器	皿	(15.8)	[3.8]	—	C H I K	10	普通	にぶい橙	外面黒斑有り 古代	
12	土師器	皿	(14.8)	[2.8]	—	C H I K	15	普通	にぶい橙	古代	
13	土師器	皿	(15.6)	[2.6]	—	C E H I K	5	普通	橙	歪み有り 古代	
14	土師器	皿	(17.0)	[2.1]	—	C H I K	5	普通	にぶい橙	古代	
15	土師器	皿	(19.4)	[3.0]	—	C H I K	5	普通	橙	外面煤付着 古代	
16	土師器	皿	(16.8)	[2.4]	—	C H I K	5	普通	橙	古代	
17	土師器	皿	(18.8)	[3.4]	—	C H I K	25	普通	橙	No.5 外面煤付着 内面ミガキ 古代	87-6
18	土師器	坏小	—	[1.5]	11.5	C H I K	90	良好	橙	No.6 古代	87-7
19	須恵器	坏	—	[0.7]	(10.0)	E I K	25	良好	灰	古代	
20	土師器	坏	(12.8)	[2.8]	—	C H I K	10	普通	にぶい橙	古代	
21	土師器	甕	—	[6.2]	—	C E H I K	5	普通	橙	No.2 口縁部の歪みが強い 古代	
22	石製品	磨石	長さ9.1 幅6.3 厚さ4.7 重さ120.7g							No.1 角閃石安山岩 多孔質 自然面 遺存 側面工具痕か 使用面3	102-5
23	石製品	磨石	長さ6.2 幅[4.8] 厚さ2.8 重さ35.6g							No.4 角閃石安山岩 多孔質 自然面 遺存 使用面2	102-5

と推察される。

第95号住居跡 (第150図)

第5次調査におけるⅢ区中央北端部、M-24グリッドに位置する。第94号住居跡と重複し、本遺構が古い。遺構の南東角は古代の土壌によって壊され、北半部は調査区域外へ延びるため、平面形態は不明である。

規模は、残存部で長軸5.60m、短軸3.40m、深さ0.19mを測り、主軸方位はN-38°-Wを指す。覆土は水平堆積で、下層には炭化物が含まれている。

カマド、壁溝、ピット等は検出されなかった。

遺物は土師器坏・高坏・甕、須恵器蓋、用途不

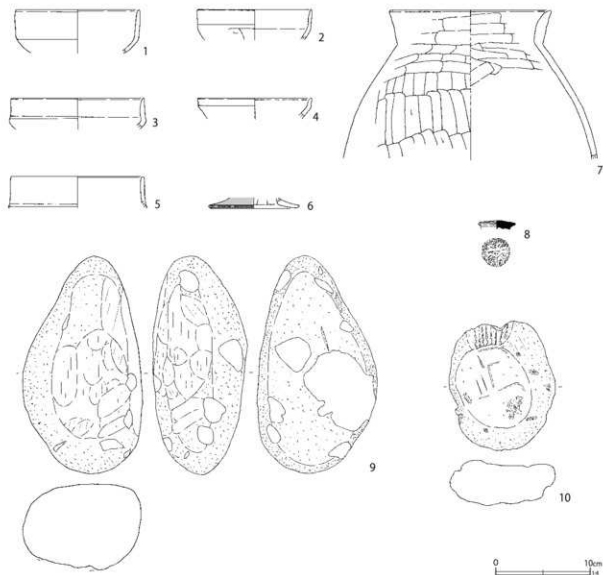
明の石製品等が出土した (第151図1~10)。1~7は土師器である。1~5は坏で、1~3、5は坏蓋模倣坏であり、いずれも口縁部は垂直に立ち上がる。6は小型の高坏である。

7は甕である。口縁部が厚手で、胴部が下膨れになると推察される。

8は須恵器蓋で、つまみ部分のみが出土した。裏面には接合のための切り込みが認められる。混入品と考えられる。

9、10は用途不明の石製品である。9は安山岩製で、一部に研磨痕が認められる。10は軽石製で、工具痕および刃物痕が認められる。

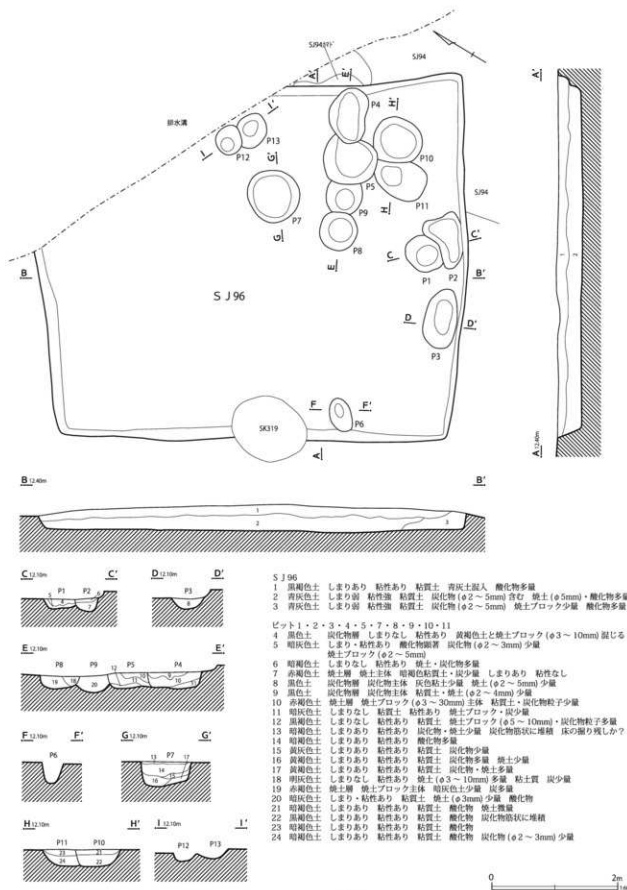
遺物の時期は、土師器坏や甕の形状等から、5



第151図 第95号住居跡出土遺物

第49表 第95号住居跡出土遺物観察表 (第151図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(13.0)	[4.6]	—	CHIK	5	普通	淡橙	内外面摩耗	
2	土師器	坏	(12.0)	[3.2]	—	CEHIK	5	普通	明赤褐		
3	土師器	坏	(14.0)	[3.3]	—	CHIK	5	普通	橙	内外面摩耗	
4	土師器	坏	(11.8)	[2.2]	—	CHIK	5	普通	にぶい、黄橙		
5	土師器	坏	(14.0)	[3.3]	—	HIK	5	普通	橙	No.4	
6	土師器	高坏	—	[1.1]	(9.6)	CEHIK	20	普通	橙	外面赤彩	
7	土師器	甕	(16.8)	[15.8]	—	EIK	20	普通	にぶい、橙	No.10	
8	須恵器	蓋	—	[0.9]	—	BHIK	100	普通	黄灰	No.5 末野産 横み径3.9	
9	石製品	不明	長さ23.1	幅12.7	厚さ10.0	重さ1470.7g				No.9 安山岩 多孔質 黒色 研磨痕 (表・右側面)	102-5
10	石製品	不明	長さ13.7	幅11.2	厚さ5.2	重さ315.1g				No.13 軽石 表工具痕・刃物痕	102-5



S J 96

- 1 黒褐色土 しまりあり 粘性あり 粘質土 青灰土混入 礫化物多量
 2 青灰色土 しまり弱 粘性強 粘質土 炭化物(φ2~5mm) 骨釘 焼土(φ5mm)・礫化物多量
 3 青灰色土 しまり弱 粘性強 粘質土 炭化物(φ2~5mm) 焼土ブロック少量 礫化物多量

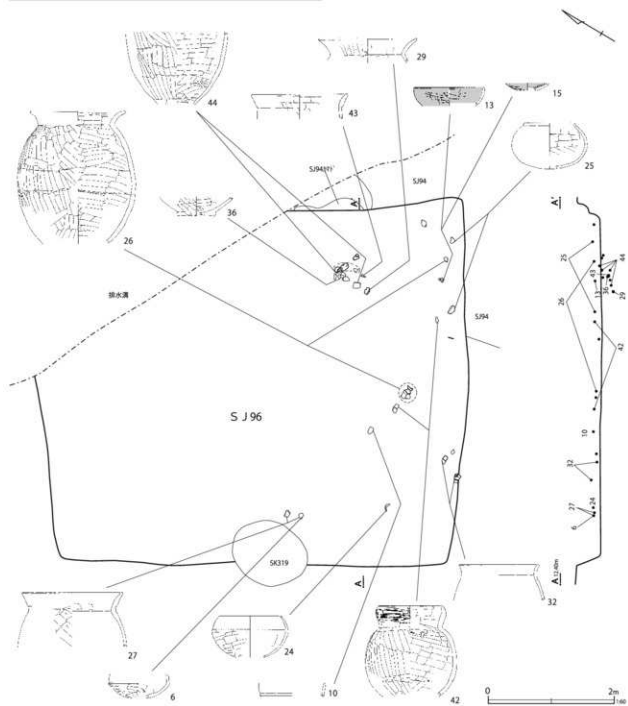
ピット1・2・3・4・5・7・8・9・10・11

- 4 黒色土 炭化物層 しまりなし 粘性あり 黄褐色土と焼土ブロック(φ3~10mm) 混じる
 5 暗灰色土 しまり・粘性あり 礫化物顯著 炭化物(φ2~3mm) 少量
 6 暗褐色土 しまりなし 粘性あり 焼土・炭化物多量
 7 赤褐色土 焼土層 焼土主体 暗褐色粘質土・炭少量 しまりあり 粘性なし
 8 黒色土 炭化物層 炭化物主体 灰色粘土少量 焼土(φ2~5mm) 少量
 9 黒色土 炭化物層 炭化物主体 粘質土・焼土(φ2~4mm) 少量
 10 赤褐色土 焼土層 焼土ブロック(φ3~30mm) 主体 粘質土・炭化物粒子少量
 11 暗灰色土 しまりなし 粘質土 粘性あり 焼土ブロック・炭少量
 12 黒褐色土 しまりなし 粘性あり 粘質土 焼土ブロック(φ5~10mm)・炭化物粒子多量
 13 暗褐色土 しまりあり 粘性あり 炭化物・焼土少量 炭化物部状に堆積 床の掘り残しか?
 14 暗褐色土 しまりあり 粘性あり 礫化物多量
 15 黄灰色土 しまりあり 粘性あり 粘質土 炭化物少量
 16 黄褐色土 しまりあり 粘性あり 粘質土 炭化物多量 焼土少量
 17 黄褐色土 しまりあり 粘性あり 粘質土 炭化物・焼土多量
 18 明灰色土 しまりなし 粘性あり 焼土(φ3~10mm) 多量 粘土質 炭少量
 19 赤褐色土 焼土層 焼土ブロック主体 暗灰色土少量 炭多量
 20 暗灰色土 しまり・粘性あり 粘質土 焼土(φ3mm) 少量 礫化物
 21 暗褐色土 しまりあり 粘性あり 粘質土 礫化物 焼土少量
 22 黒褐色土 しまりあり 粘性あり 粘質土 礫化物 炭化物部状に堆積
 23 暗褐色土 しまりあり 粘性あり 粘質土 礫化物
 24 暗褐色土 しまりあり 粘性あり 粘質土 礫化物 炭化物(φ2~3mm) 少量

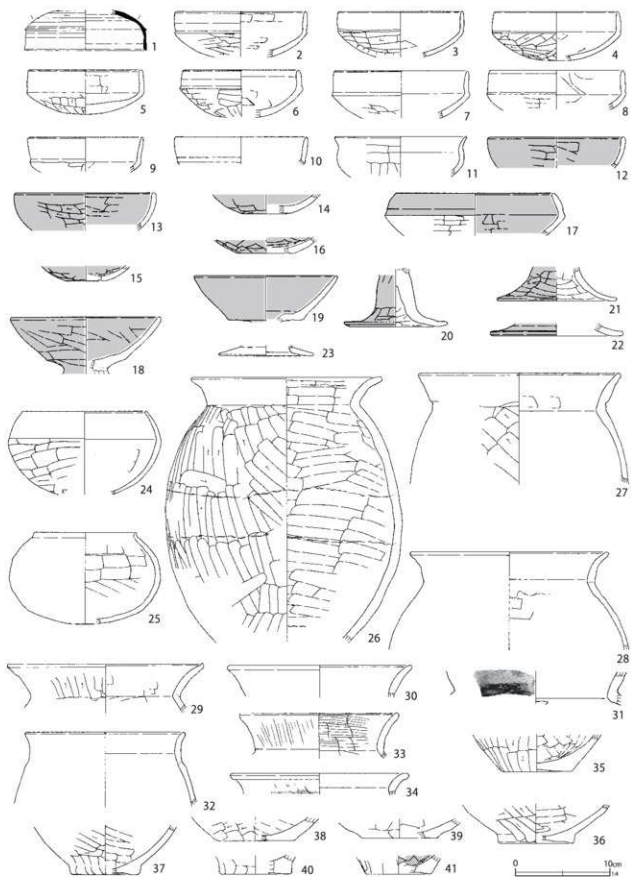
第152図 第96号住居跡

第50表 第96号住居跡ビット一覧表

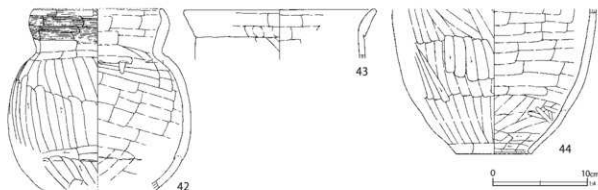
番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
1	64	(50)	18	8	61	59	21
2	90	45	23	9	57	(50)	29
3	95	52	25	10	78	68	27
4	88	58	25	11	(86)	62	29
5	85	60	24	12	47	42	22
6	55	34	39	13	57	44	18
7	85	80	37				



第153図 第96号住居跡遺物出土状況



第154図 第96号住居跡出土遺物(1)



第155図 第96号住居跡出土遺物(2)

化物層が検出された。

中央部の連続するピットであるピット4・5・8は、焼土を主体的に含むピットだが、間に挟まれるピット9は焼土粒子が少量含まれるのみであった。東壁際に位置するピット1・3は炭化物を主体的に含むピットだが、隣接するピット2は底面付近に焼土層が堆積する。

これらのピットは、炭化物や焼土が多く含まれることから、カマドから掻き出した灰等を埋めた穴と考えられる。

カマド、壁溝等は検出されなかった。

遺物は住居跡内東半部に集中し、特に焼土が堆積していたピットの周辺からまとまって検出された。須恵器蓋、土師器杯・高坏・鉢・甕・甗等が出土した(第154・155図1~44)。1は須恵器である。1は蓋で、器形からMT15段階のものと考えられる。

2~44は土師器である。2~17は坏で、2~10は坏蓋模倣坏である。口縁部はやや内湾するものが多い。12、13は半球形坏で、内外面に赤彩が施される。17は大型の坏である。18~23は高坏である。いずれも小型の高坏で、坏部は内外面、脚部は外面に赤彩が施されるものが多い。

24、25は鉢である。24は坏蓋模倣坏の形状と類似している。

26~42は甗である。26は胴部中位に最大径を持

つ。31は頸部外面に、タール状の付着物が帯状に廻る。33、41は内面に、34は外面に刷毛目調整が施される。42は口縁部が大きく内湾するもので、口縁部外面に横方向の刷毛目調整が施される。小型の壺である可能性もあるが、胴部下半には内外面ともに被熱の痕跡が認められるため、甗とした。43、44は甗である。どちらも大型甗で、44は単孔式である。

遺物の時期は、須恵器蓋の年代や、土師器杯・高坏・甗の形状等から、6世紀前半と考えられる。

第97号住居跡(第156図)

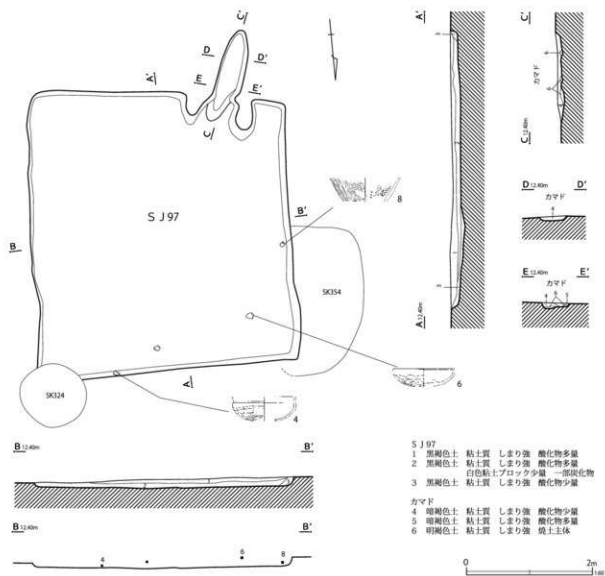
第5次調査におけるⅢ区東端、N・M-24グリッドに位置し、第93・98号住居跡、第324・354号土壌と重複する。

平面形態はやや歪な方形で、規模は長軸4.58m、短軸4.10m、深さ0.20mを測り、主軸方位はN-4°-Eを指す。カマドは南壁西寄りに設けられる。覆土は削平され、あまり残存していないため堆積状況は不明だが、下層に炭化物が少量含まれていた。

カマドは、袖が住居内に0.50m程張り出し、燃焼部は浅く掘り込まれ、煙道部が壁外に長く延びる構造を持つ。規模は、全長1.50m、幅0.60m、深さ0.10mを測る。覆土は削平を受けているため、堆積状況はわからなかったが、火床面直上からは部分的に焼土層が検出された。

第51表 第96号住居跡出土遺物観察表 (第154・155図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須臾器	蓋	(12.9)	[4.3]	—	E I K	35	良好	灰	No.16 断面灰赤色 白色粒子を多く含むMT15段階 (6C前)	87-8
2	土師器	坏	(13.6)	[4.8]	—	CH I K	10	普通	明赤褐	内外面煤付着	
3	土師器	坏	(13.0)	[4.8]	—	H I K	25	普通	にぶい橙		
4	土師器	坏	(13.0)	[5.2]	—	CEH I K	25	普通	橙		87-9
5	土師器	坏	(11.8)	4.7	—	E I K	50	普通	橙		
6	土師器	坏	(12.0)	[5.0]	—	BC I K	25	普通	赤	No.2 口縁部煤付着 歪み有り	87-10
7	土師器	坏	(14.0)	[5.0]	—	CEH I K	20	普通	橙褐	内外面共に摩耗	
8	土師器	坏	(14.0)	[4.2]	—	CH I K	5	普通	橙		
9	土師器	坏	(12.0)	[3.7]	—	CH I K	15	普通	橙		
10	土師器	坏	(13.8)	[2.9]	—	H I K	15	普通	浅黄橙	No.7 内外面共に摩耗が激しい	
11	土師器	坏	(13.8)	[4.3]	—	E I K	10	普通	赤橙		
12	土師器	坏	(14.2)	[3.3]	—	CEH I K	5	普通	にぶい橙	内外面赤彩	
13	土師器	坏	(14.6)	[4.0]	—	CEH I K	10	普通	にぶい橙	No.13 内外面赤彩	
14	土師器	坏	—	[2.0]	(5.0)	CE I K	25	普通	にぶい橙	内外面共に摩耗が激しい 内外面赤彩	
15	土師器	坏	—	[1.6]	(4.2)	CEH I K	25	普通	にぶい橙	No.13 内外面赤彩 外面黒斑有り	
16	土師器	坏	—	[1.6]	(6.0)	CEH I K	25	普通	灰褐	内外面赤彩	
17	土師器	坏	(16.4)	[4.5]	—	H I K	5	普通	にぶい橙	内外面赤彩	
18	土師器	高坏	15.4	[6.1]	—	E I K	60	普通	浅黄橙	内外面共に赤彩が施されるが被熱によりはげ飛んでいる 内底面の摩耗が特に激しい	88-1
19	土師器	高坏	(15.0)	[4.9]	—	E I K	20	普通	にぶい橙	内外面赤彩 被熱により器面が激しく剥離している 特に内底面の剥離が激しい	
20	土師器	高坏	—	[6.3]	(9.2)	CEGH I K	70	普通	にぶい橙	底部黒斑有り 坏接縁部に煤付着 外面赤彩	88-2
21	土師器	高坏	—	[3.6]	12.3	CEG I K	75	普通	にぶい橙	被熱により全体的に変色している 外面赤彩	88-3
22	土師器	高坏	—	[1.3]	(13.4)	CE I K	10	普通	にぶい黄橙	外面赤彩	
23	土師器	高坏	—	[1.1]	(9.6)	H I K	15	普通	橙	内外面共に摩耗	
24	土師器	鉢	(13.0)	[8.8]	—	CEGH I K	20	普通	橙	No.3 内外面煤付着	88-4
25	土師器	鉢	(10.6)	[9.7]	—	E I K	25	普通	明赤褐	No.11・15 外面激しく摩耗および剥離 内面も側面を除き剥離が激しい	88-5
26	土師器	甕	(19.8)	[28.2]	—	CH I K	35	普通	にぶい橙	No.9・14 カマド下層No.18 外面黒斑有り	88-6
27	土師器	甕	(20.8)	[14.8]	—	BE I K	10	普通	明赤褐	No.1・2	
28	土師器	甕	(20.8)	[10.4]	—	CEH I K	15	普通	にぶい赤褐	外面の調整は不明瞭	
29	土師器	甕	(20.4)	[5.2]	—	BCEH I K	10	普通	灰白	PSNo.10 赤色粒 (被熱により変色した緑泥片岩か) を非常に多く含む	
30	土師器	甕	(19.0)	[3.4]	—	BE I K	10	普通	にぶい橙	内面煤付着	
31	土師器	甕	—	[3.5]	—	EH I K	5	普通	灰黄褐	頸部帯状の付着物有り	
32	土師器	甕	(17.6)	[7.8]	—	BEH I K	20	普通	浅黄橙	No.4 内外面共に摩耗、剥離が激しく調整は不明瞭	
33	土師器	甕	(16.4)	[4.8]	—	BE I K	15	普通	にぶい橙		
34	土師器	甕	(18.4)	[2.3]	—	H I K	10	普通	浅黄橙		
35	土師器	甕	—	[3.9]	(7.0)	I K	30	普通	明赤褐	カマドNo.20	
36	土師器	甕	—	[4.2]	(7.8)	E I K	20	普通	明赤褐	PSNo.4 内面煤付着	
37	土師器	甕	—	[5.2]	(7.0)	EH I K	25	普通	橙		
38	土師器	甕	—	[2.5]	(8.0)	E I K	20	普通	橙		
39	土師器	甕	—	[2.1]	(8.0)	BCH I K	15	普通	橙		
40	土師器	甕	—	[2.0]	(7.3)	E I K	30	普通	橙		
41	土師器	甕	—	[2.0]	(6.6)	E I K	25	普通	にぶい橙	内面煤付着	
42	土師器	甕	13.4	[19.3]	—	CEH I K	60	良好	明赤褐	No.8・10 肩から胴部下平にかけて被熱	88-7
43	土師器	甕	(20.0)	[5.3]	—	CEH I K	15	普通	浅黄橙	PSNo.8	
44	土師器	甕	—	[15.3]	(8.0)	E I K	35	普通	にぶい橙	PSNo.2・3・7・9	88-8



第156図 第97号住居跡・遺物出土状況

壁溝、ピットは検出されなかった。

遺物は住居跡の南側から散発的に検出され、土師器・甕、不明石製品等が出土した（第157図1～9）。

1～7は坏で、1、2は坏蓋模倣坏である。口縁部は外側に開き、浅身である。3は半球形の坏で、内外面に赤彩が施される。口縁部が僅かに内湾する。3は内面及び口縁部外面に赤彩が施される。4は鉢形の坏で、やや深身になる。6は北武蔵型坏で、口縁部は垂直に立ち上がる。

8は常陸型の甕で、胎土に雲母を含み、内外面

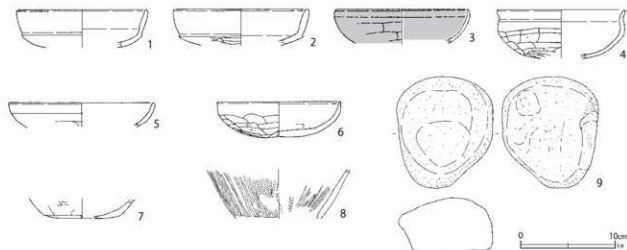
の下端部に縦方向のミガキが施される。

9は用途不明の石製品で、角閃石安山岩製である。

遺物の時期は、土師器坏の形状から、7世紀代と考えられる。

第98号住居跡（第158～160図）

第5次調査におけるⅢ区中央部、N・O-23・24グリッドに位置し、第97号住居跡、第152・395・396・397・399号溝跡と重複する。住居跡の中央部には、後代の地震によって発生した液状化現象に伴う噴砂が東西方向に走り、南西角は排水



第157図 第97号住居跡出土遺物

第52表 第97号住居跡出土遺物観察表 (第157図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(13.4)	[4.0]	—	CHIK	10	普通	橙	外面摩耗が激しい	
2	土師器	坏	(14.2)	[3.7]	—	CHIK	5	普通	橙		
3	土師器	坏	(14.0)	[3.7]	—	CEIK	20	普通	にぶい橙	内外面赤彩	
4	土師器	坏	(13.4)	[5.2]	—	CEGHK	20	普通	明赤褐	No.1	88-9
5	土師器	坏	(15.2)	[2.6]	—	CEHIK	5	普通	にぶい橙		
6	土師器	坏	(13.0)	3.8	—	EHIK	50	普通	にぶい橙	No.2 外面黒斑有り	88-10
7	土師器	坏	—	[2.0]	(8.0)	CEHIK	15	普通	橙		
8	土師器	甕	—	[5.2]	—	AEHK	20	普通	橙	No.1 常陸型甕	
9	石製品	不明	長さ11.8	幅10.2	厚さ5.7	重さ822.1g				角閃石安山岩 灰白色 緻密 使用痕有り	102-5

溝によって壊される。

平面形態は方形で、規模は長軸7.83m、短軸7.62m、深さ0.19mを測り、主軸方位はN-43°-Eを指す。カマドは東壁やや南寄りに設けられ、カマド右袖の横からは貯蔵穴が検出された。住居跡の南西角からは、住居内土壌が検出された。覆土は水平堆積で、下層は白色粘土ブロックを含む。

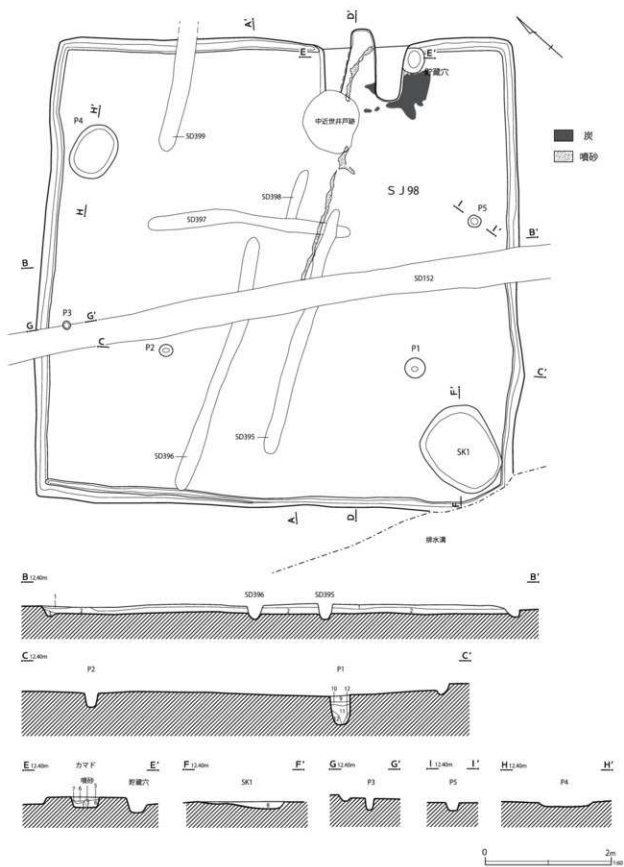
カマドは、袖が住居内に0.85m程張り出し、燃燒部は浅く掘り込まれ、奥壁から煙道部に向けて急峻に立ち上がる構造を持つ。規模は、全長0.98m、幅0.55m、深さ0.18mを測る。

カマド内は側壁付近から炭化物層が検出されたが、明確な火床面等は認められなかった。遺物はカマド燃燒部と前面、右袖の脇からまとめて出土した。

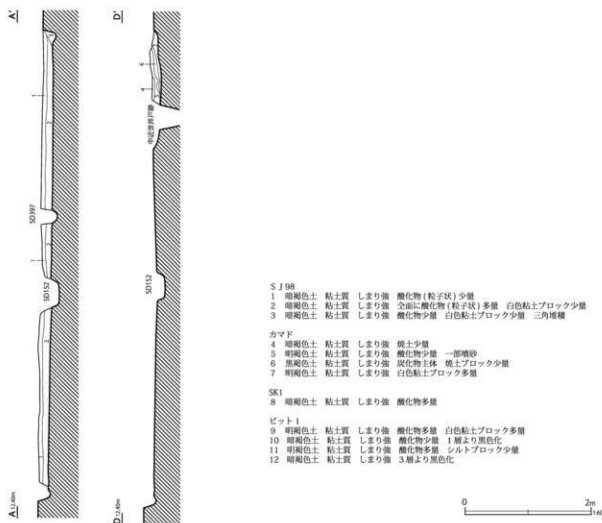
壁溝は、カマドを除いて全周する。規模は、幅0.13~0.26m、深さ0.03~0.11mを測る。

貯蔵穴は、平面形態が東西にやや長い楕円形で、規模は長径0.42m、短径0.32m、深さ0.21mを測る。住居内土壌は、平面形態が東西にやや長い楕円形で、規模は、長径1.40m、短径1.15m、深さ0.10mを測り、周辺からは灰類が比較的多くまわって出土している。

ピットは5基検出された。ピット1・2・3・5は小型で、ピット4は比較的大型である。小型のピットは、平面形態が円形または楕円形で、規模はピット1が直径0.30m、深さ0.45mを測る。ピット2は長径0.23m、短径0.20m、深さ0.22mを測る。ピット3は長径0.12m、短径0.11m、深さ0.18mを測る。ピット5は長径0.20m、短径0.19m、深さ



第158図 第98号住居跡(1)



第159図 第98号住居跡(2)

0.12mを測る。ビット1・2は、住居跡の柱穴である可能性がある。

大型のビット4は、平面形態が楕円形で、長径0.90m、短径0.65m、深さ0.05mを測る。周辺から遺物が多く出土し、高坏がまとまって出土している点は注目される。

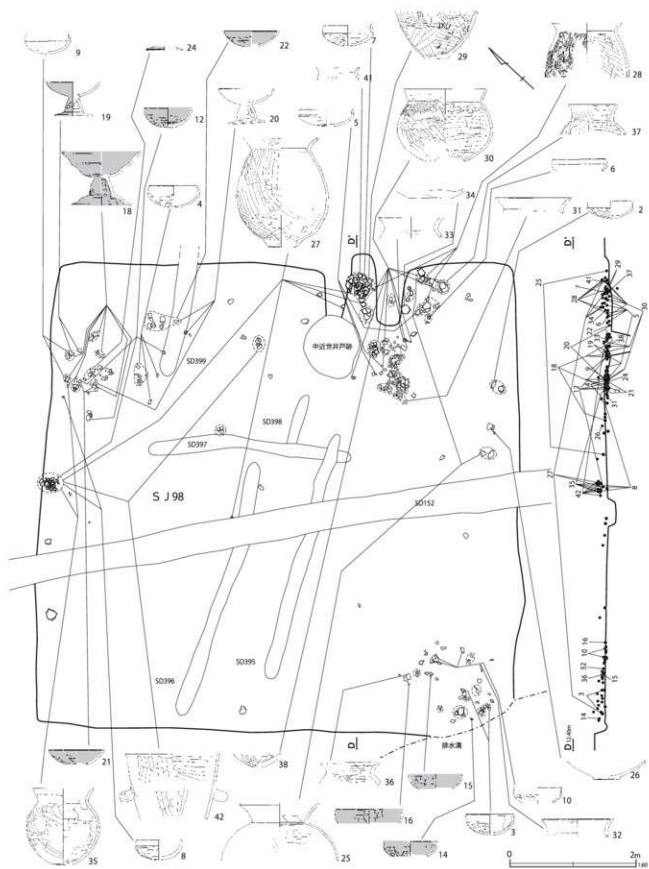
遺物は住居跡全体から検出され、特にカマドの周囲と住居内土城の周囲、大型のビット4の周辺からまとまって出土した。甕類はカマド周辺、高坏はビット4の周辺に集中し、坏類は住居跡全域から検出された。遺物は須恵器蓋、土師器坏・高坏・壺・甕・甗等が出土した(第161・162図1～43)。1は須恵器の蓋である。破片だが、5世紀

代のものか。

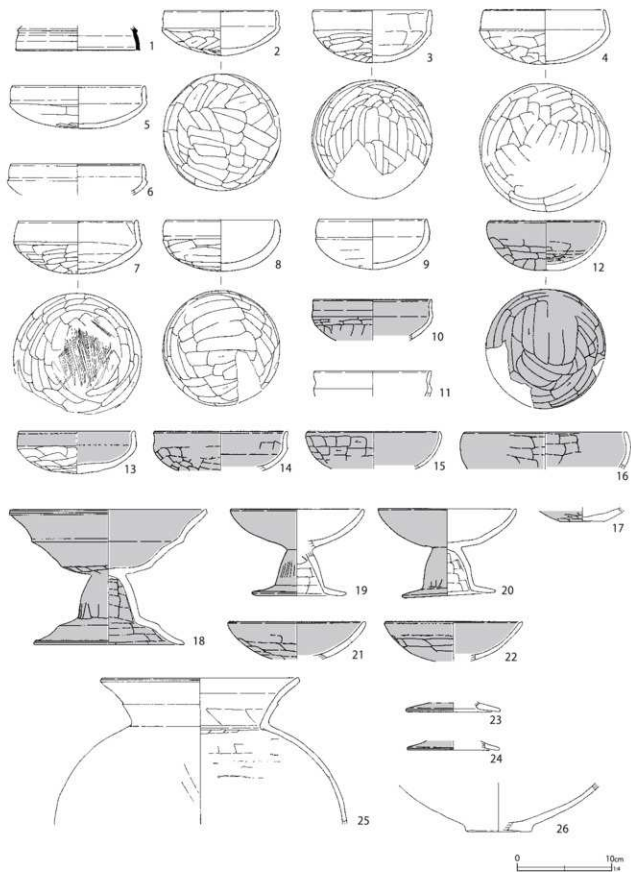
2～43は土師器である。2～17は坏で、1～9は坏蓋模倣坏である。口縁部は、やや内湾気味に立ち上がるものが多い。7は底部に刃物痕が多数認められる。砥具として転用されたものか。13は内面全体および口縁部外面に、12、14～16は内外面全体に赤彩が施される。

18～24は高坏である。18は坏・脚部ともに二重口縁になる大型の高坏で、内外面に赤彩が施される。19～24は小型の高坏で、19は外面のみ、21、22は内外面に赤彩が施される。

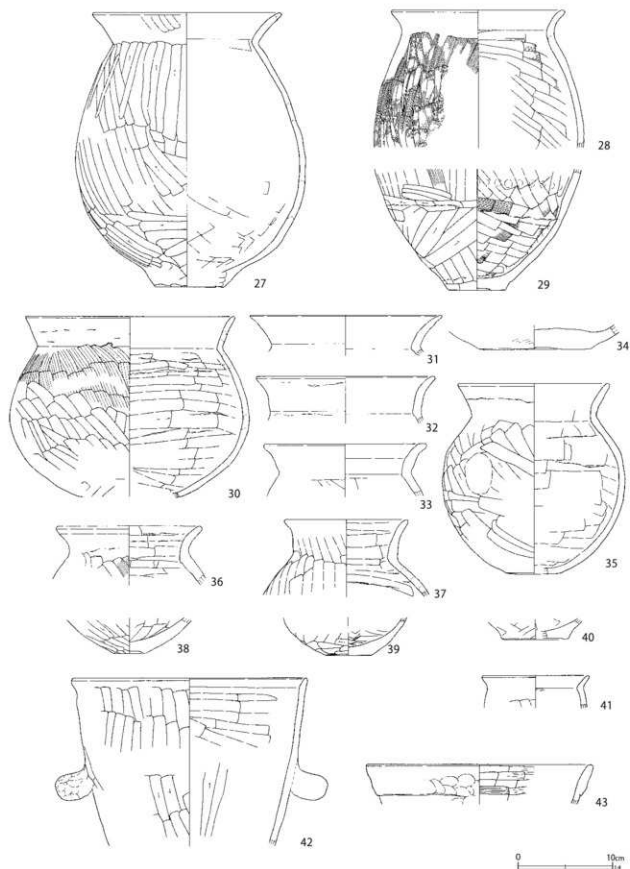
25、26は壺である。25は口縁部中位に段を持つ。27～41は甗で、27は胴部が下膨れになる。28、29



第160図 第98号住居跡遺物出土状況



第161图 第98号住居跡出土遺物(1)



第162図 第98号住居跡出土遺物(2)

第53表 第98号住居跡出土遺物観察表 (第161・162図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須臾器	蓋	(13.0)	[2.6]	—	E I K	5	良好	灰		
2	土師器	坏	11.8	4.8	—	CEHIK	90	普通	橙	No.67	89-1
3	土師器	坏	(12.3)	5.6	—	I K	70	普通	明赤褐	SK152No.23・25	89-2
4	土師器	坏	12.5	5.8	—	CEFGHIK	75	普通	明赤褐	No.13・83・108 器面摩耗	89-3
5	土師器	坏	14.0	4.5	—	H I K	75	普通	橙	No.34・35・37・49・53・69・72 外面摩耗。剥離が激しく調整は不明瞭	89-4
6	土師器	坏	(14.0)	[3.2]	—	CHIK	5	普通	橙	No.36	
7	土師器	坏	12.4	5.7	—	CHIK	75	普通	明赤褐	No.98 底部に多数の刃物痕が認められる	89-5
8	土師器	坏	11.5	5.5	—	CHIK	80	普通	橙	No.4・5・19・21	89-6
9	土師器	坏	11.3	5.3	—	E I K	75	普通	明赤褐	No.10・11 内外面共に摩耗が激しく調整は不明瞭	89-7
10	土師器	坏	(12.4)	[4.3]	—	BCEIK	50	普通	にぶい橙	No.30・32 内外面赤彩	
11	土師器	坏	(12.2)	[2.7]	—	EHK	5	普通	にぶい橙		
12	土師器	坏	12.0	5.2	—	CEHIK	75	普通	にぶい橙	No.4・7・109 P7No.8・9 内外面赤彩	89-8
13	土師器	坏	12.0	4.5	—	I K	50	普通	にぶい橙	内外面赤彩 内外面共に摩耗	89-9
14	土師器	坏	(14.0)	[4.2]	—	CHIK	30	普通	にぶい黄橙	SK152No.21 内外面赤彩	89-10
15	土師器	坏	(13.9)	[4.0]	—	CEHIK	25	普通	にぶい橙	SK152No.8 内外面赤彩	
16	土師器	坏	(17.0)	[3.9]	—	CEHIK	10	良好	橙	No.33 内外面赤彩	
17	土師器	坏	—	[1.5]	4.5	E I K	45	普通	明赤褐	外面赤彩 内面剥離が激しい	
18	土師器	高坏	20.7	14.3	15.8	CHIK	75	普通	橙	No.8・10・11・107 P7No.2・6・11・12 内外面赤彩 内外面摩耗	89-11
19	土師器	高坏	14.0	9.2	(10.0)	BCHIK	45	普通	明褐灰	No.11・12 外面赤彩 坏部底面は黒色を呈する	90-1
20	土師器	高坏	14.5	9.2	9.4	CEHIK	55	普通	橙	No.110・111 P7No.5 外面赤彩 全体的に摩耗が激しい	90-2
21	土師器	高坏	14.3	[4.0]	—	EHK	70	普通	橙	P7No.4・7 内外面赤彩 内外面摩耗	90-3
22	土師器	高坏	14.4	[4.2]	—	CHIK	75	普通	橙	No.110 内外面赤彩 器面の摩耗が激しい	90-4
23	土師器	高坏	—	[1.0]	9.4	CEHIK	55	普通	にぶい橙	外面赤彩	
24	土師器	高坏	—	[1.0]	(5.4)	CHIK	25	普通	にぶい橙	P7No.8 外面赤彩	
25	土師器	壺	(20.6)	[15.5]	—	ACEHIK	20	普通	明赤褐	No.29・65 器面の摩耗が激しい	
26	土師器	壺	—	[5.2]	(6.4)	EHK	20	普通	にぶい橙	No.66 内外面共に摩耗が激しく調整は不明瞭	
27	土師器	甕	(19.6)	29.0	(7.4)	EHIKM	45	普通	灰褐	No.1・3・4・18 カマド No.88・92・96・101	90-5
28	土師器	甕	(18.0)	[14.6]	—	BEGHIK	45	普通	明赤褐	No.28・68・69・88・94・99 外面ハケ目	
29	土師器	甕	—	[12.9]	6.2	CEIK	65	普通	橙	No.93・94	90-6
30	土師器	甕	(22.0)	[19.1]	—	CEHIK	60	普通	にぶい黄橙	No.31・33・40・43・46・47・51・54・75・89・91・97 外面被熱	
31	土師器	甕	(20.0)	[4.3]	—	BEIK	15	普通	橙	No.79	
32	土師器	甕	(18.7)	[5.0]	—	ACEIK	20	普通	にぶい橙	SK152No.2 胎土に雲母と角閃石含む	
33	土師器	甕	(16.8)	[5.6]	—	CEHIK	15	普通	橙	No.41 外面黒斑有り	
34	土師器	甕	—	[2.6]	12.0	CEHIKL	90	普通	灰白	No.38 砂利を多く含む	
35	土師器	甕	(15.6)	20.2	(5.8)	BHIK	45	普通	にぶい橙	No.4・9・20・22・25・27 P1No.3 胴部中位に煤付着	90-7
36	土師器	甕	(15.0)	[6.4]	—	BCEHIK	20	普通	にぶい橙	SK152No.14 内面煤付着	
37	土師器	甕	12.6	[8.2]	—	BCHIK	70	普通	明赤褐	No.32 内外面煤付着	90-8
38	土師器	甕	—	[3.8]	(3.2)	E I K	25	普通	にぶい褐	No.46 内外面煤付着	
39	土師器	甕	—	[4.0]	4.8	CEHIK	75	良好	にぶい橙		90-9
40	土師器	甕	—	[2.2]	(7.2)	BEHIK	15	普通	灰褐		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
41	土師器	甕	(11.0)	[3.5]	—	CEHIK	5	普通	にふい橙	No.88	
42	土師器	甕	(24.6)	[17.7]	—	BCEIK	35	普通	明赤褐	No.4・17・21・26・86 把手付甕 外面黒底有り	90-10
43	土師器	甕	(23.6)	[4.2]	—	CEHIK	5	普通	明赤褐		

は内外面に刷毛目調整が施される。30は鉢形の甕で、外面に刷毛目調整が施される。

35は中型の甕である。36、37も中型の甕になると考えられ、37は口縁部が垂直気味に延びる。41は小型の甕である。42、43は甕である。42は把手付甕で大型になる。43は鉢形の甕になると推察される。

遺物の時期は、土師器杯・高杯・甕の形状から、5世紀末と考えられる。

第99号住居跡 (第163～166図)

第5次調査におけるⅢ区中央南端、M・N-22グリッドに位置する。第352号土壌と重複し、本遺構が古い。住居跡の南西部は、調査区域外へ延びる。

平面形態はやや歪な方形である。規模は、残存部で長軸7.78m、短軸7.17m、深さ0.41mを測り、主軸方位はN-16°-Wを指す。カマドは北壁中央部に設けられ、周辺にはカマドから流出したと推察される炭化物が堆積していた。カマド左袖の脇には、貯蔵穴が設けられる。覆土は自然堆積と考えられ、西壁際からは炭化物を多く含む層が流入する。

カマドは、袖が住居内に1.15m程張り出し、燃焼部は平坦で、煙道部に向けて緩やかに立ち上がる構造を持つ。規模は、全長1.35m、幅0.50m、深さ0.14mを測る。

覆土からは、明確な焼土層は検出されなかったが、全体的に焼土粒子を含み、火床付近の土層には炭化物も多く含まれる。また、カマド内の炭化物が、貯蔵穴の周辺まで流出する状況も捉えることができた。燃焼部からは、甕や鉢が潰れた状態で出土し、右袖の先端部からは、ほぼ完形の杯

が出土した。

貯蔵穴は、平面形態が円形で、規模は直径0.60m、深さ0.19mを測る。覆土には、カマドから流入したと考えられる炭化物層が厚く堆積し、底面には焼土ブロックを多く含む炭化物層が堆積していた。貯蔵穴が埋没する前に、カマドから炭化物や焼土が流れ込んだと考えられる。周囲から出土した甕が、カマドの燃焼部から出土した破片と接合関係にある点も注目される。

ピットは4基検出された。平面形態は円形または楕円形である。規模は、ピット1が長径0.40m、短径0.36m、深さ0.35mを測る。ピット2は、長径0.70m、短径0.62m、深さ0.10mを測る。ピット3は、残存部で直径0.50m、深さ0.15mを測る。ピット4は長径0.26m、短径0.24m、深さ0.65mを測る。

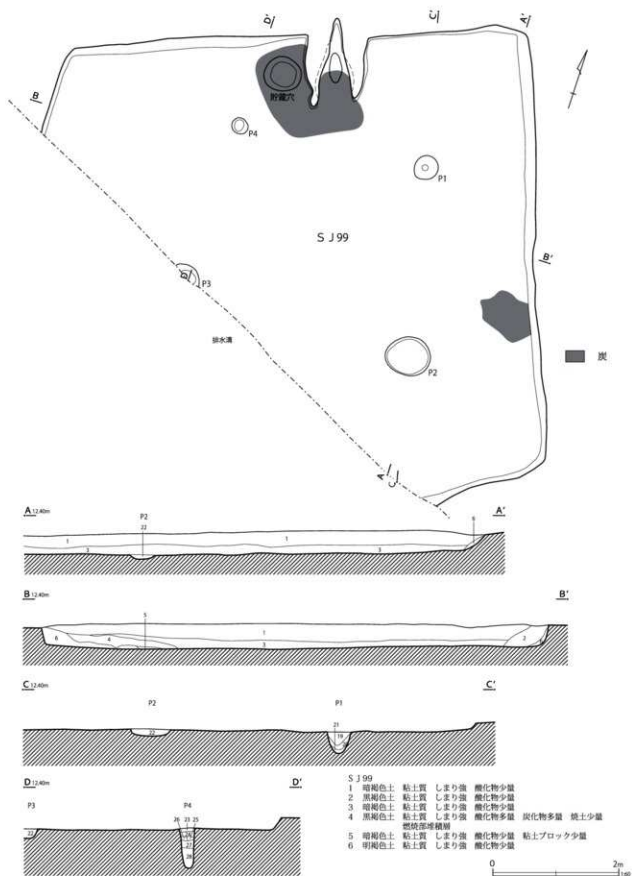
ピット1・4は、規模が小さいが深く、底面に柱の当たりが確認されたことから、柱穴と考えられる。

壁溝は検出されなかった。

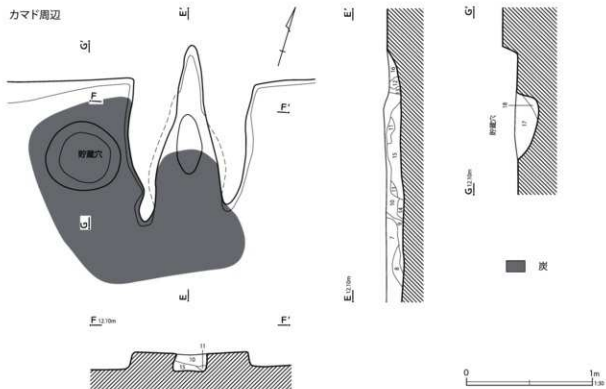
遺物は遺構全体から散発的に出土し、住居跡北西隅と南東隅に比較的まとまっている。土師器杯・高杯・鉢・小型壺・甕・甕、須恵器蓋・杯等が出土した(第167・168図1～45)。

1～43は土師器である。1～17は杯で、1～6は半球形杯であり、いずれも口縁部が内湾する。2は外面、3～5は内外面に赤彩が施される。3は器壁が薄い。7は坏身模倣杯である。8～15は坏蓋模倣杯で、いずれも口縁部がやや内湾気味に立ち上がる。14、15は口縁部外面に放射状のミガキが施される。17は内黒の杯で、外面下端には横方向のミガキが施される。

18は器種不明。小型壺の口縁部である可能性も



第163図 第99号住居跡(1)



- S J 99 カマド
- 7 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物少量
 - 8 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物少量 焼土粒子少量
 - 9 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物主体 焼土粒子少量
 - 10 暗褐色土 粘土質 しまり強 焼土ブロック少量
 - 11 暗褐色土 粘土質 しまり強 焼土ブロック多量 炭化物少量
 - 12 暗褐色土 粘土質 しまり強 焼土粒子少量
 - 13 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物少量
 - 14 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物主体 焼土ブロック少量
 - 15 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物多量 焼土ブロック多量
 - 16 暗褐色土 粘土質 しまり強 焼土ブロック少量
- 貯蔵穴
- 17 黒色土 炭化物層 炭化物主体 焼土 (φ2~5mm) 多量
黄褐色土ブロック (φ5~10mm) 少量 しまりなし
 - 18 黒色土 炭化物層 焼土ブロック (φ2~10mm) 主体 炭化物粒子多量
黄褐色土少量混入 しまりなし

- ビット1
- 19 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物多量 2層より粘性強
 - 20 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物少量 白色粘土ブロック少量
 - 21 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物少量 しまり強 柱状
- ビット2・3
- 22 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物多量
- ビット4
- 23 暗褐色土 粘土質 しまり強 焼土多量
 - 24 暗褐色土 粘土質 しまり強 シルトブロック多量 焼土粒子少量
 - 25 黒褐色土 粘土質 しまり強 炭化物主体
 - 26 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物多量 1・2層より灰化進行
 - 27 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物少量
 - 28 黒褐色土 粘土質 しまり強 柱状

第164図 第99号住居跡(2)

あるが、器壁が薄い。

19~22は高坏である。坏部は深身で、21は立ち上がり部に段を持つ。23~25は鉢である。23は内面および外面上半に赤彩が施される。24、25は埴形土器に近い形状のものか。

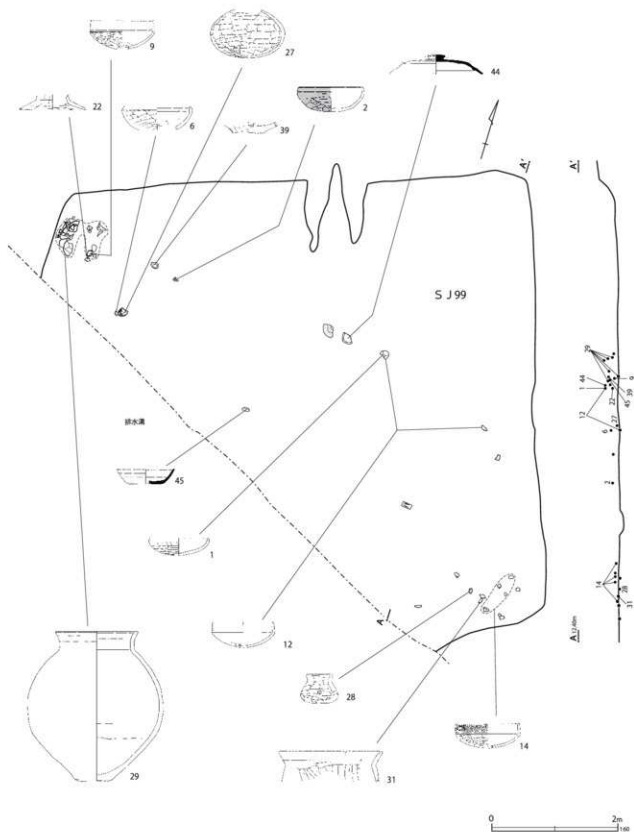
26~28は小型壺である。26は胴部がやや算盤玉形になり、筒形の口縁部が取り付く。27は胴部がより算盤玉形になるため、26と同系統の壺か。28はより小型のものだが、胴部中位に穿孔が開けられ、甕のような形状である。

29~42は甕である。29は住居跡北西角から出土

し、大型で胴部が張る甕である。30は胴部中位に最大径を持つものである。43は把手付甕の把手部分である。

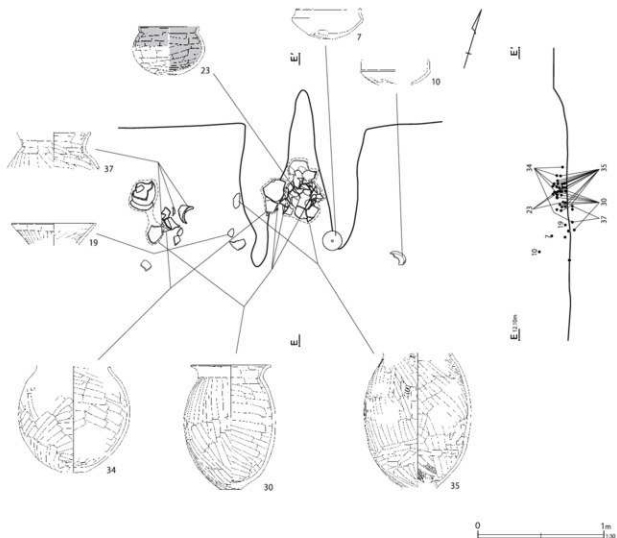
44、45は須恵器である。44は大型のカエリ付き蓋で、末野の製品である。45は坏で、坏Gの系譜をひくものか。どちらも7世紀末~8世紀初頭の遺物と考えられ、他の遺物とは時期を異にすること、須恵器が2点とも比較的残存率が高いことから、7世紀末~8世紀初頭の重複遺構があった可能性が考えられる。

遺物の時期は、土器器坏や甕の形状から、6世



第165図 第99号住居跡遺物出土状況(1)

S J99カマド



第166図 第99号住居跡遺物出土状況(2)

紀前半と考えられる。

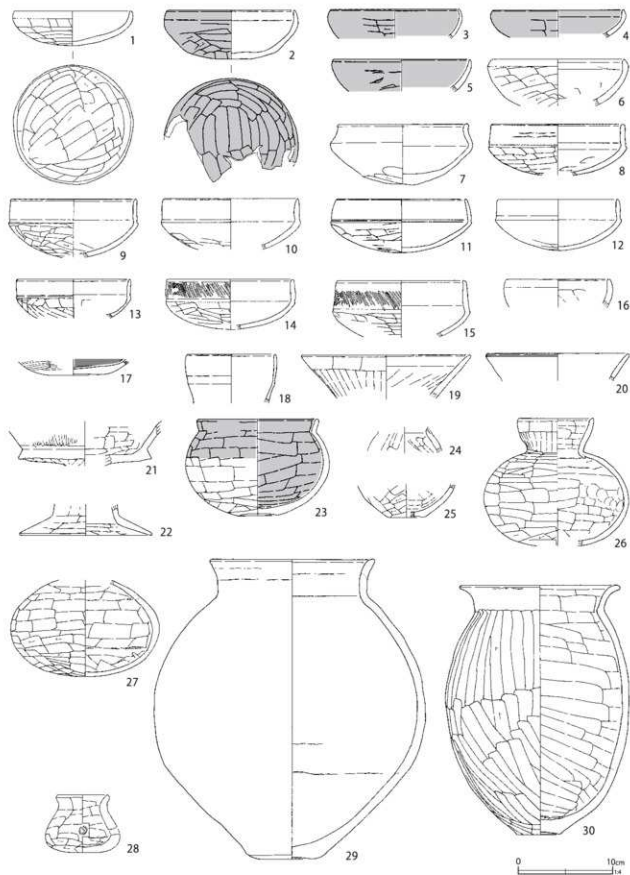
第100号住居跡(第169図)

第5次調査におけるⅢ区西寄り、L・M-21・22グリッドに位置する。第82・90号住居跡、第152号溝跡、第349・350・351・353号土壇と重複し、第82・90号住居跡より古い。第349・350・351・353号土壇との新旧関係は不明である。住居跡の北壁は、北東部が古代の溝跡によって壊され、北西部は後代の住居跡によって壊されていたが、中央部は残存する。

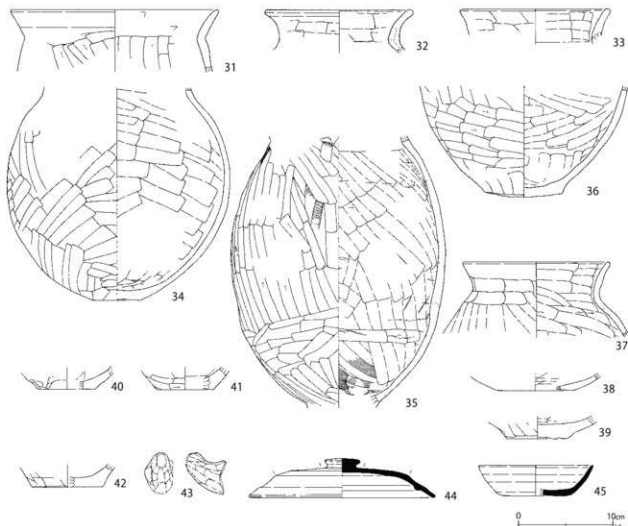
平面形態は南北にやや長い長方形である。規模は、長軸6.13m、短軸5.30m、深さ0.14mを測り、

長軸方位はN-4°-Wを指す。覆土は削平され、あまり残存していないため堆積状況は不明だが、全体に炭化物が含まれ、壁際では炭化物の含有量が増える状況が捉えられた。

ピットは3基検出された。平面形態はいずれも円形または楕円形で、ピット3は円形の掘り込みが二重に認められる。規模は、ピット1が長径0.63m、短径0.60m、深さは0.20mを測る。ピット2は長径0.40m、短径0.36m、深さ0.21mを測る。ピット3は長径0.57m、短径0.53m、深さ0.25mを測り、中央部に直径0.17m、深さ0.07mの掘り込みが認められる。



第167图 第99号住居跡出土遺物(1)



第168図 第99号住居跡出土遺物（2）

第54表 第99号住居跡出土遺物観察表（第167・168図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	12.4	3.7	—	CEIK	95	普通	にぶい橙	No.36 外面黒斑有り	91-1
2	土師器	坏	(13.3)	5.2	—	CEIK	55	普通	にぶい黄橙	No.64 外面赤彩	91-2
3	土師器	坏	(13.6)	[3.1]	—	EHIK	5	普通	橙	内外面赤彩	
4	土師器	坏	(13.8)	[2.9]	—	CEHIK	15	普通	にぶい橙	内外面赤彩	
5	土師器	坏	(14.4)	[3.4]	—	EHIK	10	普通	にぶい褐	内外面赤彩	
6	土師器	坏	(14.0)	[5.0]	—	EHIK	45	普通	にぶい橙	No.7 内外面共に煤付着	
7	土師器	坏	13.5	6.4	—	AHK	95	普通	にぶい黄橙	No.14 外面黒斑有り	91-3
8	土師器	坏	(13.7)	[5.4]	—	CEHIK	15	普通	にぶい橙	内面全体強く被熱	91-4
9	土師器	坏	(13.1)	[6.2]	—	CHIK	45	普通	橙	No.5 外面黒斑有り	91-5
10	土師器	坏	(14.1)	[5.4]	—	BHIK	40	普通	橙	No.33 内外面共に摩耗が激しい	91-6
11	土師器	坏	13.5	5.7	—	GHIK	55	普通	にぶい橙		91-7
12	土師器	坏	12.6	5.4	—	CHIK	85	普通	橙	No.36・38 内外面共に摩耗。剥離が激しく調整は不明瞭	91-8
13	土師器	坏	(11.8)	[4.1]	—	CHIK	25	普通	明赤褐		91-9
14	土師器	坏	(13.2)	[5.3]	—	CEIK	55	普通	にぶい赤褐	No.44・46・47・49 外面被熱 口唇部に連続する斜線状のミガキが施される	91-10
15	土師器	坏	(13.2)	[6.0]	—	HIK	45	普通	明赤褐		91-11

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
16	土師器	坏	(11.0)	[3.0]	—	CEHIK	5	普通	にぶい橙	口唇部煤付着	
17	土師器	坏	—	[1.7]	(5.2)	EIK	25	普通	にぶい赤褐	内黒	91-12
18	土師器	不明	(9.2)	[5.2]	—	H1	5	普通	明赤褐		
19	土師器	高坏	(17.8)	[4.6]	—	EIK	25	普通	赤褐	No.12 内面黒斑有り	
20	土師器	高坏	(15.0)	[2.9]	—	CHIK	5	普通	にぶい橙		
21	土師器	高坏	—	[4.8]	—	BCGHIK	10	普通	にぶい橙		
22	土師器	高坏	—	[3.3]	(13.8)	CEIK	15	普通	にぶい橙	No.6	
23	土師器	鉢	12.4	10.3	4.4	EIK	85	普通	明赤褐	No.32・58 カマドNo.53・58 内外面赤彩	92-1
24	土師器	鉢	—	[2.9]	—	CEHIK	20	普通	にぶい黄橙		
25	土師器	鉢	—	[3.5]	(3.8)	CDEGHIK	10	普通	明赤褐		
26	土師器	小型壺	7.8	[13.5]	—	BCHIK	40	普通	明赤褐	No.63・73	92-2
27	土師器	小型壺	—	[10.2]	—	EIK	70	普通	明赤褐	No.8	92-3
28	土師器	小型壺	(5.2)	6.1	4.0	EIK	70	普通	にぶい橙	No.42 胸部穿孔	92-4
29	土師器	甕	(17.1)	31.5	8.1	D	85	普通	明赤褐	No.1・2・3・4・50・52 内外面共に摩耗が激しく調整は不明瞭	92-5
30	土師器	甕	16.3	26.2	4.6	EIK	80	普通	にぶい褐	No.10・16・17・20・23・24・25 胸部外面下半および胸部内面上半から口縁部にかけて煤付着	92-6
31	土師器	甕	(21.8)	[6.6]	—	CGHIK	10	普通	明赤褐	No.43 値の可能性有り	
32	土師器	甕	(15.1)	[4.6]	—	EHIK	20	普通	にぶい黄橙	内面口縁部煤付着	
33	土師器	甕	(15.0)	[3.7]	—	BDI	20	普通	にぶい橙		
34	土師器	甕	—	[22.5]	5.0	EHIK	50	普通	にぶい橙	No.15・27・28・62・72 カマドNo.62 全体的に強く被熱	
35	土師器	甕	—	[29.0]	—	CEHIK	80	良好	にぶい橙	No.13・18・21・22・26・29・30・53・54・55・56・57・59・61 内面黒斑有り	92-7
36	土師器	甕	—	[11.8]	8.2	BCEGHIK	50	普通	にぶい橙	外面煤付着	
37	土師器	甕	(15.2)	[8.0]	—	EHIK	70	普通	にぶい赤褐	No.69・72カマド	
38	土師器	甕	—	[1.8]	(8.0)	EIK	10	普通	橙		
39	土師器	甕	—	[2.4]	6.4	CEHIK	60	普通	灰白	No.9	
40	土師器	甕	—	[2.3]	(6.0)	BHIK	20	普通	灰白	外面煤付着	
41	土師器	甕	—	[2.4]	(6.0)	EI	25	普通	灰黄褐	外面煤付着	
42	土師器	甕	—	[2.4]	(7.6)	BHIK	30	普通	橙		
43	土師器	甗	—	[4.3]	—	CHIK	100	普通	にぶい橙	把手 幅4.3	
44	須恵器	蓋	(19.6)	4.1	—	BEHIK	50	普通	にぶい黄橙	No.35 末野産 幅径3.7 古代	92-8
45	須恵器	坏	(12.0)	3.2	(7.4)	IK	40	普通	灰白	No.37 古代	92-9

ピットは、南西部が欠けるが方形に並ぶため、住居の柱穴である可能性も考えられる。しかし、いずれも掘り込みが浅いため、主柱穴であるかは不明である。

カマド、壁溝は検出されなかった。

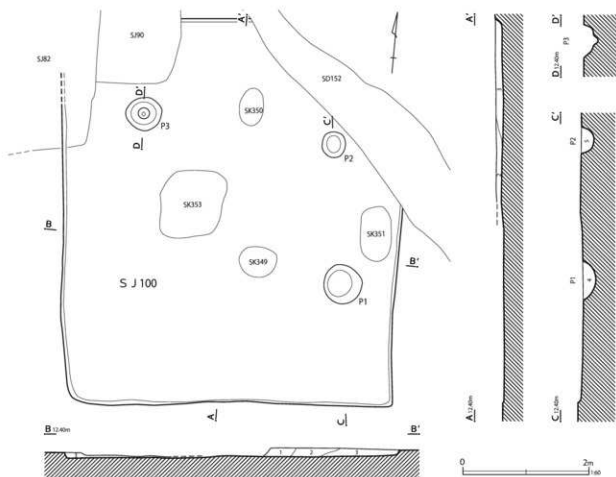
遺物は土師器坏・高坏・壺・甕等が出土した(第170図1～6)。1、2は坏である。ともに半球形坏で、1は内外面、2は外面に赤彩が施される。3、4は高坏である。3は脚部で、やや膨らみを持つ。大型のものか。

5は複合口縁の壺で、口縁部に横方向のミガキが施される。6は甕の底部である。

遺物が少ないため正確な時期は不明だが、坏および高坏の形状と、住居跡の規模から、5世紀後半から6世紀前半の住居跡と考えられる。

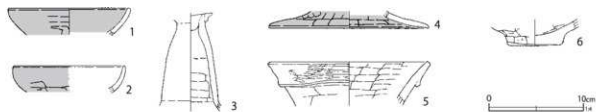
第101号住居跡(第171・172図)

第5次調査におけるⅢ区中央部、N・M-24グリッドに位置する。第347号土壇と重複し、本遺構が古い。カマドの右袖は、トレンチ掘削時に削平された。



- SJ 100
- 1 暗褐色土 しまり強 粘性弱 粘土質 炭化物多量 埴土(φ3~5mm)・炭化物(φ1~4mm)中量
 - 2 暗褐色土 しまり強 粘性弱 粘土質 炭土(φ1~2mm)・炭化物(φ1~2mm)少量
 - 3 暗褐色土 1・2層より明るい しまりあり 粘性あり 炭化物多量
- ヒット
- 4 暗褐色土 しまりあり 粘性あり 粘質土 炭化物(φ2mm)少量 炭化物多量
 - 5 暗褐色土 しまりあり 粘性あり 粘質土

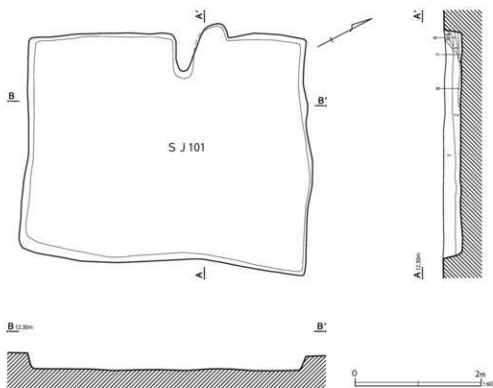
第169図 第100号住居跡



第170図 第100号住居跡出土遺物

第55表 第100号住居跡出土遺物観察表(第170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(12.8)	[2.9]	—	CHIK	5	普通	にぶい赤褐色	内外面赤彩	
2	土師器	坏	(11.8)	[2.8]	—	CHIK	15	普通	楊灰	外面赤彩 内面口唇部まで赤彩みられる	
3	土師器	高坏	—	[10.3]	—	CEIK	65	普通	明赤褐色	外面摩耗により調整不明瞭	
4	土師器	高坏	—	[1.8]	(16.9)	EIK	15	普通	にぶい黄褐色	内外面赤彩	
5	土師器	壺	(16.6)	[4.7]	—	CEHIK	20	普通	にぶい橙		
6	土師器	甕	—	[2.7]	5.2	CGHIK	25	普通	にぶい橙		



- S J 101
- | | | | | | |
|---|------|-------|----------|-------------------|---------------------|
| 1 | 暗褐色土 | しまり強 | 粘性なし | 炭化物多量 | 炭化物(φ2~3mm)少量 |
| 2 | 灰褐色土 | しまりあり | 粘性強 | 粘質土 | 炭化物多量 焼土ブロック少量 |
| 3 | 灰褐色土 | しまりあり | 粘性あり | 粘質土 | 炭化物多量 |
| 4 | 暗褐色土 | しまりあり | 粘性あり | 粘質土 | 炭化灰少量 炭化物(φ2~3mm)含む |
| 5 | 灰土 | しまりなし | 粘性あり | 粘質土 | 炭化灰少量 炭化物粒子少量 |
| 6 | 赤褐色土 | 焼土層 | しまり・粘性あり | 灰色粘質土少量 | 炭化物少量 カマド天井部の崩落土 |
| 7 | 黒色土 | 炭化物層 | 灰色土少量 | 焼土ブロック(φ2~30mm)少量 | |
| 8 | 黒色土 | 炭化物層 | 灰色土少量 | 焼土ブロック(φ2~10mm)少量 | かき出された灰と炭の堆積土 |

第171図 第101号住居跡

平面形態は南北にやや長い長方形である。規模は長軸4.42m、短軸3.62m、深さ0.32mを測り、主軸方位はN-63°-Wを指す。カマドは西壁やや北寄りに設けられる。覆土は水平堆積で、上層には炭化物、下層には焼土ブロックが少量含まれる。

カマドは、袖が住居内に0.60m程張り出し、燃焼部は平坦で、奥壁から煙道部に向けて垂直に立ち上がる構造を持つ。規模は、残存部で全長0.85m、幅0.43m、深さ0.25mを測る。

覆土は火床面直上に炭化物層が堆積し、その上をカマド天井部と考えられる焼土層が覆い、後は炭化物を含む層が互層状に堆積していた。カマドの前面には、カマドから掻き出された灰と考えられる炭化物層が、薄く堆積する。

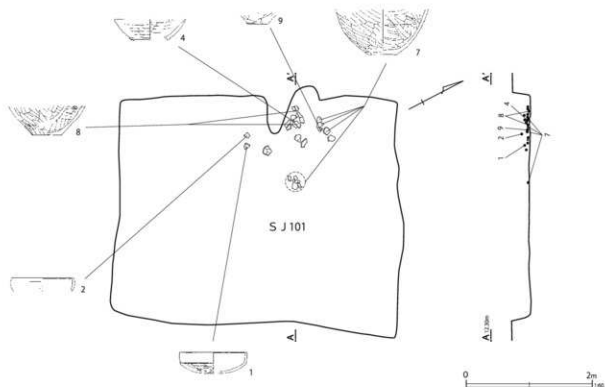
壁溝、ピットは検出されなかった。

遺物はカマド周辺からまとまって検出され、土師器坏・高坏・甕等が出土した(第173図1~9)。

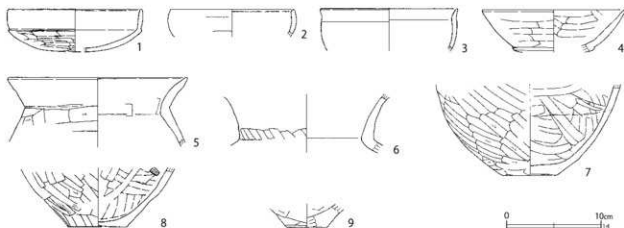
1~3は坏である。1は坏蓋模倣坏で、口縁部は垂直に立ち上がる。2は半球形坏で、3は鉢形になる。4は高坏の坏部で、立ち上がり部に段を持つ。

5~9は甕である。5、7、8は球胴形甕と推察される。やや胴が長くなるものか。6は口唇部を欠損するが、口縁部が長く、直立気味に立ち上がる甕と考えられる。

遺物の時期は、土師器坏や甕の形状から、5世紀後半~末と考えられる。



第172図 第101号住居跡遺物出土状況



第173図 第101号住居跡出土遺物

第56表 第101号住居跡出土遺物観察表 (第173図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(14.0)	[4.5]	-	CEHIK	20	普通	にぶい赤褐色	№24	92-10
2	土師器	坏	(13.0)	[2.9]	-	CHIK	5	普通	明赤褐色	№25 内外面共に摩耗が激しい	
3	土師器	坏	(14.4)	[4.5]	-	CEHIK	5	普通	橙	内外面共に摩耗が激しく調整は不明	
4	土師器	高坏	(15.0)	[4.5]	-	CEHIK	15	普通	橙	カマド№9	
5	土師器	甕	(19.0)	[7.3]	-	CEIK	20	普通	明赤褐色	胎土に微細な雜を多く含む	
6	土師器	甕	-	[6.2]	-	CEHIK	20	普通	明褐色	頸部に8mm幅の煤が帯状に付着する	
7	土師器	甕	-	[9.6]	5.6	CHIKM	35	普通	明赤褐色	№17・18・20・22 内外面共に被熱	
8	土師器	甕	-	[6.3]	(6.2)	CIK	25	普通	にぶい橙	カマド№4・7 外面煤付着	
9	土師器	甕	-	[2.5]	(4.0)	CEHIK	20	普通	橙	№19	

(2) 井戸跡

古墳時代の井戸跡は5基確認され、全て素掘りの井戸であった。井戸跡の分布は集落域の東端部と、Ⅶ区の西側に集中する。

水脈の関係もあると推察されるが、集落域の端に位置している井戸跡は、集落の生活用水として、Ⅵ区に位置するものは周囲に畠跡が広がることから、農業用水として使用されたものか。

いずれも平面形態は楕円形で、出土遺物や検出面から、古墳時代の井戸跡と判断した。このうち2基からは液状化現象に伴う噴砂の痕跡が認められた。

第128号井戸跡 (第174図)

古墳時代の集落域の東端部にあたるM-25グリッドに位置し、北側は排水溝によって壊される。噴砂に壊されることから、少なくとも9世紀以前の遺構と考えられ、出土遺物の年代や出土状況から古墳時代の井戸跡と判断した。

平面形態は楕円形で、断面は逆「ハ」の字状になる。規模は長径1.80m、短径1.55mを測り、深さは1.52m以上になる。

覆土は、第4層中で高さを違えて接合した遺物があることから、同層は人為的に埋め戻されたと推察される。その後はレンズ状堆積となり、含有物もあまり無いことから自然に埋没したと考えられる。

遺物は土師器甕、羽口、刀子等が出土した(第175図1~6)。1~4は土師器の甕である。1は第4層中から1.00m程の標高差をもって出土した遺物である。胴部に最大径を持ち、やや胴部が長くなるものか。

5は土製品の羽口である。器面にはヘラケズリ状の調整痕が認められた。

6は鉄製品の刀子で、茎部のみ残存する。

遺物の時期は、甕の形状から6世紀前半と考えられる。人為的に埋め戻された覆土の中から出土したため、廃絶時期も同じ頃と推察される。

第130号井戸跡 (第174図)

古墳時代の集落域の東端部にあたるO-27グリッドに位置する。第三面から検出され、古代以降の遺物を含まないことから、古墳時代の井戸跡と判断した。

平面形態は円形で、断面は逆「ハ」の字状になる。規模は直径0.87m、短径0.82mを測る。覆土は2層のみで、混入物は少ない。土層が少ないため、層上部が削平されている可能性がある。

遺物が出土していないため、詳細な時期は不明である。

第131号井戸跡 (第174図)

古墳時代の集落域の東端部にあたるN-24・25グリッドに位置する。噴砂に壊されることから、少なくとも9世紀以前の遺構と考えられ、出土遺物の年代から古墳時代の井戸跡と判断した。

平面形態は楕円形で、断面は上端付近の壁の崩落により漏斗状になる。規模は長径1.82m、短径1.64mを測る。

覆土は自然堆積と推察され、炭化物を含む土が厚く堆積した後、壁の崩落に伴うシルトブロック混じりの土によって徐々に埋没していく。覆土の中層からは炭化物も検出された。

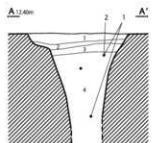
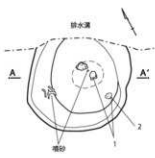
液状化現象に伴う噴砂の痕跡が、断面上で明瞭に認められ、完全に埋没した後に液状化現象の影響を受けた状況が捉えられた。

遺物は中層から比較的多く検出され、土師器杯・高杯・甕等が出土した(第175図7~19)。7~10は杯である。7、8は口縁部がやや外反し、9はやや内湾、10は直立気味に立ち上がる。11は高杯で、杯部内面には赤彩が施される。

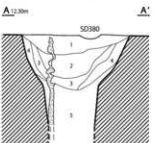
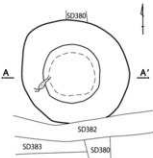
12~19は甕である。12はやや薄手で、頸部が弓状に湾曲する。15は口縁部が欠損するが残存率の高い甕で、やや細身であり、胴部中位に最大径を持つ。16は大きく開くため壺の底部である可能性もある。

遺物の時期は、杯や甕の形状から6世紀中葉と

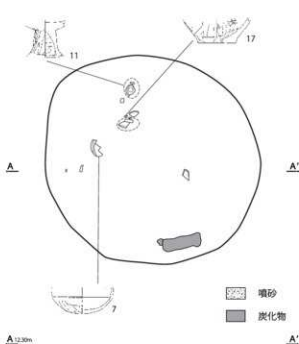
SE128



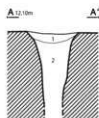
SE131



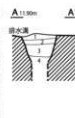
SE131 遺物検出図



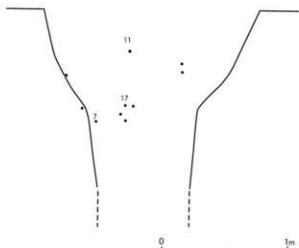
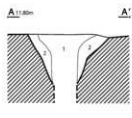
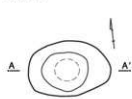
SE130



SE143



SE144



SE128

- 1 黒褐色土 粘土質 しまり強 酸化物少量
- 2 暗褐色土 粘土質 しまり強 酸化物少量
- 3 暗褐色土 粘土質 しまり強 酸化物微量
- 4 暗褐色土 粘土質 しまり強 酸化物微量 シルトブロック

SE130

- 1 暗褐色土 粘強 しまる 鉄分少量
- 2 黒褐色土 粘強 しまり弱 鉄分少量

SE131

- 1 暗褐色土 粘土質 しまり強 酸化物多量
 - 2 暗褐色土 粘土質 しまり強 酸化物多量 シルトブロック少量
 - 3 暗褐色土 粘土質 しまり強 酸化物少量 シルトブロック多量 一部炭化物少量
 - 4 暗褐色土 粘土質 しまり強 酸化物多量 シルトブロック多量
 - 5 黒褐色土 粘土質 しまり強 酸化物・炭化物
- ※ 層土をつきまぜるために埋砂を混入
地震発生時に井戸の機能を停止していたと考えられる。

SE143

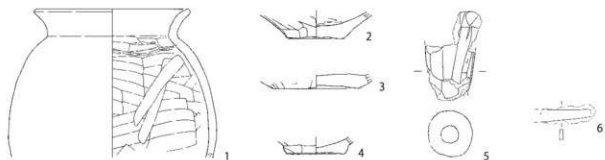
- 1 青灰色土 粘土質 しまり強 酸化物・炭化物少量
- 2 青灰色土 粘土質 しまり強 酸化物多量 1層よりオレンジ色増す
- 3 青灰色土 粘土質 しまり強 酸化物多量 2層より青灰色濃む
- 4 青灰色土 粘土質 しまり強 酸化物多量 3層より白色化濃む

SE144

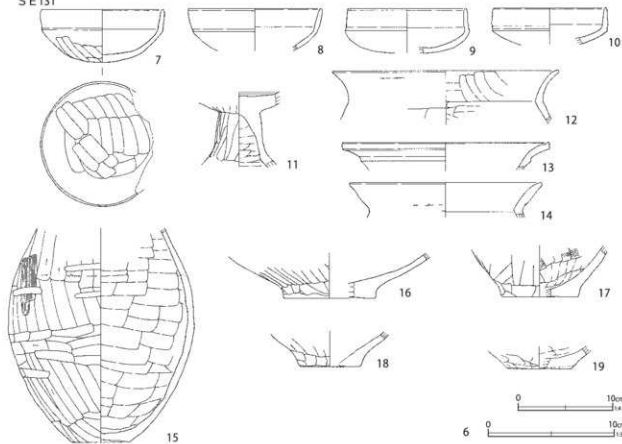
- 1 灰褐色土 粘土質 しまり強 酸化物少量
- 2 炭褐色土 粘土質 しまり強 酸化物少量 1層より粘性強

第174図 井戸跡

SE128



SE131



第175図 井戸跡出土遺物

考えられ、本井戸跡も同様の時期のものと推察される。

第143号井戸跡（第174図）

Ⅵ区西側のS-34グリッドに位置し、西側を排水溝によって壊される。古代以降の遺物を含まないことや、検出面から古墳時代の井戸跡と判断した。

平面形態は楕円形で、断面は弱い逆「ハ」の字

状を呈する。規模は長径0.66m、短径0.57mを測る。覆土は上層に炭化物が少量含まれる。遺物は出土しなかった。

遺物が出土していないため詳細な時期は不明だが、古墳時代の遺構と推察される。

第144号井戸跡（第174図）

Ⅵ区西側のS-35グリッドに位置する。古代以降の遺物を含まないことや検出面から古墳時代の

第57表 井戸跡出土遺物観察表 (第175図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	(16.0)	[15.7]	—	E H I K	25	普通	赤褐	SE14 No.3 外面全体摩耗が激しく調整は不明瞭	93-1
2	土師器	甕	—	[2.9]	5.8	C E H I K	90	普通	にぶい赤褐	SE14 No.1 外面煤付着 SE14-1と同一個体か	
3	土師器	甕	—	[1.5]	9.0	C E H I K	50	普通	灰黄褐	SE14	
4	土師器	甕	—	[1.8]	(6.0)	E H I K	25	普通	橙	SE14 内面煤付着	
5	土製品	羽口	長さ[9.4] 外径4.9×4.7 内径1.9×1.8 重さ115.4g							SE14	102-2
6	鉄製品	刀子	長さ[4.0] 幅0.8 厚さ0.3 重さ6.5g							SE14 基部	102-3
7	土師器	坏	12.8	5.7	—	B E I K	80	普通	明赤褐	SE17 No.4 内外面に摩耗、剥離	93-2
8	土師器	坏	(14.0)	[4.5]	—	C E H I K	20	普通	橙	SE17	
9	土師器	坏	(12.4)	[4.7]	—	C H I K	20	普通	橙	SE17	
10	土師器	坏	(11.8)	[3.9]	—	C H I K	10	普通	にぶい橙	SE17 内外面摩耗	
11	土師器	高坏	—	[8.0]	—	C E H I K	80	普通	にぶい褐	SE17 No.9 坏部内面赤彩	
12	土師器	甕	(23.8)	[5.7]	—	B C E H I K	10	普通	にぶい橙	SE17	
13	土師器	甕	(21.8)	[3.0]	—	C H I K	10	普通	にぶい赤褐	SE17 内面摩耗	
14	土師器	甕	(20.0)	[3.7]	—	A E H I K	5	普通	灰黄褐	SE17	
15	土師器	甕	—	[22.7]	6.0	E I K	45	普通	灰褐	SE17 内外面煤付着	93-3
16	土師器	甕	—	[4.8]	(9.6)	B H I K	35	普通	にぶい赤褐	SE17 内外面摩耗	
17	土師器	甕	—	[5.5]	(9.8)	E I K	35	普通	にぶい褐	SE17 No.6 内面煤付着	
18	土師器	甕	—	[3.7]	(6.2)	A C E H I K	20	普通	にぶい褐	SE17 内面摩耗、剥離が激しい	
19	土師器	甕	—	[2.4]	(6.6)	C E H I K	25	普通	明褐色	SE17	

井戸跡と判断した。

平面形態は楕円形で、断面は楕円形を呈する。規模は長径1.30m、短径0.78mを測る。遺物は出土しなかった。

遺物が出土していないため詳細な時期は不明だが、古墳時代の遺構と推察される。

(3) 溝跡

古墳時代の溝跡は181条確認され、第58表にまとめた。溝跡の分布は、西側調査区とⅠ区を除き、ほぼ全域で検出されている。河川跡より東側にあたり、集落域とも重複する。

畠跡である可能性がある浅いものや短い溝跡も多く含まれるが、規則性が認められないものは全て単独の溝跡として扱った。

特に、第40・41・97号溝跡は、いずれも大規模で、かつ走行方向が類似する溝跡として注目される。方形に廻る配置にはならないため、区画施設とは考え難いが、何らかの施設に伴う溝跡である可能性がある。

第40号溝跡 (第176図)

東側調査区の中央部にあたるH・I-14・15、J-15・16グリッドに位置し、調査区を縦断する大型の溝跡である。第15・17号住居跡、第58・67・158号土壇と重複し、北東の一部を中・近世の井戸跡によって壊される。

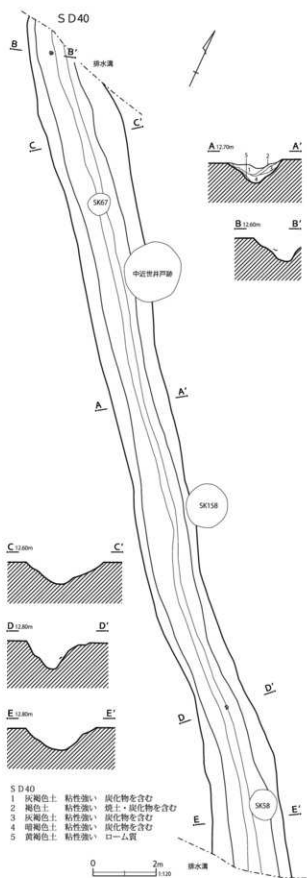
断面は葉形に掘り込まれ、規模は、残存部で長さ26.48m、幅1.49～2.46m、深さ0.66～0.74mを測り、走行方向はN-37°-Wを指す。

覆土は炭化物を含み、底面付近には砂質土が堆積していた。

遺物は土師器坏・高坏・壺・甕等が出土した(第192図1～8)。1～3は土師器の坏である。坏蓋模倣坏で、口縁部がやや内湾する。4は高坏で、脚部が広がるタイプのものか。

5は複合口縁の壺で、口縁部のみ残存する。6～8は甕である。6は小型甕か。8は口縁部中位に段を持つ。

遺物の時期は、土師器坏の形状から6世紀中葉と考えられる。



第176図 溝跡(1)

第41号溝跡(第177図)

東側調査区の中央部にあたるI・J-16グリッドに位置する。調査区を縦断する大型の溝跡である。第40号溝跡の東側に隣接するが、走行方向は異なる。第6・16号住居跡と重複し、本遺構が新しい。

断面の形状は場所によって異なり、中央部は菜研形に掘り込まれ、南側は箱形となる。規模は、長さ13.55m、幅0.98~1.61m、深さ0.37~0.98mを測り、走行方向はN-5°-Wを指す。覆土は上層には炭化物、下層には黄褐色土ブロックが含まれていた。

遺物は土師器高坏・埴形土器・甗等が出土した(第192図9~12)。9は高坏で、坏部である。11は底部のみ残存するが、器形や厚さから埴形土器と推察される。12は底部に穿孔が施されるため、小孔型の単孔式甗と考えられる。

遺物が少ないため、詳細な時期は不明だが、検出面、出土遺物の時期から古墳時代の遺構と考えられる。

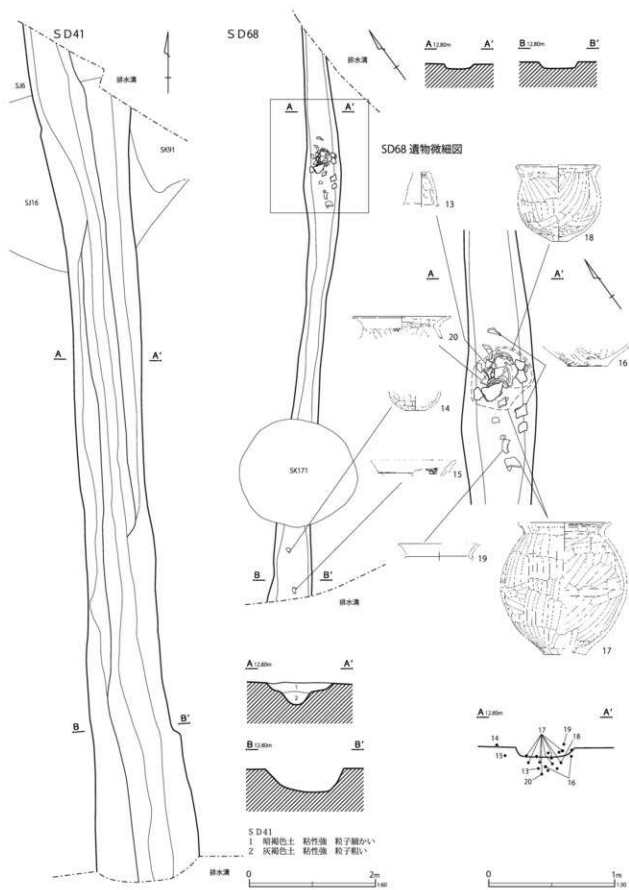
第68号溝跡(第177図)

中央調査区の南東部にあたるI・J-12グリッドに位置する。東側調査区で検出された古代の溝跡である、第39号溝跡の延長線上に位置し、幅等も同じであるが、出土遺物の時期が全く異なることから、別遺構として扱う。

断面は浅い逆台形で、規模は長さ9.05m、幅0.30~0.67m、深さ0.07~0.10mを測り、走行方向はN-39°-Eを指す。

遺物は土師器高坏・埴形土器・壺・甗等が出土した(第192図13~20)。13は高坏である。やや歪みがあるが、脚部は直線的に開く。14は埴形土器の胴部である。

15は複合口縁の壺で、内面に刷毛目調整が施される。16~20は甗である。17は球胴形で胴部がやや長くなるものである。18は小型の甗で、頸部が肉厚になる。20は頸部の屈曲が強く、口縁部が長



第177図 溝跡(2)

く伸びるもので、外面に刷毛目調整が認められる。遺物の時期は、甕の形状から5世紀中葉～後半と推察される。

ただし、遺物が局部的に集中して検出されていることや、溝跡の底面より下層から出土しているものもあることから、溝跡の下層に土壌など、別の遺構があった可能性が高い。

第97号溝跡 (第179・180図)

II区の中央から東端、L-19・20グリッドに位置し、II区中央の南端部から北東方向に横断する溝跡である。第64・69・72号住居跡と重複する。遺構の中央部からは、液状化現象に伴う噴砂の痕跡が、溝跡と同じ方向に走行する形で、2.80mに亘って検出された。

断面は薬研形で、底面から垂直に立ち上る噴砂が確認され、完全埋没後に液状化現象の影響を受けている状況が捉えられた。覆土は単層で、含有物は検出されなかった。

遺物は土師器の高坏が出土した(第193図21～23)。21は坏部、22、23は脚部で、22は中位に1孔のみ穿孔が施される。23は外面に赤彩が施される。

遺物が少ないため、詳細な時期は不明だが、噴砂に切られる点や検出面、出土遺物の時期から5世紀代の遺構と考えられる。

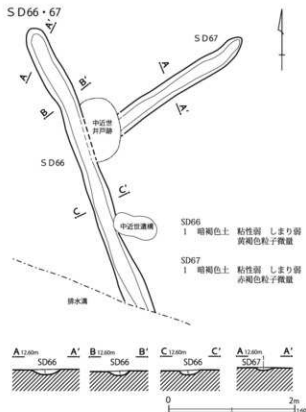
第99号溝跡 (第179・180図)

II区の南西部にあたるL-17グリッドに位置する。北西部は古代の掘立柱建物跡の柱穴によって壊される。

断面は浅い皿形で、規模は長さ2.50m、幅0.23～0.38m、深さ0.04～0.11mを測り、走行方向はN-30°-Wを指す。

遺物は土師器鉢が出土した(第193図24)。24は土師器の鉢である。口縁部内面は横方向のナデ、外面は横方向のケズリ、体部下半には縦方向のケズリが施される。

遺物が1点のみであるため、詳細な時期は不明



第178図 溝跡 (3)

だが、検出面等から古墳時代の遺構と推察される。

第123号溝跡 (第182・183図)

V区の中央やや東寄り、P-31、Q-30グリッドに位置し、調査区を縦断する細い溝跡である。第194号溝跡と重複し、遺構の中央部は、古代の溝跡によって壊される。

断面は皿形で、規模は長さ13.15m、幅0.26～0.45m、深さ0.08～0.14mを測り、走行方向はN-36°-Eを指す。

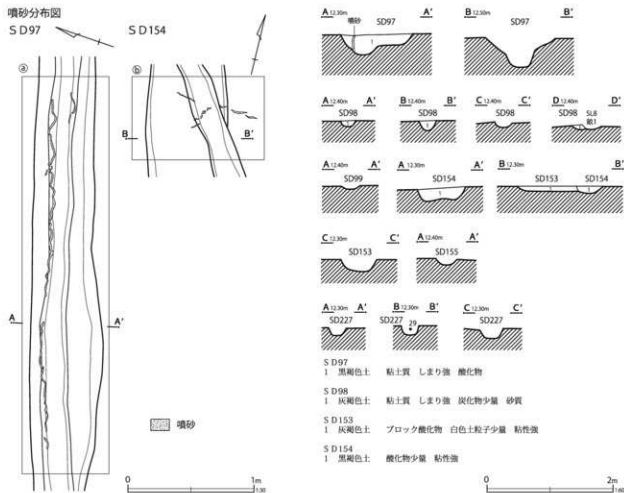
遺物は出土しなかった。

遺物が無いため時期は不明だが、検出面等から古墳時代の遺構と推察される。

第153号溝跡 (第179・180図)

III区の東端部、N・O-25グリッドに位置し、第154号溝跡と重複する。遺構の中央部から、液状化現象に伴う噴砂の痕跡が、東西方向に走行する形で検出された。

断面の形状は浅い皿形で、規模は長さ13.21m、



第180図 溝跡(5)

幅0.55~1.28m、深さ0.02~0.21mを測り、走行方向はN-1°-Wを指す。覆土は単層で白色粒子が含まれていた。

遺物は図示可能なものは無かったが、古墳時代の土師器片が出土した。

残存率の高い遺物が無いため、詳細な時期は不明だが、噴砂によって壊される点や出土遺物から古墳時代の遺構と考えられる。

第158号溝跡(第181図)

V区の北西部にあたるO・P-29グリッドに位置する。第159・160号溝跡、第242・243号土壇と重複し、第242号土壇より古い。

断面は楕形で、規模は長さ5.60m、幅0.28~0.35m、深さ0.06~0.17mを測り、走行方向はN

-3°-Eを指す。覆土には黄褐色土ブロックおよび粒子を含む。

遺物は出土しなかった。

遺物が無いため時期は不明だが、検出面等から古墳時代の遺構と推察される。

第161号溝跡(第181図)

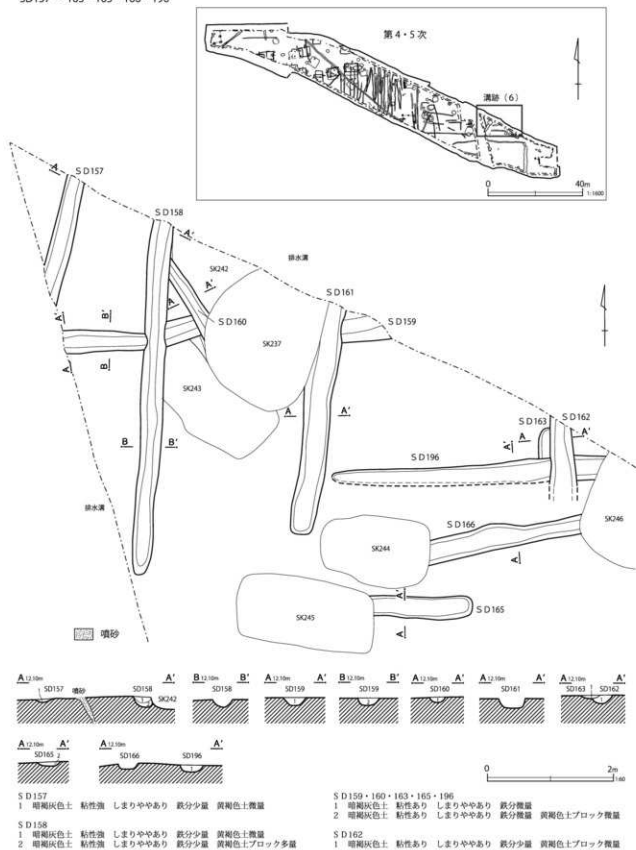
V区の北西部にあたるO・P-29グリッドに位置し、第159号溝跡、第237号土壇と重複する。

断面は箱形で、規模は長さ3.70m、幅0.40~0.45m、深さ0.09~0.13mを測り、走行方向はN-8°-Eを指す。

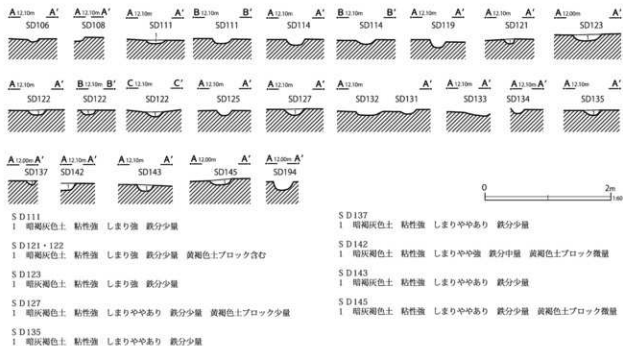
遺物は出土しなかった。

遺物が無いため時期は不明だが、検出面等から古墳時代の遺構と推察される。

SD157～163・165・166・196



第181図 溝跡(6)



第183図 溝跡(8)

第170号溝跡(第184図)

V区の西側にあたるP・Q-29、P-30グリッドに位置し、第169・189号溝跡、第250号土壇と重複する。長く細い溝で、南壁から約10mの地点で大きく北西方向に曲がる。

断面は椀形で、規模は長さ13.35m、幅0.20～0.31m、深さ0.08～0.10mを測り、走行方向は南側がN-30°-E、北側はN-36°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

遺物が無いため時期は不明だが、検出面等から古墳時代の遺構と推察される。

第221号溝跡(第188図)

IV区の南西部、P-26グリッドに位置し、大部分が調査区域外へ延びる。第222号溝跡と重複する。

断面は逆台形で、規模は長さ1.10m、幅0.52～0.67m、深さ0.11～0.14mを測り、走行方向はN-30°-Eを指す。

遺物は土師器の坏が出土した(第193図30)。30は坏である。坏蓋模倣坏で下半は欠損する。

遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、坏の形状や検出面から、古墳時代以降の遺構と考えら

れる。

第224号溝跡(第188図)

IV区の南部、P-27グリッドに位置し、第222号溝跡と重複する。

断面は椀形で、規模は長さ3.15m、幅0.29～0.32m、深さ0.16～0.18mを測り、走行方向はN-14°-Eを指す。

遺物は土師器の埴形土器が出土した(第193図31)。31は埴形土器の口縁部である。内外面に赤彩が施される。

遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、埴形土器が出土したことや検出面から、古墳時代の遺構と考えられる。

第227号溝跡(第179・180図)

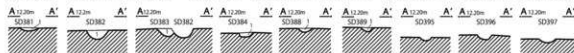
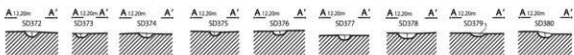
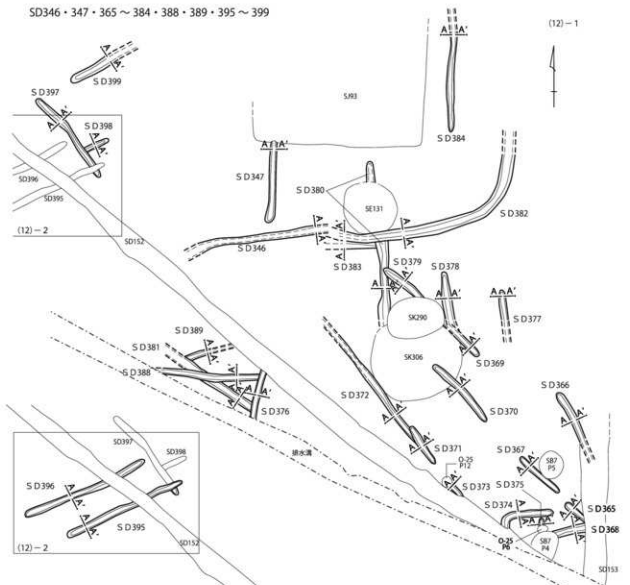
IV区の中央部O-26・27グリッドに位置し、第225号溝跡、第277号土壇と重複する。

断面は浅い椀形で、規模は長さ13.67m、幅0.27～0.40m、深さ0.12～0.18mを測り、走行方向はN-86°-Wを指す。

遺物は土師器坏・高坏が出土した(第193図32、33)。32は扁平な坏で、口縁部が垂直に立ち上がる。

SD346・347・365～384・388・389・395～399

(12)-1



SD346・347・365～381

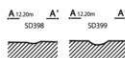
I 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物少量

SD382～384

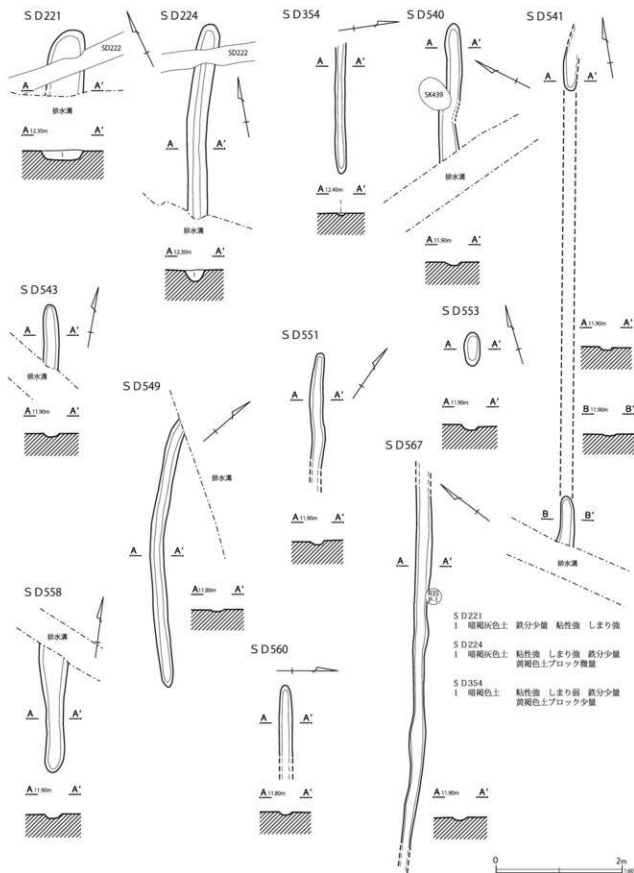
I 暗褐色土 粘性強 しまる 黄褐色土ブロック微量 鉄分少量

SD388・389

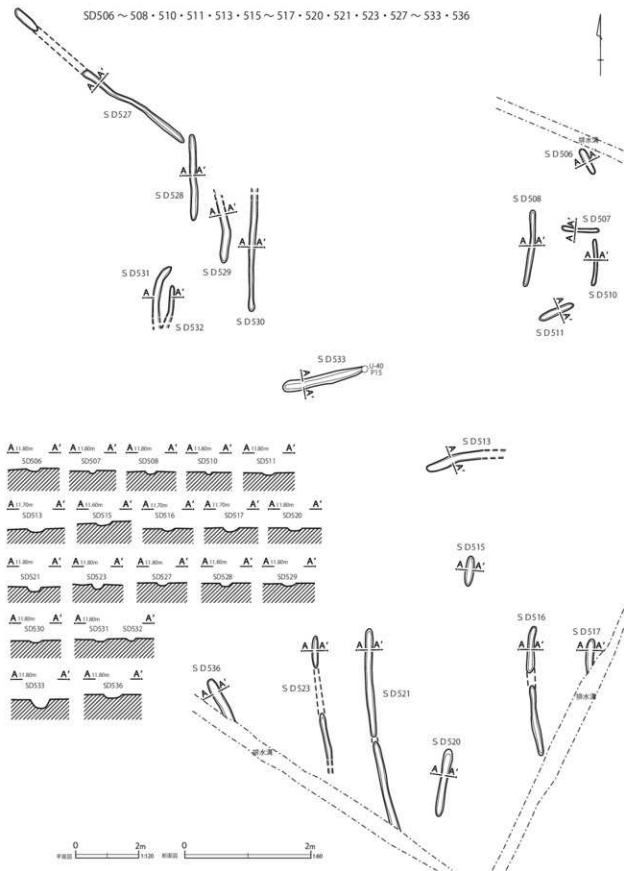
I 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物少量



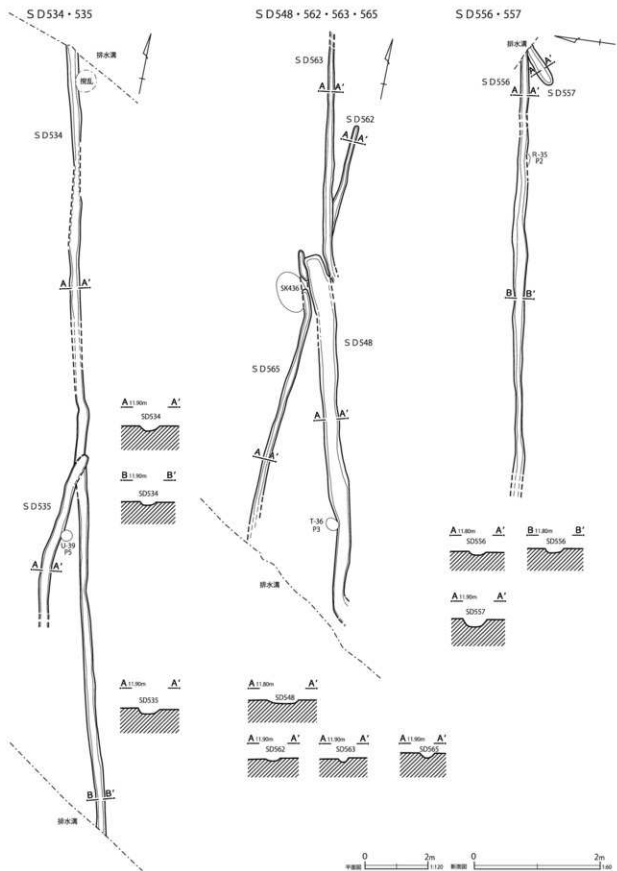
第187図 溝跡 (12)



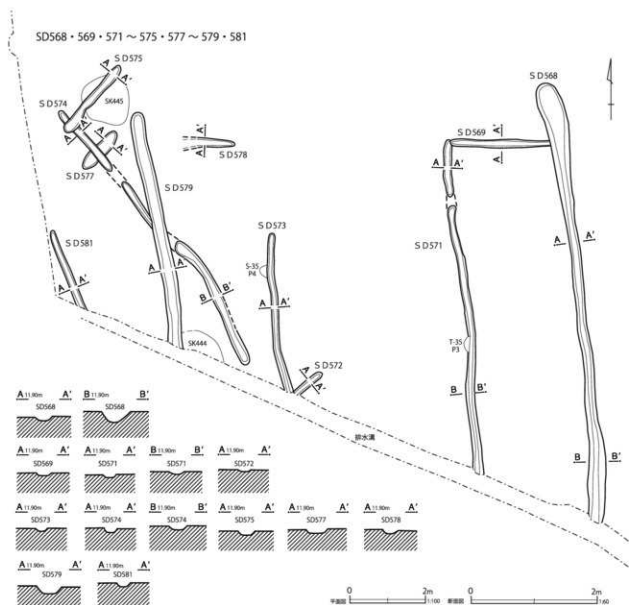
第188図 溝跡 (13)



第189図 溝跡 (14)



第190図 溝跡 (15)



第191図 溝跡 (16)

33は高坏の脚部である。

遺物が少ないため、詳細な時期は不明だが、検出面等から古墳時代の遺構と推察される。

第296号溝跡 (第185図)

IV区の中央部、O・P-27グリッドに位置し、第130号井戸跡、第297・298号溝跡、第304号土壇と重複する。

断面は皿形で、規模は長さ10.43m、幅0.22～0.38m、深さ0.05～0.07mを測り、走行方向はN-30°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

遺物が無いため時期は不明だが、検出面等から古墳時代の遺構と推察される。

第297号溝跡 (第185図)

IV区の中央部、N・O-27グリッドに位置し、第296・303・306・307号溝跡、第304号土壇と重複する。

断面は皿形で、規模は長さ9.19m、幅0.22～0.29m、深さ0.06～0.08mを測り、走行方向はN-28°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

遺物が無いため時期は不明だが、検出面等から

第58表 溝跡一覧表 (第176～191図)

No	グリッド	方位	方位	長さ (m)	幅 (m)		深さ (m)		重複遺構
					最大	最少	最大	最少	
40	H・I・14・15 J・15・16	N-37° -W		[26.48]	2.46	1.49	0.74	0.66	SK38・67・138
41	I・J-16	N-5° -W		[13.55]	1.61	0.98	0.98	0.37	SJ6・16 SK91
66	I-11・12	N-23° -W		[4.77]	0.40	0.26	0.11	0.02	SD67
67	I-12	N-56° -E		[2.30]	0.32	0.28	0.05	0.03	SD66
68	I・J-12	N-39° -E		[9.05]	0.67	0.30	0.10	0.07	SK171
97	L-19・20	N-80° -E		[19.90]	1.15	0.68	0.46	0.30	SD98
98	K・L・M-20・M-21	N-25° -W		[19.02]	0.30	0.05	0.14	0.05	SD97 SL8級1
99	L-17	N-36° -W		[2.50]	0.38	0.23	0.11	0.04	SB6P4
100	欠番								SL15級15に変更
101	欠番								SL15級13に変更
102	欠番								SL15級12に変更
103	欠番								SL15級11に変更
104	欠番								SL15級10に変更
105	欠番								SL15級12と同一
106	Q-31	N-40° -E	N-55° -E	[2.95]	0.20	0.17	0.05	0.04	
107	欠番								SL15級10と同一
108	Q-31	N-76° -E		[0.35]	[0.17]	-	0.06	-	
109	欠番								SL15級9に変更
110	欠番								SD106と同一
111	Q-31	N-6° -W		[8.27]	0.35	0.25	0.09	0.05	SK226
112	欠番								SL15級8に変更
113	欠番								SL15級7に変更
114	P・Q・R-31	N-5° -W		[11.62]	0.37	0.25	0.09	0.03	SD122・143
115	欠番								SL15級6に変更
116	欠番								SL15級5に変更
117	欠番								SL15級3に変更
118	欠番								SL15級2に変更
119	Q-30	N-76° -W		[0.96]	0.25	0.19	0.10	0.08	SD96
120	欠番								SL15級1に変更
121	Q-30	N-14° -E		[0.40]	0.16	-	0.05	-	
122	Q-30・31	N-55° -E		[12.01]	0.28	0.10	0.08	0.06	SD96・114 SK226
123	P-31・Q-30	N-36° -E		[13.15]	0.45	0.26	0.14	0.08	SD96・194
124	欠番								SL15級4に変更
125	Q-30	N-45° -W		0.79	0.23	-	0.07	-	
126	欠番								SD151と同一
127	P-30	N-57° -W		[1.72]	0.32	0.29	0.10	-	SK224
128	欠番								SL15級16に変更
129	欠番								SL15級15に変更
130	欠番								SL15級14に変更
131	Q-31	N-6° -W		[0.55]	0.25	0.19	0.03	-	
132	Q-31	N-0°		[0.58]	0.43	-	0.06	-	
133	P-31	N-42° -W		[0.57]	0.40	-	0.04	-	SD134
134	P-31	N-75° -E		[0.52]	0.21	-	0.05	-	SD133
135	P・Q-31	N-7° -W		[1.86]	0.35	0.27	0.08	0.07	
136	欠番								SD111と同一
137	P-31	N-60° -W		[0.87]	0.15	-	0.06	0.04	
138	欠番								SD122と同一
139	欠番								SL15級10と同一
140	欠番								SD114と同一
141	欠番								SL15級6と同一
142	Q-30	N-5° -E		1.04	[0.25]	-	0.10	-	SD96

宮東遺跡

No	グリッド	方位	方位	長さ (m)	幅 (m)		深さ (m)		重複遺構	
					最大	最少	最大	最少		
143	Q-30・31	N-55°	-E	[3.25]	0.28	0.11	0.09	0.07	SD96・114	
144	欠番								SL1506.13と同一	
145	Q-31	N-0°		0.94	0.36	0.28	0.09	-		
146	欠番								SL1506.17に変更	
153	N・O-25	N-1°	-W	[13.21]	1.28	0.55	0.21	0.02	SD154より古	
154	M・N・O-25	N-0°	N-20° -W	[13.90]	0.80	0.30	0.22	0.05	SD153より新	
155	M・N-24	N-0°		[9.57]	0.39	0.24	0.08	0.04		
156	欠番								SL1506.16に変更	
157	O-28・29	N-14°	-E	[2.05]	0.34	0.29	0.07	0.04		
158	O・P-29	N-3°	-E	[5.60]	0.35	0.28	0.17	0.06	SD159・160 SK242・243	
159	O-28・29	N-85°	-E	[4.95]	[0.50]	0.28	0.15	0.09	SD158・160・161 SK237・242・243	
160	O-29	N-16°	-E	[1.40]	0.25	0.21	0.04	0.03	SD158・159 SK237・242	
161	O・P-29	N-8°	-E	[3.70]	0.45	0.40	0.13	0.09	SD159 SK237	
162	P-29	N-0°		[1.15]	0.44	0.33	0.13	0.10	SD163・196	
163	P-29	N-0°		[0.48]	[0.17]	-	0.05	-	SD162・196	
164	欠番								SL1406.14に変更	
165	P-29	N-90°		[1.40]	0.36	0.32	0.06	0.03	SK245	
166	P-29	N-80°	-E	[2.25]	0.42	0.27	0.09	0.03	SK244・246	
167	欠番								SL1406.17に変更	
168	欠番								SL1406.16に変更	
169	Q-29	N-27°	-E	[1.75]	[0.20]	-	0.04	0.02	SD170・189	
170	P・Q-29 P-30	N-30°	-E	N-36° -W	[13.35]	0.31	0.20	0.10	0.08	SD169・189 SK250
171	P-30	N-40°	-E	[1.20]	0.26	0.22	0.05	0.04		
172	P-30	N-70°	-W	[0.52]	0.30	-	0.04	-		
173	P-30	N-60°	-W	[0.57]	0.35	-	0.06	-		
174	P-30	N-55°	-W	2.01	0.30	0.24	0.06	0.04		
175	欠番								SL1406.13に変更	
176	欠番								SL1406.12に変更	
177	欠番								SL1406.10に変更	
178	欠番								SL1406.9に変更	
179	欠番								SL1406.9と同一	
180	欠番								SL1406.8に変更	
181	P・Q-29	N-27°	-E	2.65	0.33	0.26	0.08	0.07		
182	欠番								SL1406.7に変更	
183	欠番								SL1406.5に変更	
184	欠番								SL1406.6に変更	
185	欠番								SL1406.6と同一	
186	欠番								SL1406.4に変更	
187	Q-29	N-25°	-E	[1.85]	0.20	0.16	0.10	0.04	SD189	
188	欠番								SL1406.3に変更	
189	Q-29	N-90°	-W	N-80° -W	[6.45]	0.29	0.20	0.06	0.05	SD169・170・187
190	欠番								SD189と同一	
191	欠番								SL1406.2に変更	
192	欠番								SL1406.1に変更	
193	Q-29	N-30°	-E	(0.77)	0.22	0.18	0.06	-		
194	Q-30	N-41°	-E	[3.20]	0.33	0.30	0.17	0.16	SD123	
195	欠番								SD123と同一	
196	P-29	N-85°	-E	[4.32]	0.43	0.37	0.07	0.05	SD162・163 SK246	
197	欠番								SL1406.11に変更	
198	欠番									
203	欠番								SL1406.15に変更	

No	グリッド	方位	方位	長さ (m)	幅 (m)		深さ (m)		重複遺構
					最大	最少	最大	最少	
221	P-26	N-30° -E		[1.10]	0.67	0.52	0.14	0.11	SD222
224	P-27	N-14° -E		[3.15]	0.32	0.29	0.18	0.16	SD222
227	0-26・27	N-86° -W		[13.67]	0.40	0.27	0.18	0.12	SD225・SK277
261	0-26・27	N-50° -E		[3.73]	0.35	0.25	0.07	0.05	SD305
262	欠番								SL12畝13に変更
263	欠番								SL12畝12に変更
264	欠番								SL12畝11に変更
265	欠番								SL12畝10に変更
266	欠番								SL12畝9に変更
267	欠番								SL12畝7に変更
268	欠番								SL12畝6に変更
269	P-28	N-90°		[4.12]	0.30	0.25	0.06	0.04	SD270
271	0-27・28	N-83° -E	N-40° -W	[4.40]	0.38	0.21	0.15	0.07	
272	欠番								SL12畝8に変更
273	欠番								SL11畝2に変更
274	欠番								SL12畝5に変更
275	欠番								SL11畝3に変更
276	欠番								SL12畝4に変更
277	欠番								SL11畝4に変更
278	欠番								SL12畝3に変更
279	P-27	N-65° -W		[1.35]	0.26	-	0.07	-	
280	欠番								SL12畝1に変更
281	欠番								SL11畝5に変更
282	欠番								SL12畝2に変更
283	欠番								SL10畝7に変更
284	欠番								SL10畝6に変更
285	欠番								SL11畝1に変更
286	P-27	N-13° -E		1.20	0.30	0.25	0.09	-	
287	欠番								SL10畝5に変更
288	欠番								SL10畝4に変更
289	欠番								SL10畝3に変更
290	欠番								SL13畝6に変更
291	欠番								SL13畝5に変更
292	欠番								SL13畝3に変更
293	欠番								SL13畝4に変更
294	欠番								SL13畝2に変更
295	欠番								SL10畝2に変更
296	0・P-27	N-30° -E		10.43	0.38	0.22	0.07	0.05	SE130 SD297・298 SK304
297	N・0-27	N-28° -W		[9.19]	0.29	0.22	0.08	0.06	SD296・303・306・307
298	0-27	N-36° -W	N-20° -W	6.35	0.57	0.22	0.11	0.05	SD296
299	欠番								SL10畝1に変更
300	P-27	N-50° -E		[0.31]	0.15		0.08		SD301
301	0・P-27	N-24° -E		6.80	0.30	0.23	0.06	0.05	SD300 P27GP1
302	欠番								SD225と同一
303	0-27	N-80° -W		[6.75]	0.30	0.17	0.06	0.04	SD297
304	欠番								SL12畝14に変更
305	0-26	N-3° -E		[2.62]	0.26	0.21	0.14	0.12	SK305
306	N・0-27	N-58° -E		[2.75]	0.34	0.24	0.12	0.10	SD297
307	N-27	N-22° -E		[1.13]	0.27	0.22	0.15	0.14	SD297
308	欠番								SD322と同一
309	P-26	N-49° -E		[0.62]	0.35	-	0.04	-	SD222
310	N-26	N-58° -W		[2.04]	0.39	0.29	0.08	0.05	SD322

宮東遺跡

No	グリッド	方位	方位	長さ (m)	幅 (m)		深さ (m)		重複遺構
					最大	最少	最大	最少	
311	N-26	N-60°	-E	2.76	0.32	0.19	0.13	0.08	
312	0-26	N-82°	-W	[1.65]	(0.32)	-	0.06	0.04	
313	N・0-26	N-55°	-E	[8.07]	0.38	0.21	0.11	0.05	SD211
314	N-26	N-49°	-E	[1.53]	0.26	0.21	0.11	0.07	
315	N-26	N-45°	-E	[1.53]	0.30	0.21	0.10	0.05	SK261
316	N-26	N-22°	-E	3.10	0.35	0.30	0.07	0.06	
317	N-26	N-39°	-E	2.51	0.34	0.22	0.13	0.11	
318	N-25・26	N-47°	-E	[2.15]	0.30	0.23	0.11	0.09	
319	N-26	N-0°		[1.49]	0.41	0.34	0.12	0.07	SE129・SD320
320	N-25・26	N-86°	-E	[1.45]	0.30	0.25	0.12	8.00	SE129・SD319
321	0・P-26	N-23°	E	[7.20]	0.45	0.19	0.11	0.09	SD220・328・335・361 SK268
322	0・P-26	N-27°	-E	[13.40]	0.40	0.19	0.10	0.07	SD212・310・328・335・338 SK258
323	0-26	N-11°	-E	(2.67)	0.26	0.21	0.07	0.05	SK310
324	0-26	N-33°	-E	[1.65]	0.27	0.23	0.06	0.05	SK326
325	0-26	N-54°	-E	4.29	0.38	0.22	0.06	0.04	
326	0-25・26	N-55°	-E	[10.35]	0.34	0.15	0.09	0.02	SD364 SK258
327	欠番								SD361と同一
328	0・P-26	N-11°	-E	[6.03]	0.38	0.22	0.09	0.06	SD321・322・329・334・335・ 338
329	0・P-26	N-42°	-E	[4.00]	0.38	0.26	0.09	0.05	SD220・328・335・361 SK271
330	0・P-26	N-10°	-E	[2.31]	0.28	0.21	0.08	0.07	SK305
331	P-26	N-49°	-E	[2.53]	0.30	0.22	0.08	0.06	SD333・362
332	P-26	N-2°	-E	1.74	0.39	0.31	0.09	0.06	
333	P-26	N-40°	-W	[2.45]	0.23	0.18	0.07	0.05	SD222・331・334・362
334	P-26	N-12°	-E	[2.30]	0.31	0.22	0.10	0.07	SD328・333
335	0-26	N-90°		[5.63]	0.36	0.25	0.11	0.05	SD219・321・322・328・329・ 336・361 SK305
336	0・P-26	N-8°	-W	[1.53]	0.30	0.26	0.09	0.06	SD335
337	欠番								SD322と同一
338	P-26	N-65°	-W	[5.89]	0.34	0.20	0.08	0.07	SD212・222・322・328・362
339	P-28	N-83°	-E	[3.20]	[0.23]	-	0.05	0.04	SD230
340	0-28	N-90°		[1.07]	[0.35]	-	0.05	-	SD237・SK307
341	N-26	N-2°	-W	[0.68]	0.43	0.34	0.12	0.10	
342	欠番								
343	欠番								
344	欠番								
345	欠番								
346	N-24	N-82°	-E	[3.95]	0.35	0.20	0.07	-	
347	N-24	N-2°	-E	[2.65]	0.29	0.21	0.09	-	SJ93
349	欠番								
350	欠番								
351	欠番								SL8畝7に変更
352	欠番								SL8畝6に変更
353	欠番								SL8畝5に変更
354	N-21・22	N-82°	-W	[2.09]	0.17	0.15	0.05	0.04	
355	欠番								SL8畝4に変更
356	欠番								SL8畝3に変更
357	欠番								SL8畝2に変更
358	欠番								SL8畝1に変更
359	欠番								SD98と同一
360	欠番								
361	0・P-26	N-6°	-W	(4.27)	0.33	0.21	0.09	0.06	SD219・220・321・329・335

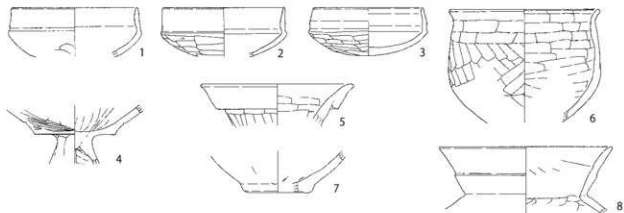
No	グリッド	方位	方位	長さ (m)	幅 (m)		深さ (m)		重複遺構
					最大	最少	最大	最少	
362	P-26	N-84°	-W	[2.35]	0.29	0.24	0.06	0.04	SD331・333・338
363	0-25	N-30°	-E	[1.02]	0.23	0.17	0.15	0.04	
364	0-25	N-56°	-W	[2.19]	0.23	0.15	0.08	0.07	SD153・326
365	0-25	N-50°	-W	[0.83]	0.23	0.16	0.07	0.05	SD153
366	0-25	N-30°	-W	[1.71]	0.27	0.21	0.08	0.02	SD153
367	0-25	N-49°	-W	1.66	0.20	0.18	0.06	0.03	SB7P5
368	0-25	N-77°	-E	[1.11]	0.29	0.24	0.12	0.05	SD153 SB7P4
369	0-25	N-43°	-W	[1.07]	0.23	0.21	0.05	0.04	SD378 SK290・306
370	0-25	N-44°	-W	2.46	0.25	0.21	0.06	-	SK306
371	0-25	N-33°	-W	1.41	0.26	0.19	0.05	0.03	SD372
372	0-24・25	N-38°	-W	[4.30]	0.26	0.17	0.11	0.07	SD371 SK306
373	0-25	N-48°	-W	[0.52]	0.19	0.16	0.06	0.02	SD152 025GP12
374	0-25	N-5°	-E	[1.86]	0.26	0.20	0.07	0.05	SD152
375	0-25	N-7°	-W	[0.22]	0.16	0.13	0.05	0.08	025GP6
376	0-24	N-14°	-E	[1.54]	0.21	0.20	0.05	0.03	SD152・381・388
377	N・0-25	N-8°	-W	[0.97]	0.24	0.21	0.06	0.05	
378	N・0-25	N-8°	-W	[1.57]	0.31	0.20	0.08	0.06	SD369
379	N・0-25	N-52°	-W	[1.53]	0.28	0.21	0.05	0.04	SD380 SK290
380	N・0-25	N-7°	-W	[5.16]	0.43	0.24	0.06	0.03	SE131 SD379・382・383 SK306
381	0-24	N-56°	-W	[2.75]	0.34	0.27	0.07	0.03	SD376・388・389
382	N-24・25	N-9°	-E	[6.79]	0.41	0.30	0.11	0.06	SE131 SD380・383より新
383	N-24・25	N-89°	-E	[1.15]	[0.26]	[0.15]	0.12	0.01	SD380・382より古
384	N-25	N-1°	-E	[3.26]	0.25	0.17	0.05	0.03	
385	欠番								
386	欠番								
387	欠番								SL130A1に変更
388	0-24	N-86°	-W	[3.16]	0.26	0.18	0.09	0.05	SD376・381
389	0-24	N-75°	-E	[0.89]	0.21	0.14	0.05	-	SD381
390	欠番								SL90A5に変更
391	欠番								SL90A4に変更
392	欠番								SL90A3に変更
393	欠番								SL90A2に変更
394	欠番								SL90A1に変更
395	N-23・24	N-65°	-E	4.03	0.23	0.17	0.06	0.04	SD152・397
396	N-23・24	N-65°	-E	4.19	0.26	0.18	0.06	0.04	SD152
397	N-23・24	N-48°	-W	3.21	0.36	0.15	0.05	0.02	SD395・398
398	N-24	N-65°	-E	[0.83]	0.17	0.15	0.04	0.01	SD397
399	N-24	N-60°	-E	[1.28]	0.30	0.28	0.04	0.02	
506	U-40	N-25°	-W	0.88	0.23	0.17	0.05	-	
507	U-40	N-85°	-W	1.18	0.15	0.10	0.05	-	
508	U-40	N-6°	-E	2.43	0.18	0.15	0.03	-	
509	欠番								U40GP22に変更
510	U-40	N-0°		1.47	0.13	0.60	0.03	-	
511	U-40	N-66°	-E	1.15	0.25	0.20	0.04	-	
512	欠番								
513	U・V-40	N-75°	-E	[1.85]	0.30	0.25	0.03	-	
514	欠番								
515	V-40	N-6°	-E	0.95	0.25	-	0.05	-	
516	V-40	N-5°	-E	(4.14)	0.25	0.15	0.04	-	
517	V-40	N-0°		1.09	0.24	-	0.04	-	
518	欠番								SD516と同一
519	欠番								

宮東遺跡

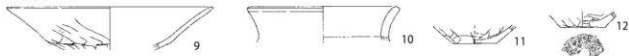
No	グリッド	方位	方位	長さ (m)	幅 (m)		深さ (m)		重複遺構
					最大	最少	最大	最少	
520	V・W-40	N-8° -E		2.15	0.29	0.23	0.04	-	
521	V・W-40	N-4° -W	N-15° -W	[6.50]	0.26	0.21	0.06	0.03	
522	欠番								SD521と同一
523	V-39	N-0°	N-9° -W	[3.93]	0.19	0.15	0.06	-	SD523と同一
524	欠番								
525	欠番								
526	欠番								
527	T-38・39	N-50° -W		(6.76)	0.28	0.15	0.04	-	
528	T・U-39	N-0°		2.73	0.21	0.19	0.04	0.03	
529	U-39	N-13° -W	N-6° -E	[1.84]	0.25	0.23	0.02	-	
530	U-39	N-0°		[3.50]	0.20	0.13	0.04	0.03	
531	U-39	N-40° -E	N-0°	[1.70]	0.23	0.21	0.03	0.02	
532	U-39	N-5° -E		[0.98]	0.17	0.15	0.04	-	
533	U-39・40	N-79° -E		[2.57]	0.35	0.20	0.12	0.09	U40GP15
534	T・U-38 U・V-39	N-14° -W		[25.37]	0.37	0.18	0.09	0.05	SD535
535	U-39	N-10° -E	N-7° -W	[5.19]	0.36	0.29	0.08	0.05	SD534 U39GP5
536	V-39	N-30° -W		[1.57]	0.31	0.29	0.03	-	
537	欠番								SL16線9に変更
538	欠番								SL16線10に変更
539	欠番								SL16線11に変更
540	U-38	N-63° -E		[2.19]	0.30	0.21	0.04	0.02	SK439
541	U-38	N-11° -E		[7.85]	0.19	-	0.06	-	
542	欠番								SL16線8に変更
543	U-37	N-12° -W		[1.08]	0.25	0.23	0.05	0.04	
544	欠番								SL16線6に変更
545	欠番								SL16線5に変更
546	欠番								SL16線4に変更
547	欠番								SL16線3に変更
548	S・T・U-36	N-14° -W		[11.72]	0.70	0.45	0.10	0.08	SD563・565 T36GP3
549	S・T-38	N-37° -W	N-54° -W	[4.27]	0.22	0.20	0.05	0.03	
550	欠番								SD527と同一
551	U-37・38	N-33° -W		[1.82]	0.21	0.16	0.06	0.04	SL16線9
552	欠番								SL16線7に変更
553	U-37	N-13° -E		0.53	0.25	0.21	0.07	0.04	
554	欠番								SL16線6と同一
555	欠番								
556	R-34-36	N-82° -E		[13.62]	0.45	0.20	0.09	0.04	SD557 R35GP2
557	R-36	N-50° -E		[1.40]	0.37	0.27	0.09	0.04	SD556
558	R-36	N-9° -W		[2.02]	0.45	0.27	0.08	0.05	
559	欠番								SL16線3と同一
560	S-36	N-90° -E		[1.14]	0.21	0.17	0.05	0.03	
561	欠番								SL16線2に変更
562	S-36	N-3° -E		[3.72]	0.25	0.16	0.06	0.05	SD563
563	S-36	N-12° -W		[7.44]	0.29	0.19	0.06	0.04	SD548・562
564	欠番								SD565と同一
565	S・T-36	N-2° -E	N-20° -W	[9.16]	0.24	0.16	0.10	0.04	SD548 SK436
566	欠番								SL16線11に変更
567	R-34・35	N-54° -E		[5.75]	0.27	0.18	0.04	0.02	R35GP1
568	S・T-35	N-7° -W		[11.87]	0.47	0.23	0.15	0.04	SD569
569	S-35	N-90°		[2.59]	0.23	0.14	0.04	0.02	SD568・571
570	欠番								SD571と同一
571	S・T-35	N-6° -W		[9.04]	0.27	0.17	0.09	0.03	SD569 T35GP3

No.	グリッド	方位	方位	長さ (m)	幅 (m)		深さ (m)		重複遺構
					最大	最少	最大	最少	
572	T-35	N-51° -E		[0.93]	0.20	0.18	0.03	0.02	SD573
573	S・T-35	N-6° -W		[4.31]	0.21	0.17	0.06	0.04	SD572 S350P4
574	S・T-34 T-35	N-27° -W	N-40° -W	(8.52)	0.28	0.17	0.06	0.03	SD575・577・579
575	S-34	N-40° -E		2.27	0.31	0.20	0.11	0.04	SD574 SK445
576	欠番								SD574と同一
577	S-34	N-43° -E		1.32	0.37	0.28	0.05	0.04	SD574
578	S-34	N-90°		[1.02]	0.25	0.16	0.05	0.04	
579	S・T-34	N-11° -W		[6.48]	0.41	0.36	0.15	0.09	SD574 SK444
580	欠番								SD574と同一
581	S-34	N-22° -W		[2.34]	0.21	0.16	0.06	0.05	

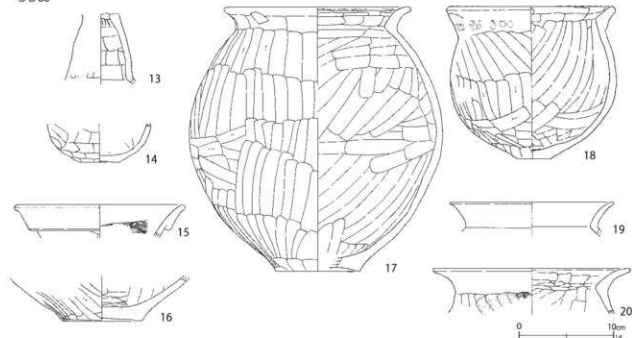
SD40



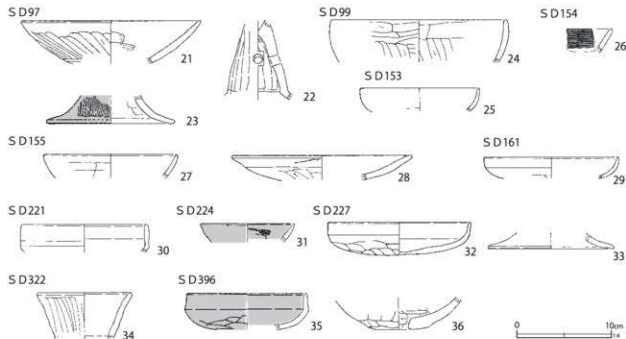
SD41



SD68



第192図 溝跡出土物(1)



第193図 溝跡出土遺物(2)

古墳時代の遺構と推察される。

第313号溝跡 (第186図)

IV区の西側、N・O-26グリッドに位置する。西端部は古代の溝跡によって壊される。

断面は楕形で、規模は長さ8.07m、幅0.21～0.38m、深さ0.05～0.11mを測り、走行方向はN-55°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

遺物が無いため時期は不明だが、検出面等から古墳時代の遺構と推察される。

第326号溝跡 (第186図)

IV区の中央部、O-25・26グリッドに位置し、第364号溝跡、第258号土壌と重複する。

断面は楕形で、規模は長さ10.35m、幅0.15～0.34m、深さ0.02～0.09mを測り、走行方向はN-55°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

遺物が無いため時期は不明だが、検出面等から古墳時代の遺構と推察される。

第396号溝跡 (第187図)

IV区の西側、N-23・24グリッドに位置し、第

152号溝跡と重複する。

断面は皿形で、規模は長さ4.19m、幅0.18～0.26m、深さ0.04～0.06mを測り、走行方向は南側がN-65°-Eを指す。

遺物は土師器の坏・甎が出土した。(第193図35、36)。35は坏である。坏蓋模倣坏で、内外面に赤彩が施される。36は甎で、単孔式で大型の甎になると推察される。

遺物が少ないため時期は不明だが、土師器坏の形状や、検出面等から古墳時代の遺構と推察される。

第568号溝跡 (第191図)

IV区の西寄り、S・T-35グリッドに位置し、第569号溝跡と重複する。

断面は楕形で、規模は長さ11.87m、幅0.23～0.47m、深さ0.04～0.15mを測り、走行方向はN-7°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

遺物が無いため時期は不明だが、検出面等から古墳時代の遺構と推察される。

第59表 溝跡出土遺物観察表 (第192・193図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(13.2)	[5.2]	—	C E H I K	20	普通	橙	SD40 外面全体煤付着	
2	土師器	坏	(12.7)	[5.2]	—	E I K	30	普通	明赤褐	SD40	
3	土師器	坏	(11.6)	5.1	—	C E H I K	50	普通	橙	SD40 №3	93-4
4	土師器	高坏	—	[6.2]	—	H I K	25	普通	にぶい赤褐	SD40 外面刃物痕有り	
5	土師器	壺	(15.8)	[4.4]	—	E H I K	20	普通	にぶい橙	SD40	
6	土師器	甕	(15.6)	[12.0]	—	E I K	35	普通	にぶい赤褐	SD40 113№2 外面全体煤付着	93-5
7	土師器	甕	—	[4.4]	(6.0)	E I K	30	普通	にぶい赤褐	SD40 内外面摩耗	
8	土師器	甕	18.1	[7.2]	—	E H I K	50	普通	橙	SD40 №1 一部剥離が激しい	93-6
9	土師器	高坏	(21.6)	[4.5]	—	E H I K	10	普通	橙	SD41	
10	土師器	甕	(15.2)	[3.8]	—	E H I K	15	普通	灰褐	SD41 外面煤付着	
11	土師器	増形土器	—	[2.0]	(4.6)	C E H I K	25	普通	にぶい橙	SD41 外面黒炭有り	
12	土師器	甌か	—	[1.7]	(4.8)	E H I K	25	普通	にぶい橙	SD41 単孔(小孔) 外面黒炭有り	
13	土師器	高坏	—	[7.6]	—	B C E H I K	90	普通	にぶい橙	SD13 №8 外面摩耗が激しい	
14	土師器	増形土器	—	[4.1]	(4.2)	E I K	30	普通	灰白	SD13 №18 内外面摩耗	
15	土師器	甕	(17.2)	[3.5]	—	C E H I K	15	普通	にぶい橙	SD13 №1	
16	土師器	甕	—	[4.8]	8.2	C E H I K	70	普通	橙	SD13 №11・13	
17	土師器	甕	19.2	28.0	8.8	E I K	65	普通	にぶい赤褐	SD13 №2~7・9・10・17・19	93-7
18	土師器	甕	17.1	16.1	3.5	C E I K	75	普通	にぶい赤褐	SD13 №7 内面胴部上半煤付着	93-8
19	土師器	甕	(17.0)	[3.6]	—	C E H I K	25	普通	褐灰	SD13 №15	
20	土師器	甕	(20.5)	[4.9]	—	E I K	15	普通	明赤褐	SD13 №19 内面黒炭有り	
21	土師器	高坏	(18.8)	[5.5]	—	E H I K	20	普通	橙	SD29	
22	土師器	高坏	—	[8.3]	—	E I K	90	普通	にぶい褐	SD29 №2 脚部穿孔(単孔)	
23	土師器	高坏	—	[3.0]	(12.6)	E I K	10	普通	にぶい赤褐	SD29 外面赤彩	
24	土師器	鉢か	(18.4)	[4.5]	—	B E H I K	10	普通	橙	SD31	
25	土師器	坏	(12.4)	[2.5]	—	C H I K	15	普通	橙	SD85	
26	ロクロ土師器	坏	—	[2.5]	—	H I K	5	普通	灰白	SD86 内黒	
27	土師器	坏	(14.0)	[2.5]	—	B C E H I K	10	普通	橙	SD87 歪み有り	
28	土師器	皿	(18.5)	[2.6]	—	B C H I K	5	普通	橙	SD87	
29	土師器	坏	(14.0)	[2.2]	—	C E H K	10	普通	橙	SD93	
30	土師器	坏	(13.0)	[3.0]	—	C H I K	5	普通	橙	SD153	
31	土師器	増形土器	(9.8)	[2.0]	—	C E H I K	10	普通	明赤褐	SD156 内外面赤彩	
32	土師器	坏	14.9	3.5	—	C E I K	65	普通	にぶい橙	SD159	93-9
33	土師器	高坏	—	[1.7]	(13.2)	C E H I K	10	普通	橙	SD159	
34	土師器	壺	(9.7)	[4.9]	—	C H I K	15	普通	浅黄橙	SD240	
35	土師器	坏	(12.5)	[3.9]	—	C E H I K	20	普通	にぶい黄橙	SD325 内外面赤彩	
36	土師器	甌	—	[3.4]	(6.2)	E I K	20	普通	明赤褐	SD325 単孔(小孔) 内外面黒炭有り	

(4) 畠跡

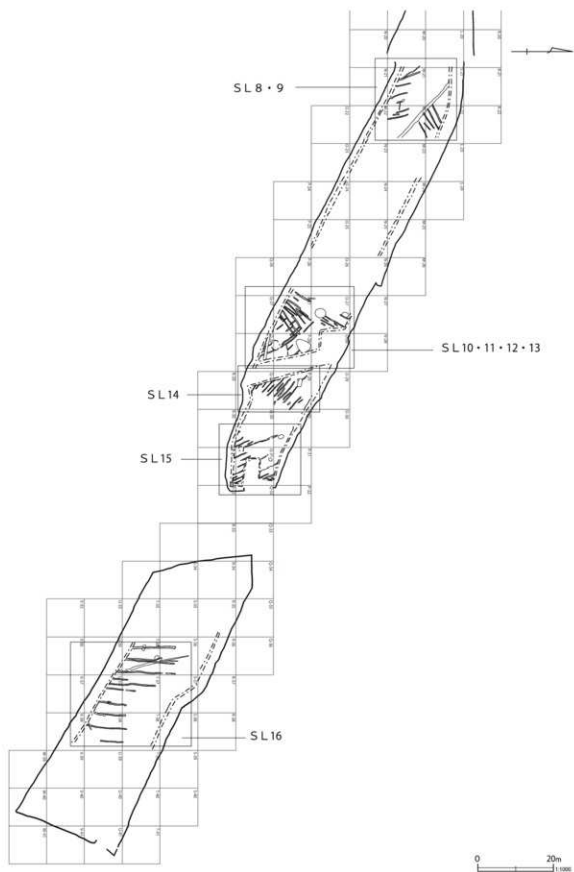
古墳時代の畠跡はⅢ区の西端と、Ⅳ区東端～Ⅵ区にかけて9箇所検出された。基本的には集落の東側に分布し、Ⅲ区から検出されたものは集落域の中に位置するが、住居跡が無い箇所が耕作されている。

走行方向に統一性は認められないが、大きく分けて南東～北西方向(第8・12・14・15号畠跡)と、南西～北東方向(第9・10・11・13・16号畠跡)の2方向に分類することができる。

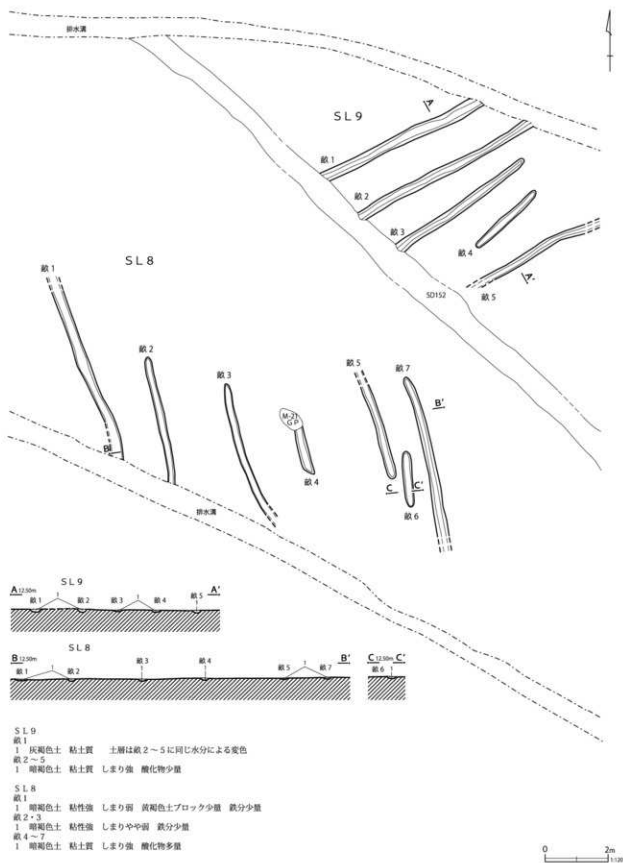
第10～13号畠跡は近接した範囲でさまざまな走行方向の畠跡が検出されている。集落と近接した場所に位置することから、集落の変遷に伴って、走行方向を変えながら何度も耕作が行われたと考えられる。

第8号畠跡(第195図)

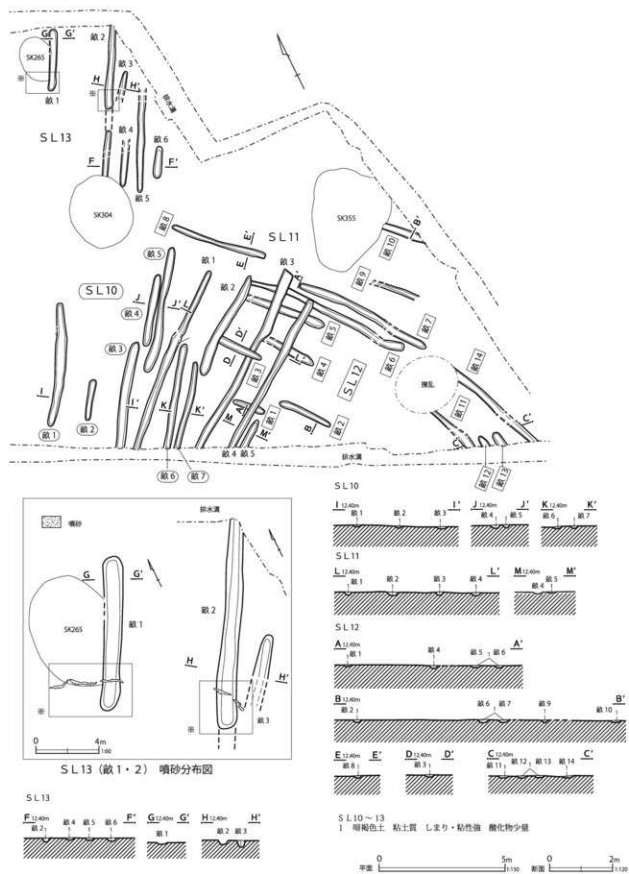
Ⅲ区南西部、M-21・22グリッドに位置する。南東～北西方向に走行する畝間溝が7条検出され、範囲は東西12.70m、南北8.80mを測り、走行方向はN-12°-Wを指す。畝間溝は幅0.27～0.41m、



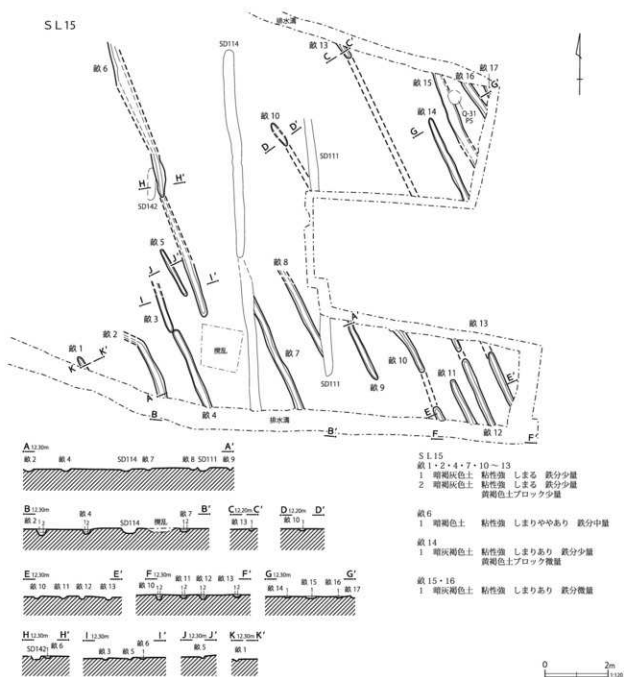
第194図 高跡全体図



第195図 冢跡(1)



第196図 高跡（2）



第198図 畝跡(4)

第12号畝跡(第196図)

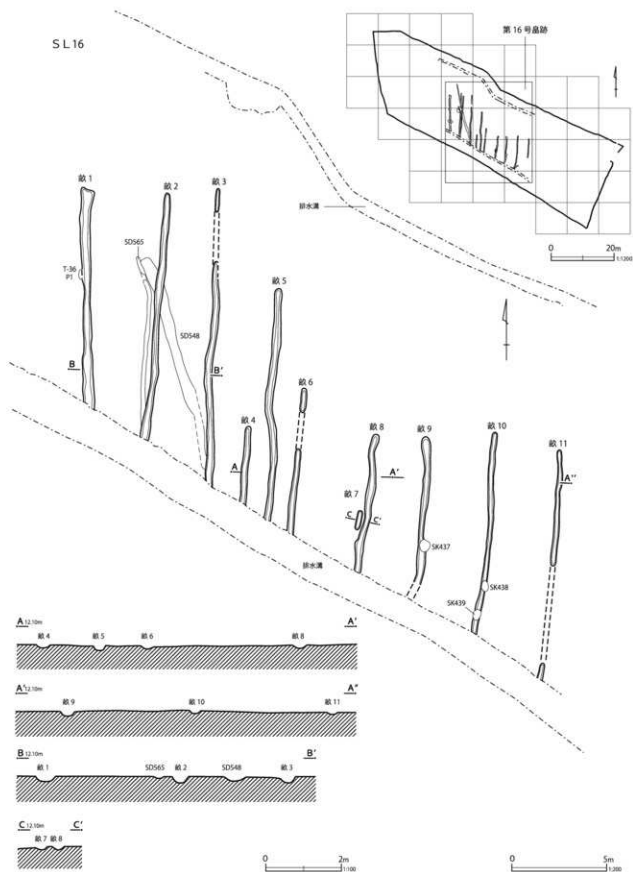
IV区東部、O-27、P-27・28、Q-28グリッドに位置する。南東-北西方向に走行する畝間溝14条検出され、範囲は東14.10m、南北9.20mを測り、走行方向はN-45°-Wを指す。畝間溝は幅0.24~0.37m、深さ0.04~0.08mで、遺物は出土しなかった。

検出面から古墳時代の遺構と考えられる。

第13号畝跡(第196図)

IV区北東部、南西-北東方向に走行する畝間溝が6条検出され、範囲は東西4.65m、南北6.65mを測り、走行方向はN-25°-Eを指す。畝間溝は幅0.25~0.31m、深さ0.04~0.19mで、遺物は出土しなかった。

SL16



第199图 墓跡(5)

第60表 畝跡一覧表 (第195~199図)

番号	畝No.	長さ	幅	深さ	番号	畝No.	長さ	幅	深さ	番号	畝No.	長さ	幅	深さ	
8	1	[5.75]	0.41	0.06	12	7	5.63	0.36	0.07	14	17	[1.12]	0.19	0.07	
	2	[4.14]	0.27	0.05		8	3.91	0.29	0.07		15	1	[0.33]	0.16	0.09
	3	[4.43]	0.27	0.06		9	[1.60]	0.24	0.08			2	[1.99]	0.31	0.06
	4	[1.57]	0.31	0.05		10	[1.85]	0.32	0.05		3	[1.28]	0.21	0.05	
	5	[3.13]	0.30	0.03		11	[2.06]	0.36	0.04		4	[2.75]	0.30	0.08	
	6	1.80	0.30	0.04		12	[0.52]	0.27	0.06		5	1.69	0.17	0.06	
	7	[5.25]	0.37	0.05		13	[0.70]	0.33	0.07		6	[9.33]	0.33	0.08	
9	1	[5.58]	0.45	0.12	14	[4.50]	0.35	0.07	7		[3.92]	0.25	0.05		
	2	[6.25]	0.35	0.18	13	1	2.48	0.31	0.04		8	[2.70]	0.28	0.08	
	3	[4.98]	0.35	0.05		2	[6.10]	0.30	0.18		9	[2.09]	0.21	0.06	
	4	2.60	0.29	0.08		3	[0.70]	0.25	0.19		10	[10.90]	0.26	0.08	
	5	[3.75]	0.29	0.09		4	[1.44]	0.28	0.04		11	[1.55]	0.23	0.08	
				5		[3.61]	0.30	0.08	12		[3.04]	0.25	0.10		
10	1	5.00	0.43	0.08	6	1.27	0.31	0.09	13		[12.70]	0.24	0.10		
	2	1.65	0.28	0.04	14	1	[2.15]	0.21	0.08	14	[2.94]	0.25	0.08		
	3	[4.30]	0.40	0.07		2	[1.59]	0.23	0.09	15	[2.40]	0.37	0.08		
	4	2.92	0.33	0.09		3	1.55	0.20	0.07	16	[1.42]	0.27	0.11		
	5	5.08	0.33	0.09		4	[4.30]	0.25	0.05	17	[0.40]	[0.14]	0.06		
	6	[4.29]	0.29	0.06		5	[1.02]	0.30	0.05	16	1	[11.67]	0.60	0.16	
	7	[3.57]	0.25	0.07		6	2.56	0.26	0.05		2	[13.17]	0.49	0.19	
11	1	[7.73]	0.35	0.07		7	6.38	0.35	0.05		3	[15.80]	0.43	0.17	
	2	4.40	0.42	0.07	8	[2.25]	0.32	0.05	4		[4.18]	0.35	0.08		
	3	[8.05]	0.45	0.07	9	[6.18]	0.35	0.05	5		[12.32]	0.48	0.18		
	4	[0.67]	0.35	0.08	10	2.85	0.37	0.06	6		[7.78]	0.36	0.09		
	5	[1.25]	0.27	0.03	11	[0.60]	0.37	0.08	7		1.04	0.25	0.06		
12	1	1.33	0.27	0.04	12	6.90	0.40	0.06	8		[7.41]	0.47	0.08		
	2	2.21	0.28	0.06	13	[2.45]	0.28	0.06	9		[7.84]	0.48	0.11		
	3	[1.86]	0.31	0.07	14	[8.75]	0.35	0.05	10		[10.78]	0.32	0.07		
	4	[1.75]	0.33	0.07	15	[0.67]	0.30	0.06	11		[12.20]	0.26	0.07		
	5	[3.08]	0.37	0.07	16	[4.25]	0.30	0.07							
	6	[6.74]	0.32	0.07											

検出面から古墳時代の遺構と考えられる。

第14号畝跡 (第197図)

V区西部、P-29・30、Q-29グリッドに位置する。南東-北西方向に走行する畝間溝が17条検出され、範囲は東西9.00m、南北15.00mを測り、走行方向はN-46°-Wを指す。畝間溝は幅0.19~0.40m、深さ0.05~0.09mで、遺物は出土しなかった。

検出面から古墳時代の遺構と考えられる。

第15号畝跡 (第198図)

V区東部、P-30・31、Q-30~32、R-31グリッドに位置する。南東-北西方向に走行する畝間溝が17条検出され、範囲は東西14.00m、南北11.80mを測り、走行方向はN-23°-Wを指

す。畝間溝は幅0.14~0.30m、深さ0.05~0.11mで、遺物は出土しなかった。

検出面から古墳時代の遺構と考えられる。

第16号畝跡 (第199図)

VI区中央部、S-36・37、T-36~38、U-36~38グリッドに位置する。南西-北東方向に走行する畝間溝が11条検出され、範囲は東西25.90m、南北26.50mを測り、走行方向はN-4°-Eを指す。畝間溝は幅0.26~0.60m、深さ0.06~0.19mで、遺物は出土しなかった。

幅が広く、通常の溝跡である可能性もあるが、同一方向に走行するものが並行して検出されたため、畝跡と判断した。

検出面から古墳時代の遺構と考えられる。

(5) 土壌

土壌は西側調査区を除く、調査区全域で検出された。特に、Ⅲ区東側からⅤ区にかけて、多く分布する傾向にある。

土壌の平面形態は円形や楕円形、隅丸方形等であり、規模も大きささまざまである。遺物は全体的に少ないが、一部大型の土壌等から比較的多量に出土する例もあった。

各土壌の詳細は一覧表に記した。ここでは遺物が出土した土壌を中心に、概観していく。

第56号土壌 (第200図)

東側調査区中央やや東寄り、I-16グリッドに位置する。平面形態は不整形で、規模は長径1.20m、短径0.92m、深さ0.16mを測り、長軸方向はN-44°-Wを指す。

遺物は土師器高環が1点出土した(第207図1)。1は坏で、内外面に赤彩が施される。

遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、検出面等から古墳時代の遺構と考えられる。

第92号土壌 (第200図)

東側調査区南部、J-15グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は長径0.75m、短径0.43m、深さ0.24mを測り、長軸方向はN-83°-Eを指す。

遺物は土師器高環が1点出土した(第207図2)。2は高環の脚部で、外面にミガキが施される。

遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、検出面等から古墳時代の遺構と考えられる。

第98号土壌 (第200図)

東側調査区南西部、J-14グリッドに位置する。平面形態は不整形で、規模は長径1.46m、短径0.40m、深さ0.07mを測り、長軸方向はN-60°-Eを指す。

遺物は土壌全体から検出され、土師器高環・壺が出土した(第207図3~8)。3~7は高環である。3、4はいずれも立ち上がり部に段を持つもので、3は内面、4は内外面にミガキが施される。

5は脚部で、直線的に広がる。8は複合口縁の壺の口縁部である。

遺物の時期は、土師器高環の形状から5世紀代後半と考えられる。

第100号土壌 (第200図)

中央調査区東端部、H-12グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は長径1.59m、短径1.40m、深さ0.26mを測り、長軸方向はN-47°-Eを指す。

遺物は土師器高環が出土した(第207図9)。9は高環の坏部で、立ち上がり部に段を持つ。

遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、検出面等から古墳時代の遺構と考えられる。

第124号土壌 (第200図)

中央調査区中央部、G-9グリッドに位置する。平面形態は不整形で、規模は長径1.80m、短径1.06m、深さ0.13mを測り、長軸方向はN-80°-Eを指す。

遺物は土師器高環・埴形土器が出土した(第207図10、11)。10は高環で、内外面にミガキが施される。11は埴形土器で、口縁部内面に縦方向のミガキが施される。

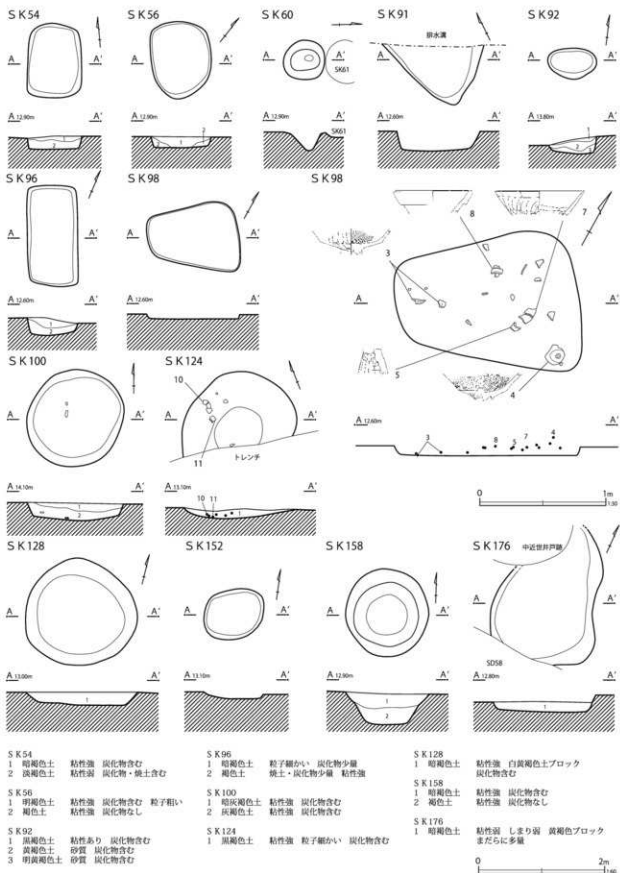
遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、高環や埴形土器が出土している点から古墳時代の遺構と考えられる。

第176号土壌 (第200図)

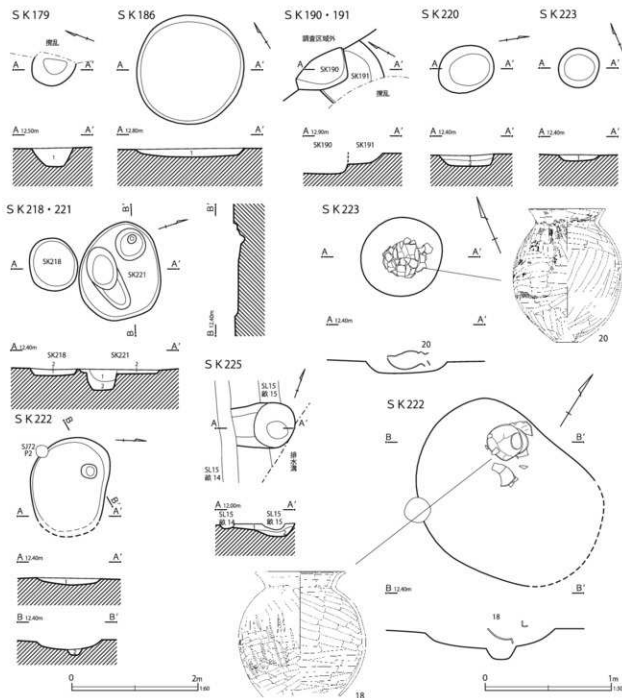
中央調査区中央部、H-10グリッドに位置し、北西部は中近世の井戸跡によって壊される。平面形態は不整形楕円形で、規模は長径2.24m、短径1.47m、深さ0.17mを測り、長軸方向はN-0°を指す。

遺物は土師器高環が出土した(第207図12、13)。12、13は坏で、どちらも破片だが、器形から7世紀~8世紀初頭のものとして推察される。13は皿になる可能性もある。

遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、検出面等から古墳時代の遺構と考えられる。



第200図 土坑(1)



SK 179
1 暗褐色土 砂質 粘性弱 しまり弱 黄褐色ブロック多量 炭化物や中多量

SK 186
1 暗褐色土 粘性弱 しまり弱 黄褐色ブロック微量

SK 218・221
1 暗褐色土 粘性弱 炭化物(5mm大)・焼土粗粒を含む
2 明褐色土 粘性強 細かい炭化物粒を含む

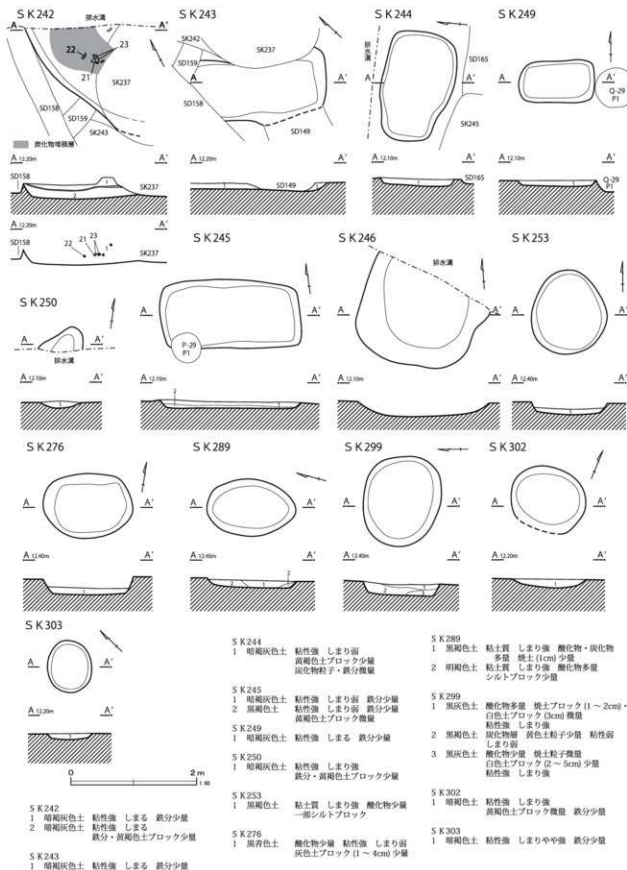
SK 220
1 暗褐色土 粘性弱 炭化物(5mm大)・焼土粗粒を含む
2 明褐色土 粘性強 細かい炭化物粒を含む

SK 222
1 暗褐色土 粘土質 しまり強 シルトブロック多量 酸化鉄少量
2 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物粒を含む

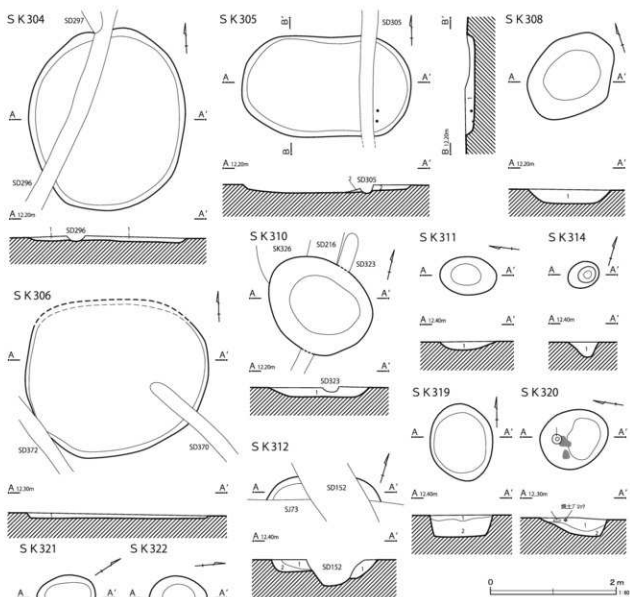
SK 223
1 暗褐色土 粘性強 細かい炭化物粒を含む

SK 225
1 暗褐色土 粘性強 しまりあり 鉄分少量
2 暗褐色土 粘性強 しまりあり 鉄分中量

第201図 土壌(2)



第202図 土坑 (3)



S K 304
1 暗褐色土 粘性強 しまり強 黄褐色土ブロック・鉄分少量

S K 305
1 黒褐色土 粘性強 しまりやや強 黄褐色土ブロック・炭粒子微量 鉄分少量
2 黒褐色土 粘性強 しまり強 炭粒子微量 灰色土ブロック・鉄分少量
焼土粒子軸微量

S K 306
1 暗褐色土 粘性強 しまり強 黄褐色土ブロック中量 鉄分少量

S K 308
1 黒褐色土 粘性強 しまり強 黄褐色土ブロック・鉄分少量

S K 310
1 黒褐色土 粘性強 しまり強 黄褐色土ブロック・鉄分少量

S K 311
1 灰褐色土 酸化物多量 黄色土ブロック(1~2cm)少量 炭化物微量
粘性中や弱 しまり強

S K 312
1 暗褐色土 酸化物多量 白色土ブロック(1~3cm)・焼土ブロック(1cm)
微量 粘性中や弱 しまり中や強
2 暗褐色土 酸化物・黄色土粒子多量 炭化物少量 粘性強 しまり中や弱

S K 314
1 暗褐色土 酸化物・黄色土粒子多量 炭化物微量 粘性弱 しまり強

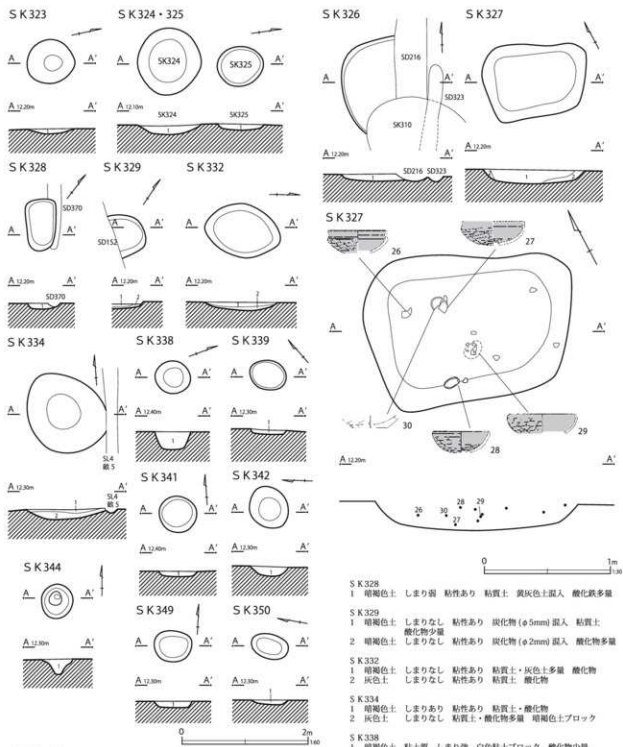
S K 319
1 灰褐色土 しまり強 粘土質 酸化物少量
2 灰褐色土 粘土質 しまり強 酸化物多量

S K 320
1 暗褐色土 粘土質 しまり強 焼土ブロック 全面に酸化物
2 暗褐色土 粘土質 しまり強 白灰色粘土をブロック状に含む 酸化物含む

S K 321
1 暗褐色土 粘土質 しまり強 酸化物少量

S K 322
1 暗褐色土 しまり弱 粘性あり 粘土質 酸化物多量

第203図 土壌(4)



S K 323・325

1 暗褐色土 しまり強 粘性あり 粘質土 礫化物多量

S K 324

1 暗褐色土 しまり弱 粘性あり 粘質土 礫化物多量 黄灰色土混入

S K 326

1 暗褐色土 しまりあり 粘性あり 粘質土 礫化物多量 黄灰色土混入

S K 327

1 暗褐色土 しまりあり 粘性あり 礫化物多量 炭化物(φ3~10mm)少量

2 明褐色土 しまり弱 粘性あり 粘質土 礫化物多量

S K 328

1 暗褐色土 しまり弱 粘性あり 粘質土 黄灰色土混入 礫化物多量

S K 329

1 暗褐色土 しまりなし 粘性あり 炭化物(φ5mm)混入 粘質土 礫化物少量

2 暗褐色土 しまりなし 粘性あり 炭化物(φ20mm)混入 礫化物多量

S K 332

1 暗褐色土 しまりなし 粘性あり 粘質土・灰色土多量 礫化物

2 灰色土 しまりなし 粘性あり 粘質土 礫化物

S K 334

1 暗褐色土 しまりあり 粘性あり 粘質土・礫化物

2 灰色土 しまりなし 粘性あり 粘質土・礫化物多量 暗褐色土ブロック

S K 338

1 暗褐色土 粘土質 しまり強 白色粘土ブロック 礫化物少量

S K 339

1 暗褐色土 粘土質 しまり弱 全面に炭化物を含む

S K 341・342・344

1 暗褐色土 粘土質 しまり強 礫化物多量

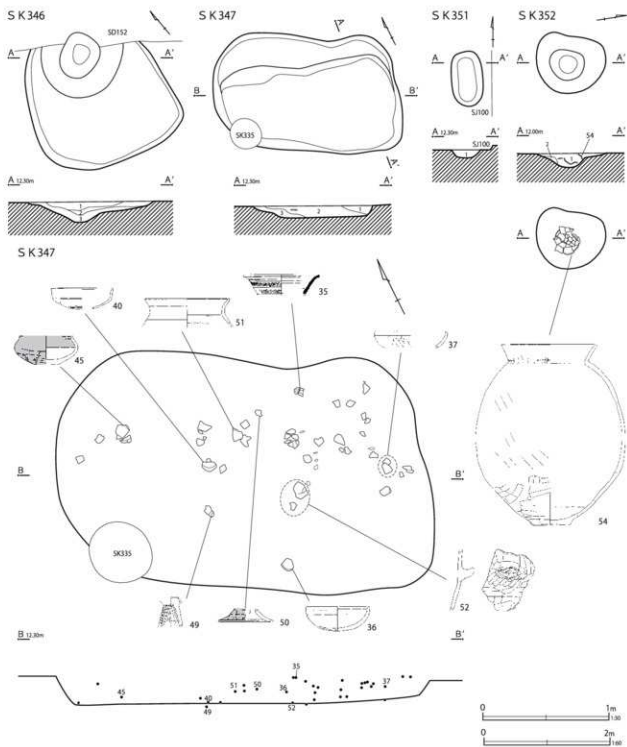
S K 349

1 暗褐色土 粘土質 しまり強 焼土顆子・炭化物多量

S K 350

1 暗褐色土 粘土質 しまり強 炭化物少量 礫化物多量

第204図 土壌 (5)



S K 346

- 1 暗褐色土 粘土質 しまり強 白色粘土ブロック・酸化物多量
- 2 灰褐色土 粘土質 しまり強 白色粘土ブロック主体 酸化物少量
- 3 暗褐色土 粘土質 しまり強 酸化物少量

S K 347

- 1 暗黒褐色土 しまりあり 粘土質 酸化鉄・炭化物(φ2~3mm)少量
- 2 灰褐色土 粘土質 酸化物(φ2~5mm)多量 炭化物粒子多量
- 3 暗褐色土 しまりあり 酸化物多量 粘土質 灰褐色シルトブロック

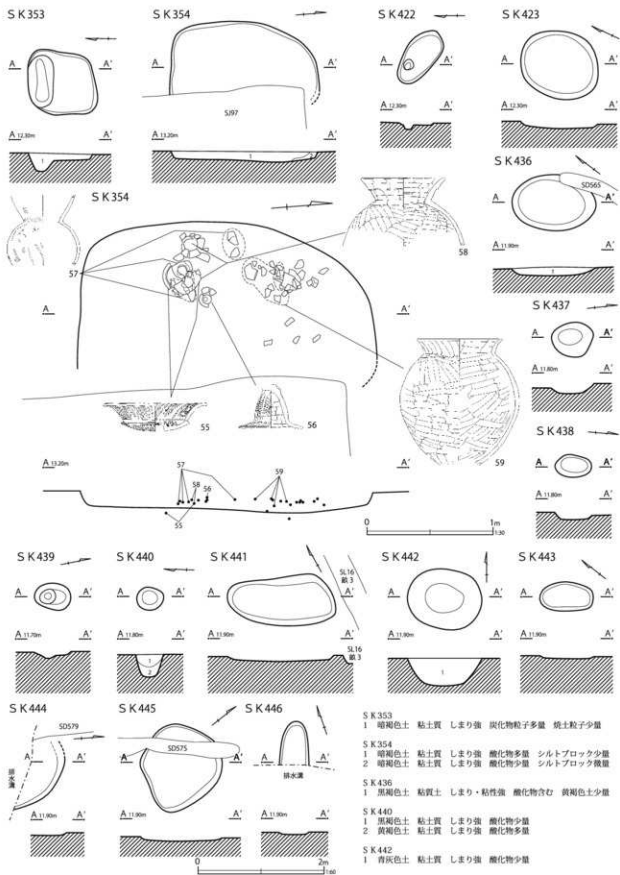
S K 351

- 1 暗褐色土 粘土質 しまり強 酸化物微量 白色粘土粒子多量

S K 352

- 1 暗褐色土 粘土質 しまり強 酸化物多量
- 2 暗褐色土 粘土質 しまり強 酸化物・白色粘土ブロック多量

第205図 土壌(6)



第206図 土坑 (7)

第61表 土壌一覧表

遺構名	グリッド	平面形	長軸方向	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
54	I-15	長方形	N-5° -E	1.18	0.85	0.21
56	I-16	不整形	N-44° -W	1.20	0.92	0.16
60	I-15	円形	-	0.65	0.60	0.29
91	I-16	不整形	N-20° -W	[1.33]	[0.72]	0.32
92	J-15	楕円形	N-83° -E	0.75	0.43	0.24
96	I-14	長方形	N-24° -W	1.58	0.79	0.28
98	I-14	不整形	N-60° -E	1.46	0.40	0.07
100	H-12	楕円形	N-47° -E	1.59	1.40	0.26
124	G-9	不整形	N-80° -W	[1.80]	[1.06]	0.13
128	F-8	不整形	N-77° -E	1.78	1.50	0.21
152	H-12	不整形	N-46° -E	1.02	0.71	0.10
158	I-15	円形	-	1.37	1.22	0.50
176	H-10	不整形楕円形	N-0°	[2.24]	1.47	0.17
179	H-10・11	不整形	N-21° -W	0.62	[0.50]	0.29
181	欠番	-	-	-	-	-
186	I-12	円形	-	1.70	1.70	0.14
190	G-11	不整形	N-60° -W	0.87	0.52	0.32
191	G-11	楕円形	N-25° -E	[1.00]	[0.67]	0.17
218	L-20	円形	-	0.84	0.75	0.11
220	M-20	楕円形	N-17° -W	0.90	0.73	0.20
221	L-20	不整形	N-61° -W	1.56	1.29	0.30
222	L-20	不整形	N-85° -W	[1.39]	1.15	0.22
223	L-18	円形	-	0.66	0.62	0.10
225	Q-31	不整形	N-63° -E	[1.05]	0.70	0.20
242	O-29	不整形	N-16° -W	[2.05]	[1.35]	0.35
243	O・P-29	長方形	N-48° -W	[2.15]	[0.95]	0.13
244	P-29	不整形	N-90°	1.75	1.13	0.11
245	P-29	隅丸長方形	N-81° -W	2.20	1.08	0.13
246	P-29	不整形	N-86° -W	[2.00]	[1.50]	0.25
249	P・Q-29	長方形	N-90°	1.20	0.68	0.10
250	Q-29	不整形	N-83° -E	[0.69]	[0.37]	0.11
253	O-25	不整形	N-0°	1.32	1.19	0.20
276	M・N-22	不整形	N-86° -E	1.42	1.03	0.30
289	N-25	楕円形	N-14° -W	1.40	0.90	0.13
299	M-23	不整形	N-60° -W	1.46	1.24	0.17
302	F-28	楕円形	N-90°	1.22	0.94	0.15
303	P-28	楕円形	N-40° -E	0.83	0.71	0.09
304	O-27	楕円形	N-16° -E	2.92	2.48	0.08
305	O-26	楕円形	N-90°	2.66	1.57	0.13
306	O-25	不整形	N-67° -E	2.93	[2.46]	0.09
308	O-26	不整形	N-60° -E	1.55	1.24	0.23
310	O-26	不整形	N-77° -E	1.74	1.41	0.16
311	M-22	楕円形	N-2° -W	0.92	0.60	0.13
312	M-22	隅丸長方形	N-74° -E	[1.79]	[0.35]	0.29

遺構名	グリッド	平面形	長軸方向	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
313	欠番	-	-	-	-	-
314	M-22	楕円形	N-40° -E	0.50	0.40	0.24
315	欠番	-	-	-	-	-
319	M-23	楕円形	N-10° -W	1.23	1.00	0.34
320	N-25	楕円形	N-30° -W	1.10	0.90	0.27
321	N-25	不整形	N-35° -E	0.94	0.64	0.10
322	O-25	楕円形	N-4° -E	0.93	0.69	0.12
323	O-25	不整形	N-11° -E	0.75	0.68	0.07
324	M-24	円形	-	1.05	1.00	0.16
325	M-24	楕円形	N-0°	0.73	0.63	0.08
326	O-26	不整形	N-9° -W	1.30	0.85	0.10
327	O-25・26	不整形	N-65° -W	1.65	1.21	0.25
328	O-25	不整形	N-34° -W	0.83	0.49	0.08
329	O-25	不整形	N-90°	[0.73]	[0.45]	0.07
332	M-23	不整形	N-10° -E	1.22	0.83	0.13
333	欠番	-	-	-	-	-
334	M-23	不整形	N-48° -W	1.38	1.15	0.15
338	M-23	円形	-	0.56	0.52	0.29
339	M-23	楕円形	N-25° -W	0.60	0.47	0.08
341	N-23	円形	-	0.57	0.55	0.09
342	N-23	楕円形	N-56° -E	0.70	0.60	0.17
344	N-22	円形	-	0.54	0.50	0.23
346	N-23	不整形	N-20° -E	[2.15]	2.05	0.33
347	M・N-23	不整形	N-65° -W	2.96	1.84	0.20
349	M-21	不整形	N-72° -E	0.59	0.49	0.09
350	L-21	楕円形	N-0°	0.58	0.38	0.07
351	M-22	楕円形	N-0°	0.87	0.48	0.12
352	N-22	不整形	N-15° -E	1.09	0.90	0.23
353	M-21	不整形	N-39° -E	1.28	1.05	0.28
354	M・N-24	不整形	N-4° -E	2.35	[1.06]	0.17
422	M-21	楕円形	N-60° -W	0.79	0.50	0.12
423	L-21	楕円形	N-10° -E	1.30	1.07	0.10
436	T-36	楕円形	N-36° -W	1.33	0.90	0.09
437	U-38	不整形	N-0°	0.67	0.55	0.15
438	U-38	不整形	N-5° -W	0.58	0.35	0.12
439	U-38	不整形	N-10° -E	0.57	0.40	0.10
440	S-35	不整形	N-0°	0.45	0.36	0.36
441	T-36	不整形	N-54° -W	1.70	0.82	0.08
442	S-34	楕円形	N-90°	1.17	0.95	0.43
443	S-34・35	不整形	N-40° -W	0.84	0.46	0.04
444	T-34	不整形	N-65° -W	[0.90]	[0.52]	0.04
445	S-34	不整形	N-39° -W	1.38	1.25	0.08
446	S・T-34	隅丸長方形	N-20° -E	[0.68]	0.46	0.05

第179号土壌 (第201図)

中央調査区東寄り、H-10・11グリッドに位置する。平面形態は不整形で、規模は長径0.62m、短径0.50m、深さ0.29mを測り、長軸方向はN-21° -Wを指す。覆土は単層で、炭化物がやや多

く含まれていた。

遺物は土師器壺が出土した(第207図14)。14は複合口縁の壺である。

遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、出土遺物から古墳時代の遺構と考えられる。

第186号土壙 (第201図)

中央調査区東部、I-12グリッドに位置する。平面形態は円形で、規模は直径1.70m、深さ0.14mを測る。

遺物は土師器高環が出土した(第207図15)。15は高環の脚部である。小型のもので、上半は中実になる。

遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、出土遺物から古墳時代の遺構と考えられる。

第218号土壙 (第201図)

Ⅲ区東端部、L-20グリッドに位置する。平面形態は円形で、規模は長径0.84m、短径0.75m、深さ0.11mを測る。

遺物は土師器甕が出土した(第207図16)。16は甕で、球胴形の甕になると推察される。5～6世紀代のものか。

遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、出土遺物から古墳時代の遺構と考えられる。

第221号土壙 (第201図)

Ⅲ区東端部、L-20グリッドに位置する。平面形態は不整形で、土壙内にピット状の掘り込みが2箇所検出された。規模は長径1.56m、短径1.29m、深さ0.30mを測り、長軸方向はN-61°-Wを指す。覆土上層には焼土粒子や炭化物が含まれていた。

遺物は土師器埴形土器が出土した(第207図17)。17は埴形土器である。口縁部下半に丸みを持ち、口唇部は僅かに外反する。

遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、出土遺物から古墳時代の遺構と考えられる。

第222号土壙 (第207図)

Ⅲ区東端部、L-20グリッドに位置する。平面形態は不整形で、規模は長径1.39m、短径1.15m、深さ0.22mを測り、長軸方向はN-85°-Wを指す。覆土にはシルトブロックが多く含まれる。

遺物は土師器甕・高環が出土した(第207図18、19)。18は甕で、球胴形になり、胴部外面には部

分的にミガキが施される。土壙北寄りから倒れた状態で検出された。19は高環である。5世紀中葉のものか。

遺物の時期は、土師器甕の形状から5世紀中葉と推察される。

第223号土壙 (第201図)

Ⅱ区東寄り、L-18グリッドに位置する。平面形態は円形で、規模は直径0.66m、深さ0.10mを測る。

遺物は土師器甕が出土した(第207図20)。20は甕である。ほぼ完形で、胴部はやや長くなり、外面および口縁部内面に刷毛目調整が施される。土壙中央部から出土し、横位で潰れた状態で検出された。

遺物の時期は、土師器甕の形状から5世紀後半のものとして推察される。

第242号土壙 (第202図)

V区北西端、O-29グリッドに位置する。第237号土壙と重複し、遺構の北側は調査区域外へ延びる。平面形態は不整形で、規模は長径2.05m、短径1.35m、深さ0.35mを測り、長軸方向はN-16°-W。覆土中層からはレンズ状に堆積する炭化物層が検出された。

遺物は須恵器瓶類、甕が出土した(第207図21～23)。21は瓶類である。22は甕で、大型になると推察される。23は甕で、内面下半に手持ちヘラケズリ調整が施される。

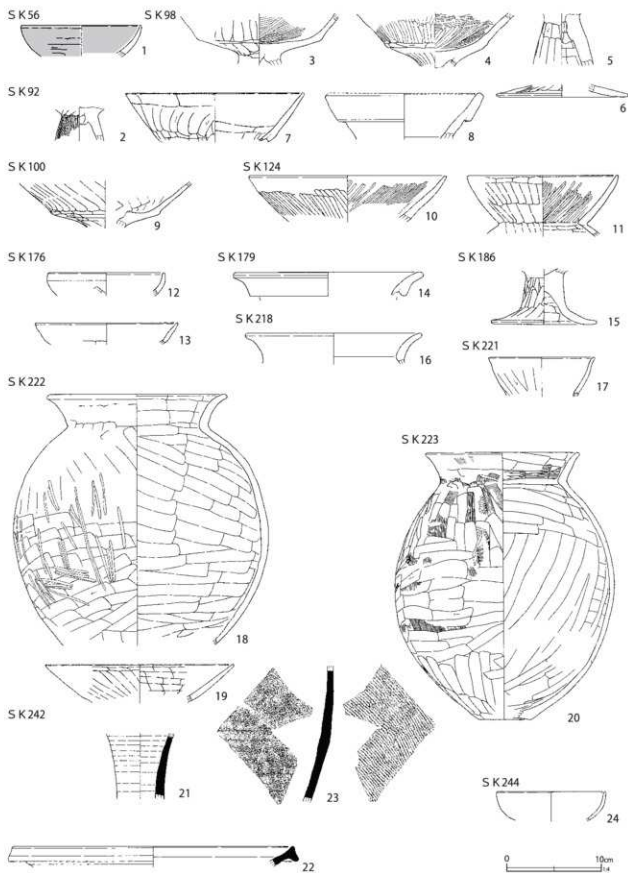
遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、検出面から古墳時代の遺構と考えられる。

第244号土壙 (第202図)

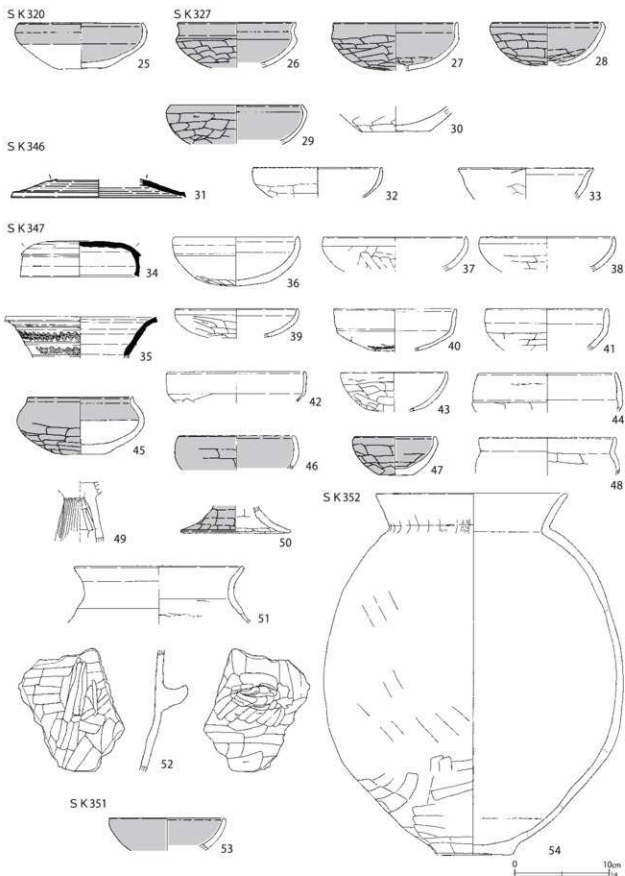
V区北西部、P-29グリッドに位置する。平面形態は不整形で、規模は長径1.75m、短径1.13m、深さ0.11mを測り、長軸方向はN-90°を指す。

遺物は土師器環が出土した(第207図24)。24は環である。7世紀代のものか。

遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、検出面から古墳時代の遺構と考えられる。

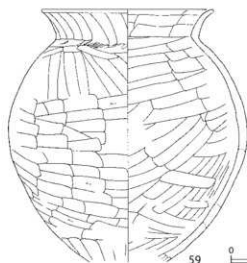
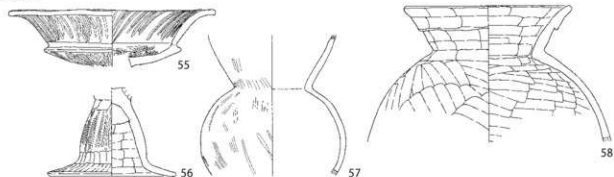


第207図 土壙出土遺物(1)

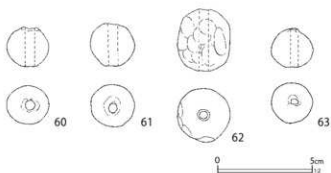


第208図 土壙出土遺物(2)

SK354



SK276



0 10cm

第209図 土壇出土遺物(3)

第245号土壇 (第202図)

V区北西部、P-29グリッドに位置する。平面形態は隅丸長方形で、規模は長径2.20m、短径1.08m、深さ0.13mを測り、長軸方向はN-81°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

遺物が無いため詳細な時期は不明だが、検出面から古墳時代の遺構と考えられる。

第276号土壇 (第202図)

III区西寄り、M・N-22グリッドに位置する。平面形態は不整形で、規模は長径1.42m、短径1.03m、深さ0.30mを測り、長軸方向はN-86°-Eを指す。

遺物は土製品の土玉が4点まとまって出土した(第209図60~63)。60~63は土玉である。62のみ指頭痕と思われる痕跡が認められた。

遺物が土玉のみであるため詳細な時期は不明だが、土玉の形状や検出面から古墳時代の遺構と考えられる。

第305号土壇 (第203図)

IV区西部、O-26グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は長径2.66m、短径1.57m、深さ0.13mを測り、長軸方向はN-90°を指す。

遺物は小破片のみで、図示可能なものは無かった。

遺物が少ないため詳細な時期は不明だが、検出面から古墳時代の遺構と考えられる。

第319号土壇 (第203図)

III区中央部、M-23グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は長径1.23m、短径1.00m、深さ0.34mを測り、長軸方向はN-10°-Wを指し、断面は箱形になる。

第62表 土壙出土遺物観察表 (第207~209図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	(12.6)	[3.3]	—	E H I K	5	普通	にぶい橙	SK56 内外面赤彩	
2	土師器	高坏	—	[3.6]	—	E I K	60	普通	明赤褐	SK92 内面煤付着	
3	土師器	高坏	—	[5.5]	—	C E H I K	40	普通	橙	SK98 No.14・15	
4	土師器	高坏	—	[5.9]	—	E H I K	65	普通	橙	SK98 No.1 外面黒斑有り	
5	土師器	高坏	—	[5.4]	—	C E H I K	70	普通	にぶい橙	SK98 No.4	
6	土師器	高坏	—	[1.4]	(14.0)	E H I K	25	普通	浅黄橙	SK98 外面黒斑有り	
7	土師器	高坏	(18.8)	[5.2]	—	E H I K	25	良好	にぶい褐	SK98 No.5	
8	土師器	埴形土器	(16.0)	[4.9]	—	C E H I K	20	普通	橙	SK98 No.11	
9	土師器	高坏	—	[5.0]	—	E H I K	30	普通	明赤褐	SK100 No.1・2 外面黒斑有り	
10	土師器	高坏	(20.8)	[4.9]	—	C E I K	30	普通	明赤褐	SK124 No.4	
11	土師器	壺	(15.8)	[6.5]	—	C H I K	15	普通	明赤褐	SK124 No.2	
12	土師器	坏	(12.2)	[2.4]	—	C H I K	5	普通	にぶい橙	SK14	
13	土師器	坏	(15.0)	[2.3]	—	C E H I K	5	普通	にぶい橙	SK14	
14	土師器	壺	(19.2)	[2.5]	—	C E I K	10	普通	にぶい赤褐	SK17	
15	土師器	高坏	—	[5.9]	(10.9)	E H I K	50	普通	明赤褐	SK24	
16	土師器	甕	(18.4)	[3.3]	—	C E H I K	5	普通	褐灰	SK27 外面煤付着	
17	土師器	埴形土器	(11.1)	[4.2]	—	E H I K	25	普通	にぶい橙	SK30 内面煤付着	
18	土師器	甕	18.5	[26.5]	—	E I K	75	普通	にぶい褐	SK31 No.1 外面煤付着	94-1
19	土師器	高坏	(19.8)	[4.1]	—	C E I K	10	普通	明赤褐	SK31 No.1 外面煤付着	
20	土師器	甕	16.1	28.3	5.5	C E H I K	90	普通	橙	SK32 No.1 外面煤付着	94-2
21	須恵器	長頸壺	—	[6.9]	—	I K	20	良好	灰白	SK51 No.3 東海産 内外面降灰	
22	須恵器	甕	(29.6)	[2.2]	—	I K	5	良好	灰	SK51 No.1 胎土は緻密で東海産に似るが針状物質らしきものを含む	
23	須恵器	甕	—	[14.4]	—	I K	5	良好	灰	SK51 No.2・4	
24	土師器	坏	(11.4)	[3.1]	—	C E I K	10	普通	橙	SK53 内外面共に摩耗が激しく調整は不明瞭	
25	土師器	坏	13.0	4.9	4.9	E I K	100	普通	赤褐	SK127 No.1 内外面赤彩	94-3
26	土師器	坏	(12.4)	[4.8]	—	C H I K	45	普通	にぶい黄橙	SK134 No.11 内外面赤彩	94-4
27	土師器	坏	(13.0)	5.1	—	C E H I K	30	普通	明赤褐	SK134 No.10 内外面赤彩	94-5
28	土師器	坏	(11.5)	4.6	(5.0)	E I K	35	普通	明赤褐	SK134 No.1 内外面赤彩	
29	土師器	坏	(14.0)	[4.1]	—	C E H I K	20	普通	灰褐	SK134 No.5 内外面赤彩 内面全体被熱	
30	土師器	甕	—	[2.7]	7.6	B C E I K	45	普通	にぶい橙	SK134 No.9 内外面共に摩耗が激しい	
31	須恵器	蓋	(18.4)	[1.9]	—	E I J K	15	良好	黄灰	SK153 古代	
32	土師器	坏	(13.7)	[3.2]	—	C E I K	25	普通	にぶい橙	SK153 古代	
33	土師器	坏	(14.2)	[3.3]	—	C E H I K	5	普通	にぶい黄橙	SK153 古代	
34	須恵器	蓋	12.5	3.8	—	E I K	80	普通	灰	SK154	94-6
35	須恵器	壺	(16.0)	[4.5]	—	D I	35	良好	褐灰	SK154 No.12 内外面自然釉	94-7
36	土師器	坏	13.0	5.2	—	E H I K	55	普通	にぶい赤褐	SK154 No.21	94-8
37	土師器	坏	(14.9)	[3.7]	—	E H I K	5	普通	にぶい橙	SK154 No.32	
38	土師器	坏	(14.0)	[3.7]	—	B C E H I K	10	普通	にぶい橙	SK154	
39	土師器	坏	(12.8)	[3.1]	—	C E I K	15	普通	にぶい橙	SK154	
40	土師器	坏	(12.8)	[4.6]	—	C E I K	30	普通	橙	SK154 No.5 外面刀物痕有り 内外面共に摩耗が激しく調整は不明瞭	94-9
41	土師器	坏	(12.8)	[4.5]	—	C E H I K	15	普通	橙	SK154	
42	土師器	坏	(14.4)	[3.3]	—	C H I K	10	普通	橙	SK154	
43	土師器	坏	(11.0)	[4.2]	—	E H I K	25	普通	にぶい赤褐	SK154 内外面被熱	
44	土師器	坏	(14.4)	[4.2]	—	H I K	5	普通	橙	SK154	
45	土師器	坏	(11.0)	6.1	5.4	C E I K	50	普通	にぶい褐	SK154 No.3 内外面赤彩	
46	土師器	坏	(12.0)	[3.6]	—	E I K	10	普通	明褐灰	SK154 内外面赤彩	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
47	土師器	小型坏	(8.4)	4.1	3.5	E I K	70	普通	にぶい橙	SK154 内外面赤彩 外面黒疵有り	
48	土師器	鉢	(14.4)	[4.0]	—	C E I K	10	普通	橙	SK154 外面煤付着	
49	土師器	高坏	—	[6.5]	—	E I K	55	普通	明赤褐	SK154 №7	
50	土師器	高坏	—	[2.9]	(11.0)	E I K	15	普通	にぶい橙	SK154 №11 外面赤彩	
51	土師器	甕	(17.8)	[6.2]	—	E I K	10	普通	にぶい褐	SK154 №8 外面煤付着	
52	土師器	甕	—	[13.0]	—	E H I K	5	普通	にぶい橙	SK154 №20	
53	土師器	坏	(12.1)	[3.5]	—	E H I K	15	普通	にぶい橙	SK158 内外面赤彩	
54	土師器	甕	(19.8)	38.4	7.7	C D E H I K	90	普通	赤褐	SK159 S J46 №67・672 内外面ともに摩耗、剥離が激しく調整は不明瞭	94-10
55	土師器	高坏	(21.3)	[6.0]	—	C E H I K	40	普通	にぶい橙	SK161 №23・27	95-1
56	土師器	高坏	—	[9.4]	13.0	C E I K	80	普通	赤褐	SK161 №28	95-2
57	土師器	壺	—	[14.8]	—	C E I K	40	普通	にぶい赤褐	SK161 №17・22・25・26 内外面共に摩耗	95-3
58	土師器	壺	17.1	[14.4]	—	E I K	30	普通	にぶい赤褐	SK161 №18・23	
59	土師器	甕	(18.0)	[26.7]	—	C E H I K	50	普通	にぶい赤褐	SK161 №3-16 内外面煤付着	95-4
60	土製品	土玉	最大高2.1 孔径0.5-0.5 重さ8.2g	径2.0-2.2	—	C I K	100	普通	褐灰	SK85	102-1
61	土製品	土玉	最大高2.3 孔径0.5-0.5 重さ11.8g	径2.2-2.3	—	H I K	100	普通	灰褐	SK85	102-1
62	土製品	土玉	最大高3.3 孔径0.5-0.6 重さ28.1g	径2.8-2.9	—	E I K	100	普通	にぶい赤褐	SK85	102-1
63	土製品	土玉	最大高2.1 孔径0.4-0.4 重さ8.7g	径2.1-2.2	—	C I K	100	普通	褐灰	SK85	102-1

遺物は出土しなかった。

遺物が無いため詳細な時期は不明だが、検出面から古墳時代の遺構と考えられる。

第320号土壙 (第203図)

Ⅲ区北東部、N-25グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は長径1.10m、短径0.90m、深さ0.27mを測り、長軸方向はN-30° -Wを指す。覆土中には焼土ブロックが含まれていた。

遺物は土師器坏が出土した(第208図25)。25は坏である。内面全体および口縁部外面に赤彩が施される。

遺物が1点のみであるため詳細な時期は不明だが、土師器坏の形状や検出面から、古墳時代の遺構と考えられる。

第327号土壙 (第204図)

Ⅲ区南東部、O-25・26グリッドに位置する。平面形態は不整形で、規模は長径1.65m、短径

1.21m、深さ0.25mを測り、長軸方向はN-65° -Wを指す。

遺物は土壙全体から検出され、土師器坏・甕が出土した(第208図26-30)。26-29は坏で、いずれも内外面全体に赤彩が施される。26は坏身模倣、27は坏蓋模倣坏である。28、29は半球形坏で、口縁部は内屈する。30は甕である。

遺物の時期は、土師器坏の形状から6世紀前半と推察される。

第346号土壙 (第205図)

Ⅲ区中央南寄り、N-23グリッドに位置し、北側は第152号溝跡によって壊される。平面形態は不整形で、規模は長径2.15m、短径2.05m、深さ0.33mを測り、長軸方向はN-20° -Eを指す。覆土中には白色土ブロックが多く含まれていた。

遺物は須恵器蓋、土師器坏が出土した(第208図31-33)。31は蓋で、南比企の製品である。32、

33は土師器の坏である。8世紀代の製品か。

遺物は古代の土器が検出されているが、検出面から古墳時代の遺構と考えられる。古代の遺物は上層からの混入品か。

第347号土壌 (第205図)

Ⅲ区中央部、M・N-23グリッドに位置する。平面形態は不整形で、規模は長径2.96m、短径1.84m、深さ0.20mを測り、長軸方向はN-65°-Wを指す。覆土中には炭化物が含まれていた。

遺物は土壌全体から出土した。特に中央部から集中的に検出され、須恵器蓋・壺、土師器坏・鉢・高坏・甕・甎が出土した(第208図34~52)。

34、35は須恵器である。34は蓋で、MT15段階のものか。35は壺の口縁部と考えられ、頸部付近に2条の櫛描波状文が廻る。内外面に自然軸がわかり、硬質に焼き締まる。陶邑の製品か。

36~47は坏である。36~39は半球形の坏で、口縁部は垂直気味に立ち上がる。40~42は坏蓋模倣坏である。40は外面に刃物痕が認められる。44は大型の為、鉢になる可能性がある。45~47は内外面に赤彩が施される。48は鉢である。

49、50は高坏の脚部で、49は外面にミガキが、50は外面に赤彩が施される。

51は甕である。薄手で頸部のくひれが弱い。52は甎で、把手部分である。

遺物の時期は、土師器坏や甕の形状から、6世紀中葉と推察される。

第351号土壌 (第205図)

Ⅲ区やや西寄り、M-22グリッドに位置する。平面形態は楕円形で、規模は長径0.87m、短径0.48m、深さ0.12mを測り、長軸方向はN-0°を指す。覆土中には白色粘土粒子が多く含まれる。

遺物は土師器坏が出土した(第208図53)。53は坏で、内外面に赤彩が施される。

遺物が1点のみであるため詳細な時期は不明だが、土師器坏の形状や検出面から、古墳時代の遺構と考えられる。

第352号土壌 (第205図)

Ⅲ区中央南寄り、N-22グリッドに位置する。平面形態は不整形で、規模は長径1.09m、短径0.90m、深さ0.23mを測り、長軸方向はN-15°-Eを指す。覆土中には白色粘土ブロックが多く含まれていた。

遺物は土師器甕が出土した(第208図54)。54は甕である。内外面が摩耗し調整は不明瞭だが、ほぼ完形の甕である。土壌中央部から潰れた状態で出土した。

遺物が1点のみであるため詳細は不明だが、甕の形状から6世紀前半のものと考えられる。

第353号土壌 (第206図)

Ⅲ区西寄り、M-21グリッドに位置する。平面形態は不整形で、規模は長径1.28m、短径1.05m、深さ0.28mを測り、長軸方向はN-39°-Eを指す。北側には楕円形の掘り込みが認められる。

遺物は出土しなかった。

遺物が無いため詳細な時期は不明だが、検出面から古墳時代の遺構と考えられる。

第354号土壌 (第206図)

Ⅲ区東寄り、M・N-24グリッドに位置する。平面形態は不整形で、規模は長径2.35m、短径1.06m、深さ0.17mを測り、長軸方向はN-4°-Eを指す。

遺物は土壌の西側からまとまって検出され、土師器高坏・小型壺・壺・甕が出土した(第209図55~59)。55、56は高坏である。55は坏部で、立ち上がり部に明瞭な段を持つ。外面と口縁部内面に縦方向のミガキが施され、内底面には横方向のミガキが施される。56は脚部で外面に縦方向のミガキが施される。

57は小型壺で、外面にミガキが施される。58は複合口縁の壺である。59は甕で、胴部中位に最大径を持ち、やや長くなるものである。

遺物の時期は、土師器高坏や壺・甕の形状から5世紀中葉か。

(6) 遺物集中地点

第1号遺物集中地点 (第210図)

遺物集中は中央調査区東寄りのG・H-11グリッドに位置する。調査段階では、住居跡として扱われていたが、遺構の形が無く、遺物の分布のみが検出されていた状況から、遺物集中と判断した。

遺物はやや高低差をもって分布する。分布図上から図化されたものは埴形土器のみであった。

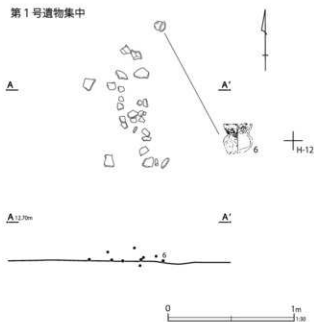
遺物は土師器高坏・埴形土器・壺・甕が出土した(第211図1~8)。1~5は高坏である。2は内面にミガキ、4は内面に刷毛目調整が施される。5は口径が小さいため、小型の高坏か、埴形土器や小型壺等である可能性もある。

6は埴形土器としたが、ミニチュアのような遺物である。小型で底部が大きく歪み、胴部には指頭圧痕が残り、口縁部内面および頸部外面には刷毛目調整、口縁部外面は指ナデが施される。

7は壺である。複合口縁の壺で、胴部が球胴形になる。摩擦により調整は不明瞭であった。

8は甕である。口縁部が長く、口縁部外面に縦

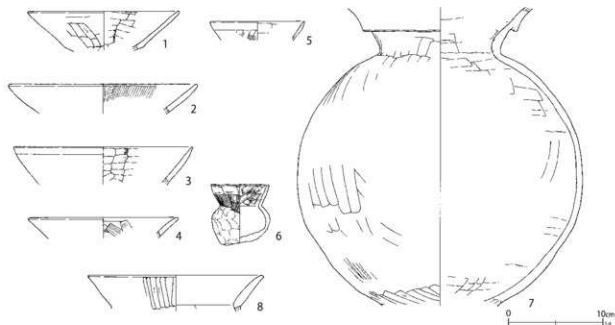
第1号遺物集中



第210図 第1号遺物集中遺物出土状況

方向のヘラケズリが施される。胴部が下膨れになるタイプのものか。

遺物の残存率が低く、詳細な時期は不明だが、大型の高坏が主体であることや、壺等の形状から、5世紀後半~末の遺構と推察される。



第211図 第1号遺物集中出土遺物

第63表 第1号遺物集中出土遺物観察表(第211図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	(15.8)	[4.2]	—	CEHIK	5	普通	明赤褐		
2	土師器	高坏	(19.6)	[3.2]	—	CEHIK	10	普通	赤褐	内面ミガキ	
3	土師器	高坏	(18.8)	[4.0]	—	BCGHIK	5	普通	明赤褐	外面摩耗が激しい	
4	土師器	高坏	(15.6)	[2.2]	—	EI	5	普通	にぶい橙		
5	土師器	高坏	(9.9)	[2.0]	—	CHIK	5	普通	橙		
6	土師器	埴形土器	6.0	6.3	3.7	BHIK	100	普通	にぶい橙	No.2	95-6
7	土師器	壺	—	[31.6]	—	HIK	25	普通	にぶい橙	外面僅付着 内外面共に摩耗が激しい	95-5
8	土師器	甕	(18.2)	[3.8]	—	CEHIK	5	普通	明赤褐		

(7) 河川跡

第1号河川跡(第212～221図)

河川跡は中央調査区西側から検出された。河川跡の南東側には5世紀前半から10世紀前半まで続く集落が展開する一方、北西側は9世紀中葉から後半という、限定的な期間のみ集落が営まれる。

河川跡の本体は第2次調査で検出された範囲になるが、第1次調査時に西側調査区南東角から検出された砂層も、中央調査区で検出された河川跡の延長線上に位置することから、こちらも同一の河川跡と判断した。西側調査区側では範囲確認のみに留まり、中央調査区側で掘り下げを行った。

河川跡は中央調査区西側を北東—南西方向に横断し、規模は、残存部推定長51.00m、推定幅16.80～21.00m、深さ1.80～2.46mを測り、走行方向はN-74°-Eを指す。

覆土は下層から中層にかけて粘質土が堆積し、上層には砂質土が溜まる。検出面では部分的に砂層となっている箇所も認められた。

粘質土中には白色土ブロックや灰色土ブロック、炭化物等が含まれ、5世紀中葉～6世紀初頭にかけての遺物が非常に多く含まれていた。須恵器が非常に少なく、日常雑器の類が主体を占めることから、おそらく破損や劣化により廃棄されたものと考えられる。遺物はいずれも南側の斜面部から検出され、残存率の高い遺物が多く含まれる。坏類は少なく、高坏・埴形土器・壺・甕等が多く出土した。

中央調査区について見ると、遺物は基本的には川の縁から出土し、多少の量的な差はあるが、河川跡が検出された範囲全体から出土している。

遺物の出土状況は、西側からブロックごとに①～⑦に分けた(第213～221図①～⑦)。西側から見ていくと、①からは壺や甕が出土している(第215図①)。遺物の分布は比較的少ないが、形になる壺が3点検出された。いずれも細かく割れた状態であったが、破片はあまり飛散せず、一箇所にまとまった状態で出土した。

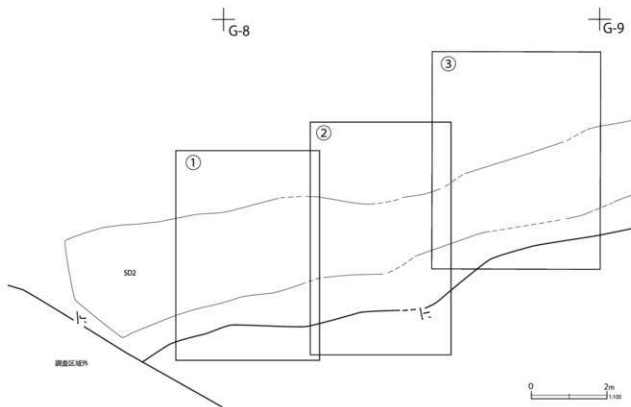
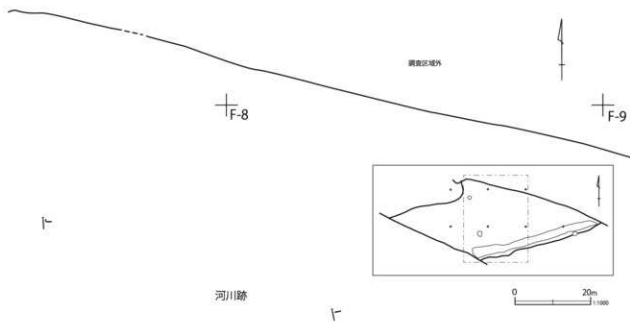
②は坏や高坏、埴形土器、小型壺、壺、甕が出土し(第216図②)、比較的多くの遺物が検出されている。上端から1.00m以内の遺物はやや飛散した状態で検出されているが、上端から3.5m離れて出土した壺(第224図37)はその場で潰れたように形を保った状態で検出された。

③からは遺物が多く検出され、坏、高坏、埴形土器、小型壺、甕等が出土した(第217図③)。上端から2.00m離れた場所から多く検出され、やや飛散している土器もあるが、②と同じくその場で潰れたような形を保ったままの個体が多い。また、この地点は埴形土器が多く出土しているという特徴を持つ。

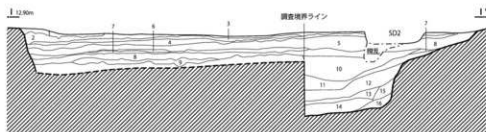
④は唯一対岸から出土した土器である(第214図④)。南側の上端からは16.00m離れており、その場で甕1個体がまとまった状態で検出されている。

⑤は上端より2.00m以内の範囲から遺物が散

宮東遺跡

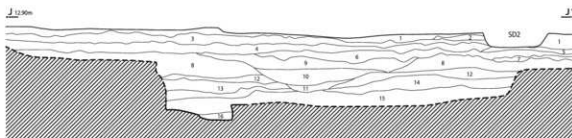


第213図 河川跡 (2)



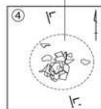
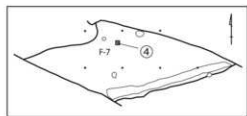
河川跡 (I-I')

- | | | | | | |
|----|--------|-----------|---------|---------------|--------|
| 1 | 暗褐色土 | 砂質 粘性弱 | しまり弱 | 黄褐色砂質ブロックやや多量 | 白色粒子微量 |
| 2 | 黄褐色土 | 砂質 粘性弱 | しまり弱 | 白色粒子微量 | |
| 3 | 黄褐色土 | 砂質 粘性弱 | しまりやや弱 | 白色粒子微量 | |
| 4 | 暗褐色土 | 砂質 粘性弱 | しまり弱 | 白色粒子微量 | |
| 5 | 暗オリーブ土 | 砂質 粘性やや弱 | しまりやや弱 | 白色粒子微量 | |
| 6 | 黄褐色土 | 粘質 粘性強 | しまりやや強 | 白色粒子微量 | |
| 7 | 暗灰色土 | 粘質 粘性強 | しまりやや強 | 暗褐色ブロック少量 | |
| 8 | 暗褐色土 | 粘質 粘性強 | しまり強 | 炭化物少量 | |
| 9 | 暗オリーブ土 | 粘質 粘性強 | しまり強 | 茶褐色砂まだらに微量 | |
| 10 | 暗オリーブ土 | 粘質 粘性極めて強 | しまり極めて強 | 炭化物多量 | |
| 11 | 暗褐色土 | 粘性やや弱 | しまり弱 | 赤褐色ブロック面に多量 | |
| 12 | 黄褐色土 | 粘性強 | しまり強 | 炭化物微量 | |
| 13 | 暗オリーブ土 | 粘性強 | しまり強 | 炭化物微量 | |
| 14 | 暗オリーブ土 | シルト質 粘性強 | しまり強 | 炭化物微量 植物質やや多量 | |
| 15 | 暗オリーブ土 | 粘性強 | しまり強 | 黄褐色ブロック面に多量 | |
| 16 | 暗オリーブ土 | シルト質 粘性強 | しまり強 | 植物質やや多量 | |

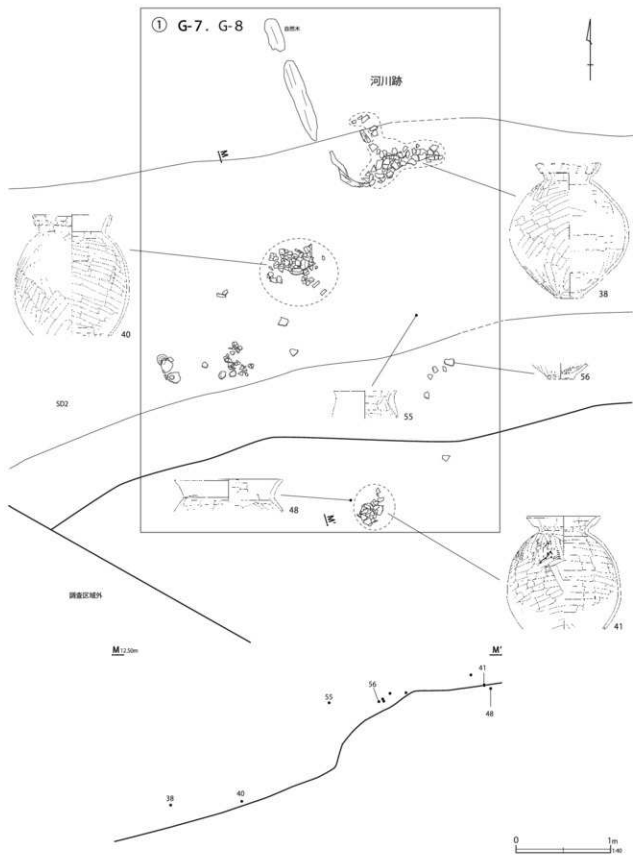


河川跡 (J-J')

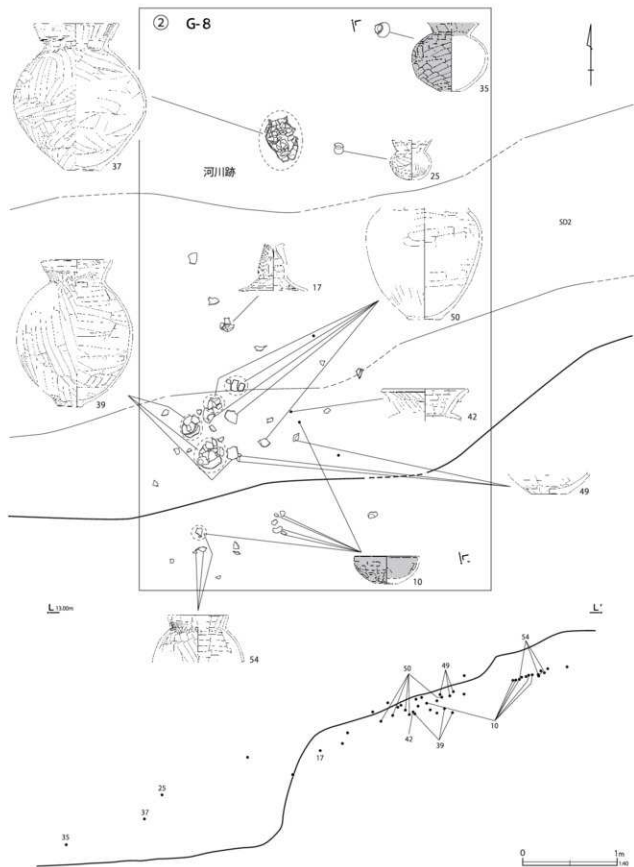
- | | | | | | |
|----|--------|-----------|------|---------------|--|
| 1 | 茶褐色土 | 砂質 粘性弱 | しまり弱 | 白色粒子微量 | |
| 2 | 暗褐色土 | 砂質 粘性弱 | しまり弱 | 白色粒子微量 | |
| 3 | 暗オリーブ土 | 砂質 粘性弱 | しまり弱 | 白色粒子微量 | |
| 4 | 暗褐色土 | 砂質 粘性弱 | しまり弱 | 白色粒子微量 | |
| 5 | 暗褐色土 | 粘質 粘性やや強 | しまり強 | 炭化物・白色粒子微量 | |
| 6 | 暗褐色土 | 粘質 粘性やや強 | しまり強 | 白色粒子微量 | |
| 7 | 暗褐色土 | 粘質 粘性やや強 | しまり強 | | |
| 8 | 暗オリーブ土 | 粘質 粘性やや強 | しまり強 | | |
| 9 | 暗オリーブ土 | 粘質 粘性やや強 | しまり強 | 小礫・白色粒子微量 | |
| 10 | 暗褐色土 | 粘性やや強 | しまり強 | 炭化物少量 | |
| 11 | 暗褐色土 | 粘性強 | しまり強 | 炭化物多量 | |
| 12 | 暗オリーブ土 | 粘性強 | しまり強 | 小礫微量 | |
| 13 | 暗褐色土 | 粘性強 | しまり強 | 炭化物・灰色ブロック微量 | |
| 14 | 暗褐色土 | 粘質 粘性極めて強 | | | |
| 15 | 黄褐色土 | 粘性強 | しまり強 | 炭化物微量 植物質やや多量 | |
| 16 | 暗褐色土 | 粘質土 粘性強 | しまり強 | 白色ブロック少量 | |



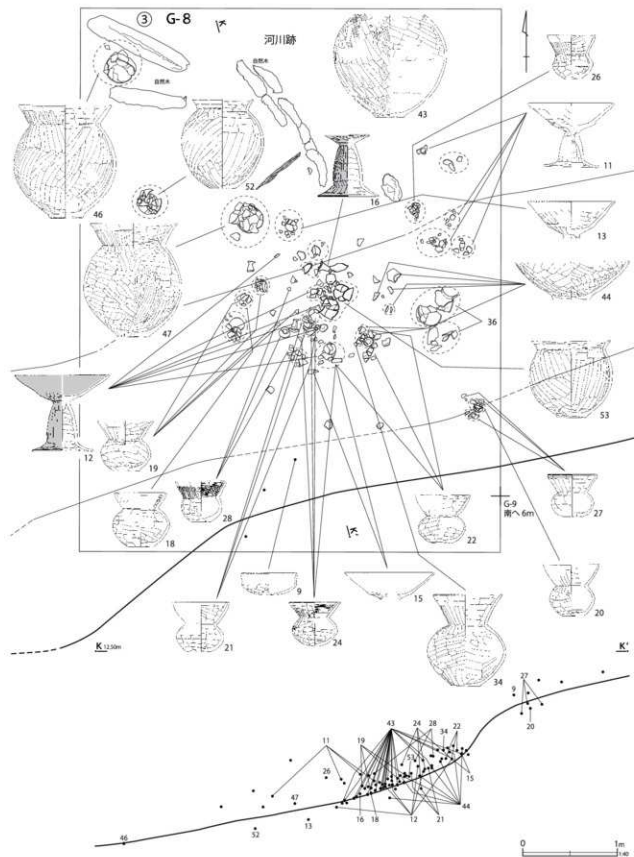
第214図 河川跡 (3)



第215図 河川跡(4)



第216図 河川跡 (5)



第217図 河川跡 (6)

的に検出され、坏、高坏、壺、甕等が出土した(第219図⑤)。遺物はやや飛散した状態であり、2.00~4.00m程離れて接合した遺物も複数認められ、一箇所にまとまった状態で検出されたものは無い。この点は他の場所とは異なり、環境が他とは異なったか、特殊な廃棄方法が行われたと推察される。

⑥はやや遺物が減少し、坏、高坏、埴形土器、鉢、甕等が出土した(第220図⑥)。遺物的には少ないが、上端から斜面にかけて分布する壺(第228図95)は、河川跡から出土したのものの中で最大の壺であり、器形も特殊なものである。95のみ斜面に流れ落ちたような分布傾向を示すが、他の遺物は一箇所にまとまって出土している。

⑦は上端から2.00m程の範囲内で遺物が散在しており、坏、甕、甎等が出土した(第221図⑦)。やや離れて接合するものもあるが、いずれも0.50m以内で接合し、飛散した状況は認められない。また、坏が比較的多く出土している。

以上が各地点の状況である。⑤の地点を除き、遺物はそれぞれまとまった状態で検出されるという特徴が捉えられた。このことは、あまり動きの無い環境下で埋没していったと推察される。

河川には流れがあり、天候によって水量は増減する。豪雨になれば増水して洪水が発生し、壺や甕等の大型の土器であっても、水流によって流され、他の物にぶつかって破損し、散り散りに流されていくと考えられる。川縁とはいえ、よほど草が生い茂っていたというような状況でもなければ、遺物が1つの場所に長期間留まることは少ないと考えられる。

以上のことから、宮東遺跡で検出された河川跡は、河川というよりは池や沼であったか、河川の付近であったとしても長期間水が滞留するような場所であったと推察される。

河川跡は、その後6~7世紀代の遺物はあまり含まれず、上層の砂質土層中から出土した遺物の

年代や、河川跡に沿って掘り込まれる第58号溝跡の時期から、8世紀代には大半が埋没していたと考えられる。

ただし、埋没後も河川跡上に遺構がほぼ分布しないことから、ぬかるみのような状態となり、人が入れる状況では無かったと推察される。9世紀中葉以降に河川の北西側にも住居跡が分布するようになることから、その頃になってようやく地盤が安定したのではないかと考えられる。

また、最上層で検出された砂層は、弘仁地震の際に液状化現象が起きて噴砂が発生し、堆積した砂を、利用不可能な土地となっていた河川跡に廃棄した可能性も考えられる。

遺物は須恵器坏・甕、土師器坏・高坏・埴形土器・鉢・小型壺・壺・甕・小型台付甕、土玉、磨石・白玉、横縄・杭・加工材・建築材等が出土した(第222~232図1~147)。遺物量が多く、検出範囲も30mに及ぶため、グリッド毎にまとめて掲載した。

F-7グリッド

F-7グリッドは河川跡の北東側にあたり、遺物が多く出土している箇所からは対岸に当たる。本グリッドからは、土師器甕が1点出土した(第222図1)。球胴形甕で、胴部中に最大径を持ち、やや胴部が長くなる。

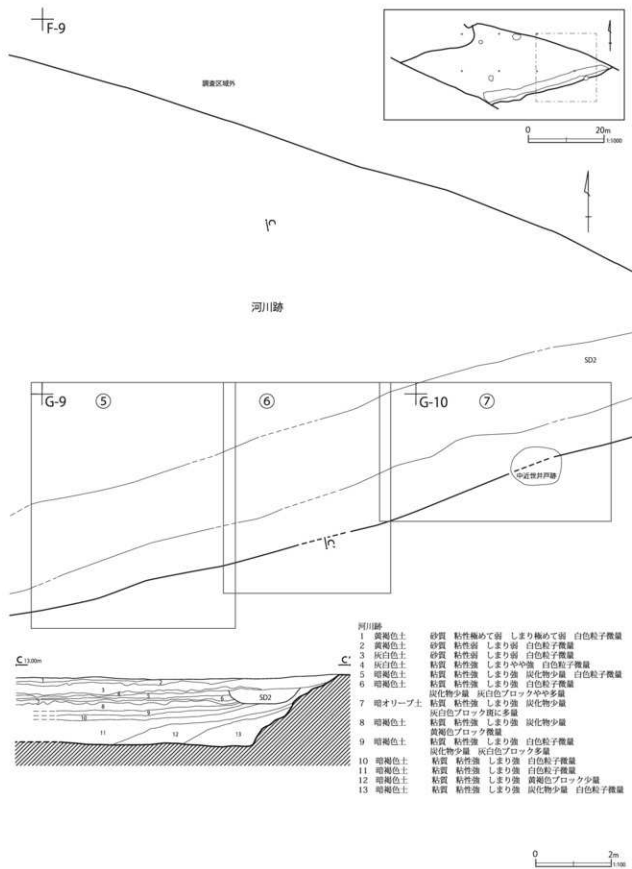
遺物の時期は、甕の形状から5世紀中葉のものと考えられる。

G-7グリッド

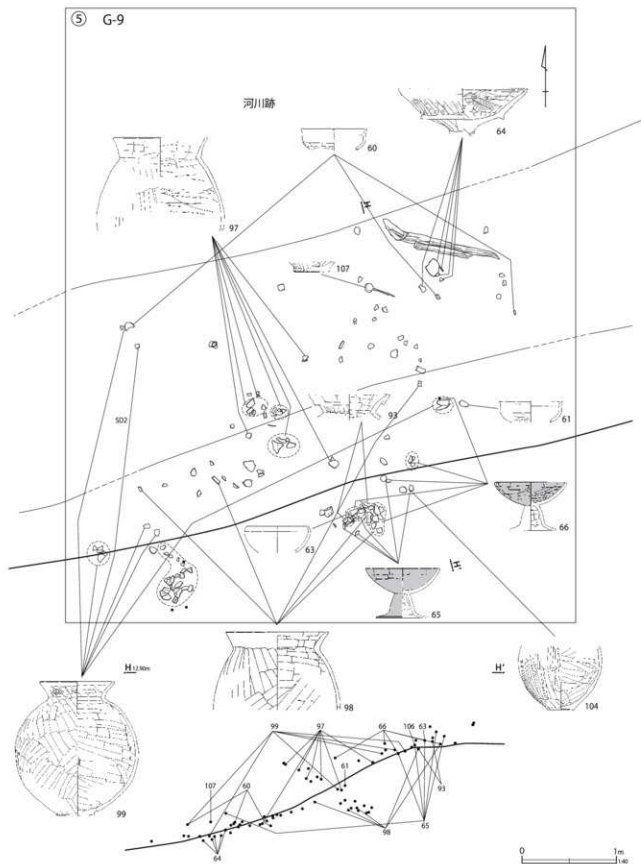
G-7グリッドからは、土師器高坏・甕・甎が出土した(第222図2~7)。2~4は高坏である。2は脚部が直線的に開く。4は内面全体および口縁部外面に赤彩が施される。

5、6は甕である。5は大型で口唇部に面を持つ。6はやや下膨れになるタイプのものか。7は鉢形の甎になると推察される。

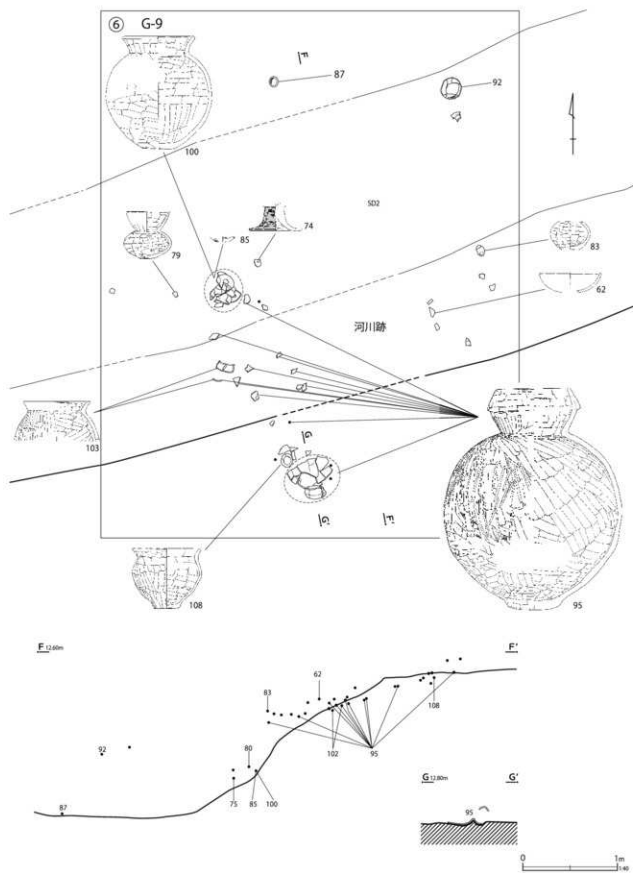
遺物の時期は、高坏や甕の形状から5世紀後半~末と推察される。



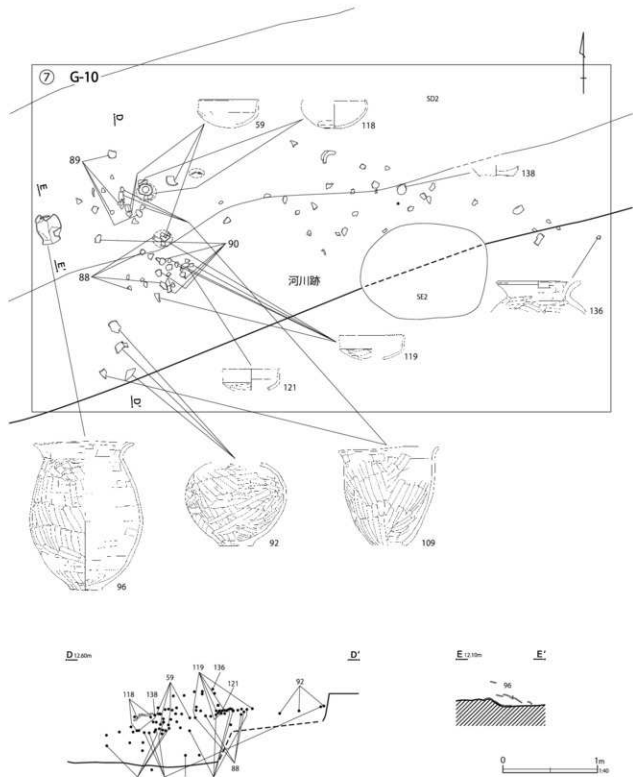
第218図 河川跡 (7)



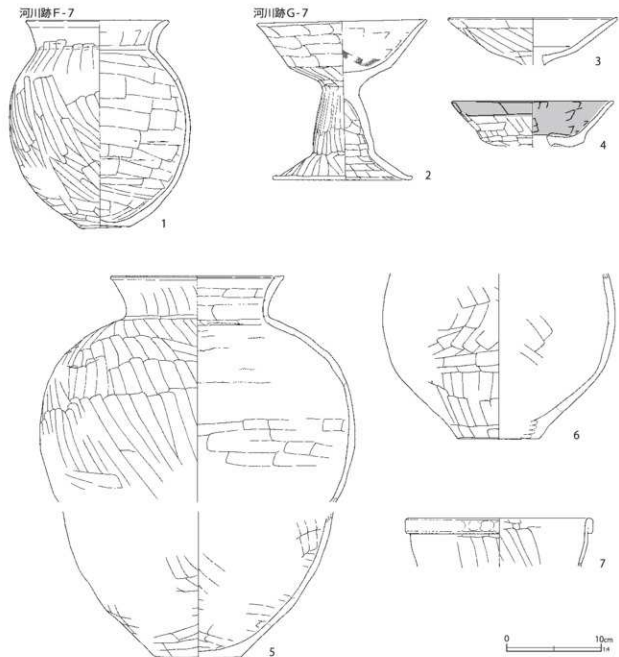
第219図 河川跡 (8)



第220図 河川跡 (9)



第221図 河川跡 (10)



第222図 河川跡出土遺物(1)

G-8グリッド

G-8グリッドからは、土師器杯・高坏・埴形土器・小型壺・壺・甕、土玉が出土した(第223～226図8～57)。8～10は坏である。8、9は坏蓋模倣坏で、口縁部は垂直気味に立ち上がり、8は口唇部に面を持つ。10は半球形坏で、内外面全体に赤彩が施される。

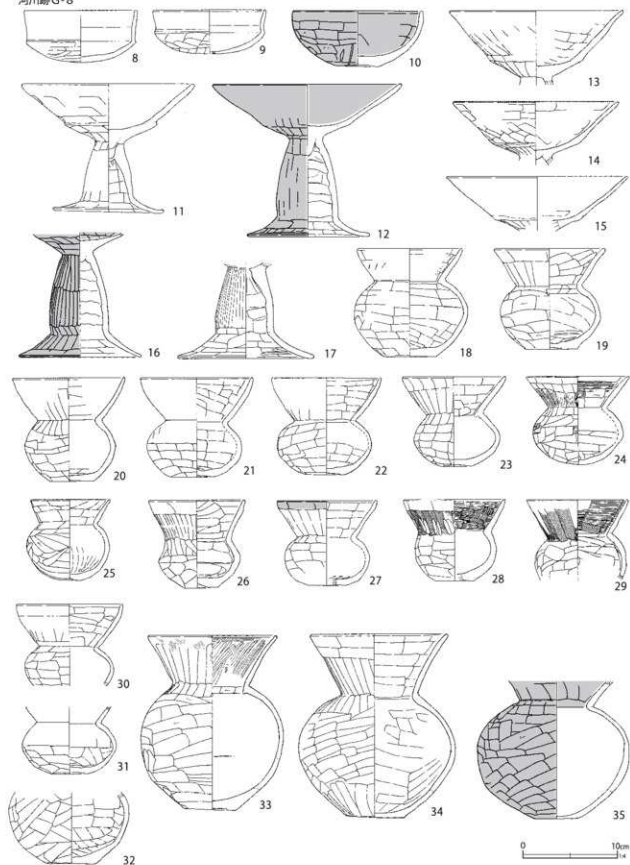
11～17は高坏である。坏部は腰を持たず、脚部

は僅かに膨らみを持つ。12、16は内外面に赤彩が施される。

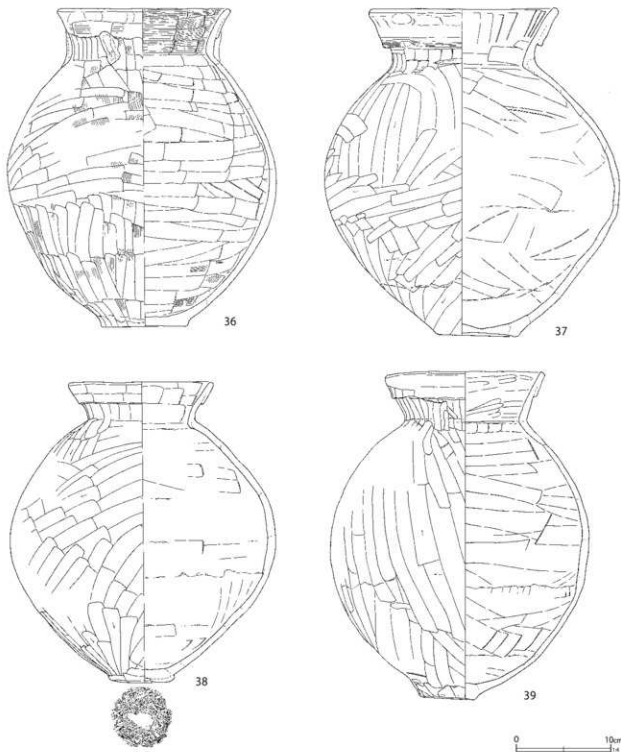
18～31は埴形土器である。完形や残存率の高いものが多い。18、19はやや大型になる。24は底部が丸底になる。26、28はくびれが弱く、やや歪な形となる。28、29は口縁部内外面に刷毛目調整が施される。

32～35は小型壺である。33は口縁部内面に縦方

河川跡G-8



第223図 河川跡出土遺物(2)

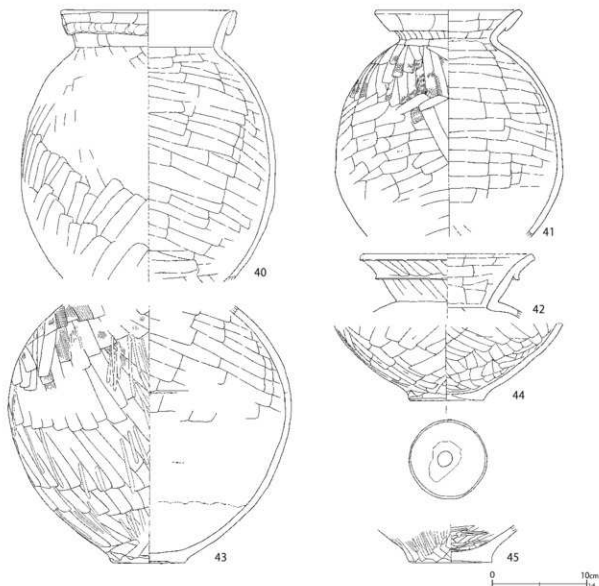


第224図 河川跡出土遺物（3）

向のミガキが施される。35は外面全体と口縁部内面に赤彩が施される。

36～45は壺である。36は複合口縁の壺で、頸部に棒状浮文状の突帯が7本貼付される。突帯の間

隔は不均一である。口縁部内面に横方向の刷毛目調整が施され、胴部内外面にも所々刷毛目調整の痕跡が認められる。37～42は複合口縁の壺である。37、38は胴部が算盤玉形になり、39～41はやや縦



第225図 河川跡出土遺物(4)

長の球胴形になる。43、45は胴部外面の一部に縦方向のミガキが施される。44は底部に穿孔が認められ、胴部上半が打ち欠かれることから、甗等に転用された可能性がある。

46～56は甗である。46、47は口縁部が長く伸びる。51、52は胴部上半に最大径を持つ。55は小型の甗で、頸部が肉厚になる。

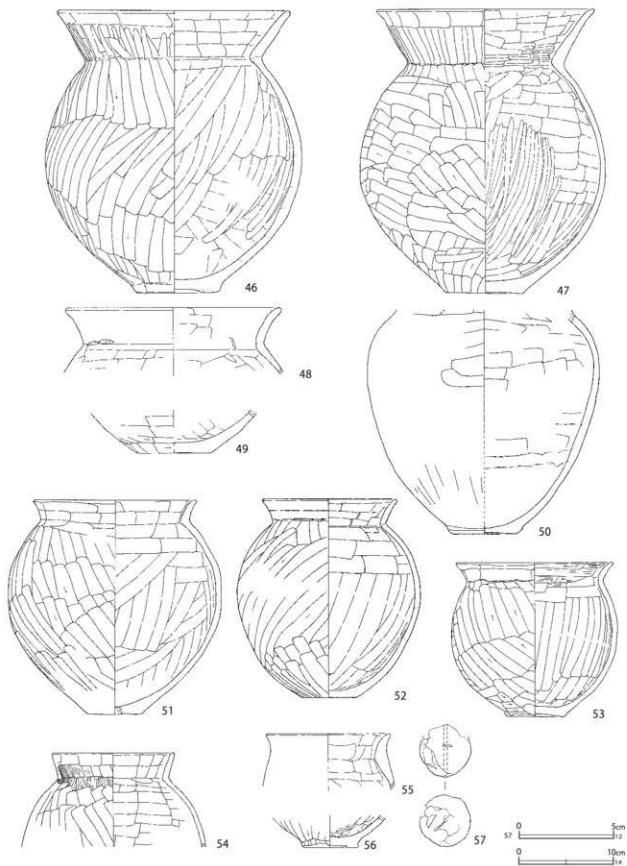
57は土製品の土玉である。

遺物の時期は、坏や高坏、甗の形状から5世紀後半～末と推察される。

G-9グリッド

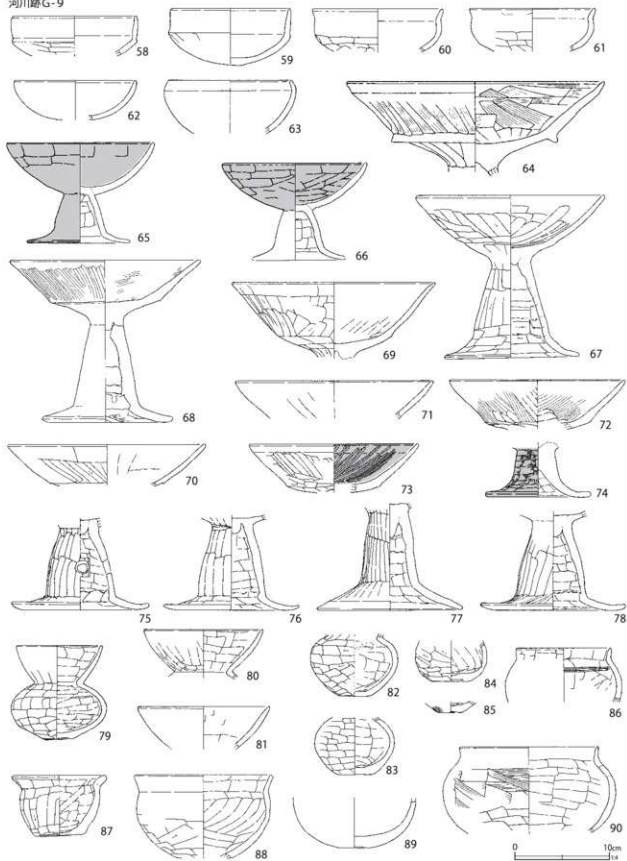
G-9グリッドからは、土師器坏・高坏・埴形土器・鉢・小型壺・壺・甗・甗・磨石・白玉・横槌・杭・加工材・建築材が出土した(第227～230図58～116)。58～63は坏である。58、59は坏蓋模倣坏で、口縁部は直立気味に立ち上がる。60、61は埴形で口縁部が稜をもって外反する。62、63は半球形坏で、63は口縁部が内湾する。

64～78は高坏である。64は大型の坏部で、立ち上がり部に突帯状の段を持ち、内外面に刷毛目調整が施される。65、66は小型の高坏で、65は内外

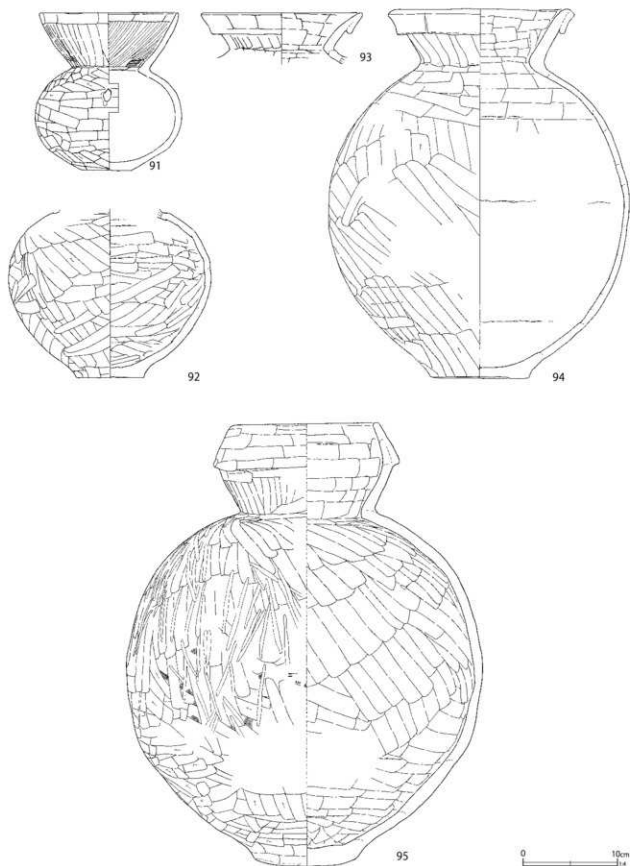


第226図 河川跡出土遺物(5)

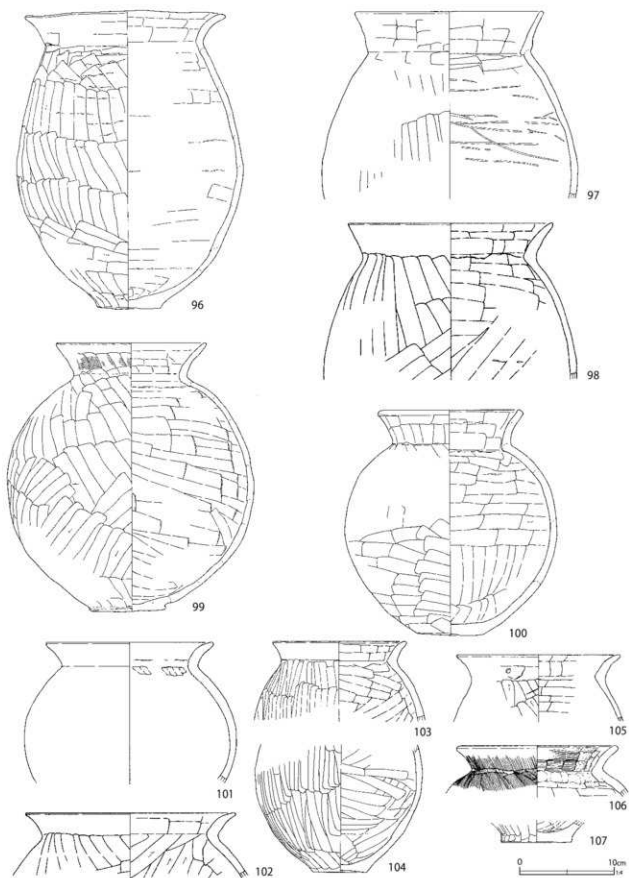
河川跡G-9



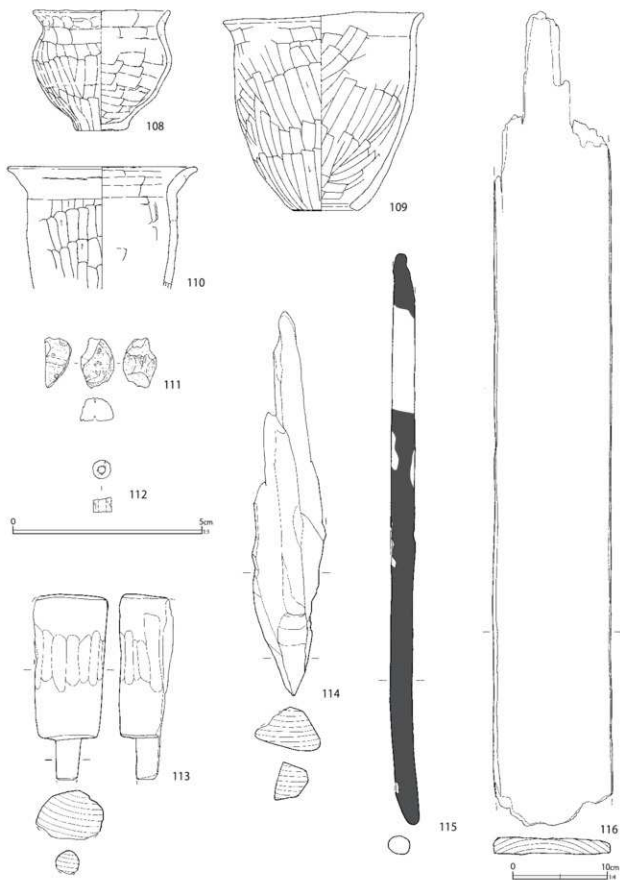
第227図 河川跡出土遺物(6)



第228図 河川跡出土遺物（7）

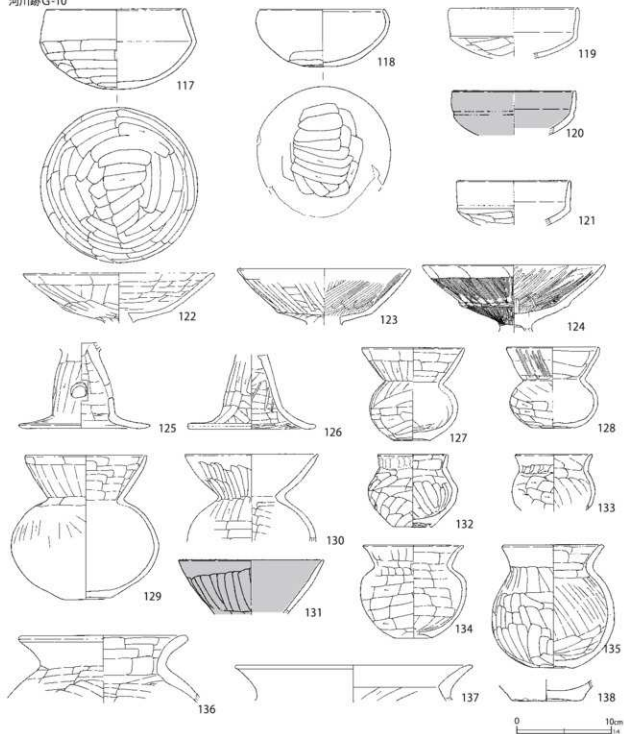


第229図 河川跡出土遺物(8)



第230図 河川跡出土遺物(9)

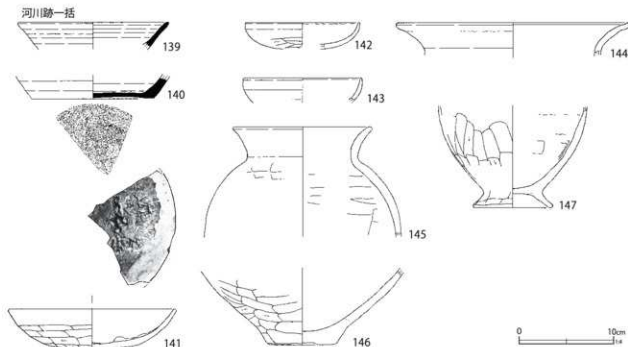
河川跡G-10



第231図 河川跡出土遺物(10)

面、66は坏部の内外面に赤彩が施される。67、68は脚部が直線的に開き、68は坏部外面に縦方向のミガキが施される。72は内外面にミガキが施される。73は内面に赤彩が施され、縦方向のミガキが

施される。74は脚部上半が中実状になるもので、外面に赤彩が施される。75、76、78は脚部が僅かに膨らみを持ち、75は脚部中位に2孔の穿孔が施される。77は脚部が直線的に開く。



第232図 河川跡出土遺物 (11)

79～85は埴形土器である。79は胴部が扁平な算盤玉形になる。86～90は鉢である。86、90は口縁部が垂直気味に立ち上がり、87、88は開く。

91、92は小型壺である。91は口縁部内面にミガキが施され、胴部中位に二次穿孔が穿たれる。92は胴部のみだが、やや大型になる。93～95は壺である。93、94は複合口縁の壺で、94は胴部がやや縦長の球胴形になる。95は大型の壺で、口縁部が「く」の字状に屈曲する。外面はヘラナデ後に一部ミガキが施され、器壁が厚く重い。東九州地方の安国寺式土器に祖型が求められるが、胎土に角閃石を含むことから在地の製品と考えられ、時期や調整方法も異なるため直接的な影響があったのかは不明である。

96～108は壺である。96は胴部が長く、やや下膨れになる。97、98も下膨れになるタイプのものか。99～101は球胴形壺で、綺麗な球形になる。103～105はやや小型の壺で、胴部がやや長くなる。106は内外面に刷毛目調整が施される。108は小型の壺で、歪みが強い。

109は壺形で単孔式の甗である。110も同様の

器形になると推察される。

111、112は石製品である。111は軽石製の磨石である。112は白玉で、凝灰岩製か。

113～116は木製品である。113は横槌で、裏面および握部の先端を欠損し、一部炭化している。敲打部は長さ15.3cm、残存幅7.2cm、握部は残存長さ4.3cm、幅2.7cmを測る。敲打部の中央には長さ4.5～8.6cm、幅1.5cm程の使用痕が廻る。114は杭で、分割材の先端を加工して使用している。115は加工材で、全体的に炭化している。116は建築部材で、板材である。

遺物の時期は、坏や甗の形状から、5世紀中葉～末と考えられる。

G-10グリッド

G-10グリッドからは、土師器坏・高坏・埴形土器・鉢・小型壺・甗が出土した(第231図117～138)。117～121は坏である。117、119～121は坏蓋模倣坏で、120は内外面に赤彩が施される。122～126は高坏である。123は内面にミガキ、124は内面に縦方向のミガキ、外面は刷毛目調整が施される。125は脚部中央に2孔の穿孔が

第64表 河川跡出土遺物観察表 (第222~232図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	14.8	22.1	5.0	C E H I K	80	普通	にぶい褐	G7 Na1 外面黒斑有り	95-7
2	土師器	高坏	17.8	16.8	14.3	C E H I K	85	普通	橙	G7 Na1・2 内外面黒斑有り 坏部内底面の剥離が激しい	95-8
3	土師器	高坏	(17.7)	[5.0]	—	C E I K	30	普通	明赤褐	G7	
4	土師器	高坏	16.9	[4.9]	—	I K	50	普通	灰褐	G7 内外面赤彩 調整が雑で歪みが激しい 内外面黒斑有り	
5	土師器	甕	(18.2)	[24.0]	—	E H I K	35	普通	にぶい橙	G7	
	土師器	甕	—	[15.6]	9.0	E H I K	25	普通	にぶい黄橙	G7 外面黒斑有 煤付着 外面黒色化	
6	土師器	甕	—	[17.5]	(8.6)	E H I K	20	普通	にぶい赤褐	G7 Na3・4 内外面煤付着 内外面共に摩耗が激しい	
7	土師器	瓶か	(19.2)	[5.2]	—	C H I K	5	普通	にぶい褐	G7	
8	土師器	坏	—	5.5	—	H I K	45	普通	赤褐	G8	
9	土師器	坏	(11.7)	[4.7]	—	C H I K	25	普通	赤褐	G8 河川跡No.70	
10	土師器	坏	13.6	5.9	4.5	E H I K	75	普通	にぶい橙	G8 河川跡No.3・76・79・80・82・83 内外面赤彩 外面刀物痕有り	95-9
11	土師器	高坏	17.9	13.7	11.5	C E I K	75	普通	橙	G8 河川跡No.29・64・65・149 内外面共に摩耗	
12	土師器	高坏	(19.6)	16.2	12.5	C E H I K	50	普通	にぶい褐	G8 Na36・43・47・136・153・158 内外面赤彩 内外面共に摩耗	96-1
13	土師器	高坏	(18.2)	[7.9]	—	C E H I K	50	普通	にぶい褐	G8 Na151 内外面黒斑有り	
14	土師器	高坏	(17.3)	[6.7]	—	E H I K	65	普通	にぶい黄橙	G8 内外面摩耗	
15	土師器	高坏	(19.0)	[5.8]	—	C H I K	30	普通	にぶい橙	G8 Na36・38 外面被熱か 内外面共に摩耗が激しく調整は不明瞭	
16	土師器	高坏	—	[13.2]	(12.6)	C H I K	75	普通	にぶい赤褐	G8 河川跡No.119 内外面赤彩	
17	土師器	高坏	—	[10.2]	14.0	C E I K	80	普通	にぶい黄橙	G8 河川跡No.27 内外面煤付着	
18	土師器	増形土器	10.9	11.4	5.5	C H I K	75	普通	にぶい赤褐	G8 Na60 外面黒斑有り	96-2
19	土師器	増形土器	11.6	10.6	5.6	E H I K	80	普通	にぶい橙	G8 Na56・57・59・60 外面黒斑有り	96-3
20	土師器	増形土器	11.7	10.9	4.6	H I K	45	普通	灰黄褐	G8 Na111	96-4
21	土師器	増形土器	11.7	10.5	4.7	C E H I K	85	普通	にぶい赤褐	G8 Na46・48・49 外面黒斑有り 外面上半摩耗	96-5
22	土師器	増形土器	11.4	10.2	4.1	C E H I K	95	普通	橙	G8 Na32・33・36 河川跡No.23 外面黒斑有り	96-6
23	土師器	増形土器	10.7	9.5	3.2	E H I K	100	普通	明赤褐	G8 河川跡No.11 外面黒斑有り	96-7
24	土師器	増形土器	10.9	9.3	—	C E H I K	95	普通	にぶい赤褐	G8 Na36・44・48・50 外面黒斑有り	96-8
25	土師器	増形土器	8.3	8.5	1.7	C E H I K	100	良好	にぶい褐	G8 Na68 外面黒斑有り	96-9
26	土師器	増形土器	10.0	9.3	3.6	C E H I K	95	普通	明赤褐	G8 Na67	96-10
27	土師器	増形土器	10.4	8.9	(3.6)	C E H I K	50	普通	にぶい橙	G8 Na116・117・118 河川跡No.15 口縁部外面赤彩	97-1
28	土師器	増形土器	10.6	8.6	(4.0)	C E H I K	85	普通	にぶい橙	G8 Na41・42・55 外面下半黒斑化	97-2
29	土師器	増形土器	10.5	[8.5]	—	C H I K	90	普通	橙	G8 Na14 内外面黒斑有り	
30	土師器	増形土器	11.1	[8.7]	—	E I K	80	普通	明褐	G8 Na13 内外面共に下半が黒色化している	
31	土師器	増形土器	—	[7.1]	4.0	C E H I K	75	普通	橙	G8 河川跡No.17	
32	土師器	小型壺	—	[7.6]	5.0	E H I K	80	普通	橙	G8 河川跡No.12 外面黒斑有り	
33	土師器	小型壺	13.3	18.5	5.5	C E H I K	90	普通	橙	G8 Na28 外面黒斑有り	97-3
34	土師器	小型壺	14.2	19.4	6.1	C E H I K	80	普通	橙	G8 河川跡No.13・18・19・24 外面黒斑有り	97-4
35	土師器	小型壺	—	[14.6]	5.0	E H I K	95	普通	赤褐	G8 河川跡No.8 内外面赤彩 外面黒斑有り	97-5
36	土師器	壺	17.7	33.7	9.0	C H I K	90	普通	にぶい黄橙	G8 河川跡No.10・12・15・20・21・66 頸部に棒状浮文が7個貼付	97-6
37	土師器	壺	19.0	34.6	8.0	C E H I K	90	普通	にぶい赤褐	G8 河川跡No.26 歪み有り 外面黒斑有り 外面胴部中に煤付着	97-7
38	土師器	壺	(14.7)	31.6	6.8	C D E H I K	75	普通	にぶい橙	G8 河川跡No.120 外面黒斑有り	97-8

宮東遺跡

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
39	土師器	壺	16.0	34.6	4.9	CEHIK	60	普通	橙	G8 №95・96・101 外面下端から底部にかけて黒斑有り	98-1
40	土師器	壺	(18.0)	[28.7]	—	CHIK	25	普通	にぶい黄橙	G8 №146 G7№5 外面黒斑有り	
41	土師器	壺	(15.0)	[24.0]	—	CEHIK	35	普通	橙	G8 №85 外面黒斑有り	
42	土師器	壺	(18.0)	[6.8]	—	CEHIK	15	普通	橙	G8 河川跡№4	
43	土師器	壺	—	[27.2]	7.6	EHIK	40	普通	橙	G8 №35・36・38・40・52・126～129・131～134・136～143・154～156・158 外面黒斑有り	
44	土師器	壺	—	[8.1]	7.5	CEHIK	90	普通	明赤褐	G8 №22・23・34・35・121～123・125 底部穿孔 胴部上半意図的に打ち欠いたか 壺転用瓶か	98-2
45	土師器	壺	—	[4.0]	8.6	BEIK	50	普通	灰褐	G8 外面全体煤付着	
46	土師器	壺	24.4	29.9	8.5	CHIK	90	普通	にぶい赤褐	G8 河川跡№9 内外面共に煤付着	98-3
47	土師器	壺	22.9	22.7	8.1	CDHIK	85	普通	灰褐	G8 №145 外面煤付着	98-4
48	土師器	壺	(22.4)	[7.1]	—	BCEHIK	20	普通	橙	G8 河川跡№1	
49	土師器	壺	—	[4.6]	7.7	EHIK	20	普通	にぶい赤褐	G8 №97・98・110	
50	土師器	壺	—	[23.7]	6.6	BCEHIK	40	普通	橙	G8 №104～108 外面黒斑有り	
51	土師器	壺	(16.8)	22.7	(5.7)	IK	50	普通	暗褐	G8	98-5
52	土師器	壺	14.0	21.0	5.7	CEHIK	95	普通	にぶい赤褐	G8 №150 外面上半および内底面煤付着	98-6
53	土師器	壺	16.3	16.3	5.9	HIK	95	普通	赤褐	G8 №53 内外面黒斑有り	98-7
54	土師器	壺	(12.8)	[10.1]	—	EIK	30	普通	にぶい橙	G8 №74・75・76 口縁部歪み有り	
55	土師器	壺	(13.0)	[6.0]	—	CEHIK	25	普通	橙	G8 河川跡№2 内外面煤付着 外面摩耗、剥離が激しく調整は不明瞭	
56	土師器	壺	—	[3.4]	4.5	EHIK	50	普通	にぶい橙	G8 №92	
57	土製品	土玉	最大高[2.8]	径0.2	孔径2.7	重さ11.6g		普通	橙	G8	102-1
58	土師器	坏	(13.0)	[4.2]	—	HIK	15	普通	橙	G9 外面摩耗	
59	土師器	坏	12.5	6.1	—	EHIK	70	普通	明赤褐	G9 №29・30 G10№4・41 外面摩耗	98-8
60	土師器	坏	(13.6)	[4.5]	—	CHIK	30	普通	橙	G9 №23・113・119 内面摩耗	
61	土師器	坏	(13.2)	[4.6]	—	CEIK	25	普通	明赤褐	G9 №73 外面黒斑 口唇内縁摩耗	
62	土師器	坏	(12.6)	[4.2]	—	EHI	40	普通	明赤褐	G9 №96	
63	土師器	坏	(13.0)	[5.6]	—	CEIK	20	普通	赤褐	G9 №61	
64	土師器	高坏	22.1	[7.8]	—	CEHIK	60	普通	にぶい赤褐	G9 №108・109・110・111・112 口縁部内外面に煤付着	
65	土師器	高坏	15.4	10.6	10.6	CEHIK	65	普通	にぶい赤褐	G9 №22・59・61・62・68・70 内外面赤彩 内外面摩耗 調整不明瞭	98-9
66	土師器	高坏	15.0	10.3	(9.2)	CEHIK	70	普通	にぶい橙	G9 №4・61・64・68・71 坏部内外面赤彩 脚部外面摩耗 調整不明瞭	99-1
67	土師器	高坏	19.6	17.3	13.8	CEHIK	85	普通	赤褐	G9 内面摩耗	99-2
68	土師器	高坏	19.8	17.2	13.9	IK	95	普通	明赤褐	G9 全面的に摩耗	
69	土師器	高坏	21.3	[8.1]	—	EHIK	70	普通	明赤褐	G9 外面黒斑有り	
70	土師器	高坏	(20.6)	[4.4]	—	EHIK	15	普通	にぶい橙	G9 外面黒斑有り	
71	土師器	高坏	(20.7)	[4.0]	—	CEHIK	15	普通	橙	G9	
72	土師器	高坏	(18.4)	[5.2]	—	CEHIK	30	普通	橙		
73	土師器	高坏	(17.6)	[5.2]	—	EIK	35	普通	橙	G9 内面赤彩 外面黒斑有り	
74	土師器	高坏	—	[5.8]	(11.2)	EHIK	75	普通	にぶい橙	G9 №25 外面赤彩	
75	土師器	高坏	—	[9.7]	14.6	CEHIK	70	普通	にぶい赤褐	G9 2孔	99-3
76	土師器	高坏	—	[10.0]	14.4	BEIK	85	普通	明赤褐		
77	土師器	高坏	—	[11.2]	15.4	CEIK	50	普通	にぶい橙	G9 外面黒斑	
78	土師器	高坏	—	[10.5]	(15.4)	BCEHIK	55	普通	にぶい橙		
79	土師器	増形土器	8.9	10.0	3.0	CEHIK	80	普通	橙	G9 №26 外面黒斑有り 内面頸部より下が黒色化	99-4
80	土師器	増形土器	(12.5)	[5.2]	—	EIK	40	普通	にぶい橙	G9 外面煤付着	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
81	土師器	埴形土器	(13.8)	[4.5]	—	CEHIK	25	普通	にぶい橙	G9 外面黒斑有り 内外面摩耗	
82	土師器	埴形土器	—	[6.6]	3.6	CEHIK	95	普通	橙	G9 外面摩耗	
83	土師器	埴形土器	—	[6.1]	3.5	CEIK	45	普通	明赤褐	G9 №98 外面黒斑有り 内面黒色化	
84	土師器	埴形土器	—	[4.3]	4.1	CEHIK	55	普通	明赤褐	G9	
85	土師器	埴形土器	—	[1.3]	2.5	CHIK	80	普通	にぶい橙	G9 №20 外面黒斑有り	
86	土師器	鉢	(9.8)	[5.7]	—	CHIK	25	普通	明赤褐	G9 外面の摩耗が激しく調整は不明瞭	
87	土師器	鉢	9.6	6.5	4.9	CEIK	100	普通	にぶい橙	G9 №15	99-5
88	土師器	鉢	14.2	8.8	(5.7)	HIK	70	普通	にぶい橙	G9 №14・105 G10 №40・42・58 外面被熱か	99-6
89	土師器	鉢	—	[5.3]	3.1	CEIK	45	普通	明赤褐	G9 №32・36・42 G10 №8 外面 被熱 摩耗	
90	土師器	鉢	(14.6)	[9.2]	—	EIK	40	普通	明赤褐	G9 №37 G10 №45・50・55・57 外面被熱 摩耗	
91	土師器	小型壺	14.6	16.7	5.5	EHIK	100	普通	にぶい赤褐	G9 胴部穿孔か 外面胴部下煤付着	99-7
92	土師器	小型壺	—	[17.8]	7.2	CEHIK	65	普通	にぶい橙	G9 №13・17・102・103・104 外面 黒斑有り	
93	土師器	壺	(16.8)	[5.4]	—	CIK	25	普通	にぶい橙	G9 №60・63	
94	土師器	壺	16.0	39.2	10.3	CDEHIK	80	普通	にぶい橙	G9 口縁複合部に縦方向の切れ込みが 4箇所認められる 外面黒斑有り	99-8
95	土師器	壺	15.2	46.8	10.8	CEHIK	75	普通	橙	G9 №6・11・21・47・49・52・54— 56 外面黒斑有り	99-9
96	土師器	甕	20.5	31.6	6.7	ACEHK	95	普通	にぶい橙	G9 №24 外面下煤付着	100-1
97	土師器	甕	(19.4)	[18.0]	—	EIK	40	普通	にぶい褐	G9 №65・72・85・88・89・92・130 内面ヘラの痕跡 内外面煤付着	
98	土師器	甕	(15.4)	[12.0]	—	BCEIK	50	普通	橙	G9 №3・64・74・78・120 外面 黒斑有り	
99	土師器	甕	(15.6)	28.8	7.8	CHIK	70	普通	灰褐	G9 №1・2・3・12・23・27・44・ 45・46・93 外面黒斑有り	100-2
100	土師器	甕	14.3	23.8	7.0	CEHIK	90	普通	にぶい橙	G9 №20 外面煤付着 胴部外面上 煤付着が激しい	100-3
101	土師器	甕	(17.4)	[15.0]	—	EHI	50	普通	明赤褐	G9 外面煤付着 摩耗調整は不明瞭	
102	土師器	甕	(16.9)	[5.3]	—	EIK	20	普通	にぶい褐	G9 外面煤付着	
103	土師器	甕	13.9	[8.5]	—	CEHIK	45	普通	にぶい赤褐	G9 №48・49	
104	土師器	甕	—	[13.5]	5.6	CHIK	50	良好	にぶい橙	G9 河川跡№7 外面黒斑有り	
105	土師器	甕	(17.2)	[7.1]	—	BEHIK	10	良好	にぶい赤褐	G9 種子圧痕有り	
106	土師器	甕	(16.4)	[5.4]	—	CEIK	40	普通	明赤褐	G9	
107	土師器	甕	—	[2.4]	7.4	CEHIK	65	普通	にぶい褐	G9 №135 内面煤付着	
108	土師器	甕	14.1	12.7	5.3	BEGHIK	100	普通	橙	G9 №10	100-4
109	土師器	甕	(20.9)	20.5	6.5	EIK	65	普通	橙	G9 №3・34・35・101 G10 №7 外 面黒斑有り	100-5
110	土師器	甕	(19.6)	[13.0]	—	AEHIK	15	普通	にぶい褐	G9 黒・金雲母を多く含む	
111	石製品	磨石	長さ5.3	幅3.5	厚さ2.8	重さ11.5g				軽石 自然面遺存 2面形成	102-6
112	石製品	白玉	孔径0.2	直径0.5	高さ0.4	重さ0.2g				G10№10 凝灰岩か 側面線条痕多数	102-6
113	木製品	横樋	長さ[19.6]	幅[7.8]	厚さ[5.7]					分割材	102-8
114	木製品	杭	長さ[38.5]	幅6.7	厚さ4.2					分割材 上部炭化欠損	
115	木製品	加工材	長さ[60.2]	幅2.5	厚さ1.9					炭化	
116	木製品	建築部材	長さ[85.7]	幅12.6	厚さ1.8					板目	
117	土師器	坏	14.5	8.6	—	HIK	95	普通	にぶい橙	G10	100-6
118	土師器	坏	13.1	6.1	—	CHIK	80	普通	明赤褐	G10 №3・6 外面黒斑有り 外面の 摩耗、剥離が激しい	100-7
119	土師器	坏	13.4	[5.3]	—	CHIK	40	普通	にぶい橙	G10 №40・46・47・53・59	100-8
120	土師器	坏	(13.0)	[4.7]	—	HIK	25	普通	にぶい橙	G10 内外面赤彩	
121	土師器	坏	(12.0)	[4.7]	—	CHIK	20	普通	橙	G10 №51	
122	土師器	高坏	20.2	[5.3]	—	HIK	70	普通	にぶい赤褐	G10	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
123	土師器	高坏	(18.0)	[6.0]	—	E H I K	50	普通	にぶい赤褐	G10 内外面黒斑有り	
124	土師器	高坏	19.2	[7.0]	—	C E H I K	95	普通	橙	G10 外面黒斑有り	
125	土師器	高坏	—	[9.1]	(13.9)	C H I K	65	普通	にぶい橙	G10 2孔	101-1
126	土師器	高坏	—	[7.9]	12.7	C E H I K	85	普通	橙	G10	
127	土師器	埴形土器	10.7	9.8	3.8	E H I K	95	普通	にぶい赤褐	G10	100-9
128	土師器	埴形土器	9.7	8.6	4.3	C E I K	95	普通	にぶい赤褐	G10 外面黒斑有り	101-2
129	土師器	埴形土器	12.6	15.3	4.6	C E H I K	75	普通	にぶい褐	G10 大型 外面黒斑有り	101-3
130	土師器	埴形土器	(14.0)	[9.3]	—	E I K	15	普通	橙	G10	
131	土師器	埴形土器か	(15.2)	[5.8]	—	C H I K	25	普通	にぶい褐	G10 内外面赤彩	
132	土師器	鉢	(7.3)	7.7	4.0	C E H I K	45	普通	橙	G10 外面黒斑有り	
133	土師器	鉢	(8.0)	[6.0]	—	C E H I K	25	普通	明赤褐	G10	
134	土師器	壺	10.4	9.9	(3.9)	C H I K	50	普通	にぶい橙	G10	101-4
135	土師器	小型壺	10.2	13.0	4.5	E H I K	95	普通	明赤褐	G10 外面黒斑有り	101-5
136	土師器	甕	(17.4)	[7.1]	—	E H I K	30	普通	にぶい赤褐	G10 №1	
137	土師器	甕	(24.8)	[3.9]	—	C E H I K	5	普通	にぶい橙	G10 内外面煤付着	
138	土師器	甕	—	[2.2]	7.6	C E H I K	80	普通	橙	G10 №22	
139	須恵器	坏	(15.8)	[2.9]	—	I K	10	普通	灰白		
140	須恵器	甕	—	[2.6]	(13.0)	D E I K	15	良好	灰	底部に降灰状のものが付着	
141	土師器	坏	(17.7)	4.2	—	C I K	25	普通	赤褐	内面煤付着	101-6
142	土師器	坏	(12.0)	[2.8]	—	C E H I K	15	普通	橙	内面の摩耗が激しい	
143	土師器	坏	(12.4)	[2.6]	—	C E H I K	5	普通	橙		
144	土師器	甕	(24.4)	[3.6]	—	C E H I K	10	普通	橙		
145	土師器	甕	(14.4)	[11.7]	—	D E I K	20	普通	にぶい黄褐	外面煤付着 石英と長石を多量に含む	
146	土師器	甕	—	[8.2]	7.4	E H I K	30	普通	にぶい褐	145と同一個体か、外面被熱内面煤付着	
147	土師器	小型台付甕	—	[10.8]	(8.2)	C H I K	50	普通	にぶい橙	F6 脚部の調整が雑で歪みが強い	101-7

施される。127～131は埴形土器である。128は口縁部外面に縦方向のミガキ、131は内外面に赤彩が施される。

132、133は鉢である。器形は埴形土器に似るが、口縁部が短い。134、135は小型壺、136～138は甕である。甕類は少なく、形のわかるものは無い。

遺物の時期は、坏や高坏の形状から、5世紀末～6世紀初頭か。

河川跡一括

河川跡一括とした遺物は、主に上層の砂質土や砂層から出土したものである。須恵器坏・甕、土師器坏・甕・小型台付甕等が出土した(第232図139～147)。139、140は須恵器である。139は坏で、口径が大きいため8世紀前半のものと推察される。140は甕の底部である。

141～146は土師器である。141～143は北武蔵

型の坏である。いずれも扁平で浅い。141は内面に漆の皮膜状のものが付着する。

144～146は甕である。144は口縁部に最大径を持つタイプのもので推察される。147は砂層上から出土したもので、小型台付甕である。台部は歪みが強く、短い。

遺物の時期は、須恵器坏や土師器坏・甕の形状から8世紀前半と推察され、その頃に河川跡が完全に埋没したのと考えられる。ただし、8世紀段階で河川跡に沿って溝跡が掘り込まれていることから、8世紀の時点でも河川跡があったことが認識できる状態であったと考えられる。

河川跡上や河川跡の西側に住居跡が造られるようになるのは9世紀中葉以降であり、埋没後もしばらくは生活の場にはならなかったと推察される。

(8) 遺構外出土遺物

宮東遺跡は、地山と覆土が同色同質かつ鉄分を多く含む土壌であり、遺構の検出が非常に難しかったことから、排水溝を兼ねたトレンチの掘削と、0.05～0.10m程の単位での面下げを度々行った。その結果、掘り下げに伴い、遺構検出前に多くの遺物が調査区一括やグリッド一括遺物として取り上げられた。

残存率が高い遺物の多くは、周辺に位置する住居跡等の遺構遺物と接合したが、中には接合しなかった個体もあったため、それらのうち器形がわかるものをまとめて第233図に図示した(第233図1～10)。

H-12グリッドからは、土師器埴形土器・壺を抽出した(第233図1～3)。1、2は埴形土器で、胴部は球形になる。5世紀代のものか。3は壺の口縁部か。

J-14グリッドからは、土師器高杯を抽出した(第233図4)。4は高杯の脚部で、僅かに膨らみを持ち、外面には赤彩が施される。脚部形状から5世紀中葉と考えられる。

L-18グリッドからは、土師器甕を抽出した(第233図5)。5は小型甕である。器壁はやや薄く、胴部は球胴形になる。

L-21グリッドからは、土師器壺を抽出した(第233図6)。6は複合口縁の壺で、胴部外面には縦方向のミガキが施され、口縁部下半には皺状痕が認められる。複合口縁であることや外面にミガキが施されることから5世紀代のものと考えられる。

L-22グリッドからは、土師器杯を抽出した(第233図7)。7は杯である。厚手で底部は丸底になり、口縁部は大きく開く。器形から7世紀代

のものと考えられる。

N-23グリッドからは、須恵器坏身を抽出した(第233図8)。8は坏身で、器形からTK10段階のものと推察される。6世紀前半の製品と考えられる。

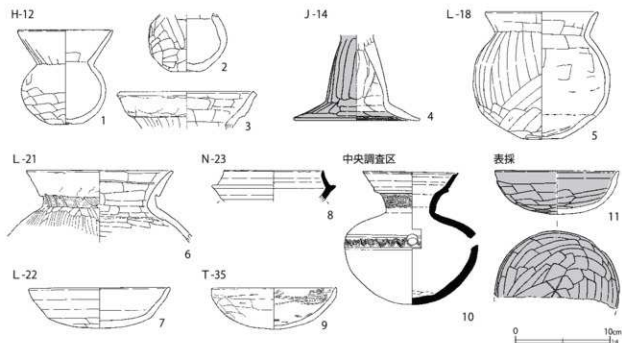
T-35グリッドからは、土師器杯を抽出した(第233図9)。基本的に古代の遺物が大半を占めるⅥ区から検出されたものである。半球形の杯で、口縁部は垂直気味に立ち上がり、内面には横方向のミガキが施される。6～7世紀のものと考えられる。

10は残存率の高い甕である(第233図)。東海地方の製品と推察され、胴部中央と頸部には楕円波状文が施文される。胴部外面下半から底部にかけては調整が認められず、綺麗なナデ消しが施される。胴部が大きいことや口縁部の形状から、東山11号窯式段階に推察され、5世紀後半の製品と考えられる。

10は中央調査区の第一面検出時に単独で出土し(第36図)、下層に住居跡の存在が想定された。しかし、第2次調査時に周辺を精査したが、同位置から古墳時代の遺構は検出されなかった。また一部破損していたことから、他の住居跡等から出土したものの中に接合破片がある可能性があり精査したが、接合する破片は認められなかった。

おそらく、中・近世段階で、井戸や大規模な溝等を掘削した際に掘り返され、投棄されていたものが自然に埋没していったものと考えられる。

表採された遺物からは、土師器杯を抽出した(第233図11)。11はやや深身になる杯で、内外面全体に赤彩が施される。口縁部はやや外反し、底部中央には「×」状の記号が認められる。5～6世紀代のものか。



第233図 遺構外出土遺物

第65表 遺構外出土遺物観察表 (第233図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	埴型土器	(10.0)	10.0	3.7	CEIK	70	普通	明赤褐	H12 No.1	
2	土師器	埴型土器	—	[6.1]	4.0	CHIK	100	普通	赤褐	H12 外面黒斑有り	
3	土師器	壺	(14.0)	[4.0]	—	CHIK	30	普通	明赤褐	H12	
4	土師器	高坏	—	[9.1]	13.1	CEHIK	95	普通	にふい橙	J14 No.1 外面・脚堀内面赤彩	
5	土師器	小型壺	11.8	13.6	4.3	CEHIK	85	普通	明赤褐	L18 No.2 外面黒斑有り	
6	土師器	壺	(15.3)	[7.6]	—	CEHIK	20	普通	浅黄橙	L21	
7	土師器	坏	(14.6)	4.3	—	CHIK	30	普通	灰白	L22 内外面摩耗	
8	須恵器	坏	(10.4)	[3.3]	—	I	5	良好	灰	N23 TK47型式か、口径形状に違和感がある 胎土に混入物はほぼ無く焼成も良好	
9	土師器	坏	13.1	4.4	—	EHIK	95	普通	にふい黄橙	T35 6次P1No.1 内面ミガキ	
10	須恵器	甕	10.0	14.0	—	IK	70	良好	灰白	中央調査区遺構確認面 外面上半及び内面口縁部降灰 内底面指頭圧痕多数有り 東山11号壺式段階	101-8
11	土師器	坏	13.0	4.6	—	CEHIK	50	普通	赤褐	表探 内外面赤彩 底部にヘラ記号状の【×】印が認められる	101-9

報告書抄録

ふりがな	みやにし みやひがし							
書名	宮西Ⅰ／宮東Ⅰ							
副書名	首都圏氾濫区域堤防強化対策における埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第467集							
編著者名	滝澤 誠							
編集機関	公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL. 0493-39-3955							
発行年月日	西暦 2021 (令和3年) 年3月23日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
宮西遺跡 (第1・2次)	埼玉県加須市大越 2057-1他	112101	040	36° 10′ 58″	139° 37′ 21″	20111101 ~ 20120331 20120406 ~ 20120531	2,500	堤防強化 記録保存
宮西遺跡 (第3次)	埼玉県加須市大越 2066-1他	112101	040	36° 10′ 57″	139° 37′ 23″	20131001 ~ 20140228	2,268.46	堤防強化 記録保存
宮西遺跡 (第4次)	埼玉県加須市大越 下寺町 2059 他	112101	040	36° 10′ 58″	139° 37′ 19″	20141001 ~ 20141231	2,370	堤防強化 記録保存
宮東遺跡 (第1次)	埼玉県加須市大越 畑ヶ田 2555-1	112101	042	36° 10′ 54″	139° 37′ 29″	20120406 ~ 20130331	4,342.56	堤防強化 記録保存
宮東遺跡 (第2次)	埼玉県加須市大越 2555-1他	112101	042	36° 10′ 54″	139° 37′ 29″	20130401 ~ 20130930	4,342.56	堤防強化 記録保存
宮東遺跡 (第3次)	埼玉県加須市大越 2539-1他	112101	042	36° 10′ 53″	139° 37′ 33″	20140203 ~ 20140331	882	堤防強化 記録保存
宮東遺跡 (第4次)	埼玉県加須市大越 畠田 2538-1	112101	042	36° 10′ 52″	139° 37′ 35″	20140401 ~ 20150331	5,228	堤防強化 記録保存
宮東遺跡 (第5次)	埼玉県加須市大越 川杖 2868-4	112101	042	36° 10′ 50″	139° 37′ 39″	20150401 ~ 20160331	5,864	堤防強化 記録保存
宮東遺跡 (第6次)	埼玉県加須市大越 川杖 2868-4	112101	042	36° 10′ 50″	139° 37′ 39″	20160401 ~ 20160731	2,814	堤防強化 記録保存

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮西遺跡 (第1～4次)	集落跡	平安時代	住居跡 7軒 畠跡 1箇所 土壇 17基	土師器、須恵器、ロクロ 土師器、砥石、石製品、 鉄製品	9世紀後半の住居跡から、三河型甕が出土した。
宮東遺跡 (第1～6次)	集落跡	古墳時代	住居跡 48軒 土壇 83基 井戸跡 5基 溝跡 181条 畠跡 9箇所 遺物集中 1箇所 河川跡 1条	土師器、須恵器、砥石、 石製品、鉄製品、木製品	河川跡が検出され、縁辺部から土器が大量に出土した。
		奈良・平安時代	住居跡 44軒 掘立柱建物跡 6棟 土壇 153基 井戸跡 13基 溝跡 68条 畠跡 5箇所 遺物集中 2箇所	土師器、須恵器、ロクロ 土師器、灰釉陶器、砥石、 石製品、鉄製品、木製品	弘仁地震の際に被災したと考えられる住居跡が検出された。
要 約					
<p>宮西遺跡からは、平安時代の集落を検出された。9世紀中葉から後半の時期に集中し、10世紀以降には続かないことから、短期間営まれた集落と考えられる。三河型甕など、人の交流を示す遺物が出土した点が注目される。</p> <p>宮東遺跡からは、古墳時代中期から平安時代にかけて営まれた集落跡が検出された。住居跡は調査区の中央部に集中し、5世紀前半から住居跡が造られるようになり、10世紀前半まで連続と集落が営まれる。6世紀後半と7世紀、8世紀後半に一時的な断絶が認められるが、集落は調査区域外に広がることから、調査区域外にはあった可能性も考えられる。</p> <p>古墳時代の遺構からは住居跡の他に河川跡が検出され、河川跡の南縁からは大量の土器が出土した。</p> <p>古代の遺構確認面からは破状化現象に伴う噴砂の痕跡が多数検出され、第75号住居跡からは、砂が床面に吹きあがった状態で検出された。また、調査区の東端にあたるVI区からは、9世紀中葉から後半の遺物集中地点が2箇所検出された。</p>					

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第467集

宮西 I / 宮東 I

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告
(第1分冊)

令和3年3月14日 印刷

令和3年3月23日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

0493 (39) 3955

<https://www.snimaibun.or.jp>

印刷／山進社印刷株式会社